富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

図　面　リ　ス　ト

図番	図面名称	縮尺	図番	図面名称	縮尺	図番	図面名称	縮尺	図番	図面名称	縮尺
A-00	図面リスト	-	A-26	改修後 屋根伏図	1/200	S-01	構造特記仕様書	-	E-01	電気設備特記事項、照明姿図及び盤結線図	-
A-01	建築工事特記仕様書（１）	-	A-27	改修前 立面図	1/200	S-02	配筋基準図（１）	-	E-02	改修後 １階全体電気設備図	1/200
A-02	建築工事特記仕様書（２）	-	A-28	改修後 立面図	1/200	S-03	配筋基準図（２）	-	E-03	改修前・後 １階便所　照明設備図	1/50
A-03	建築工事特記仕様書（３）	-	A-29	増築トイレ 現況平面図	1/50	S-04	鉄骨構造基準図	-	E-04	改修前・後 １階便所　コンセント設備図	1/50
A-04	建築工事特記仕様書（４）	-	A-30	増築トイレ 平面詳細図	1/50	S-05	鉄骨継手基準図	-	E-05	増築トイレ 証明設備図	1/50
A-05	建築工事特記仕様書（５）	-	A-31	増築トイレ 屋根伏図	1/50	S-06	デッキプレート仕様書	-	E-06	増築トイレ コンセント設備図	1/50
A-06	建築工事特記仕様書（６）	-	A-32	増築トイレ 立面詳細図（１）	1/50	S-07	ボーリング柱状図	1/150,400	E-07	増築トイレ 自火報、緊急呼出設備図	1/50
A-07	建築工事特記仕様書（７）	-	A-33	増築トイレ 立面詳細図（２）	1/50	S-08	基礎伏図・梁伏図・基礎詳細図	1/30,100			
A-08	建築工事特記仕様書（８）	-	A-34	増築トイレ 矩計図（１）	1/30	S-09	軸組図	1/30,100			
A-09	建築工事特記仕様書（９）	-	A-35	増築トイレ 矩計図（２）	1/30	S-10	鉄骨詳細図	1/20,30			
A-10	建築改修工事特記仕様書（１）	-	A-36	増築トイレ 展開図（１）	1/50						
A-11	建築改修工事特記仕様書（２）	-	A-37	増築トイレ 展開図（２）	1/50						
A-12	建築改修工事特記仕様書（３）	-	A-38	改修前・後 1階便所平面詳細図	1/50				空､衛M-01	機械設備　特記仕様書　１	-
A-13	建築改修工事特記仕様書（４）	-	A-39	改修前・後 1階便所展開図	1/50				空､衛M-02	機械設備　特記仕様書　２	-
A-14	建築改修工事特記仕様書（５）	-	A-40	改修前 1階天井伏図	1/200				空､衛M-03	機械設備　特記仕様書　３	-
A-15	改修前 配置図	1/400	A-41	改修前 2階天井伏図	1/200				M-04	凡例・衛生器具表・桝一覧	-
A-16	改修後 配置図	1/400	A-42	改修後 1階天井伏図	1/200				M-05	改修後 １階平面図	1/200
A-17	敷地求積図	1/400	A-43	改修後 2階天井伏図	1/200				M-06	改修前 １階平面図	1/200
A-18	求積図	1/200	A-44	改修前・後 建具表（１）	1/50				M-07	改修後 ２階平面図	1/200
A-19	仮設計画図(参考図)	1/400	A-45	改修前・後 建具表（２）	1/50				M-08	増築トイレ平面詳細図	1/50
A-20	内部・外部仕上表	-	A-46	建具符号図（１）	1/50				M-09	増築トイレ換気設備図	1/50
A-21	改修前 1階平面図	1/200	A-47	建具符号図（２）	1/50				M-10	改修前・後 1階便所平面詳細図	1/50
A-22	改修前 2階平面図	1/200	A-48	部分詳細図	1/6				M-11	改修前・後 1階便所換気設備図	1/50
A-23	改修前 屋根伏図	1/200	A-49	ｸﾗｯｸ補修図	1/50						
A-24	改修後 1階平面図	1/200									
A-25	改修後 2階平面図	1/200									

計７８枚(表紙共)

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				－		A-00
				DATE '15.08	図面リスト	

Ⅱ　建築工事仕様

工事概要

工事名称	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	
主要用途	体育施設	
工事種別	増築工事	
敷地	地名地番	岐阜県加茂郡富加町夕田字杉洞238
	敷地面積	7,748 ㎡　（建築基準法により算定した敷地面積を記入）
都市計画法等	都市計画区域	⊙ 都市計画区域内（・市街化区域・市街化調整区域⊙その他） ・ 都市計画区域外
	用途地域	⊙（ 用途指定なし ）
	防火地域	・ 防火地域 ・準防火地域 ⊙指定なし
	その他の指定	・ ２２条指定区域内 ⊙２２条指定区域外 ・（　　）
建築基準法	道　路	・国道 ・県道 ・市道 ⊙町道 ・村道 ・私道 幅員 6.354 m （２以上の道路に接する場合には、広い方の道路幅員を記入）
	指定の建ぺい率	６０ % 指定の容積率 ２００ %

工事建物の概要

便所
構造　：Ｓ造
階数　：２階
延べ床面積　：62.82㎡
建築面積　：36.40㎡

工事の範囲

⊙建築主体工事　エレベーター棟、温室等 一式
~~・外構工事~~
~~・消防活動空地一式~~
⊙舗装一式　・駐車場一式
⊙植栽一式

別途工事

⊙電気設備工事一式　⊙機械設備工事一式　・昇降機設備工事一式
・電話工事一式　・解体工事一式　・搬送設備工事一式

1．共通仕様
（1）図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成２５年版【平成２６年３月改訂】)（以下「標準仕様書」という。)による。
（2）電気設備改修工事及び機械設備改修工事を本工事に含む場合は、電気設備改修工事及び機械設備改修工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。
電気設備改修工事の特記仕様書は（　／　）図、
機械設備改修工事の特記仕様書は（　／　）図による。
（3）改修工事を本工事に含む場合は、改修工事は改修工事の工事仕様書を適用する。
改修工事の工事仕様書は（　／　）図による。
（4）受注者は建築基準法第７条の定めによる完了検査（同法第７条の３の定めによる中間検査を含む）時には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料（報告書等）を用意すること。

2．特記仕様
（1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
（2）特記事項の中で選択する事項（・印の付いたもの）は、⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙ 印と ㊟ 印の付いた場合は、共に適用する。
（3）特記事項に記載の［　．　．　］内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）東海地震に係る地震防災対策強化地域内における工事にあっては「大規模地震対策特別措置法」による注意情報が発せられた場合、受注者は人身の保護及び安全な避難に必要な補強、落下防止等の保全措置を講ずるとともに、工事中断の措置をとること。又この事実が発生した場合は、契約書第２６条（臨機の措置）によって処理されたものとする。
（5）標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令の改正等により（条例を含む）に抵触する場合には、関係法令等の遵守（1.1.13）の規定を優先する。

章	項目	特記事項
1 共通事項	①適用基準等	建築工事標準詳細図　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成22年版） 各図面において、（○－○○－○）内の数字は適用する上記詳細番号を示す。 工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編　建設大臣官房官庁営繕部監修 ・建築物解体工事共通仕様書同解説 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成24年版）
	② 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・風圧力 風速（Ｖ０＝　34ｍ／ｓ） 地表面粗度区分　（　Ⅲ　） ・積雪荷重 ・建設省告示第1455号における区域　別表（　）
	③工事実績情報の登録	工事請負金額が５００万円以上（消費税込み）の工事について、 [1.1.4] 工事実績情報を登録するものとする。 （登録先：日本建設情報総合センター） なお、登録内容を訂正する必要が生じた場合は、標準仕様書に記載された登録の手順に準じて訂正するものとする。 また、変更契約日と工事完了日の間が、１０日に満たない場合は、変更契約時の登録を省略することができるものとする。
	4 概成工期	総合試運転調整を行う上で、関連工事を含めた各工事が工期のおおむね [1.2.1] （　）日前までに支障のない状態まで完了していること。 [1.2.2]
	⑤施工計画書	次の工種に該当する工事の施工計画書を当該工事の施工に先立ち作成し、監督員に提出する。 ⊙仮設工事　⊙土工事　⊙地業工事 ⊙鉄筋工事　⊙コンクリート工事　⊙鉄骨工事 ⊙コンクリートブロック、ＡＬＣパネル、押出成形セメント板工事 ⊙防水工事　・石工事　⊙タイル工事 ⊙木工事　⊙屋根及びとい工事　⊙金属工事 ⊙左官工事　⊙建具工事　⊙塗装工事 ⊙排水工事　⊙植栽工事　・カーテンウォール工事 ・ユニット及びその他工事 [1.3.3]
	⑥電気保安技術者	※適用する
	⑦施工条件	⊙適用する [1.3.5] ⊙施工時間　（※追加特記仕様書による ⊙打合せによる ） ⊙施工順序　（※指定なし ・図示 ⊙打合せによる ） ⊙工事用車両の駐車場　（・指定なし ・図示 ⊙敷地内 ） ⊙資機材置場　（・指定なし ・図示 ⊙敷地内 ） ⊙現場事務所　（・指定なし ・図示 ⊙敷地内 ） ⊙建設発生土仮置場　（・指定なし ・図示 ⊙敷地内 ）
	⑧創意工夫	発注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。
	⑨発生材の処理等	※引渡しを要するもの（・金属類 ※ＰＣＢ含有物 ・　） [1.3.8] ・特別管理産業廃棄物（※廃石綿 ・　） ・現場において再利用を図るもの（　） ※再生資源利用計画書及び再生資源利用計画書の提出 建設リサイクル法の実施に係る岐阜県指針に基づき、工事着手時に再資源利用計画書及び再資源利用促進計画書を、また、工事完了時に同計画書の実施報告書を監督員に提出するものとする。なお、計画書及び報告書は「建設リサイクルデータ統合システム」（CREDAS）により作成したものとする。 本工事が、特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法第104号　以下「建設リサイクル法」という。）施行令又は、都道府県が条例で定める建設工事等であって、その規模に関する基準以上の工事（以下「対象工事」という。）である場合は、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。 なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、別表１又は２，及び３の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「７解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されたものであるため、発注者が積算上条件明示した別表の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。但し、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものではない事項については、この限りでない。工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 また、分別解体・再資源化の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督職員に報告する。なお、書面は「建設リサイクルガイドライン(平成14年5月)」に定めた様式１｛再生資源利用計画書（実施書）｝及び様式２｛再生資源利用促進計画書(実施書)｝を兼ねるものとする。 本工事が「建設リサイクル法」の対象工事外である場合においても前記に準じ適切な措置を講ずるものとする。 建設リサイクル法　・対象工事　⊙対象工事外 ・別表１　建築物に係る解体工事

工程ごとの作業内容及び解体方法

工　程	作業内容	分別・解体の方法
・建築設備、内装材等	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・屋根ふき材	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・外装材・上部構造部分	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・基礎、基礎ぐい	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・その他（　）	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用

⊙別表２　建築物に係る新築工事等（・新築 ⊙増築 ・修繕 ・模様替）

工程ごとの作業内容及び解体方法

工　程	作業内容	分別・解体の方法
・造成等	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
⊙基礎、基礎ぐい	⊙有 ・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
⊙外装材、上部構造部分	⊙有 ・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
・屋根	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
⊙建築設備、内装等	⊙有 ・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
・その他（　）	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用

手作業・機械作業を併用する理由
建築設備の取り外し　（　）
内装材料の取り外し　（　）
屋根ふき材の取り外し（　）

・別表３　特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設の名称及び所在地

廃棄物の種類	施設の名称	所　在　地
・コンクリート		
・ｺﾝｸﾘｰﾄ及び鉄から成る建設資材		
・アスファルトコンクリート		
・木材		

注）上記については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、提示する施設と異なる場合は、監督員と協議する。

	⑩ 環境への配慮	G 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。 原則としてグリーン購入法における特定調達品目の使用に努めること。 判断の基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成２２年２月閣議決定）」による。 化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の１）から５）を満たすものとする。 １）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDFパーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上塗材は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ２）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。

章	項目	特記事項
1 共通事項		３）接着剤はフタル酸ジブチル及びフタル酸ジエチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ４）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ５）１）、３）及び４）の建築材料を使用して作られた家具、書架、実験台その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量	該当する材料
規制対象外	①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通省大臣認定品 ③次の表示のあるＪＡＳ適合品 ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ｂ．接着剤等不使用 ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを発散しない材料使用 ｄ．ホルムアルデヒドを発散しない塗料等使用 ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを発散しない塗料使用 ｆ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを発散しない塗料
第三種	①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆品 ②建築基準法施行令第２０条の７第３項による国土交通省大臣認定品 ③旧ＪＩＳのＥ０品 ④旧ＪＩＳのＦｃ０品

	⑪ 材料の品質等	本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ又はＪＡＳマーク表示のない材料等は、次の１）から６）の事項を満たすものとする。 [1.4.2] １）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ２）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ３）安定的な供給が可能であること。 ４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ６）販売、保守等の営業体制が整えられていること。 なお、これらの材料等を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料、又は外部機関が発行する資料等の写しを監督員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断に基準に従い、あらかじめ、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁　平成１８年２月１５日）に準拠した証明書を監督員へ提出する。
	⑫ 特別な材料の工法	改修標準仕様書、標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
	⑬ 技能士	※適用する [1.5.2] 適用する技能士

工事種目	技能士検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	⊙ とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	⊙ 鉄筋組立作業
コンクリート工事	型枠施工	⊙ 型枠工事作業
	ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送施工	⊙ ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	鉄工	⊙ 構造物鉄工作業
	とび	⊙ とび作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ、ALCﾊﾟﾈﾙ	ﾌﾞﾛｯｸ建築	・ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業
押出成形セメント板工事	ｴｰｴﾙｼｰﾊﾟﾈﾙ施工	⊙ ALCﾊﾟﾈﾙ工事
防水工事	防水施工	・ ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業 ・ ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ 合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ⊙ 塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・ ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ・ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾁ工法防水 ・ ＦＲＰ防水工事作業 ⊙ ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業
石工事	石材施工	・ 石張り作業
タイル工事	タイル張り	⊙ タイル張り作業
木工事	建築大工	⊙ 大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	⊙ 内外装板金作業
	スレート施工	・ スレート工事作業
金属工事	内装仕上施工	⊙ 鋼製下地工事作業
	建築板金	⊙ 内外装板金作業
左官工事	左官	⊙ 左官作業
建具工事	サッシ施工	⊙ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	⊙ ガラス工事作業
	自動ドア施工	・ 自動ドア施工作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ施工	・ 金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業
	サッシ施工	・ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ ガラス工事作業
塗装工事	塗装	⊙ 建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	⊙ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上工事作業 ・ ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上工事作業 ⊙ ボード仕上工事作業
	表装	・ 壁装作業
排水工事	配管	・ 建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	・ 溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業 ・ 加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	造園	⊙ 造園工事作業

	⑭ 技能資格者	⊙溶接技能者（（社）日本溶接協会が検定した技能資格を有する者） [1.6.3] ・圧接技量資格者（JIS Z 3881（ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準）による技量を有する者）
	⑮ 施工の検査等	⊙その他監督員の指示による [1.6.5]
	⑯ 施工の立ち会い等	⊙その他監督員の指示による [1.6.7]
1 共通事項	17 化学物質の濃度測定	測定室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、報告すること。 [1.6.9] 測定対象室及び測定箇所数 ・事務室　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前 ・着工後） ・会議室　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前 ・着工後） ・上級室　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前 ・着工後） ・休憩室　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前 ・着工後） ・その他　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前 ・着工後） 測定方法　※パッシブ採取による蒸気拡散式分析法 ・厚生労働省の標準法 測定物質　ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン パラジクロロベンゼン（学校のみ） 換気　測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押入れ等を含む。）を開放し３０分換気する。 閉鎖　測定対象室のすべての窓及び扉を５時間開鎖する。ただし、造り付け家具、押入れ等の扉は、開放したままとする。 測定　測定は、「閉鎖」の状態のまま行う。 測定時間は、原則として２４時間とする。但し２４時間測定が行えない場合は、８時間測定（１０時３０分～１８時３０分）とする。 測定位置は、室中央付近の床から１．２ｍ～１．５ｍの高さとする。
	⑱ 完成時の提出書類	⊙完成図（施工図、施工計画書を除く） [1.8.1～3][表1.8.1] 記載内容は監督職員と協議する。 完成図ＣＡＤデータ（ＣＤ－Ｒ）作成方法は「営繕工事電子納品要領」（平成14年11月改訂版）による。 ⊙保全に関する資料 提出　※２部　・ ⊙施工図（　・　） 提出　※原図及びその複写図１部　・ ⊙施工計画書（　・　） 提出　※１部　・ 本工事に係る施工図及び施工計画書の著作者の権利は、当該建物における使用に限り、発注者に移譲するものとする。 製作図等で原図として提出が出来ないものは、原図に変わるものとしてよい。 設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出し、監督員の承諾を受ける。
	⑲ 建設機械	１）本工事においては「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」（平成9年7月31日建設省告示第1536号、最終改正 平成13年4月9日国土交通省告示第487号)に基づき指定された建設機械を使用する。ただし、これにより難い場合は、監督員と協議の上、必要書類を提出するものとする。 ２）本工事においては「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日建設省経機発第249号、最終改正 平成14年4月1日国総施第225号)に基づき指定された建設機械を使用する。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成７年建設技術評価制公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、又はあるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策機械と同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督員と協議するものとする。 排出ガス対策建設機械、又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は、施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。
	⑳ 設備工事との取り合い	本工事の施工範囲 ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強 ※図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強 ※自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 ※駆動装置が電動による建具等の２次側の配管・配線及び操作スイッチ 施工図 ※設備機器の位置、取合いなどの検討できる施工図を提出し、監督員の承諾を受ける。
	㉑ 事故報告	工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通知するとともに、事故発生報告書を監督員に速やかに提出すること。
	㉒ 完成写真	撮影箇所数　※（　）箇所　・航空写真（　）箇所 本完成写真の著作者の権利は、発注者に委譲するものとする。 提出内容 ※電子データ　１部 画素：長辺で2880ＰＩＸ以上 記録方式：ＲＧＢ（フルカラー）、ＪＰＥＧ最高画質 記録媒体：ＣＤ－Ｒ（ＩＳＯ）又はＤＶＤ－Ｒ ・カラープリント　キャビネ版（　）部 アルバム（黒表紙金文字300㎜×300㎜程度）　※無し　・有り ・四つ切　（　）枚　※アルミ額縁 ・半切　（　）枚　※アルミ額縁 ・全紙　（　）枚　※アルミ額縁
	㉓ 工事写真	※「営繕工事電子納品要領」による
	㉔ 養生その他	工事施工に際し、在来部分を汚損した場合又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、在来にならい補修する。 ※粉じん対策　粉じんが発生する場合には、集塵機を設置すること。 工事車両の洗車及び道路の清掃をすること。 ※安全対策　工事車両の出入口及び出隅部分に透明板付の仮囲いや赤色灯を設置すること。
	25 書類の書式等	本工事の施工に関して提出する書類は、発注者が受注者に提示する「工事の請負に係る書類」様式に基づき作成する。
	26 概成工事	総合試運転を行う上で、関連工事を含めた各工事が工期のおおむね１０日前までに支障のない状況まで完了していること。
	27 下請施工業務	本工事において、下請契約を締結する場合には、当該契約の相手方を岐阜県内に本店（建設業法（昭和２４年法律第１００号）に規定する主たる営業所含む。）を有する者の中から選定するよう努めること。
	㉘ 産業廃棄物の適正処理	産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、監督員の指示に従い、産業廃棄物の関連書類の提出及び確認並びに処理施設の現地確認並びに建設廃棄物処理状況の管理を行い、産業廃棄物の最終処分に至るまで適正に処理されていることを確認すること。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-	建築工事特記仕様書(1)	A-01
				DATE '15.08		

1 共通事項

㉙ 下請け業者等

下請け業者の選定に当たっては岐阜県入札参加資格停止の処置がなされていないこと。

㉚ 暴力団の排除措置

妨害又は不当要求に対する通報義務
1）受注者は、契約の履行に当たって暴力団関係者等から事実関係及び社会通念等に照らして合理的な理由が認められない不当若しくは違法な要求又は契約の適正な履行を妨げる妨害を受けたときは、警察へ通報をしなければならない。なお、通報がない場合は入札参加資格を停止をすることがある。

2）受注者は、暴力団等による不当介入を受けたことにより、履行期間内に業務を完了することができないときは、発注者に履行期間の延長変更を請求することができる。

㉛ ワンデーレスポンス

1）本工事はワンデーレスポンス実施対象工事とする。
「ワンデーレスポンス」とは、受注者からの質問、協議への回答を、原則「その日のうち」に回答する仕組みである。
2）受注者は、工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は適宜監督員に報告するものとする。
3）実施に当たっては、「ワンデーレスポンス実施要領」（農計第５３１号、林第８１５号、技第５８４号平成２３年３月３１日通知）に基づき実施するものとする。

㉜ 軽微な変更等

現場の納まり、取り合い等の関係による協議の中で、形状寸法の軽微な変更は、監督員の指示による。なお、この場合請負金額の変更は行わない。

㉝ 事故防止策

・安全施設の使用・設置
1　安全施設の使用・設置は関係法令等を順守するほか次のとおり講じなければならない。
（1）原則、昇降用梯子で作業しないこと。ただし、やむを得ず作業する場合は、本作業用、補助用の2丁掛としなければならない。
（2）安全帯は一連の作業において親綱の架け替え等が生じる場合は、本作業用、補助用の2丁掛としなければならない。
・定期安全訓練・研修等
2　受注者は、工事着手後、作業員全員の参加により月当たり、半日以上の時間を割当て、次の各号から実施する内容を選択し、定期的に安全に関する研修・訓練等を実施しなければならない。
さらに、工事内容や現場状況に応じて、過去の事故事例集（下記USL参照）の活用により、工事現場で予想される事故防止対策を必ず実施すること。
（１）安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
（２）当該工事内容等の周知徹底
（３）工事安全に関する法令、通達、指針等の周知徹底
（４）当該工事における災害対策訓練
（５）その他、安全・訓練等として必要な事項
http://www.pref.gifu.lg.jp/kendo/gijutsukanri/kensetsu-joho/jikojirei/jikojireishuu.html

㉞ その他

ディーゼルエンジン車両の適正燃料の使用について
（１）ディーゼルエンジンを動力とする車両には、JIS規格の軽油を使用すること。
（２）ディーゼルエンジンを動力とする車両の燃料検査があった場合には協力すること。
工事施工に際し、在来部分を汚損又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、在来にならい補修する。

2 仮設工事

① 足場

・(○)内部足場　種別　※脚立、足場板等　・　[2.2.1][表2.2.1]
・(○)外部足場　種別　※Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
足場を設ける場合、(2.2.1)(b)によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」（厚生労働省　平成21年４月「手すり先行工法に関するガイドライン」について（別紙１））における２の（２）手すり据置方式、又は（３）手すり先行専用足場方式により行うこと。
・(○)外部足場の防護シートによる養生
（○養生シート　・(○)防音シート　）

② 監督職員事務所

・設ける　[2.4.1]
・構内既存建物の一部を使用する。
・構内に新設する。
規模(m２程度)　・１０　・２０　※３５　・６５　・１００
・設けない

③ 工事用水

構内既存の施設　※利用できない
(○)利用できる（※有償　・無償　）

④ 工事電力

構内既存の施設　※利用できない
(○)利用できる（※有償　・無償　）

⑤ 設計ＧＬ

・設計ＧＬ＝ＢＭ＋　　㎜（現状地盤高は図示）
(○)図面による

⑥ 確認済の表示

建築基準法第８９条に基づく「確認があった旨」の表示をする。
(○)　適用する　・　適用しない

⑦ ｲﾒｰｼﾞｱｯﾌﾟ

工事概要及びイメージパースを印刷した看板を　1　箇所設置する。
なお、内容、設置位置については監督員と協議する。

3 土工事

① 土

本工事は、建設発生土情報交換システムの登録対象工事であり、受注者は、工事の実施に当たっては土量、土質、土工期等に変更があった場合速やかに当該システムのデータ更新を行うものとする。

② 埋戻し及び盛土

種別　・Ａ種　(○)Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土 G [表3.2.1]

③ 建設発生土の処理

・岐阜県建設発生土管理基準により土壌検査を行う。

※構外搬出適切処理　[3.2.5]
「建設発生土情報交換システム」を活用し、適切に処理する。
片道の運搬距離（　）ｋｍ、　処分費及び整地費　無償
注）上記ついては積算上の条件明示であり、提示する条件と異なる場合は、監督員と協議する。
・構内指示の場所にたい積する。
・構内指示の場所に敷きならす。

④ 建設汚泥の処理

本工事で建設汚泥が発生する場合は「建設汚泥の再生利用に関するガイドラインの策定について」（国営計第36号　平成18年 6月12日）、「建設汚泥の再生利用に関する実施要領について」（国営計第38号　平成18年 6月12日）に基づき建設汚泥の再生利用を行う。

3 土工事

再生利用の種別　※埋戻し及び盛土材として利用　・
再生処理方法　　※脱水処理　(○)安定処理（セメント、石灰による改良処理）
要求品質
「建設汚泥処理土利用技術基準について（国営計第41号 平成18年6月12日）表－４建設汚泥処理土の適用用途標準」における下記の区分とする。
※第３種処理土　・

4 地業工事

① 地盤調査の結果

調査報告書
・申請敷地の既往調査報告書のみによる
・申請敷地の既往調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査結果による
・近隣敷地の調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査結果による
調査位置、柱状図、地層構成、地下水位
※構造図（　　）による　・

② 支持地盤

・杭基礎　[3.2.1][4.2.4][4.3.4～5][4.5.4～5]
支持地盤の種類及び位置（基礎ぐいの先端の位置含む）
※構造図（　　）による　・
・直接基礎
支持地盤の種類及び位置（基礎底部の位置含む）
※構造図（　　）による　・
試験掘り（根切り底の状態の確認等）　[3.2.1]
・行う　位置等　・構造図（　　）による
・原位置掘削時の根切りを試験掘りとする
・行わない
・地盤の載荷試験　[4.2.4]
試験の位置、方法等
・図示による（　　）

3 既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業

種類　[4.2.2][4.3.1～4.3.7][7.2.5]
・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・プレストレス鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490

寸法、継手、性能等（種別：種類、性能及び曲げ強度区分）[4.2.2][4.3.2～4.3.3]

		種類	ｺﾝｸﾘｰﾄ強度（N／mm²）	杭径（㎜）	厚さ（㎜）	杭長（m）	継手数	セット数	長期設計支持力（kN/本）	備考
試験杭	上杭									
	中杭									
	下杭									
本杭	上杭									
	中杭									
	下杭									

杭先端部形状　[4.3.2]
・開放形　・半開放形　・閉そく形
施工方法　[4.2.2][4.3.1][4.3.3]
・打込み工法　（・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー　・　）
プレボーリングの併用
・行わない
・行う
掘削深さ及び径　・図示による（　　）
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100㎜以下
杭の傾斜　・1/100以内
試験杭　(4.2.2)(4.3.3)
試験杭の位置　・図示による（　　）
打込杭の推定支持力の算定方法
・図示による（　　）
・セメントミルク工法　(4.2.2)(4.3.4)
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　・1.5m程度
杭の支持地盤への値入深さ　・1.0m以上
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100㎜以下
杭の傾斜　・1/100以内
試験杭
試験杭の位置　・図示による（　　）
・特定埋込杭工法　(4.2.2)(4.3.5)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持方式で
α=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持方式の内
α、β、γが下記の値を採用できる工法
α=（　　）、β=（　　）、γ=（　　）
工法
・プレボーリング拡大根固め工法
・中堀り拡大根固め工法
杭周固定液　・使用する　・使用しない
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4以下かつ１００mm以下　・
杭の傾斜　・１／１００以内　・
試験杭
試験杭の位置
※構造図（　　）による　・
試験杭の施工　※本杭の施工に先立ち行う　・

杭継手工法　[4.3.2][4.3.6][7.2.5]
・アーク溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7.2.5 (a)(b)による
・図示による（　　）
・無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法　※審査（評定又は大臣認定）を受けた工法
検査　※審査（評定又は大臣認定）により定められた項目
施工　※審査（評定又は大臣認定）された施工管理基準による
杭頭の処理　[4.3.7]
※処理しない　・処理する
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
・構造図（　　）による　・
杭頭の中詰め材料
・基礎コンクリートと同調合のもの　・

4 地業工事

4 場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業

[4.2.2][4.5.2][4.5.3～4.5.5]
掘削工法　[4.5.1][4.5.4]
・アースドリル工法(安定液　・使用する　・使用しない)
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張り　・行う　・行わない）
使用する工法　[4.5.1][4.5.5]
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
・拡底杭工法（安定液　・使用する　・使用しない）

寸法等　(4.2.2)

	軸径（㎜）	拡底径（㎜）	杭長（m）	セット数	長期設計支持力（kN/本）	備考
試験杭						
本杭						

鉄筋の種類　[4.5.3]

種類の記号	呼び径（㎜）	備考
・SD295A		
・SD345		

帯筋　[4.5.3]
・図示による（　　）

鉄筋かごの補強　[4.5.3]
・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(㎜)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(㎜)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは補強材の幅とする。

鉄筋の最小かぶり厚さ　・100㎜　[4.5.3]
鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ　[4.5.3～4.5.5]
・図示による（　　）

セメントの種類　[4.5.3]
※高炉セメントB種 G
コンクリートの種別　[4.5.3]
・Ａ種　・Ｂ種　・審査（評定又は大臣認定）された内容にいよる
コンクリートの設計基準強度　[4.5.3]
・図示による（　　）
構造体強度補正　[4.5.3]
・3N/mm²
・図示による（　　）
・審査（評定又は大臣認定）された内容による
鋼管巻き材料　・SKK400　・SKK490
試験杭　[4.2.2][4.5.4][4.5.6]
試験杭の位置　・図示による（　　）　[4.5.4][4.5.5]
・孔壁測定
測定箇所
・試験杭(　　)箇所及び本杭（　　）箇所
杭の精度　[4.5.4][4.5.5]
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100㎜以下
杭の傾斜　・1/100以下

⑤ 砂利地業

[4.6.2～4.6.3]
材料　(○)再生クラッシャラン　・切込砂利及 G 切込採石　[4.6.2]
砂利厚さ　※60㎜　[4.6.3]
適用場所
・基礎下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下
(○)図示による（　　）

⑥ 捨コンクリート地業

捨コンクリートの厚さ　※50㎜　[4.6.4][6.14.1]
施工範囲　[4.6.4][6.14.1]
・基礎梁下、土に接するスラブ下
(○)図示による（　　）
設計基準強度　※18N/mm²　[4.6.4][6.14.1]
スランプ　※15㎝又は18㎝　[4.6.4][6.14.1]

⑦ 床下防湿層

[4.6.2][4.6.5]
材料　(○)ポリエチレンフィルム厚さ0.15㎜以上
施工範囲
(○)建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）

⑧ 地盤改良工法

種類及び施工方法等
・図示による（　　）

5 鉄筋工事

① 鉄筋の種類

鉄筋の種類　※構造図による　[5.2.1][表5.2.1]

種類の記号	呼　び　名　(mm)	備　考
(○)ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１０、Ｄ１３	
(○)ＳＤ３４５	Ｄ２２	

2 溶接金網

形状等　[5.2.2]

種　類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(㎜)	使 用 部 位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手

継手方法等　[5.3.4][5.5.2～3]

部　位	継　手　方　法	呼び名(㎜)
柱、梁の主筋	※ガス圧接　・機械式継手	
耐力壁の鉄筋	※重ね継手	
その他の鉄筋（　）	※重ね継手	

耐力壁の重ね継手の長さ　[5.3.4]
※構造関係共通図（配筋標準図）３．１（a）による
・構造図（　　）による
継手位置図　[5.3.4]
※構造関係共通図（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1による
・構造図（　　）による

5 鉄筋工事

④ 鉄筋の定着の方法及び長さ

鉄筋の定着方法　[5.3.4]
※構造関係共通図（配筋標準図）３．１．（ｂ）による
・構造図（　　）による
鉄筋の定着長さ　[5.3.4]
※構造関係共通図（配筋標準図）３．１．（ｂ）による
・構造図（　　）による

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）

最小かぶり厚さ　[5.3.5]
※構造関係共通図（配筋標準図）表４．１による
・構造図（　　）
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
・なし
・有り　適用箇所(　　)
主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する
軽量コンクリートで土に接する部分
・なし
・有り　適用箇所(　　)
※構造関係共通図（配筋標準図）表４．１に加える厚さ（　　）㎜

耐久性不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
・なし
・有り　適用箇所(　　)
最少かぶり厚さのくわえる暑さ（　　）㎜

鉄筋相互のあき（機械式継手及び溶接継ぎ手を除く）　[5.3.5]
・図示による（　　）

6 機械式継手

[5.3.5][5.5.2]
適用箇所　・図示による（　　）
H12建告第1463号に適合する性能　[5.5.2]
・Ａ級
機械式継手の種類及び工法　(5.5.2)　（　　）　[5.5.2]
鉄筋相互のあき　[5.3.5]
・図示による（　　）

品質の確認方法　[5.5.2]
・図示による（　　）
不良となった継手の修正方法等　[5.5.2]
・図示による（　　）

⑦ 溶接継手

[5.3.5][5.5.3]
適用箇所　・図示による（　　）
H12建告第1463号に適合する性能
・Ａ級
鉄筋相互のあき　[5.5.3]
・図示による（　　）

継手の工法　[5.5.3]
・図示による（　　）
品質の確認方法　[5.5.3]
・図示による（　　）
不良となった継手の修正方法等　[5.5.3]
・図示による（　　）

⑧ 各部配筋

各部配筋　[5.3.7]
・図示による（　　）

⑨ 圧接完了後の試験

外観試験
※行う（全数）
抜取試験
※超音波探傷試験
試験の箇所数等
・[5.4.9～5.4.10]による
・引張試験
試験片の採取後は、１ロットに対して（※３本　・　　）とする
試験ロット：１組の作業班が１日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする
試験片を採取した箇所の処置：ガス圧接

6 コンクリート工事

① ｺﾝｸﾘｰﾄの使用骨材による種類及び強度

[6.1.3～4][6.2.1～3]
普通コンクリートの設計基準強度　[6.2.1～4][表6.2.1～2]

設計基準強度(N/mm2)	スランプ	適　用　箇　所
・２４	・	
(○)構造図による	・	
	・	

※については構造体強度補正値（S）を適用すること。
軽量コンクリートの設計基準強度　[6.2.1～3][6.10.1～2][表6.2.1～2]

設計基準強度(N/mm2)	スランプ	適　用　箇　所
(○)構造図による		

② ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄの類別

[6.2.1]
類別
※　Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
※　Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

③ セメント

[6.3.1]
種類
(○)普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種（普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が７日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする）　使用部位（　　）
・高炉セメントＢ種 G　使用部位（　　）
・フライアッシュセメントＢ種 G　使用部位（　　）

④ 骨材

アルカリシリカ反応による区分
※Ａ　・Ｂ

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-	建築工事特記仕様書(2)	A-02
				DATE '15.08		

6 コンクリート工事

⑤混和材料 [6.3.1]
・混和剤
混和剤の種類
・[6.3.1](1)(d)(i)による ・ＡＥ減水剤
・混和材
混和材の種類
・[6.3.1](d)(ii)による ・

⑥気乾単位容積質量
普通コンクリート [6.11.1][表6.11.1]
※２．３ｔ／ｍ３程度 ・
軽量コンクリート [6.11.1]
・

7 軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ [6.10.1]
種別
・１種 使用部位（ ） ・２種 使用部位（ ）
適用箇所
・図示（ ）による

8 ﾏｽｺﾝｸﾘｰﾄ [6.2.1][6.13.1〜6.13.2]
適用箇所 (6.2.1)(6.13.1) ・図示による（ ）
セメントの種類 (6.13.2)
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉ポルトランドセメントＢ種Ⓖ
・フライアッシュポルトランドセメントＢ種Ⓖ
・普通ポルトランドセメントに標準仕様書6.13.2(b)(2)の混和材を混合したもの

混和剤 [6.13.2]
・混和剤
混和剤の種類
※JIS A 6204に適合するＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤

スランプ ・15㎝ ・ [6.13.2]

9 無筋コンクリート [6.14.1]
適用箇所
※[6.14.1](e)による箇所 [6.14.1]
・[6.14.1](e)以外の箇所
・構造図（ ）による ・
設計基準強度 [6.14.3]
・１８（Ｎ／mm2） ・
スランプ [6.14.3]
※１５ｃｍ ・１８ｃｍ ・

10 高い強度のコンクリート
混和材料 [6.15.3]
・[6.15.3](b)(1)による
・[6.15.3](b)(1)以外の混和材料の使用
種類（ ）
適用箇所（ ）
湿潤養生期間 [6.15.7][表6.15.1]
・[6.15.1]による
型枠の存置期間 [6.15.8]
・[6.9.5]による ・

11 流動化コンクリート
適用箇所 [6.16.1]
・構造図（ ）による ・

12 ひび割れ誘発目地、打継目地
目地寸法 [6.6.3][6.9.2][9.6.3]
・[9.6.3]による ・
間隔・位置・形状 [6.9.2]
・図面（ ）による ・

13 ｺﾝｸﾘｰﾄの仕上り
部材の位置及び断面寸法の許容差の標準値 [6.2.5][6.8.3][表6.2.3]
・[表6.2.3]による ・
合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ [6.2.5][6.8.3][表6.2.3]

種 別	適 用 箇 所
・Ａ種	
・Ｂ種	
・Ｃ種	

⑭打増し厚さ(打放し仕上げ部)
・打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） [6.9.2]
・２０mm ・
・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）
・１０mm ・２０mm ・

⑮型枠
せき板の材料及び厚さ [6.9.3]
・合板 ・１２mm ・ ）
断熱材の兼用 [6.9.3]
・行う ・行わない
ＭＣＲ工法用シート [6.9.3]
・用いる
打増し厚さ
・２０mm ・
打増し範囲
・図面（ ）による ・
・用いない
スリーブの材種 [6.8.3][表6.9.1]
※標準仕様書6.8.3(i)(2)(ｉ)から(iv)による
・

16 ｺﾝｸﾘｰﾄの単位水量測定
実施要領
・図示による（ ）
・

7 鉄骨工事

①鉄骨製作工場 [7.1.1][7.1.3]
鉄骨製作工場の加工能力
※建築基準法第７７条の５６に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた（株）日本鉄骨評価センター及び（株）全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（ Ｍ ）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場
・監督員の承諾する工場（[7.1.1]以外の適用範囲に限る。）

②施工管理技術者 [7.1.3]
※適用する
・適用しない

③鋼材
材質等 [7.2.1][表7.2.1]

種類の記号	適 用 箇 所	規 格
・構造図による		※JISによる ・
		※JISによる ・
		※JISによる ・

有効細長比（圧縮材に限る）
※構造図（ ）による ・

④高力ボルト
ボルトの区分 [7.2.2][7.3.2][7.4.2]
・トルシア形高力ボルト ・構造図による
セットの種類
・２種（S10T） ・
・ＪＩＳ形高力ボルト
セットの種類
・２種（F10T） ・
高力ボルトの径 [7.2.2]
・構造図（ ）による ・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・構造関係共通図（鉄骨標準図）1-1縁端距離及びボルト間隔による
すべり係数試験 [7.4.2]
※行わない
・行う
試験方法等
・構造図（ ）による ・

⑤普通ボルト
ボルト及びナットの材料 [7.2.3]
※[表7.2.3]による ・
座金 [7.2.3]
・[7.2.3](d)による ・
ボルトの径 [7.2.3]
・構造図（ ）による ・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [7.3.2]
・構造関係共通図（鉄骨標準図）1-1縁端距離及びボルト間隔による

⑥溶融亜鉛めっき高力ボルト
セットの種類 [7.2.2][7.12.3〜4]
・１種（Ｆ８Ｔ相当） ・
溶融亜鉛めっき高力ボルトの径
・構造図（ ）による ・
溶融亜鉛めっき高力ボルトのボルト孔の径
・審査（評定又は大臣認定）を受けた内容による
・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [7.3.2]
・構造関係共通図（鉄骨標準図）1-1縁端距離及びボルト間隔による
摩擦面の処理 [7.12.4]
・ブラスト処理（表面粗度５０μmＲｚ以上）
・りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法
※すべり耐力試験
試験方法等
・構造図（ ）による ・

⑦アンカーボルト
適用 [7.2.4][7.10.3]
・ 構造用アンカーボルト
セットの種類（JIS B 1220 又は JSS Ⅱ 13-2004）
・ABR400 ・ABR490 ・
形状、寸法
・図示による（ ）
・建方用アンカーボルト
種類 ・SS400 ・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格並びに仕上げの程度
※[7.2.3]による
形状、寸法 ・図示による（ ）

⑧溶接材料
溶接材料 [7.2.5]
※[7.2.5](a)(b)による。
・[7.2.5](a)(b)以外の溶接材料
材料及び使用箇所
・構造図（ ）による ・

⑨ターンバックル
種類 [7.2.6]
建築用ターンバックル胴
・ ・割枠式 ・
建築用ターンバックルボルト
・ ・羽子板ボルト ・
ねじの呼び
・構造図（ ）による ・

⑩デッキプレート
材質、形状及び寸法 [7.2.7]

	適 用 箇 所	材質・形状・寸法	備 考
・構造床			
・合成スラブ	２～４階	デッキプレート	
・床型枠用			

鉄骨部材への溶接方法 [7.7.8]
・構造図（ ）による ・焼抜き栓溶接
開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む）
・構造図（ ）による ・
耐火認定
・有り
耐火時間 ・構造図（ ）による ・
・無し

11 レール及びその付属品
形状及び寸法等 [7.2.8]
・図示による（ ）

12 スタッド
材質、形状及び寸法
※頭付きスタッド JIS B 1198 ・

呼び名	呼び長さ(mm)	適 用 箇 所
・１６		
・１９		
・２２		

⑬柱底均しモルタル
モルタルの種別 [7.2.9]
※無収縮モルタル ・
無収縮モルタルの材料及び調合 [7.2.9]
材料、調合等
・[7.2.9]による ・
品質及び試験方法
・[表7.2.6]による ・
工法の種別 [7.10.3][表7.10.2]
※[表7.10.2]（※Ａ種[ﾓﾙﾀﾙ厚さ50] ・Ｂ種[ﾓﾙﾀﾙ厚さ30]）による

14 工作図
監督員による現寸検査 [7.3.2]
・行わない ・行う
増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上、作成を行う。

⑮製作精度
・[7.3.3]による [7.3.3]
通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑの許容誤差
・通しﾀﾞｲｱﾌﾗﾑをH12建告第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り
補強方法
・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・
・全てのﾀﾞｲｱﾌﾗﾑはH12建告第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること

⑯鉄骨の仮組
・行わない [7.3.10]
・行う
仮組を行う範囲
・構造図（ ）による ・
確認方法、確認項目
・構造図（ ）による ・

⑰溶接作業における技能資格者
溶接作業者の技量付加試験 [7.6.3]
・行わない
・行う
試験の要領
・構造図（ ）による ・

⑱溶接接合
開先の形状 ・構造図による [7.6.4]
・構造図（ ）による
・構造関係共通図（鉄骨標準図）1-2による
スカラップの形状 ・構造図による [7.6.7]
・構造図（ ）による
・構造関係共通図（鉄骨標準図）1-2による
エンドタブの切除する部分 ・構造図による [7.6.7]
・見え掛り部となる部分 構造図（ ）による
・見え隠れ部となる部分 構造図（ ）による
・切除する部分なし
溶接部の余盛り高さ [7.6.7]
※（社）日本建築学会「JASS6鉄骨工事」付則６「鉄骨精度検査基準」付表３[溶接]による
エンドタブ・裏あて金
※鋼材の鋼種はSN-Bとし、引張強さによる区分は母材と同等とする

⑲入熱、パス間温度の溶接条件
鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・構造図による
・構造図（ ）による
・構造関係共通図（鉄骨標準図）1-4による
適用箇所
・構造図（ ）による
・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

⑳溶接部の試験
浸透探傷試験又は磁粉探傷試験 [7.6.11]
・行わない
・行う
適用部位
※割れの疑いのある表面欠陥
完全溶込み部の超音波探傷試験 [7.6.11][表7.6.2〜3]
・行う
・行わない
・工場溶接の場合
ＡＯＱＬ（%）
※４．０ ・２．５

節	・全て			
検査水準	・第６水準			

・工事現場溶接の場合
ＡＯＱＬ（%）
※４．０ ・２．５
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 [7.6.11]
独立行政法人建築研究所監修
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・抜き取り検査①
※抜き取り検査②

㉑錆止め塗装
塗料の種別 [7.8.3][18.3.2]
・鉄鋼面の錆止め塗料
屋外
・[18.3.2][表18.3.1] Ａ種
屋内
・[18.3.2][表18.3.1]（ Ａ ）種
・亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
・[18.3.2][表18.3.2]（ Ａ ）種
鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る）
・[18.3.2][表18.3.1]（ ）種
耐火被覆材の接着する面への塗装
・行わない
・行う
適用箇所
・図面（ ）による
塗料の種別
・[18.3.2][表18.3.1]（ ）種
・[18.3.2][表18.3.2]（ ）種

㉒耐火被覆
耐火被覆の仕様 [7.9.2〜7]
※材料及び工法は建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする
・
種別、性能及び適用箇所

種 別	材料・工法	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール	
	・半乾式吹付けロックウール	柱・梁
	・ 湿式ロックウール	
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板	
・ 耐火材巻付け	・ 高耐熱ロックウール	
・ ラス張りモルタル塗り	―	8

材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする
性能 [7.9.2〜7]

性 能	適用箇所(部位・部分)
・ 30分耐火	
・1時間耐火	柱・梁
・ 2時間耐火	
・ 3時間耐火	

㉓建方精度
※（社）日本建築学会「JASS6鉄骨工事」付則６「鉄骨精度基準」付表[工事現場]による [7.10.2]

㉔ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法
構造用アンカーフレームの形状及び寸法 [7.2.4][7.10.3]
・構造図（ ）による ・
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 [表7.10.1]
種別
・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種
柱底均しモルタルの厚さ [7.10.3]
・５０mm ・３０mm

25 軽量形鋼構造
接合部（ボルト接合の場合） [7.11.2]
・普通ボルト接合 ・

26 溶融亜鉛めっき(基礎、主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る)
種別等 [7.12.3][表14.2.2]

亜鉛めっきの種別	材 料	適 用 部 位
Ａ種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
Ｂ種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
Ｃ種	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

素地ごしらえは、ＪＩＳ Ｈ ８６４１ による
適用箇所 ・構造図（ ）による ・

27 梁貫通孔の補強
補強方法
・補強プレート法
・補強トラス法
・
適用箇所
※構造図（ ）による ・

8 コンクリートブロック ALCパネル 押出成型セメント板工事

1 補強ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造
ブロックの種別 [8.2.2、5]

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓﾙﾀﾙ呼び寸法(mm) 長さ	ﾓﾙﾀﾙ呼び寸法(mm) 高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロック-16	・			※無 ・有	・	
・型枠状ブロック-20	・			※無 ・有	・	
・	・			※無 ・有	・	

各部の配筋 ※図示

2 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ帳壁及び塀
ブロックの種別 [8.2.2、5]

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓﾙﾀﾙ呼び寸法(mm) 長さ	ﾓﾙﾀﾙ呼び寸法(mm) 高さ	化粧の有無	[表8.3.1]以外の適用箇所	備考
・空洞ブロック-08	・			※無 ・有	・	
・型枠状ブロック-16	・			※無 ・有	・	
・	・			※無 ・有	・	

各部の配筋 ※図示

③ＡＬＣパネル [8.4.2〜5]

種 類	単位荷重(N/m2)	厚さ(mm)	長さ(mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・外壁パネル	・2400	・120	・4100	・有(1)時間	・平 ・意匠	・Ａ種・Ｂ種 ・Ｃ種
・間仕切り壁パネル		・100		・有(1)時間 ・無し	・平 ・意匠	・Ｃ種・Ｄ種 ・Ｅ種
・屋根パネル	・	・100		・有(0.5)時間	・平	・Ｆ種
・床パネル	・	・100		・有( )時間		

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
・適用しない
外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との ・ 20
伸縮目地への耐火目地材の充填 ・適用する ・適用しない

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-	建築工事特記仕様書(3)	A-03
				DATE '15.08		

8 コンクリートブロック ALCパネル 押出成型セメント板工事

4 押出成型セメント板

[8.5.2～5]

パネルの種類	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F	・50 ・60		・A 種	
	・D	・50 ・60	600	・B 種	
	・T	60			
・間仕切壁パネル	・F	・50 ・60	・	・B 種	
	・D	・50 ・60	・	・C 種	
	・T	60	・		

外壁パネルの工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
　・適用しない
パネルの相互の目地幅(mm) ・図示
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm) ※15 ・
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。

		開口の大きさ	切断後のパネルの残り部分の幅
パネルに開口を設ける場合	短辺	・ ・図示	・ ・図示
	長辺	・ ・図示	・ ・図示
パネルを切り欠く場合	短辺	・ ・図示	・ ・図示
	長辺	・ ・図示	・ ・図示

9 防水工事

①一般事項

防水工事は、専門業者の責任施工とする。
受注者は、防水材料製作所及び防水施工者と連名で年限保証する。
なお、防水の保証年限は、１０年とする。

②品質等

施工完了後の満水試験（項目３～４の場合）
・行う ※行わない

3 アスファルト防水

屋根保護防水　[9.2.2～5][表 9.2.3～9]
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	絶縁用シート	立上り部の保護
・A－1			※ポリマーセメントフィルム厚さ0.15mm以上	・ 乾式保護材
・A－2				
・A－3				
・B－1				
・B－2				
・B－3				
・A1－1		（材質）※JIS A 9511による A種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板３種ｂ（スキンあり） ・ （厚さ）・25mm ・50mm ・	※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度	・ コンクリート押え
・A1－2				
・A1－3				
・B1－1				
・B1－2				
・B1－3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※[表9.2.3から9.2.8による] ・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※[表9.2.5から9.2.8]による ・

平場の保護コンクリートの厚さ
　こて仕上げ ※水下 80mm以上
　床タイル張り ※水下 60mm以上

・乾式保護材
　窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
　金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。
（品質・性能） 建築材料等品質性能表による
（試験方法） 建築材料等品質性能表による

屋根露出防水
　防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用 S G
・D－1 ・D－2 ・D－3 ・D－4			・製造所の指定による	・製造所の指定による	・ ・ ・ ・
・DI－1		（材質）※JIS A9511による A種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの （厚さ）・ ２５mm			・
・DI－2					・

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示 ・

屋内防水
　防水層の種別

種別	施工個所	種別	施工個所
・E－1		・E－2	

保護層 ・設ける（※図示 ・ ） ・設けない

防水層の下地、立上りコンクリート打放し仕上げ
　※標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種 ・
押え金物の材質及び形状
　※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 ・
防水層の下地のモルタル塗り ・適用する（施工範囲 ・図示 ・ ）
　・適用しない
屋根排水溝 ※図示

9 防水工事

4 改質アスファルトシート防水 G

[9.3.2、3][表 9.3.1～3]
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	防湿層	高日射反射率防水の適用 S
・AS-T1				・
・AS-T2				・
・AS-J1				・
・AS-T3				・
・AS-T4				・
・AS-J2				・
・ASI-T1		（材質）※JISA9511による A種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの （厚さ）・ 25mm	・設ける（改質アスファルト製造所の仕様による） ・設けない	・
・ASI-J1				・

S：高日射反射率防水を示し、近赤外域における反射率が50.0%以上であること。日射反射率の求め方はJIS K 5602に準じる。 G

仕上塗料 ・カラー ・シルバー

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
　※[表9.3.1から9.3.3]による ・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
　※[表9.3.1から9.3.3]による ・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
　※[表9.3.1から9.3.3]による ・
押え金物
　※改質アスファルト製造所の仕様による

⑤合成高分子系ルーフィングシート防水

[9.4.2～4][表 9.4.1、2]

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材 G	仕上塗料	高日射反射率防水の適用 S
・S-F1 S				・カラー・シルバー	・
・S-F2 S	屋上				・
・S-M1 S				・カラー・シルバー	・
・S-M2 S					・
・S-M3					・
・SI-F1			（材質）※A種ポリエチレンフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの （厚さ）・25mm ・	・カラー・シルバー	・
・SI-F2					・
・SI-M1			（材質）※A種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板２種１号又は２号で透湿係数を除く規定に適合するもの又はA種押出し法ポリスチレンフォーム保温材の保温板 （厚さ）・25mm ・	・シルバー・カラー	・
・SI-M2	※発泡ポリエチレンシート				・

S：高日射反射率防水を示し、近赤外域における反射率が50.0%以上であること。日射反射率の求め方はJIS K 5602に準じる。 G
ルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.4.1から表9.4.2による ・
防水下地がＰＣコンクリート部材下地の場合の処理
　目地処理 ※図示 ・
　入隅部の増張り（S-F1、SI-F1の場合） ※図示 ・
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
　・適用しない

6 塗膜防水

[9.5.3][表 9.5.1、2]
防水層の種別

種別	施工個所	仕上塗料	保護層	高日射反射率防水の適用 S
・X-1 S		・カラー ・シルバー		
・X-2 S		・カラー ・シルバー		
・Y-1	※地下外壁防水 ・		・ 適用する	
・Y-2	※屋内防水		・ 適用しない	

S：高日射反射率防水を示し、近赤外域における反射率が50.0%以上であること。日射反射率の求め方はJIS K 5602に準じる。

7 ケイ酸質系塗布防水

[9.6.1、3][表9.6.1、2]
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※ C－UI		・ C－UP	

8 脱気装置

[9.2.3][9.3.3][9.5.3]

種別	種類	設置数量
D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J2 ASI-T1 ASI-J1	※アスファルトルーフィング類製造所の仕様による	※アスファルトルーフィング類製造所の仕様による
X-1	・防水層の主材料の製造所の仕様による	・防水層の主材料の製造所の仕様による

⑨シーリング

[9.7.2][表 9.7.1]
下表以外は、標準仕様書表 9.7.1による
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは１７章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
・図示	・図示

シーリング材の目地寸法 ※[9.7.3(a)(1)～(3)]による ・

10 石工事

1 施工

[10.1.3、5]
石材の割付け ※「標準仕様書」10.1.3(a)(1)、(2)による ・図示
粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ ・図示 ・
屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ ・行う（適用場所 ・すべて ・）
　・行わない

2 石材

[10.2.1、3][表 10.2.1、2]
天然石

施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げ	備考
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形				
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法(mm)	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300型 ・400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材
※石材施工業者の指定する製品 ・

3 外壁湿式工法

[10.2.2、3][10.3.2、3]
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※流し筋工法 ・あと施工アンカー工法
　・あと施工アンカー,横筋横流し工法
受金物 材質 ※SS400 ・
　形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
　・L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm

ドレインパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
　シーリング材 ・適用する ・適用しない
　伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書11.1.1による ・図示
　シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(3)による ・図示

4 内壁空積工法

[10.2.2][10.4.2、3]
受金物 材質 ※SS400 ・
　形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
　・L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm
　・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※ あと施工アンカー,横筋横流し工法 ・あと施工アンカー工法
アンカーの材質及び径 ※SS400 M12
あと施工アンカーの材質及び寸法 （ ）
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
　シーリング材 ・適用する ・適用しない
　伸縮調整目地 位置 ※6mごと ・図示
　シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a)(3)による ・図示

5 乾式工法

[10.2.2][10.5.2、3][表10.2.4]
取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書10.5.2(b)(1)による ・図示
外壁の工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
　・適用しない
アンカーの材質及び形状 ※ステンレス（SUS304） M10
あと施工アンカーの材質及び寸法 （ ）
目地 目地幅(mm) ※8以上 ・
シーリング材 ・適用する（※標準仕様書9章7節による ・図示） ・適用しない

6 床及び階段の石張り

[10.6.2、3]
床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ・図示 ・
　シーリング材 ・適用する ・適用しない
　伸縮調整目地 位置 ※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部 ・図示

7 アーチ、上げ裏等の石張り

[10.2.2][10.7.1、2]
取付け工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(c)による ・
　引金物、だぼ、かすがい及び受金物 ※標準仕様書10.2.2(a)による ・
　吊金物及び化粧吊りボルト
　・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm（加工物）
　吊りボルト ※ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き
　・設けない
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
アンカーの材質及び径 ・SS400 M12 ・ステンレス(SUS304) M10
あと施工アンカーの材質及び寸法 （ ）
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上
　伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取合い部 ・図示

10 石工事

8 笠木、里板等の石張り

取付け工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法
取付け金物 ※標準仕様書10.2.2(c)による ・
　引金物、だぼ、かすがい及び受金物 ※標準仕様書10.2.2(a)による ・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書10.5.3(b)による ・
石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない
アンカーの材質及び径 ・ステンレス(SUS304) M10 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）

11 タイル工事

①伸縮目地及びひび割れ誘発目地

[11.1.3][表11.1.1]
位置 ※[表11.1.1]による ・図示

②ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙによる陶磁器質ﾀｲﾙ張り

タイルの形状、寸法等　[11.2.2、3、7]

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 I類	吸水率による区分 II類	吸水率による区分 III類	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	耐凍害性 有	耐凍害性 無	滑り抵抗性	備考
便所	100		○		○		○		○		○		有	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ※行わない
見本焼き ・行う ※行わない
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理・MCR工法・目荒し工法（高圧洗浄）
壁タイル張りの工法
　外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
　内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
（品質・性能）
　建築材料等品質性能表による
（試験方法）
　建築材料等品質性能表による
・既製調合目地材
（品質・性能）
　建築材料等品質性能表による
（試験方法）
　建築材料等品質性能表による

3 接着剤による陶磁器質ﾀｲﾙ張り

タイルの形状、寸法等　[11.3.2～4、7]

主な用途による区分 施工箇所	形状寸法による区分 (mm)	吸水率による区分 I類	吸水率による区分 II類	吸水率による区分 III類	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	再生材の適用 G	耐凍害性 有	耐凍害性 無	備考

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄ放散量 ※ 規制対象外
外装ﾀｲﾙ接着剤張りにおける目地のｼｰﾘﾝｸﾞ材
　打継ぎ目地 ※ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材
　ひび割れ誘発目地 ※ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材
　伸縮調整目地 ※変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材
　その他の目地 ※変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材
ﾓﾙﾀﾙ塗りを行うｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の処理・MCR工法・目荒し工法（高圧洗浄）・

4 陶磁器質ﾀｲﾙ型枠先付け

タイルの形状、寸法等　[11.4.2、3][表11.4.1]

主な用途による区分 施工箇所	形状寸法 (mm)	吸水率による区分 I類	吸水率による区分 II類	吸水率による区分 III類	うわぐすり 施ゆう	うわぐすり 無ゆう	役物 有	役物 無	色 標準	色 特注	再生材の適用 G	備考

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない

タイル型枠先付けの種類

種類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種別
・タイルシート法 ・目地桝法 ・桟木法	・小口タイル ・二丁掛けタイル 大形タイル	※ 標準仕様書6.8.3(b)(2) ・金属製タイル先付け用パネル

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-	建築工事特記仕様書(4)	A-04
				DATE '15.08		

12 木工事

①表面仕上げ [12.1.4]

表面仕上げの種別	適用箇所
・A種	
※B種	(・) 額縁
・C種	
・D種	

2 製材G

[12.2.1][12.5.1][12.6.1][12.7.1]

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※2級・ ※2級・ ※2級・		※A種・B種 ※A種・B種 ※A種・B種	

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
					※A種・B種 ※A種・B種 ※A種・B種	

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※1級・ ※1級・ ※1級・		※A種・B種 ※A種・B種 ※A種・B種	

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	造作材の材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			(　　) 造作材の場合・ (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種 ・	
			(　　) 造作材の場合・ (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種 ・	
			(　　) 造作材の場合・ (※A種・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種・B種 ・	

3 造作用集成材G

[12.2.1]

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
			※1等　・2等	

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			※1等・2等	
	化粧薄板： 芯材：				
	化粧薄板： 芯材：				

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			
	化粧薄板： 芯材：			
	化粧薄板： 芯材：			

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※A種・B種	

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種・	・
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種・	・
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種・	・
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種・	・
	化粧薄板： 芯材：				※A種 ・B種・	・

12 木工事

4 造作用単板積層材G [12.2.1]

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質　防虫処理	間伐材等の適用
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し(　　)	・
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し(　　)	・

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し(　　)	※14%以下	・適用する ・適用しない	・
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し(　　)	※14%以下	・適用する ・適用しない	・

5 床張り用合板等 [12.2.1]

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

・普通合板G

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	難燃処理	防炎処理	間伐材等の適用
	※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上・1等 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・
	※5.5		※1類 ・2類		・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・
	※5.5		※1類 ・2類		・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・

・構造用合板

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上	※12		・適用する ・適用しない	・適用する (　　) ・適用しない	・
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類		※12		・適用する ・適用しない	・適用する (　　) ・適用しない	・
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類		※12		・適用する ・適用しない	・適用する (　　) ・適用しない	・

・パーティクルボードG

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	※15		※13タイプ	※P又はM	

・構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ(mm)
	・1級　・2級　・3級　・4級 ・1級　・2級　・3級　・4級	

ホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外　・

6 接着剤 [12.2.2、3]

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

7 防腐・防蟻処理 [12.3.1、2]

・防腐、防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材
　適用部位：(　　)
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(3)(ⅱ)①～④による

・ボード原料接着材への薬剤混入による防腐、防蟻処理
　適用部位(　　)

13 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺 [13.2.2、3]

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用ｺｲﾙ ・			・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺　・	

下葺材料　・アスファルトルーフィング 940
　・ 改質アスファルトルーフィング下葺材
　(・一般ﾀｲﾌﾟ・複層材ﾀｲﾌﾟ・粘着層付ﾀｲﾌﾟ)

工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
　・適用しない
雪止め　・設置する(図示)

13 屋根及びとい工事

2 折板葺 [13.2.2][13.3.2、3][表 13.2.1]

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形	山高　山ﾋﾟｯﾁ	(　)種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料　板及びコイルの種類(　　)
　塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号(　　)
断熱材　・有り(種別：　　厚さ(mm)：　　防火性能：　時間)
　・無し
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1　・1.15　・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
　・適用しない

③とい [13.5.2、3][表 13.5.5]

といの材種　(・)配管用鋼管　・硬質ポリ塩化ビニル管
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外
鋼管製といの防露巻き　・適用する(工法：※標準仕様書13.5.5による　・　)
　・適用しない
ルーフドレン

種別	施工箇所
(・)ろく屋根用(・縦型　(・)横型)	便所
・バルコニー用	
・バルコニー中継用	

14 金属工事

1 ステンレスの表面仕上げ [14.2.1]

種別	施工箇所(手すり及びタラップ、建具以外)
※HL仕上程度	
・鏡面仕上程度	
・No.2B仕上程度	

2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 [14.2.2][表14.2.1]

種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所(成形板、笠木、建具以外)
・B－1種	※B　・	
・B－2種 (・ステンカラー　・ブロンズ)	※B　・	
・C－1種	AA6	
・C－2種 (・ステンカラー　・ブロンズ)	AA6	

陽極酸化被膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色 [14.2.2]

3 鉄鋼の亜鉛めっき [14.2.3][表14.2.2]

表面処理方法	種別	施工箇所(手すり及びタラップ以外)
・溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
・電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

④軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 [14.4.2][表14.4.1]
　屋外　・19型　※25型
　屋内　※19型　・25型

屋外の場合の野縁受等の間隔等 [14.4.3]
　野縁受、吊ボルト及びインサートの間隔(　　)mm
　周辺部からの距離(　　)mm以内
　野縁の間隔(　　)mm

屋外の軒天井、ピロティ天井等の工法
　工法 [14.4.3～4]
　建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する。
　建築基準法に基づき定められた区分等
　基準風速Vo＝(34)m／s
　地表面粗度区分(・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ)
　耐風圧性を考慮した補強　※図示　・

天井下地材における耐震性を考慮した補強 [14.4.4]
　・行う(補強箇所　図示、補強方法　図示)
　「大規模空間を持つ建築物の天井の崩落対策について(技術的助言)」(平成15年10月15日　国住指第2402号)及び「地震時における天井の崩落対策の徹底にいて(技術的助言)」(平成17年8月26日　国住指第1427号)を参照すること。

⑤軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類 [14.5.3][表14.5.1]
　※[表14.5.1]による　・図示
スタッドの高さが5mを超える場合　※図示 [14.6.2][表14.2.1]

14 金属工事

6 金属成形板張り [14.6.2]

種別	製法	形状	寸法(mm)	板厚(mm)	表面処理
・アルミニウム ・	・押出し ・ロール	スパンドレル形			・B－1種 ・B－2種 (・ステンカラー　・ブロンズ) ・C－1種 ・C－2種 (・ステンカラー　・ブロンズ)
	・プレス	パネル形			

取付け用下地　※[14.4]による　・図示 [14.6.3]
伸縮調整継手　・設ける(施工箇所　・図示　・　　) [14.6.3]

⑦アルミニウム製笠木 [14.7.2][表14.7.1]

種類　・押出し250形　・押出し300形　・押出し350形　(・)図示
　・板材折曲げ形(板厚さ(mm)　※2.0　・　　)
表面処理
　・A－1　※B－1種　・B－2種(・ブロンズ　(・)ステンカラー)

14 金属工事

①笠木固定金具の工法 [14.7.3]

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した固定金具の間隔、固定方法等は施工計画書として提出する。
　建築基準法に基づき定められた区分等
　基準風速Vo＝(34)m／s
　地表面粗度区分(・Ⅰ　・Ⅱ　(・)Ⅲ　・Ⅳ)
　積雪区分　建設省告示第1455号　別表(　　)

⑧手すり及びタラップ

手すり [14.8.2]
　(・)ステンレス製 SUS304(表面処理　※HL程度　・No.2B 程度)
　・鋼製(表面処理　※溶融亜鉛めっきC種　・　　)
タラップ [14.8.3]
　・ステンレス製 SUS304(表面処理　※研磨なし　・　　)
　・鋼製(表面処理　※溶融亜鉛めっきC種　・　　)

15 左官工事

①モルタル塗り [15.2.2、5]

既製目地材　・設ける　施工箇所(　　)　形状(※図示　・　　)
　(・)設けない
床目地　・設ける(工法※押し目地　・　　)
　(・)設けない
外壁タイル張り下地の均しモルタルの接着力試験　・適用する
　・適用しない
(・)防水剤
(品質・性能)
　建築材料等品質性能表による
(試験方法)
　建築材料等品質性能表による

2 床ｺﾝｸﾘｰﾄの直均し仕上げ

下表以外は標準仕様書15.3.2 による [6.2.5][15.3.2]

施工箇所	平たんさ(mm)	備考
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ(パネル構法)範囲	1m につき 10 以下	
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ(溝構法)範囲	3m につき 7 以下	

3 ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り [15.4.2][表15.4.1]

・せっこう系　・セメント系

④仕上塗材仕上げ [15.5.2]

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・第三種 [15.5.4]
新規仕上塗材の種類 [15.5.2][表15.5.1]

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si		・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Si		・ゆず肌状(・吹付け　・ローラー)
	・外装薄塗材E		・さざ波状　・平たん状
	・可とう形外装薄塗材E		・凹凸状(・吹付け　・ローラー)
	・防水形外装薄塗材E		・着色骨材砂壁状(・吹付け　・こて塗)
	・外装薄塗材S		・砂壁状じゅらく　・京壁状じゅらく
	・内装薄塗材C		
	・内装薄塗材L		
	・内装薄塗材Si		
	・内装薄塗材E		
	・内装薄塗材W		
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C		・吹放し　・凸部処理　・平たん状
	・外装厚塗材Si		・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
	・外装厚塗材E		
	・内装厚塗材C		上塗材　・適用する
	・内装厚塗材L		
	・内装厚塗材G		
	・内装厚塗材Si		
	・内装厚塗材E		
(・)複層仕上塗材	・複層塗材CE		・ゆず肌状　・凸部処理　(・)凹凸模様
	・可とう形複層塗材CE		(・)吹付け　・ローラー)
	・複層塗材Si		上塗材
	・複層塗材E		耐候性　※耐候性3種　・
	・複層塗材RE		溶　媒　※水系　・溶剤系
	・複層塗材RS		樹　脂　※アクリル系
	・防水形複層塗材CE		外　観　※つや有り(※1色・2色)
	・防水形複層塗材E		・つや無し
	(・)防水形複層塗材RE		・メタリック
	・防水形複層塗材RS		防水形増塗材　・適用する
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材		・砂壁状　・平たん状
	・こて塗用軽量塗材		

防火材料の指定　※屋内の壁、天井の仕上材は防火材料とする

⑤ALCﾊﾟﾈﾙの場合の下地処理 [15.5.4]

内壁目地部の形状　※V形目地付き

6 ﾏｽﾁｯｸ塗料塗り [15.6.2]

種別　・A種　・B種(仕上材塗り：EP-G　※B種　・A種)

⑦ﾛｯｸｳｰﾙ吹付け [15.8.2]

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・
吹付け厚さ(mm)　(・)図示　・　25

CHECK | DESIGN | DRAW

SCALE　-

DATE　'15.08

富加町B＆G海洋センタートイレ新設工事

建築工事特記仕様書(5)

SHEET NO.　A-05

章：16 建具工事

1 防火戸

※建具表による

2 見本の製作等

[16.1.4]

建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）
　・行わない
建具見本の程度　・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
　・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）
　・行わない

3 防犯建物部品

・適用する（※建具表による　・　　）　[16.1.6]
・適用しない

④ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具

[16.2.2、4、5][表14.2.1]

性能等級
外部に面する建具　・A種（建具符号：※建具表による　・　　）
　⊙B種（建具符号：※建具表による　・　　）
　・C種（建具符号：※建具表による　・　　）
防音ドアセット,防音サッシ　・適用する　遮音性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
断熱ドアセット,断熱サッシ G　・適用する　断熱性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
耐震ドアセット　・適用する　面内変形追随性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
枠の見込み寸法　⊙建具表による　・
表面処理
　外部に面する建具　⊙B-1種　・B-2種　・
　皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　）
　着色（・アンバー・ブロンズ・ブラック系⊙ステンカラー）
　屋内の建具　・C-1種　・C-2種　・
　皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　）
　着色（・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー）
結露水の処理方法　※図示　・
水切り板、ぜん板　※図示　・

5 網戸等

[16.2.3]

種類	材種	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25㎜以上 ・ ※0.2㎜	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5㎜	網目寸法15㎜

6 樹脂製建具

[16.3.2～5]

性能等級
外部に面する建具　・A種（建具符号：・建具表による　・　　）
　・B種（建具符号：・建具表による　・　　）
　・C種（建具符号：・建具表による　・　　）
防音ドアセット,防音サッシ　・適用する　遮音性の等級（・T－1・T－2）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
断熱ドアセット,断熱サッシ G　・適用する　断熱性の等級（・H-4・H-5・　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
枠の見込み寸法　・建具表による　・
表面色　※標準色　・特注色
水切り板、ぜん板　※図示　・
ガラス　※複層ガラス

7 鋼製建具

[16.2.2][16.4.2～4][表16.4.2]

性能等級
簡易気密型　・適用する（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　・S-4（建具符号：・建具表による　・　　）
　・S-5（建具符号：・建具表による　・　　）
　・S-6（建具符号：・建具表による　・　　）
防音ドアセット,防音サッシ　・適用する　遮音性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
断熱ドアセット,断熱サッシ G　・適用する　断熱性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
耐震ドアセット　・適用する　面内変形追随性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
鋼板

材料	めっき付着量	厚さ
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板） ・JIS G 3317（溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板）	※Z12又はF12　・ ※Y08　・	・標準仕様書表16.4.2による

⑧ 鋼製軽量建具

[16.2.2][16.5.2～4]

性能等級
簡易気密型　・適用する（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
防音ドアセット,防音サッシ　・適用する　遮音性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
断熱ドアセット,断熱サッシ G　・適用する　断熱性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
耐震ドアセット　・適用する　面内変形追随性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
鋼板　※亜鉛めっき鋼板　・ビニル被膜鋼板　・カラー鋼板
鋼板の厚さ　※[表16.5.1]による　・
召合せ、縦小口包み板の材質　※鋼板　・

章：16 建具工事

9 ｽﾃﾝﾚｽ製建具

[16.2.2][16.4.2][16.6.2～4]

性能等級
簡易気密型　・適用する（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性　・S-4（建具符号：・建具表による　・　　）
　・S-5（建具符号：・建具表による　・　　）
　・S-6（建具符号：・建具表による　・　　）
防音ドアセット,防音サッシ　・適用する　遮音性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
断熱ドアセット,断熱サッシ G　・適用する　断熱性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
耐震ドアセット　・適用する　面内変形追随性の等級（　）
　（建具符号：・建具表による　・　　）
　・適用しない
鋼板（屋外）　※SUS430JIL、SUS443J1、SUS304　・
鋼板（屋内）　※SUS430、SUS430JIL、SUS443J1、SUS304　・
表面仕上げ　※HL仕上げ　・鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

⑩ 木製建具

[16.7.2～4]

建具材の加工、組立時の含水率　※B種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

⊙フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
⊙普通合板 G	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ﾗﾜﾝ程度　・　　） 不透明塗料塗り （※しな合板程度　・　　） 板面の品質（　　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・天然木 化粧合板 G ・特殊加工 化粧合板 G	樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類） 化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類）	

表面板の厚さ　※表16.7.6による　・

・かまち戸
かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
見込み寸法　※36㎜　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度　押入等の裏側は雲花紙程度
縁仕上　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5㎜　・建具表による　・
・戸ぶすま
見込み寸法　※30㎜　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30㎜　・建具表による　・

枠、くつずりの材料　・建具表による

⑪ 建具用金物

[16.8.2,3]

金物の種類・見え掛り部の材質等
※[表16.8.1]及び適用は建具表による　・
樹脂製建具に使用する丁番　※[表16.8.3]による　・
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置　・建具表による　・

・錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠】
（品質）
デッドボルトの出寸法は17㎜以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスター、キー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
建築材料等品質性能表による

・錠前類 【レバーハンドル】
（性能）
建築材料等品質性能表による

・クローザ類
（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

12 鍵

[16.8.4]

マスターキー　・製作する　・製作しない
その他の鍵　※各室３本１組　・
鍵箱　※有り　・無し

13 自動ドア開閉機構

[16.9.2、3]

自動ドア	性能	防錆	センサーの種類	凍結防止
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2	※標準仕様書表16.9.1による	・適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う （適用箇所は建具表による） ・行わない
・SWD-1 ・SWD-2	※標準仕様書表16.9.2による			
・図示				

（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

章：16 建具工事

⑭ 自閉式上吊り引戸装置

[16.10.3]

性能　※[表16.10.1]による
（試験）
建築材料等品質性能表による

15 重量ｼｬｯﾀｰ

[16.11.2、3]

シャッターの種類
・一般重量シャッター耐風圧強度（　　）N/㎡
・外壁用防火シャッター耐風圧強度（　　）N/㎡
・屋内用防火シャッター　2
・屋内用防煙シャッター　2
開閉機能による種類　※ 上部電動式（手動併用）　・上部手動式
一般重量シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）
　・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・

⑯ 軽量ｼｬｯﾀｰ

[16.12.2～4]

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度（　）N/㎡
スラットの材質
⊙JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
　めっき付着量（※Z06又はF06　・　　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板）
　めっき付着量（※AZ90　・　　）
スラットの形状　⊙インターロッキング形　・オーバーラッピング形

17 ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ

[16.13.2,3]

セクション材料による区分	耐風圧区分(Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板

⑱ ｶﾞﾗｽ

[9.7]　[16.14.2～4][表16.14.1]

⊙合わせガラス

品種	構成種類	性能
⊙フロート合わせガラス	⊙フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	⊙Ⅰ類
・網入磨き合わせガラス	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類

・強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能
・フロートガラス	・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類　・Ⅲ類
・型板ガラス	・型板強化ガラス	

・熱線吸収板ガラス

品種	性能	色調
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収網入磨き板ガラス	・1種　・2種	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

・複層ガラス

品種	断熱性	日射熱遮へい性
・断熱複層ガラス	・1種	U1
	・2種	U2
	・3種	U-3-1　・U-3-2
・日射熱遮へい複層ガラス	・4種	E4
	・5種	E5

・熱線反射ガラス

品種	日射遮へい性	耐久性
・熱線反射ガラス 色調（・ブルー　・グレー）	・1種 ・2種	A種 ・A種　・B種
・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ　・シルバー）	・3種	B種

反射被膜面　・内面　・外面
映像調整　・行わない　・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
・フロート倍強度ガラス	-
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー　・グレー　・ブロンズ

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(㎜)
アルミニウム製	・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示 ・
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示　・
ステンレス製	・シーリング材 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示　・

19 ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ

[16.14.5]

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(㎜) 平積み	目地幅(㎜) 曲面積み	伸縮調整	防火性能
・正方形	・125×125	80			※8～15 ・15～25 ・	外側　※15以下 ・ 内側　※6以上 ・	目地(㎜) ※6㎜以下ごとに10～25 ・図示	・有り ※無し
	・160×160	・95 ・125						
	・200×200	・95 ・125						
	・320×320	95						
・長方形	・250×125	80						
	・320×160	95						

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材　・設ける（形状　※図示　・　　）
　・設けない

章：16 建具工事

⑳ ガラス用フィルム

力骨　材質　※ステンレス鋼(SUS304)　・
　寸法　※径5.5㎜　・
　形状　※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（　　）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
　寸法　※図示　・
　形状　※図示　・
工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
　・適用しない
目地部の力骨の補強方法
　※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示　・

種類	性能による区分(JIS A 5759)	張り面	防火認定	備考
・日射調整フィルム（SC）	・A　・B　・C	※内張り ・外張り	※有 ・無	製造所等 JIS A 5759によるもの ﾎﾙｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・第三種
・ガラス飛散防止フィルム（GS）	・A　・B			
・ガラス貫通防止フィルム（SF）	・A　・B			

章：17 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等

[17.1.3][17.2.2][17.3.2]

取付方法　・層間方式　・柱・梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式
性能

耐震性能 水平方向(kH)	耐震性能 垂直方向(kV)	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)
・1.0 ・	・0.5 ・					・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性能
　建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）
　・適用しない

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能	状態
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20㎜以下であること	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4mを超える		

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	変位後の状態
鉄骨造	・±(1/200)×h以上	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造	・±(1/300)×h以上	シーリングは補修程度の損傷であること。

シーリング材
下表以外は標準仕様書表 9.7.1 による

被着体の組合せ		シーリング材の種別 記号	シーリング材の種別 主成分による区分
金属	ガラス		
	石、タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

構造用ガスケット
・適用する　（施工箇所　・図示　・　　）
　材質　・クロロプレン系　・EPDM系　・シリコーン系
　形状　・H型　・Y型　・C型
　寸法(㎜)　ｶﾞﾗｽ板厚（　）、支持枠の厚さ（　）、ｳｪﾌﾞの寸法（　）
・適用しない
断熱材 G
　種類（　　）
　厚さ(㎜)（　　）
　施工箇所　・図示　・

耐火材料

施工部位	種別	規格帯
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

2 メタルカーテンウォール

カーテンウォールの材料

材料	規格等		映像調整
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	※標準仕様書16.2.3による ・	・A-1種　・A-2種　・ 皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による　・　） 着色（・ｱﾝﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	・行う ・行わない
・			

製品及び取付位置の寸法許容差　※標準仕様書表17.2.1～3による
ガラス溝の寸法、形状　※製造所の仕様による　・

CHECK	DESIGN	DRAW	

SCALE　-
DATE　'15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事
建築工事特記仕様書(6)

SHEET NO.　A-06

17 カーテンウォール工事

3 PCカーテンウォール

[17.3.2～5]

カーテンウォールの材料
コンクリート　※標準仕様書17.3.2(a)(ⅰ)～(ⅳ)による　・
鉄筋　※SD295A（・D13　・D10）
補強鉄線の径(mm)　※3.2　・4.0　・5.0　・6.0
配筋　※図示
先付けの材料　・サッシ枠　・ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上げ材　・磁器質タイル
・石材（・花こう岩　・大理石　・　）
・
ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・h=-1～+2、W1及びW2=±1
製品及び取付位置の寸法許容差　※標準仕様書表17.3.1～2による　・

18 塗装工事

①材料

[18.1.3]

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　）

②素地ごしらえ

[18.2.2～7]

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種・B種
	透明塗りの場合	※B種・A種
鉄鋼面		※C種・A種・B種
亜鉛めっき鋼面		・A種・B種・C種
モルタル面及びプラスター面		※B種・A種
コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面		※B種・A種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種・A種

③錆止め塗料塗り

[18.3.2、3]

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種　・B種	
	見え隠れ部分	※B種　・A種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種　・B種　・C種	・A種　・B種
	鋼製建具以外	※C種　・A種　・B種	・C種

④塗装

[18.4.1～18.14.2]

塗装		種別	塗料の種類
⊙合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種
	木部屋内	※B種　・A種	※1種　・2種
	鉄鋼面	※B種　・A種	※1種　・2種
	亜鉛めっき鋼面	—	※1種　・2種
⊙クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	—
・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	—
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	—	上塗り等級（ ）級
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗り等級（ ）級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種・B種・C種	上塗り等級（ ）級
⊙つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面等	※B種　・A種	—
	屋内の鉄鋼面	※B種　・A種	—
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	—
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		※B種　・A種	—
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	—
・ラッカーエナメル塗り(LE)		※B種　・A種	—
⊙オイルステイン塗り(OS)		—	—
・木材保護塗料塗り(WP)		※B種　・A種	—

屋上、屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日射反射率塗装Gとする。

19 内装工事

①接着剤

[19.2.2]

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※　規制対象外　・
接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

②ビニル床シートG

[19.2.2～3]

種類	JIS 記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ(mm)	備考
○発泡層のないもの	※FS	便所 通路	⊙無地 ・ﾏｰﾌﾞﾙ柄 ⊙木目調	・帯電防止 ・耐動荷重性 ・防滑性	※ 2.0	
発泡層のあるもの			・無地 ・柄物	・耐薬品性		

工法　※ 熱溶接工法　・　突付け（施工箇所：　）
特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{7}～$1\times10^{10}\Omega$程度

3 ビニル床タイル

[19.2.2]

JIS記号	施工箇所	色柄	寸法	特殊機能	厚さ(mm)	備考
・FT		・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	※ 2.0 ・ 2.5 ・ 3.0	
・KT		・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	・ 2.0 ・ 3.0	
・FOA		・無地 ・柄物	・500×500	・帯電防止 ・防滑性	・	

特殊機能
帯電防止　・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10^{7}～$1\times10^{10}\Omega$程度

4 ビニル幅木

[19.2.2]

材質　・軟質　・硬質
高さ(mm)　※60　・75　・100
厚さ(mm)　※1.5以上　・

19 内装工事

5 ゴム床タイル

[19.2.2]

色柄　（　）
厚さ(mm)　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)（　）

6 カーペット敷きG

[19.3.3][表 19.3.1]

・織じゅうたん

種別	ﾊﾟｲﾙ形状	織り方	色柄等	帯電性	備考
・A種 ・B種 ・C種	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・ｳｨﾙﾄﾝ ｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀﾞﾌﾞﾙﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀｲﾙｽﾃｨｯｸﾀｰ ｶｰﾍﾟｯﾄ	・無地 ・柄物 (標準品)	・適用する （性能： ※人体帯電圧3kv以下 ・　） ・適用しない	

下敷き材
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm　・

・タフテッドカーペット

[19.3.3～4]

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ（mm）	工法	帯電性	備考
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ﾚﾍﾞﾙﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・5～7　・ ・4～6　・ ・4　・ ・	※全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ 工法	・適用する （性能： ※人体帯電圧3kv以下 ・　） ・適用しない	

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm　・

・ニードルパンチカーペット
厚さ（mm）（　）　帯電性・適用する（性能：※人体帯電圧3kv 以下　・　）
・適用しない
備考（　）

・タイルカーペット

[19.3.3,4]

パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ（mm）	備　考
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ ｶｯﾄ・ﾙｰﾌﾟ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	

タイルカーペットの敷き方　平　場　※市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物　・適用する（材質、形状等　※図示　・　）
・適用しない

7 合成樹脂塗床

[19.4.2][19.4.3][表 19.4.1～7]

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流し展べ 工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗床 （JIS K 5970）			工程 塗布量（kg/㎡） ・ 表面仕上げ ・平滑　・防滑 溶剤 ・水性色　・溶剤系 ・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色　・

塗料のホルムアルデヒド放散量　(19.4.2)　※規制対象外

8 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り

[19.5.2～7][表 19.5.1～6]

単層フローリングG

種類	工法	樹種	厚さ（mm）	大きさ（mm）	仕上塗装	間伐材等の適用
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ	・釘留め工法（根太張り）	※ なら・	15	板幅75 板長さ500以上	・塗装品 ・無塗装品	
	・釘留め工法（直張り）	※ なら・	・12以上	板幅75 板長さ300以上		
	・接着工法	※ なら・	・12以上	板幅75 板長さ300以上		
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ	・接着工法	※ なら・	15	303×303	・塗装品 ・無塗装品	
	・ﾓﾙﾀﾙ埋込工法	※ なら・	※15	※303×303	・塗装品 ・無塗装品	
・ ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ	接着工法	・	・	・	・塗装品 ・無塗装品	

天然木化粧複合フローリングG

種類	工法	樹種	厚さ/大きさ（mm）	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等の適用
・複合1種ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ ・複合2種ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ ・複合3種ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・釘留め工法（根太張り） ・釘留め工法（直張り）	※なら・		・A種 ・B種 ※C種	・適用する ・適用しない	・塗装品 ・無塗装品	
	・接着工法	※なら・	板厚 ・8以上 ・板幅 ・75以上 板長さ 900以上				

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※ 規制対象外
接着工法の場合の緩衝材　※合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上　・行う（施工箇所　）
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ﾜｯｸｽ塗り
・生地のままﾜｯｸｽ塗り
・行わない

19 内装工事

9 畳敷き

[19.6.2][表 19.6.1]

種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書　表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロンG）
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⑩せっこうﾎﾞｰﾄﾞその他のﾎﾞｰﾄﾞ張り

[19.7.2、3][表 19.7.1]

種　類	JIS記号	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板G	HW	・ 15　・ 20　・ 25
・中質木毛セメント板G	MW	・ 15　・ 20　・ 25
・普通木毛セメント板G	NW	・ 15　・ 20　・ 25
・硬質木片セメント板G	HF	・ 12　・ 15　・ 18　・ 21
・普通木片セメント板G	NF	・ 30
⊙けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2（無石綿）　⊙ 6　・ 8
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ（・ 9(不燃)・ 12 ・　） ・ 凹凸タイプ（・ 12(不燃)・ 15 ・　）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ 1号	RW-B	・ 25　・
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ 1号32K	GW-B	・ 25(ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包)　・
⊙せっこうボード	GB-R	※ 12.5（不燃）・ 15（不燃）
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-NC	9.5（不燃）化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
⊙シージングせっこうボード	GB-S	12.5　（不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・ 12.5　（不燃）　・ 15　（不燃）
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5　（不燃）幅 440mm 程度 模様（・ 柾目　・ 板目）　専用下地材有り
⊙化粧せっこうボード（トラバーチン模様）	GB-D	9.5（準不燃）
・普通合板G		表面の材種 生地、透明塗料塗り （※ﾗｳﾝ程度　・　） 不透明塗料塗り （※しな程度　・　） 板面の品質（　） 厚さ(mm)（　） 接着の程度（　） ・防虫処理　難燃処理　・防炎処理
・天然木化粧合板G		樹種名（　） 接着の程度（・1類　・2類） 厚さ(mm)（　） ・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理
・特殊加工化粧合板G		化粧加工の方法　（・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ・ﾌﾟﾘﾝﾄ・塗装） 表面性能（　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類） 厚さ(mm)（　） ・防虫処理　・難燃処理　・防炎処理
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による　（※ 1.2　・　）
・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂化粧板		
・ミディアムデンシティファイバーボードG	MDF	・ 3　・ 7　・ 9　・ 12
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞG		・ 無研磨板　・ 研磨板 ・ 10　・ 12　・ 15　・ 18
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞG		・ 単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ 塗装 ・ 10（難燃）・ 12（難燃）・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（素地）G	HB	・ 無研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ） ・ 研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（化粧）G		・ 内装用　・ 外装用 ・ 2.5　・ 3.5　・ 5　・ 7
・インシュレーションボードG	IB	A級（・ 天井仕上　・ 内装仕上　・　） ・ 9　・ 12　・ 15　・ 18

せっこうボード等の下地は図示による。
遮音シール材　・適用する（・シーリング材　・ジョイントコンパウンド）
・適用しない
合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
合板類の張付け　※B種　・A種
せっこうボードの目地工法　・仕上げ表による

11 壁紙張り

[19.8.2、3]

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

施工箇所	壁紙の種類						防火種別	備考
	紙	繊維	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他			
							・ 不燃・ 準不燃 ・ 不燃・ 準不燃 ・ 不燃・ 準不燃 ・ 不燃・ 準不燃	

モルタル・プラスター面の素地ごしらえ　※B種　・A種
コンクリート・ALC面の素地ごしらえ　※B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえ　※B種　・A種

12 断熱材G

[19.9.2、3]

ﾛｯｸｳｰﾙ、ｸﾞﾗｽｳｰﾙ、ﾌｪｰﾉｰﾙﾌｫｰﾑ、ﾕﾘｱ樹脂又はﾒﾗﾐﾝ樹脂を使用した断熱材及び接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※ 規制対象外
・断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材	・	
・ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材（ｽｷﾝなし）	・保温板（2種b） ・保温板（3種b）	・ 25　・ ・ 25　・
・ A種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材	・	・
・ フェノールフォーム保温材（3種2号を除く）	・	・

・接地部分　・

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※A種1　・B種1
厚さ（mm）　・25　・30　・
施工箇所　・図示　・

20 ユニット及び仕上工事

1 フリーアクセスフロア

[20.2.2]

施工箇所	構　法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上げ材	備考
	・ﾊﾟﾈﾙ構法 ・溝構法	・500×500		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床ｼｰﾄ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	

寸法精度
※[20.2.2](b)(5)(ⅰ)～(ⅲ)による　・
厚さ　±0.5mm
平坦度　パネル周辺部　1.0mm以下
図心と各頂点を結ぶ線上部　2.0mm以下

表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。
構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼製（仕上げ：　）　・
スロープ及びボーダー　・製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ全体面積に対する設置割合　・20～30ﾊﾟｰｾﾝﾄ　・
配線取り出し開口　・パネル1枚につき、40mm×80mm　程度の開口1箇所以上
・図示
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・なし　・あり（形式、施工箇所：図示）

（性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

2 可動間仕切

[20.2.3]

構造形式	構成基材の種類		総厚さ(mm)	材質	表面仕上材		遮音性(db/500HZ)	防火性能
	スタッド	パネル			厚さ(mm)	パネル表面仕上げ		
・ｽﾀｯﾄﾞ式(内蔵) ・ｽﾀｯﾄﾞ式(露出) ・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式 ・ﾊﾟﾈﾙ式				・鋼板	・0.6 ・0.8	・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又は ｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・ 壁紙張り	・ 0 ・ 12 ・ 20 ・ 28 ・ 36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　）　・なし
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による

3 移動間仕切

[20.2.4]

走行方向	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ(mm)	表面仕上材		遮音性(db/500HZ)
				材質	パネル表面仕上げ	
・平行方向 移動式 ・二方向 移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・ 36未満 ・ 36以上	

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能　標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とするハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示
（品質・性能及び試験方法）
建築材料等品質性能表による

④トイレブース

[20.2.5]

表面材の材質	脚部形状	ドアエッジ	
		形状	材質
⊙ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板 ・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	※ 標準 ⊙ R	・ アルミニウム製 ⊙ ステンレス製 ・ 表面材と同材

（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

5 視覚障害者用床タイル

[11.2.2][19.2.2]

施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内	・塩化ビニル製	・300×300・	・ 7.0
	・磁器質タイル　・せっ器質タイル	・300×300・	・
	・レジンコンクリート製　・コンクリート製	・300×300・	・
屋外	・磁器質タイル　・せっ器質タイル	・300×300・	・
	・レジンコンクリート製　・コンクリート製	・300×300・	・

ブロックパターンは JIS T 9251 による

6 階段滑り止め

[20.2.6]

材種	幅(mm)	取付け工法	端部フラットエンド	
・ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)ﾋﾞﾆﾙﾀｲﾔ入り	・約35	※接着工法 ・埋込み工法	・あり	・ビニル製 ・ｽﾃﾝﾚｽ
			・なし	—

7 手すり

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材	・ｸﾘｱﾗｯｶｰ　・	・35　・45　・		
・ｽﾃﾝﾚｽﾊﾟｲﾌﾟ	・ＨＬ			
・鋼製ﾊﾟｲﾌﾟ	・ＥＰ－Ｇ　・ＳＯＰ　・			
・ﾋﾞﾆﾙ製ﾊﾝﾄﾞﾚｰﾙ				

8 黒板及びﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞG

[20.2.8]

種　類	寸法(mm)	色　彩	形　式
・ 黒板	※ 焼付け	※ 緑・黒	・ 平面　・ 曲面　・ ｽｸﾘｰﾝ付引分
・ ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ	ほうろう	白	・ 平面　・ 曲面　・ ｽｸﾘｰﾝ付引分

20 ユニット及び仕上工事

・現場発泡断熱材
（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

CHECK　DESIGN　DRAW　SCALE　-　DATE　'15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事
建築工事特記仕様書(7)

SHEET NO. A-07

章：20 ユニット及び仕上工事

9 鏡 [20.2.9]

取付箇所 （ ）
寸法（㎜） ・ 図示
厚さ（㎜） ※ 5

10 表示 [20.2.10]

区分	材質	寸法(㎜)	厚さ(㎜)	取付高さ(㎜)	備考
・衝突防止表示（・両面 ・片面）	・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・図示	・30φ	・市販品	・図示	
・室名札	・ｱｸﾘﾙ板	・図示	・5	・図示	
・ピクトグラフ	・ｱｸﾘﾙ板	・図示	・5	・図示	
・とびら番号	・ｱｸﾘﾙ板	・図示	・5	・図示	
・庁舎案内板	・ｱｸﾘﾙ板	・図示	・5	・図示	
・各階案内板	・ｱｸﾘﾙ板	・図示	・5	・図示	

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示は市販品とする。
色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。

11 煙突ﾗｲﾆﾝｸﾞ [20.2.11]

・ 煙突用成形ライニング材
適用安全使用温度 ・ 400℃ ・ 650℃
・ キャスタブル耐火材
煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする

（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

12 ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ [20.2.12]

形式	操作方法	種類	ｽﾗｯﾄの材種	ｽﾗｯﾄ幅(㎜)	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	寸法 取付箇所
・横型	・手動	※ｷﾞﾔ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	※ 25	※鋼製	・図示
	・電動	—				
・縦型	・手動	※２本操作ｺｰﾄﾞ式 ・１本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・ 80 ・ 100	ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示
	・電動	—				

ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ 焼付け塗装仕上げ
ｸﾛｽｽﾗｯﾄ 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 G

13 ﾛｰﾙｽｸﾘｰﾝ G [20.2.13]

材種	操作方式	遮光性	寸法(㎜)	取付箇所	備考
・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ	・電動式 ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾞ式 ・ﾁｪｰﾝ式	・１級 ・２級 ・３級	・図示	・図示	

巻取りﾊﾟｲﾌﾟ、ｳｪｲﾄﾊﾞｰ、操作ｺｰﾄﾞ又は操作ﾁｪｰﾝその他の材料は製造所の仕様による。

14 ｶｰﾃﾝ [20.2.14]

形式		開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・ｼﾝｸﾞﾙ	・片引き	・手引き	・ﾌﾗﾝｽひだ		・図示	
・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・引分け	・ひも引き	・箱ひだ、つまひだ			
		・電動	・ﾌﾟﾚｰﾝひだ、片ひだ			
					・図示	（暗幕）

使用される繊維のうち、ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については G とする
暗幕ｶｰﾃﾝの両端、上部及び召合せの重なり ※300㎜以上

15 ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ

材 種 ※ アルミニウム製 ・ ステンレス製
形式 ・シングル ・ダブル
・片引き ・引分け
強さによる区分 ※10-90 ・
仕上げ ※アルマイト ・
形状 ※角形 ・

16 ﾌﾟﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ及びｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸｽ

溝型×深さ（㎜） ・90×150 ・120×80 ・120×150 ・150×80 ・図示
材質 ・集成材（仕上げ： ）
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 押出し型材（市販品）
表面処理・C-1
・C-2（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）
・
皮膜等の種類 ※標準仕様書表14.2.1による ・
・鋼製（仕上げ： ）

⑰ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・額縁タイプ	・額縁タイプ
	・600×600		・屋内用	・目地タイプ	・目地タイプ
		・気密形			

（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

18 床点検口

材種	寸法	形式		備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・鋼製	・450×450 ・600×600	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

（品質・性能）
建築材料等品質性能表による
（試験方法）
建築材料等品質性能表による

章：20 ユニット及び仕上工事

19 耐震ｽﾘｯﾄ

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	※ 完全（全貫通型）	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材（㎜）	・シーリング材（見え掛かりのみ） ・	・シーリング材（内外とも） ・シーリング材(見え掛かりのみ)
目地寸法（幅m×深さm）	・幅20×深さ10	・幅20×深さ10

目地材の材質は[表9.7.2]による

20 止水板

形 状 ・ 差込式 ・ 据置式 ・ 壁張り式
施工箇所 ・図示

21 ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝ・ｼﾞｮｲﾝﾄ金物

材種	クリアランス	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150	・有り（ ） ・無し	

外部は防水型とする

㉒ くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼（SUS304）製	・ｽﾃﾝﾚｽ鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金	

23 流し台ｭﾆｯﾄ

材種	寸法(㎜) W	D	H	備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	-	-	市販品 ステンレス製 ・1段式 ・

品質・性能 JIS A 4420による
形状 ※図示 ・

24 旗竿

材種	形式	高さ(㎜)	操作方法	固定方法	備考
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・ﾃｰﾊﾟｰ式 ・同一断面式		・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・ﾛｰﾌﾟ式	・埋込式 ・ﾍﾞｰｽ式 ・ﾊﾟﾝﾄﾞ式	

25 旗竿受金物

材 種 ・ ステンレス製（SUS 304） ・

26 車止め支柱

形式		材種	柱径、肉厚(㎜)	高さ(㎜)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製		

27 フェンス

フェンスの種類 ・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ ・図示 ・

28 ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｸﾘｰﾄ [20.3.3～4]

ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位ｾﾒﾝﾄ量の最小値300kg/㎥を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・図示
取付け方法
※図示

29 間知石及びｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ積み [20.4.2～3]

材種	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—	
・ｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ	—		・A ・B	

積み方 ※谷積み ・布積み
目塗り ・図示 ・ 伸縮目地
伸縮目地 材種 ・図示 ・
厚さ ・図示 ・

章：21 排水工事

1 排水管 [21.2.1][表 21.2.1][21.3.3]

排水管用材料

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（１種）	・B形管	※図示	
・ 硬質ポリ塩化ビニル管	・ VP ・ VU ・ RS-VU G		※ 図 示 ※ 図 示 ※ 図 示	

基床の厚さ及び種類 ・図示
砂地業に用いる材料 ※[21.2.3](a)(1) ・図示
砂利地業に用いる材料 ※[21.2.3](a)(2) ・図示
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管の継手に用いる材料 ※接着剤
ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎等に用いる材料
※標準仕様書[6.14]
設計基準強度18N/㎟ とする。ただし、ｺﾝｸﾘｰﾄが簡易な場合の調合（容積比）
ｾﾒﾝﾄ1：砂2：砂利4程度とする。
・図示

2 側塊、排水桝等 [21.2.2]

側塊、排水桝等
形状及び寸法 ・図示 ・
砂地業に用いる材料 ※[21.2.3](a)(1) ・図示
砂地業に用いる材料 ※[21.2.3](a)(1) ・図示
ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎等に用いる材料
※[6.14]
設計基準強度18N/㎟ とする。ただし、ｺﾝｸﾘｰﾄが簡易な場合の調合（容積比）
ｾﾒﾝﾄ1：砂2：砂利4程度とする。
・図示

3 鋳鉄製ふた [21.2.2]

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製ﾏﾝﾎｰﾙふた	・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉形（テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－２０用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209による

4 グレーチング [21.2.2]

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛 めっき（付着量）	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用 ・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・細目 ・普通目 ・細目	・（ ） ・（ ）	・凹凸形 ・平形 ・
・ｽﾃﾝﾚｽ製	・受枠付き、ﾎﾞﾙﾄ固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用 ・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	— —	— —	・凹凸形 ・平形 ・

（品質・性能）
工事建築材料等品質性能表による
（荷重試験方法）
工事建築材料等品質性能表による

⑤ 街きょ、縁石、側溝 [21.4.1][表21.4.1]

街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
・縁石	・ 図 示
・Ｌ形側溝	・ 図 示
・Ｕ形側溝	・ 図 示
・Ｕ形側溝ふた	・ 図 示
・	・ 図 示

地業の材料 ※標準仕様書[4.6.2](a)による ・図示
砂利地業の厚さ ※100（㎜） ・図示
ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎等に用いる材料
※標準仕様書[6.14]
設計基準強度18N/㎟ とする。ただし、ｺﾝｸﾘｰﾄが簡易な場合の調合（容積比）
ｾﾒﾝﾄ1：砂2：砂利4程度とする。
・図示

⑥ 埋戻し土 [21.2.3]

※ Ｂ種

章：22 舗装工事

1 路床 [22.2.2、3、5][表22.2.2]

路床の材料

種別	材料	厚さ(㎜)
・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示
・遮断層	・川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量10%以下）	・図示
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量10%以下）	・図示
・フィルター層	・川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量６%以下） ・	・図示

路床安定処理
・添加材料による安定処理
種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントＢ種 G
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（ ） ・消石灰（ ）
添加量 kg（目標CBR ・5以上 ・ ）
・ジオテキスタイル
単位面積質量 ・60g/㎡以上 ・
厚さ(㎜) ・0.5～1.0 ・
引張強さ ・98N/5cm（10kgf/5cm）以上 ・
透水係数 ・1.5×10-1cm/sec以上 ・
試験
砂の粒度試験 ・行う ・行わない
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験 ・行う ・行わない
路床締固め度の試験 ・行う ・行わない

②路盤 [22.2.2、3、5][表 3.2.1]

路盤の厚さ ⊙図示 ・
路盤材料 ・砕石
⊙再生クラッシャラン G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G
・
・図示
試験
路盤締固め度の試験 ※行う ・行わない

3 ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装 [22.4.2～6][表 22.4.1,5]

アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 ・
材料
アスファルト ・ 再生アスファルト G ・ ストレートアスファルト
骨材 ・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
加熱アスファルト混合物等の種類 [22.4.4][表22.4.5]

区分	地域	種類
表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)
	・寒冷地域	・密粒度アスファルト混合物(13Ｆ) ・細粒度アスファルト混合物(13Ｆ)
基層	一般及び寒冷地域	粗粒度アスファルト混合物(20)

シールコートの施工 ・行う ・行わない
試験
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない
舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

4 ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装 [22.5.2～4、6][表22.5.4]

ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装の厚さ

舗装の種類	部位	厚さ(㎜)
ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	車道部	・図示 ・150 ・
	歩道部	・図示 ・70 ・
転圧ｺﾝｸﾘｰﾄ	車道部	・図 示 ・150

縁部立下り寸法等 ・図示
材料
コンクリート ・標準仕様書表22.5.2による ・
早強セメント ・使用する ・使用しない
注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ
転圧コンクリートの工法 ※図示 ・
目地
種類、間隔、構造※標準仕様書表22.5.4及び図22.5.1による ・図示
試験
コンクリート版厚さの試験 ・行う ・行わない

⑤カラー舗装 [22.6.2～4][表22.6.1]

種類		部位	車道部の基層	厚さ(㎜)
⊙加熱系	⊙ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	・車道部	⊙無し	⊙図示
	・石油樹脂系混合物	⊙歩道部	・有り	
・常温系				

舗装厚さの許容差 ※標準仕様書22.4.2(c)による
材料
添加する材料 ・着色骨材（ ） ・自然石（ ）
配合
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量 ・
樹脂系混合物、ニート工法及び塗布工法の配合等 ・

6 ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装 G [22.7.2、3、6]

材料	厚さ(㎜)
ストレートアスファルト	
	・ 図 示

試験
透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない
舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-	建築工事特記仕様書(8)	A-08
				DATE '15.08		

22 舗装工事

7 排水性アスファルト舗装 G

[22.8.2、3、6]

区分	種類	材料	厚さ(mm)
表層	・排水性舗装用ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	・ﾎﾟﾘﾏｰ改質ｱｽﾌｧﾙﾄⅡ型	・ 図示
基層	・加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等(密粒ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物)	・再生ｱｽﾌｧﾙﾄ G ・ｽﾄﾚｰﾄｱｽﾌｧﾙﾄ	・ 図示

舗装の平坦性　※著しい不陸がないもの
試験
　アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない

8 ﾌﾞﾛｯｸ系舗装

[22.9.2、3]

・ コンクリート平板舗装

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板(N) ・透水平板(P)	※300角	・ 60	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

歩道部に使用するｺﾝｸﾘｰﾄ平板は G(再生材料を用いた舗装用ﾌﾞﾛｯｸ)とする。
透水平板は G (透水性ｺﾝｸﾘｰﾄ) とする。
仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板間の段差は3mm以内

・ インターロッキングブロック舗装

[22.9.2、3]

種　類	部位	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	備考
※ 普通ブロック（N）	車道部	※80 ・	※5.0 ・	色彩、表面加工
・ 透水性ブロック（P）	歩道部	※60 ・	※3.0 ・	・ 標準品
・				

歩道部に使用するﾌﾞﾛｯｸは G (再生材料を用いた舗装用ﾌﾞﾛｯｸ)とする。
透水性ﾌﾞﾛｯｸは G (透水性コンクリート）とする。
仕上り面の平たん性
　※歩行に支障となる段差がないものとし、ﾌﾞﾛｯｸ間の段差は3mm以内

・ 舗石舗装

[22.9.2、3]

種　類	寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基　層
※ 小舗石（花こう岩）		・ 80	・ うろこ張り	・コンクリート舗装 ・アスファルト舗装

仕上り面の平たん性
　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内

9 砂利敷き

種別　[22.10.1]
・ A種（施工範囲：・図示　・通路　・　）
・ B種（施工範囲：・図示　・建物周囲　・　）

10 路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・ 1種 G	常温	液状	・ 白	・ 150 ・ 100	・ 1.0
・ 2種 G	加熱				
・ 3種1号	溶融	粉体状			

G　低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等

[23.1.3]
土壌の水素イオン濃度（pH）試験　・行う　・行わない
水溶性塩類（EC）の試験　・行う　・行わない

2 植栽基盤の整備

[23.2.2][23.2.4]

植栽	工法	有効土層の厚さ（cm）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種	※20	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備　・設ける（※図示　・　）　・設けない

3 植込み用土

[23.2.3]
※ 現場発生土の良質土　・ 客土

4 土壌改良材

[23.2.3]
・ バーク堆肥 G
　施工箇所　※植栽範囲　・図示
　使用量　植栽基盤面積1m²あたり　（　・50L　・　）
・ 汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）G
　施工箇所　※植栽範囲　・図示
　使用量　植栽基盤面積1m²あたり　（　・10L　・　）
　材料
　「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする

5 樹木

[23.3.2]
樹種、寸法、株立数等　※図示

6 支柱

[23.3.2]
支柱材　※ 丸太（間伐材） G　・ 真竹
防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材
[23.3.3]
形式　・図示

7 幹巻き用材料

[23.3.2]
材料
　※ 幹巻き用テープ　・ わら及びこも

8 芝

[23.4.2]
種類　※ コウライシバ　・ノシバ
芝張りの工法
　平地　※目地張り　・べた張り
　法面　・目地張り　※べた張り

9 吹付けは種

[23.4.2]

種子の種類	発芽率	種子の量（g/m²）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		

10 地被類

[23.4.2]

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数

11 新植、移植樹木、芝等の枯保証

[23.3.4][23.3.6][23.4.7]
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
　※引渡しの日から１年　・無し
移植樹木の枯損処置を行う期間
　※引渡しの日から１年　・無し

12 屋上緑化G

[23.5.2～3]
植栽基盤及び材料
・屋上緑化システム
　土壌層の厚さ　・ 図示　・
　排水層　・ 軽量骨材（層の厚さ　：　）　・ 板状成型品
　植込み用土　※ 改良土　・ 人工軽量土
　樹木の樹種並びに種類、寸法、株立数、寸法等　※図示
　見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※ 図示
（品質・性能）
　建築材料等品質性能表による
（試験方法）
　建築材料等品質性能表による

・屋上緑化軽量システム
　芝及び地被類の樹種並びに種類等　※ 図示
　見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※ 図示
（品質・性能）
　建築材料等品質性能表による
（試験方法）
　建築材料等品質性能表による

工法　[23.5.4]
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
　・適用しない

支柱　・ 設置する　（形式　・ 図示　・　）
かん水装置　・ 設置する　（種類　・　）

24 その他

Ⅱ　建築改修工事仕様

工事概要

工事名称	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	
主要用途	体育施設	
工事種別	改修	
敷地	地名地番	加茂郡富加町夕田字杉洞238地内
	敷地面積	7,748.00 ㎡
都市計画法等	都市計画区域	⊙ 都市計画区域内（・市街化区域・市街化調整区域⊙その他） ・ 都市計画区域外
	用途地域	⊙（ 用途指定なし ）
	防火地域	・ 防火地域 ・準防火地域 ⊙指定なし
	その他の指定	・ ２２条指定区域内 ⊙２２条指定区域外 ・（ ）
建築基準法	道　路	・国道 ・県道 ・市道 ⊙町道 ・村道 ・私道 幅員 ６．０ m（２以上の道路に接する場合には、広い方の道路幅員を記入）
	指定の建ぺい率	６０％　　指定の容積率 ２００％
工事建物の概要	構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造 階数　２階建て 延べ床面積　１，８２７．８８㎡ 建設年度　昭和６２年	
工事の範囲	⊙建築主体工事 ⊙電気設備工事一式 ⊙機械設備工事一式 ・外構工事 ・舗装一式 ・駐車場一式 ・消防活動空地一式 ・植栽一式	
別途工事	・電気設備工事一式 ・機械設備工事一式 ・昇降機設備工事一式 ・電話工事一式 ・解体工事一式 ・搬送設備工事一式	

1．共通仕様
（1）図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(平成２５年版【平成２６年３月改訂】)（以下「改修標準仕様
なお、改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成２５年版)」「平成２６年３月改定」（以下「標準仕様
（2）電気設備改修工事及び機械設備改修工事を本工事に含む場合は、電気設備改修工事及び機械設備改修工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。
電気設備改修工事の特記仕様書は（　／　）図、
機械設備改修工事の特記仕様書は（　／　）図による。
（3）受注者は建築基準法第７条の定めによる完了検査（同法第７条の３の定めによる中間検査を含む）時には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料（報告書等）を用意すること。

2．特記仕様
（1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
（2）特記事項の中で選択する事項（・印の付いたもの）は、⊙ 印の付いたものを適用する。
⊙ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙ 印と ㊒ 印の付いた場合は、共に適用する。
（3）特記事項に記載の（　．　．）内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の［　．　．］内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）東海地震に係る地震防災対策強化地域内における工事にあっては「大規模地震対策特別措置法」による注意情報が発せられた場合、受注者は人身の保護及び安全な避難に必要な補強、落下防止等の保全措置を講ずるとともに、工事中断の措置をとること。又この事実が発生した場合は、契約書第２６条（臨機の措置）によって処理されたものとする。
（5）標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令の改正等により（条例を含む）に抵触する場合には、関係法令等の遵守（1.1.13）の規定を優先する。

章	項目	特記事項
1 共通事項	① 適用基準等	建築工事標準詳細図　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成22年版） 各図面において、（○－○○－○）内の数字は適用する上記詳細番号を示す。 工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編　建設大臣官房官庁営繕部監修 ⊙建築物解体工事共通仕様書同解説 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成24年版）
	2　適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・風圧力 風速（Ｖ０＝　３０　m／s） 地表面粗度区分　（　Ⅲ　） ・積雪荷重 ・建設省告示第1455号における区域　別表（２４）
	③ 工事実績情報の登録	工事請負金額が５００万円以上（消費税込み）の工事について、（1.1.4） 工事実績情報を登録するものとする。 （登録先：日本建設情報総合センター） なお、登録内容を訂正する必要が生じた場合は、標準仕様書に記載された登録の手順に準じて訂正するものとする。 また、変更契約日と工事完了日の間が、１０日に満たない場合は、変更契約時の登録を省略することができるものとする。
	④ 施工計画書	次の工種に該当する工事の施工計画書を当該工事の施工に先立ち作成し、監督員に提出する。（1.2.2） ⊙仮設工事 ⊙塗装改修工事 ⊙防水改修工事 ・耐震補強工事 ・外壁改修工事 ・環境配慮改修 ⊙建具改修工事 ⊙内部改修工事 ・その他改修工事（　）
	⑤ 電気保安技術者	⊙適用する（1.3.3）
	⑥ 施工条件	⊙適用する（1.3.5） ⊙施工時間　（※追加特記仕様書による　⊙打合せによる） ⊙施工順序　（・指定なし　・図示　⊙打合せによる） ⊙工事用車両の駐車場　（・指定なし　・図示　⊙敷地内　） ⊙資機材置場　（・指定なし　・図示　⊙敷地内　） ⊙現場事務所　（・指定なし　・図示　⊙敷地内　） ⊙建設発生土仮置場　（・指定なし　・図示　⊙敷地内　）
	⑦ 発生材の処理等	※引渡しを要するもの（・金属類　※ＰＣＢ含有物　・　）（1.3.8） ・特別管理産業廃棄物（※廃石綿　・　） ・現場において再利用を図るもの（　） ・再生資材の活用を図るもの　（　） ⊙アスベスト成型板としての処理を要するもの ※９章　環境配慮改修工事の特記による ・ＰＣＢ含有シーリング材の分析調査

章	項目	特記事項
1 共通事項		・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否の判定を行う 採取箇所数（計　箇所） 採取場所　（※図示　・　） ・第二次判定 専門分析機関にてＰＣＢ含有量の分析を行う 分析個数　（計　個） ・除去処理工事 撤去工法　「標準施工要領書（日本シーリング工業共同組合連合会／日本シーリング材工業会）」による 除去範囲　（※図示　・　） ※再生資源利用計画書及び再生資源利用計画書の提出 建設リサイクル法の実施に係る岐阜県指針に基づき、工事着手時に再資源利用計画書及び再資源利用促進計画書を、また、工事完了時に同計画書の実施報告書を監督員に提出するものとする。なお、計画書及び報告書は「建設リサイクルデータ統合システム」（CREDAS）により作成したものとする。 本工事が、特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法第104号　以下「建設リサイクル法」という。）施行令又は、都道府県が条例で定める建設工事等であって、その規模に関する基準以上の工事（以下「対象工事」という。）である場合は、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずることとする。 なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、別表１又は２，及び３の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「７解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されたものであるため、発注者が積算上条件明示した別表の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。但し、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものではない事項については、この限りでない。工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 また、分別解体・再資源化の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督職員に報告する。なお、書面は「建設リサイクルガイドライン(平成14年5月)」に定めた様式１｛再生資源利用計画書（実施書）｝及び様式２｛再生資源利用促進計画書(実施書)｝を兼ねるものとする。 本工事が「建設リサイクル法」の対象工事外である場合においても前記に準じ適切な措置を講ずるものとする。 建設リサイクル法　・対象工事　⊙対象工事外 ・別表１　建築物に係る解体工事

工程ごとの作業内容及び解体方法		
工　程	作業内容	分別・解体の方法
・建築設備、内装材等	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・屋根ふき材	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・外装材・上部構造部分	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・基礎、基礎ぐい	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・その他 （　）	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用

⊙別表２　建築物に係る新築工事等（・新築　・増築　⊙修繕　・模様替）

工程ごとの作業内容及び解体方法		
工　程	作業内容	分別・解体の方法
・造成等	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・基礎、基礎ぐい	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・外装材、上部構造部分	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
・屋根	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
⊙建築設備、内装等	⊙有 ・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
・その他 （　）	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用

手作業・機械作業を併用する理由
建築設備の取り外し　（　）
内装材料の取り外し　（　）
屋根ふき材の取り外し（　）

・別表３　特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設の名称及び所在地

廃棄物の種類	施設の名称	所　在　地
・コンクリート		
・ｺﾝｸﾘｰﾄ及び鉄から成る建設資材		
・アスファルトコンクリート		
・木材		

注）上記については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、提示する施設と異なる場合は、監督職員と協議する。

8 埋戻し及び盛土　種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・建設汚泥から再生した処理土 G［表3.2.1］
⑨砂利地業　※再生クラッシャラン G　・切込砂利又は切込砕石（1.4.1）
⑩環境への配慮　G 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。
原則としてグリーン購入法における特定調達品目の使用に努めること。
判断の基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成２２年２月閣議決定）」による。
化学物質を放散させる建築材料等
本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の１）から５）を満たすものとする。
１）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDFパーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上塗材は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
２）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
３）接着剤はフタル酸ジブチル及びフタル酸ジエチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。

章	項目	特記事項
1 共通事項		４）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 ５）１）、３）及び４）の建築材料を使用して作られた家具、書架、実験台その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量	該当する材料
規制対象外	①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通省大臣認定品 ③次の表示のあるＪＡＳ適合品 ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ｂ．接着剤等不使用 ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを発散しない材料使用 ｄ．ホルムアルデヒドを発散しない塗料等使用 ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを発散しない塗料使用 ｆ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを発散しない塗料
第三種	①ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆品 ②建築基準法施行令第２０条の７第３項による国土交通省大臣認定品 ③旧ＪＩＳのＥ０品 ④旧ＪＩＳのＦｃ０品

⑪ 材料の品質等　本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、ＪＩＳ又はＪＡＳマーク表示のない材料等は、次の１）から６）の事項を満たすものとする。（1.4.2）
１）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
２）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
３）安定的な供給が可能であること。
４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
６）販売、保守等の営業体制が整えられていること。
なお、これらの材料等を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料、又は外部機関が発行する資料等の写しを監督員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断に基準に従い、あらかじめ、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（林野庁　平成１８年２月１５日）に準拠した証明書を監督員へ提出する。
12 特別な材料の工法　改修標準仕様書、標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
⑬ 施工調査　※施工計画調査（1.5.1～2）
本工事該当部位及び関連部位について既存施設（埋設配管等を含む）について事前調査、情報収集を行う。
報告書　監督員に２部提出
立面図、平面図等に記載、必要に応じ写真を添付
調査業者　外壁及び防水改修施工数量調査は、使用予定材料メーカーの指定する施工業者とする
・埋設配管の試掘
範囲、復旧方法　※図示　・
・外壁改修施工数量調査
調査範囲　※全面　・図示
調査項目
・タイル張り仕上げの場合
ひび割れ（幅0.2～0.3㎜未満、0.3～0.5㎜未満、0.5～1.0㎜未満、1.0㎜以上）の幅及び長さ、ひび割れ部の挙動の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
・コンクリート打放し仕上げ、モルタル塗り仕上げの場合
ひび割れ（幅0.1～0.2㎜未満、0.2～0.3㎜未満、0.3～0.5㎜未満、0.5㎜～1.0㎜未満、1.0㎜以上）の幅及び長さ、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
・モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては、浮き部分、欠損部の形状寸法等を調査する。
・塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を調査する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法・図示
調査報告書の部数　・　部
調査方法　目視及びミリスケール等
足場　※「２章　仮設工事　１　足場」による。　・
・防水改修施工数量調査
調査範囲　※全面　・図示
調査項目　※図示　・
調査方法　※図示　・
14 調査のための破壊部分の調査　補修方法　※図示　・（1.5.3）
⑮ 技能士　※適用する
適用する技能士（1.6.2）

工事種目	技能士検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	⊙ とび作業
防水改修工事	防水施工	・ ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業 ・ ｳﾚﾀﾝｿﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ ｱｸﾘﾙｿﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ 合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・ 塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・ ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ・ 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾄ工法防水 ・ ＦＲＰ防水工事作業 ⊙ ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業
	建築板金	・ 内外装板金作業
	スレート施工	・ スレート工事作業
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	・ 樹脂接着剤注入工事作業
	左官	・ 左官作業
	タイル張り	・ タイル張り作業
建具改修工事	サッシ施工	⊙ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	⊙ ガラス工事作業
	自動ドア施工	・ 自動ドア施工作業
内装改修工事	建築大工	・ 大工工事作業
	内装仕上施工	⊙ 鋼製下地工事作業
	建築板金	⊙ 内外装板金作業
	内装仕上施工	⊙ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上工事作業 ・ ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上工事作業

章	項目	特記事項
1 共通事項	内装改修工事	⊙ ボード仕上工事作業
	表装 左官 タイル張り	・ 壁装作業 ⊙ 左官作業 ・ タイル張り作業
	塗装改修工事	⊙ 塗装作業
	耐震改修工事	鉄筋施工　・ 鉄筋組立作業 型枠施工　・ 型枠工事作業 ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送施工　・ ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業 鉄工　・ 構造物鉄工作業 とび　・ とび作業
	環境配慮改修工事	配管　・ 建築配管作業 路面表示施工　・ 溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業 ・ 加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業 造園　・ 造園工事作業
	16 技能資格者	・溶接技能者（（社）日本溶接協会が検定した技能資格を有する者）(1.6.3) ・圧接技量資格者（JIS Z 3881（ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準）による技量を有する者）
	⑰ 施工の検査等	⊙その他監督員の指示による（1.6.5）
	⑱ 施工の立ち会い等	⊙その他監督員の指示による（1.6.7）
	⑲ 化学物質の濃度測定	測定室の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、報告すること。（1.6.9） 測定対象室及び測定箇所数 ・事務室　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前　・着工後） ・会議室　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前　・着工後） ・上級室　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前　・着工後） ・休憩室　室名（　） 測定箇所　各部屋（　）箇所、測定回数（・着工前　・着工後） ⊙その他　室名（ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ） 測定箇所　各部屋（１）箇所、測定回数（⊙着工前　⊙着工後） 測定方法　※パッシブ採取による蒸気拡散式分析法　・厚生労働省の標準法 測定物質　ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン パラジクロロベンゼン（学校のみ） 換気　測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押入れ等を含む。）を開放し３０分換気する。 閉鎖　測定対象室のすべての窓及び扉を５時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押入れ等の扉は、開放したままとする。 測定　測定は、「閉鎖」の状態のまま行う。 測定時間は、原則として２４時間とする。但し２４時間測定が行えない場合は、８時間測定（１０時３０分～１８時３０分）とする。 測定位置は、室中央付近の床から１．２m～１．５mの高さとする。
	⑳ 完成時の提出書類	⊙完成図（施工図、施工計画書を除く）（1.8.1~3)(表1.8.1) ※新規に作成　・既存完成図を修正 記載内容は監督職員と協議する。 完成図ＣＡＤデータ（ＣＤ－Ｒ）作成方法は「営繕工事電子納品要領」（平成14年11月改訂版）による。 ⊙保全に関する資料 提出　※１部　・ ⊙施工図（　・　） 提出　※原図及びその複写図１部　・ ⊙施工計画書（　・　） 提出　※１部　・ 本工事に係る施工図及び施工計画書の著作者の権利は、当該建物における使用に限り、発注者に移譲するものとする。 製作図等で原図として提出が出来ないものは、原図に変わるものとしてよい。 設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。
	㉑ 工事写真	※「営繕工事電子納品要領」による
	22 設計ＧＬ	※設計ＧＬ＝ＢＭ＋　　㎜（現状地盤高は図示） ・
	㉓ 建設機械	１）本工事においては「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」（平成9年7月31日建設省告示第1536号、最終改正 平成13年4月9日国土交通省告示第487号)に基づき指定された建設機械を使用する。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議の上、必要書類を提出するものとする。 ２）本工事においては「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日建設省経機発第249号、最終改正 平成14年4月1日国総施第225号)に基づき指定された建設機械を使用する。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成７年建設技術評価副公募課題「建度設機械の排出ガス浄化装置の開発」、又はあいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策機械と同等とみなす。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。 排出ガス対策建設機械、又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は、施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。
	㉔ 設備工事との取り合い	本工事の施工範囲 ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強 ※図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強 ※自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 ※駆動装置が電動による建具等の２次側の配管・配線及び操作スイッチ 施工図 ※設備機器の位置、取合いなどの検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。
	㉕ 事故報告	工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に通知するとともに、事故発生報告書を監督職員に速やかに提出すること。
	㉖ 養生その他	工事施工に際し、在来部分を汚損した場合又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、在来にならい補修する。 ※粉じん対策　粉じんが発生する場合には、集塵機を設置すること。 工事車両の洗車及び道路の清掃をすること。 ※安全対策　工事車両の出入口及び出隅部分に透明板付の仮囲いや赤色灯を設置すること。

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
			-	改修工事特記仕様書(1)	A-10
			DATE '15.08		

1 共通事項

㉗ 完成写真
撮影箇所数　※（補強）箇所　・航空写真（　　）箇所　・監督職員の指示による
本完成写真の著作者の権利は、発注者に委譲するものとする。
提出内容
※電子データ　１部
画素：長辺で2880ＰＩＸ以上
記録方式：ＲＧＢ（フルカラー）、ＪＰＥＧ最高画質
記録媒体：ＣＤ－Ｒ（ＩＳＯ）
・カラープリント　キャビネ版（　　）部
アルバム（黒表紙金文字300㎜×300㎜程度）　※無し　・有り
・四つ切　　（　　）枚　　※アルミ額縁
・半切　　（　　）枚　　※アルミ額縁
・全紙　　（　　）枚　　※アルミ額縁

28 建設発生土の処理　[3.2.5]
本工事は、建設発生土情報交換システム（以下「システム」という。）の登録対象工事であり、受注者は、工事の実施に当たっては土量、土質、土工期等に変更があった場合速やかに当該システムのデータ更新を行うものとする。

※構外搬出適切処理
「建設発生土情報交換システム」を活用し、適切に処理する。
片道の運搬距離（　　）ｋｍ、　処分費及び整地費用　無償
注）上記ついては積算上の条件明示であり、提示する条件と異なる場合は監督職員と協議する。

・構内指示の場所にたい積する。
・構内指示の場所に敷きならす。
・岐阜県建設発生土管理基準により土壌検査を行う。

29 書類の書式等　本工事の施工に関して提出する書類は、発注者が受注者に提示する「工事の請負に係る書類」様式に基づき作成する。

㉚ 概成工事　総合試運転を行う上で、関連工事を含めた各工事が工期のおおむね１０日前までに支障のない状況まで完了していること。

31 下請施工業務　本工事において、下請契約を締結する場合には、当該契約の相手方を岐阜県内に本店（建設業法（昭和２４年法律第１００号）に規定する主たる営業所含む。）を有する者の中から選定するよう努めること。

㉜ 産業廃棄物の適正処理　産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、監督員の指示に従い、産業廃棄物の関連書類の提出及び確認並びに処理施設の現地確認並びに建設廃棄物処理状況の管理を行い、産業廃棄物の最終処分に至るまで適正に処理されていることを確認すること。

㉝ 下請け業者等　下請け業者の選定に当たっては岐阜県入札参加資格停止の処置がなされていないこと。

㉞ 暴力団の排除措置　妨害又は不当要求に対する通報義務
１）受注者は、契約の履行に当たって暴力団関係者等から事実関係及び社会通念等に照らして合理的な理由が認められない不当若しくは違法な要求又は契約の適正な履行を妨げる妨害を受けたときは、警察へ通報をしなければならない。なお、通報がない場合は入札参加資格を停止をすることがある。
２）受注者は、暴力団等による不当介入を受けたことにより、履行期間内に業務を完了することができないときは、発注者に履行期間の延長変更を請求することができる。

㉟ ワンデーレスポンス　１）本工事はワンデーレスポンス実施対象工事とする。
「ワンデーレスポンス」とは、受注者からの質問、協議への回答を、原則「その日のうち」に回答する仕組みである。
２）受注者は、工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は適宜監督員に報告するものとする。
３）実施に当たっては、「ワンデーレスポンス実施要領」（農計第５３１号、林第８１５号、技第５８４号平成２３年３月３１日通知）に基づき実施するものとする。

㊱ 軽微な変更等　現場の納まり、取り合い等の関係による協議の中で、形状寸法の軽微な変更は、監督員の指示による。なお、この場合請負金額の変更は行わない。

㊲ 事故防止策　・安全施設の使用・設置
1　安全施設の使用・設置は関係法令等を順守するほか次のとおり講じなければならない。
（1）原則、昇降用梯子で作業しないこと。ただし、やむを得ず作業する場合は、本作業用、補助用の2丁掛としなければならない。
（2）安全帯は一連の作業において親綱の架け替え等が生じる場合は、本作業用、補助用の2丁掛としなければならない。
・定期安全訓練・研修等
2　受注者は、工事着手後、作業員全員の参加により月当たり、半日以上の時間を割当て、次の各号から実施する内容を選択し、定期的に安全に関する研修・訓練等を実施しなければならない。
さらに、工事内容や現場状況に応じて、過去の事故事例集（下記USL参照）の活用により、工事現場で予想される事故防止対策を必ず実施すること。
（１）安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
（２）当該工事内容等の周知徹底
（３）工事安全に関する法令、通達、指針等の周知徹底
（４）当該工事における災害対策訓練
（５）その他、安全・訓練等として必要な事項
http://www.pref.gifu.lg.jp/kendo/gijutsukanri/kensetsu-joho/jikojirei/jikojireishuu.html

㊳ その他　ディーゼルエンジン車両の適正燃料の使用について
（１）ディーゼルエンジンを動力とする車両には、JIS規格の軽油を使用すること。
（２）ディーゼルエンジンを動力とする車両の燃料検査があった場合には協力すること。

2 仮設工事

①足場　⊙内部足場　種別　※脚立、足場板等　・　(2.2.1)(表2.2.1)
・外部足場　種別　※Ａ種　・Ｂ種(くさび緊結式足場)・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
足場を設ける場合、(2.2.1)(b)によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」（厚生労働省　平成21年４月「手すり先行工法に関するガイドライン」について（別紙１））における２の（２）手すり据置方式、又は（３）手すり先行専用足場方式により行うこと。
・外部足場の防護シートによる養生
（・養生シート　　・防音シート　）

②材料、撤去材等の運搬　種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種　(2.2.1)(表2.2.2)
C種：利用可能なエレベーター（　　）
D種：利用可能な階段　　（　　）

③既存部分の養生　⊙既存部分の養生方法　※ビニルシート等　・　(2.3.1)
⊙既存家具等の養生方法　※ビニルシート等　・
⊙工事用通路の養生方法　※ビニルシート等　・
⊙外部開口部の養生方法　※ビニルシート等　・
⊙アスベスト等の撤去にかかる養生は「９章　環境配慮改修工事」による

4 固定された備品、机、ﾛｯｶｰ等の移動　(2.3.1)
・行う（図示）

5 既存ﾌﾟﾗｲﾝﾄﾞ、カーテン等の養生　(2.3.1)
養生方法　※取り外しのうえ保管　・
保管場所　※構内既存施設内　・

6 仮設間仕切り　(2.3.2)
仮設間仕切り　設置位置　※図示
・Ａ種　下地　※軽量鉄骨　・木
(倉庫以外) 表面材　※せっこうボード（厚さ(㎜)　※9.5　・　）
・合板（厚さ(㎜)　※9.0　・　）
塗装　※行わない　・行う
充填材　※グラスウール３２Ｋ　厚５０㎜　・
・Ｂ種　下地　※軽量鉄骨　・木
(倉庫)　表面材　※せっこうボード（厚さ(㎜)　※9.5　・　）
・合板（厚さ(㎜)　※9.0　・　）
塗装　※行わない　・行う
・Ｃ種　下地　※単管
表面材　※防炎シート
・仮設扉　材質　※木製扉（合板張程度）・鋼製扉（片面フラッシュ程度）
塗装　※行わない　・行う

7 監督職員事務所　(2.4.1)
・設ける
・構内既存建物の一部を使用する。
・構内に新設する。
規模(m２程度)　・１０　・２０　※３５　・６５　・１００
・設けない

⑧工事用水　構内既存の施設　※利用できない
⊙利用できる（※有償　・無償）

⑨工事電力　構内既存の施設　※利用できない
⊙利用できる（※有償　・無償）

10 確認済の表示　建築基準法第８９条に基づく「確認があった旨」の表示をする。
・　適用する　　・　適用しない

11 ｲﾒｰｼﾞﾌﾟｱｯﾌﾟ　工事概要及びイメージパースを印刷した看板を　　箇所設置する。
なお、内容、設置位置については監督員と協議する。

3 防水改修工事

①一般事項　防水工事は、専門業者の責任施工とする。
受注者は、防水材料製作所及び防水施工者と連名で年限保証する。
なお、防水の保証年限は、１０年とする。

2 既存防水層の処理　(3.2.6)
・行う（・Ｍ４ＡＳ　・Ｍ４ＡＳＩ　・Ｍ４Ｃ　・Ｍ４ＤＩ　・Ｌ４Ｘ）

3 既存下地の補修　既存下地の補修箇所、範囲、数量等　※図示　(3.2.6)

4 試験及び施工標識　施工完了後の試験
満水試験　・行う　※行わない
（アスファルト防水、改質アスファルトシート防水、合成高分子系ルーフィングシート防水、塗膜防水の場合）

5 アスファルト防水　押さえ金物　※アルミニウム製　L-30×15×2.0（㎜）
・屋根保護防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～5)(表3.3.3～6)

工　法	種　別	施工箇所	断熱材 Ⓖ	絶縁用シート	立上り部の保護
・Ｐ２Ａ	・Ａ－１ ※Ａ－２ ・Ａ－３			※ｽﾀﾞｸﾛﾌｪﾙﾄ厚0.15㎜以上	※乾式保護材 ・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え ・れんが押え
・Ｐ１Ｂ	・Ｂ－１ ※Ｂ－２ ・Ｂ－３			・	
・Ｐ２ＡＩ	・ＡＩ－１ ※ＡＩ－２ ・ＡＩ－３		※JIS Ａ 9511によるA種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温板3種bｽｷﾝ層付　厚 ※25 ・	※ﾌﾗｯﾄﾊﾟｰﾝｸﾛｽ70g/m2程度 ・	
・Ｐ１ＢＩ ・Ｔ１ＢＩ	・ＢＩ－１ ※ＢＩ－２ ・ＢＩ－３				

乾式保護材
・窯業系パネル　無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
・金属複合版　金属板と樹脂を積層一体化させたもの。
・屋根露出防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～5)(表3.3.7～9)
防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材 Ⓖ	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用 Ⓖ	備考
・M4C	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4	図示		・製造所の指定による	・製造所の指定による		
・M3D ・P0D	・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4			・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・P0DI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ※DI-2		（材質） ※JIS Ａ 9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの ・ （厚さ）・25㎜　・	・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない

脱気装置の種類及び設置数量
※アスファルトルーフィング類製造所の指定による
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい
位置　※図示　・

屋根防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～5)(表3.3.10)

工　法	種　別	施工箇所	備　考
・Ｐ１Ｅ	・Ｅ－１		保護層　・設ける
・Ｐ２Ｅ	※Ｅ－２		・設けない

6 改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水　防水層の種別　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～4)(表3.4.1～3)

工法	種別	施工箇所	断熱材 Ⓖ	高日射反射率防水の適用 Ⓢ	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J3	図示		○	
・M3AS ・P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J2 ・AS-J4			○	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・M3ASI ・M4ASI ・P0ASI	・ASI-T1 ・ASI-J1		（材質） ※JIS Ａ 9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの ・ （厚さ）・25㎜　・	○	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　・
脱気装置の種類及び設置数量
※改質アスファルトシート製造所の指定による　・
押え金物
※改質アスファルトシート製造所の仕様による
Ⓢ：高日射反射率防水を示し、近赤外域における反射率が50.0%以上であること。日射反射率の求め方はJIS Ｋ 5602に準じる。Ⓖ

7 合成高分子系ルーフィングシート防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.5.2～4)(表3.5.1～2)
防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反射率防水の適用 Ⓢ	備考
・P0S ・S4S	・S-F1 ・S-F2 ・S-W1 ・S-W2 ・S-W3	図示		※ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	○ ○ ○ ○	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・S3S	・S-F1 ・S-F2			※ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	○ ○	脱気装置 ・設ける ・設けない
・W4S	・S-W1 ・S-W2 ・S-W3			※ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	○	脱気装置 ・設ける ・設けない
・P0SI ・S3SI ・S4SI ・W4SI	・SI-F1 ・SI-F2		（材質） ※JIS Ａ 9511によるA種ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの ・ （厚さ）・25㎜　・	※ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	○ ○	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・SI-M1 ・SI-M2		（材質） ※JIS Ａ 9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの又はA種押出し法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温板・材の保温板 ・ （厚さ）・25㎜　・		○ ○	

分　類　※非歩行　・軽歩行
Ⓢ：高日射反射率防水を示し、近赤外域における反射率が50.0%以上であること。日射反射率の求め方はJIS Ｋ 5602に準じる。Ⓖ

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する。

機械的固定方法に使用するピンの長さについては、監督職員立会いのもとピンの引き抜き試験（１箇所／２００㎡）を行い、協議の上決定する。

8 塗膜防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.6.2～3)(表3.6.1)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料	高日射反射率防水の適用 Ⓢ	備考
・P0X	※X-1 ・X-2	図示	※ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	○	脱気装置　・設ける　・設けない 改修用ドレン　・設ける ・設けない
・L4X	・X-1 ※X-2		※ｶﾗｰ・ｼﾙﾊﾞｰ	○	脱気装置　・設ける　・設けない
・P1Y	※Y-2				保護層　・設ける　・設けない
・P2Y	※Y-2				保護層　・設ける　・設けない

脱気装置の種類及び設置数量　※主材料製造所の指定による　・
Ⓢ：高日射反射率防水を示し、近赤外域における反射率が50.0%以上であること。日射反射率の求め方はJIS Ｋ 5602に準じる。Ⓖ
仕上塗料
種類　※防水材製造所の指定する製品　・
仕上色　・シルバー　・カラー

3 防水改修工事

⑨シーリング　シーリング改修工法の種類　(3.7.2～8)
⊙シーリング充填工法　・シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
ボンドブレーカー張り　・行う
エッジング材張り　・行う
シーリング材の種類、施工箇所　(3.7.2)(表3.1.2)(表3.7.1)
下記以外は(3.7.1)による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
面台	WS-2

シーリング材の目地寸法　※改修標準仕様書3．7．3（a)(1)～(3)による
シーリング材の試験　(3.7.8)
・簡易接着性試験　・引張接着性試験

10 とい　といの材種
・配管用鋼管　・硬質ポリ塩化ビニル管　・カラー鋼板　(3.8.2～3)(表3.8.1)
ルーフドレン

種別	施工箇所
・ろく屋根（・縦型　・横型）	
・バルコニー用	
・バルコニー中継用	

(3.8.2)(表3.8.3)
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒）ホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外　・
鋼管製といの防露巻き　※行う　(3.8.3)(表3.8.5)
たてといの受け金物の取付け　※行う　・既設を利用　(3.8.3)(表3.8.3)
既存といの撤去
・行う（図示）　降雨に対する養生方法（　　）　(3.8.3)
ルーフドレインの取付け
※水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填

11 アルミニウム製笠木　種類　(3.9.2)(表3.9.1)(表5.2.2)
・オープン形式・250形　・300形　・350形　・図示
・板材折曲げ形（板厚さ(㎜)　※2.0　・　）（本体幅：　　㎜）
表面処理　(3.9.2)（表5.2.2)
・Ａ－１種　※Ｂ－１種　・Ｂ－２種（・ブロンズ　・ステンカラー　・　）
工法　(3.9.3)
既存笠木等の撤去　・行う（範囲　※図示）
下地補修の工法　※図示
板材折曲げ形の笠木の取付方法　※図示
笠木固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・１　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない

12 長尺金属板葺　[13.2.2～3][表13.2.1]

施工箇所	長尺金属板の種類	厚さ(㎜)	屋根葺形式
	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150） ・ ・ガルバリウム鋼板	※0.4 ・	・立平葺 ・心木なし瓦棒葺 ・横葺

下葺材料　※アスファルトルーフィング940　・
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する　（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない

13 折板葺　[13.3.2～3][表13.2.1]

施工箇所	形式	長尺金属板の種類	厚さ(㎜)	形状(mm)	耐久面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合	※塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150） ・	※0.8 ・	※図示 ・山高(　) 山ﾋﾟｯﾁ(　)	※有り ・なし	※30分 ・なし

断熱材　・有り　種別　※ガラス繊維シート　・
厚さ(㎜)　※５　・
防火性能　※耐火30分　・
・無し
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する　（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	DATE
			-	'15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事
改修工事特記仕様書(2)

SHEET NO. A-11

章：6 内装改修工事

① 改修範囲 (6.1.3)

既存間仕切り壁撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲
改修幅 ※壁厚程度 ・壁面より両側（ mm程度） ⊙図示
仕上 ※既存仕上に準ずる ⊙図示
天井内の既存壁撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
改修幅 ※壁面より両側６００mm程度 ⊙図示
仕上 ※既存仕上に準ずる ⊙図示
天井撤去に伴う取り合う壁の改修範囲
改修幅 ※既存のまま ・壁面より両側（ mm程度） ⊙図示
仕上 ※既存のまま ・既存仕上に準ずる ⊙図示

② 既存床の撤去並びに下地補修

ビニル床シート等の除去 ※仕上材のみ（接着剤とも） (6.2.2)
・ ⊙下地モルタルとも（※図示の範囲 ・除去範囲全て）
合成樹脂塗床の除去 ・機械的除去工法 ・目荒し工法
コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。
改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 ・図示
カーペット敷き下敷き材の除去 ・撤去する ・撤去しない

③ 既存壁の撤去及び下地補修

間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修 (4.4.9)(6.3.2)
※（4.4.9）によるモルタル塗り（塗り厚25㎜を越える場合の補強 ・行う）
⊙図示

4 木下地等 G

表面仕上げの程度 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (6.5.1)(表6.5.1)
間伐材等 ・使用する（使用箇所： ）
現場搬入時の木材の含水率 ※A種 ・B種 (6.5.2)(表6.5.2)
保存処理木材 ・使用する（使用場所： ）
構造材及び下地材の品質の基準 ※(6.5.2)(b)(2)(ⅲ)による (6.5.2)(表6.5.3)
造作材の材面の品質 ※A種 ・B種
代用樹種を使用できない箇所（ ）
(6.5.2)

5 製材 G

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法（㎜）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※2級		※A種・B種	

・「製材の日本農林規格」による製造用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法（㎜）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
					※A種・B種	

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法（㎜）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※1級		※A種・B種	

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法（㎜）	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			（ ）造作材の場合 ※A種・B種	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種	

・代用樹種を使用できない箇所（ ）

6 造作用集成材等 G

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 (6.5.2)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（㎜）	見付け材面の品質	間伐材等の適用
			※1等	
			※1等	
			※1等	

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法（㎜）	化粧薄板の厚さ(㎜)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※1等	
					※1等	
					※1等	

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法（㎜）	化粧薄板の厚さ(㎜)	間伐材等の適用

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（㎜）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※A種 ・B種	
				※A種 ・B種	
				※A種 ・B種	

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法（㎜）	化粧薄板の厚さ(㎜)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※A種 ・B種	
						※A種 ・B種	
						※A種 ・B種	

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法（㎜）	化粧薄板の厚さ(㎜)	材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※A種 ・B種	
						※A種 ・B種	
						※A種 ・B種	

7 造作用単板積層材 G

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外
「単板積層材の日本農林規格」による造作単板積層材

施工箇所	厚さ(㎜)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り（加工・天然木加工・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作単板積層材

施工箇所	厚さ(㎜)	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		・有り（加工・天然木加工・塗装加工） ・無し（ ）	・適用する ・適用しない	※14%以下	

8 床張り用合板及びその他合板 G

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 (6.5.2)

・普通合板

施工箇所	厚さ(㎜)	表板の樹種名	接着の程度	表板の品質	防虫処理	難燃処理	防炎処理	間伐材等の適用
	※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ・1等 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用	

・構造用合板

施工箇所	厚さ(㎜)	等 級	表板の樹種名	接着の程度	表板の品質	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※12	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない	・適用する （ ） ・適用しない	

・パーティクルボード

施工箇所	厚さ(㎜)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	※15		※13タイプ	※PXは№	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ(㎜)	等級
		・1級 ・2級 ・3級 ・4級

9 接着剤

(6.5.3)(6.8.2)(6.9.3)(6.11.4、5)
接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。
ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外

10 防腐・防蟻処理

・防腐、防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材 (6.5.5)
適用部位：（ ）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2 ・K3 ・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法

・ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐、防蟻処理
適用部位（ ）

⑪ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 (6.6.2～4)
屋外 （・19形 ※25形） 屋内 （※19形 ・25形）
・屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力 及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した対応した工法）
・適用しない
野縁受、吊ボルト及びインサートの間隔 ・図示 ・
周辺部からの間隔 ・図示 ・
野縁の間隔 ・図示 ・
既存の埋込みインサート ・使用する ・使用しない
あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う（屋外の場合の方法： ）
・行わない
・吊りボルトの間隔が900㎜を超える場合 の補強方法 ※図示 ・
・天井のふところが1.5m以上3.0以下の場合 の補強方法 ・図示
※改修標準仕様書6.6.4（h）（1）（2）による
・天井のふところが3.0を超える場合 の補強方法
・天井下地における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ※図示 ・
補強方法 ※図示 ・

⑫ 軽量鉄骨壁下地

(6.7.3)(表6.7.1)
スタッド、ランナーの種類 ※（表6.7.1）による ・図示
スタッドの高さが５mを超える場合 ※図示

⑬ ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ張り G

(6.8.2～3)

種類	JIS記号	施工箇所	色 柄	特殊機能(施工箇所は図示)	厚さ(㎜)
⊙発泡層のないもの	※FS	便所	※無地 ・マーブル柄	・帯電防止 ・耐動荷重性	※2.0 ・
・発泡層のあるもの			・無地 ・柄物	⊙防滑性 ⊙耐薬品性	

工法 ※熱溶接工法 ・突付け（施工箇所： ）
・帯電防止 帯電防止性能評価値(JIS A 1455) 1.2以上～ 3.2未満
又は体積電気抵抗値(JIS A 1454) $1x10^{7}$～$1x10^{10}$Ω程度
・耐動荷重性 （種類、厚さ等： ）

14 ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ張り G

(6.8.2)

種類の記号	施工箇所	色柄	寸法(㎜)	特殊機能	厚さ(㎜)	備考
・ＦＴ（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）		・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	※2.0 ・2.5 ・3.0	
・ＫＴ（ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）		・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・帯電防止 ・防滑性	・2.0 ・3.0	
・ＦＯＡ（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）		・無地 ・柄物	・500×500	・帯電防止 ・防滑性	・	

特殊機能
帯電防止 ・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満
又は体積電気抵抗（JIS A 1454）710.7～710.1 程度
・

15 ビニル幅木

材質 ※軟質 ・硬質 (6.8.2)
高さ ※６０mm ・７５mm ・１００mm
厚さ ※１.５mm以上

16 ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ

種類、色柄 （ ） (6.8.2)
厚さ（㎜） ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0
寸法（ ）mm

17 カーペット敷き G

・織りじゅうたん (6.9.2～4)(表6.9.1)

種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考
・A種 ・B種 ・C種	・カットパイル ・ループパイル ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・無地 ・柄物（標準品）	・適用する （性能： ※人体帯電圧3kV以下 ・ ）	

下敷き材 ※反毛フェルト（JIS L 3204） の第2種2号 呼び厚さ 8㎜

・タフテッドカーペット (6.9.2～4)

パイル形状	パイル長さ(㎜)	工 法	帯電性	備考
・カットパイル ・ループパイル ・レベルループパイル ・カット、ループ併用	※5～7 ・ ※4～6 ・ ※4 ・ ・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する （性能： ※人体帯電圧3kV以下 ・ ）	

下敷き材（グリッパー工法の場合）
※反毛フェルト（JIS L 3204） の第2種2号 呼び厚さ 8㎜
・ニードルパンチカーペット (6.9.2)
厚さ（ ）㎜
帯電性 ・適用する （※人体帯電圧 3kV以下 ・ ）
・適用しない
備考（ ）

・タイルカーペット (6.9.2～4)

パイル形状	種別	施工箇所	寸法(㎜)	総厚さ(㎜)
・ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・
・カットパイル	・		・	・
・カット、ループ併用	・		・	・

タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し
階段部分 ・市松敷き ※模様流し
見切り、押え金物 ・適用する（材質、形状等 ※図示 ・ ）
・適用しない

18 合成樹脂塗床

(6.10.2～3)(表6.10.3～7)

種 別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床（無用材形塗床材）			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		※薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			
・アクリル樹脂塗床（JIS K 5970）			工程 塗布量（kg/㎡） 表面仕上げ ・平滑 ・防滑 溶剤 ・水性色 ・溶剤系 ・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色 ・

塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種

19 フローリング張り

・単層フローリング G (6.11.2～7)(表6.11.1、2～4)

種 別	工法	樹種	厚さ(㎜)	大きさ(㎜)	仕上塗装	間伐材等の適用
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ	釘留め工法（根太張り）	※なら	15	幅 75 長さ 300以上	※塗装品 ・無塗装品	
	釘留め工法（直張り）		・12以上	幅 75 長さ 300以上		
	接着工法					
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ	接着工法		15	※303×303	※塗装品 ・無塗装品	
	モルタル埋込工法		※15	※303×303		
・ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ	接着工法				※塗装品 ・無塗装品	

・天然木化粧複合フローリング G (6.11.2～7)(表6.11.1、3～4)

種 別	工法	樹種	厚さ/大きさ(㎜)	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等の適用
・複合1種 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・釘留め工法（根太張り）	※なら		・A種 ・B種 ※C種	・適用する ・適用しない	※塗装品 ・無塗装品	
・複合2種 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・釘留め工法（直張り）						
・複合3種 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	・接着工法		板厚 ・8以上 板幅 ・75以上 板長さ 900以上				

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 (6.11.2)

20 畳敷き

接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ・行う 施工箇所（ ） (6.11.7)
※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

種別 ・A種 ・B種 ※C種 (6.12.2)(表6.12.1)
・D種（畳床KT－ ・Ⅰ ・Ⅱ ・Ⅲ ・K ・N）
下地の種類 ・【表12.6.1】による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン G）
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種
畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする。

㉑ せっこうﾎﾞｰﾄﾞその他ﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張り

(6.13.2)(表6.13.1)

種 類	JIS記号	略号	厚さ(㎜)、規格等
・硬質木毛セメント板 G	HM	HM	・15 ・20 ・25 ・
・中質木毛セメント板 G	MM	MM	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛セメント板 G	NM	NM	・15 ・20 ・25 ・
・硬質木片セメント板 G	HF	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・
・普通木片セメント板 G	NF	NF	・30 ・
⊙けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	FK	タイプ２（無石綿） ・6(不燃) ・8(不燃)
・けい酸カルシウム板（化粧有）		化粧FK	タイプ２（無石綿） ・6(不燃) ・8(不燃)
・ロックウール化粧吸音板	DR	DR	※フラットタイプ （※ 9(不燃) ・12(不燃) ・ ） ・凹凸タイプ （※12(不燃) ・15(不燃) ・19 ）
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	RW-B	・25 ・
・グラスウール吸音ボード1号32K	GW-B	GW-B	・25(ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包) ・ 固定方法：化粧ボタン止め(縦横300程度)
⊙せっこうボード	GB-R	GB-R	・9.5(準不燃) ※12.5(不燃) ・15(不燃)
・不燃積層せっこうボード（化粧無）	GB-NC	GB-NC	（下張用） ※9.5(不燃) ・
・不燃積層せっこうボード（化粧有）	GB-NC	GB-NC(T)	（トラバーチン模様） ※9.5(不燃) ・
⊙ｿｰｼﾞｿﾞせっこうボード	GB-S	GB-S	・12.5(準不燃) ・
・強化せっこうボード	GB-F	GB-F	・12.5(不燃) ・15(不燃)
・せっこうラスボード	GB-L	GB-L	※9.5(不燃) ・
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	GB-D(W)	※12.5(不燃) 幅440㎜程度 模様様(※木目・板目)専用下地材有り
⊙化粧せっこうボード（トラバーチン模様）	GB-D	GB-D(T)	※9.5(準不燃) ・
⊙普通合板			・生地、透明塗料塗り(ラワン合板程度) ⊙不透明塗料塗り（しな合板程度）
・天然木化粧合板 G			・
・特殊加工化粧合板 G			・オーバーレイ ・プリント ・塗装
・メラミン樹脂化粧板 G			JIS K 6903による（※1.2 ・ ）
・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂化粧板 G			
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ G	MDF	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・
・単板張りパーティクルボード G			・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18
・化粧パーティクルボード G			・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・塗装 ・10(難燃) ・12(難燃) ・
・ハードボード G（素地）	HB	HB	・無研磨板(・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ) ・研磨板(・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ)
・ハードボード G（化粧）		化HB	・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
・インシュレーションボード G	IB	IB	A級(・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18

せっこうボード等の下地は図示による (6.13.2)
遮音シール材 ・適用する（・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド）
⊙適用しない (6.13.2)
合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・第三種 (6.13.3)
合板類の張付け ・A種 ※B種
せっこうボードの目地工法 ・仕上げ表による

22 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 (6.14.2)

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他	防火種別
						※不燃 ・準不燃
						※不燃 ・準不燃
						※不燃 ・準不燃

下地調整 (6.14.3)
せっこうボード面 ※ＲＢ種 ・
コンクリート・ALC面 ※ＲＢ種 ・
モルタル・プラスター面 ※ＲＢ種 ・

23 化粧塩ビシート張り

(6.14.3)

施工箇所	色柄 無地	石目	木目	防火種別
				※不燃 ・準不燃
				※不燃 ・準不燃
				※不燃 ・準不燃

(6.14.3)
下地調整 (6.14.3)
せっこうボード面 ※ＲＢ種 ・
コンクリート面 ※ＲＢ種 ・
モルタル・プラスター面 ※ＲＢ種 ・
亜鉛めっき鋼面 ※ＲＣ種 ・ (表7.2.3)

㉔ モルタル塗り

吸水調整材及び防水材は改修工事標準仕様書表4．2．2による。 (6.15.3)
既製目地材 ・設ける 施工箇所（ ）
床目地 ・設ける（工法 ※押し目地 ・ ） (6.15.6)
・防水剤
（品質・性能） 工事建築材料品質性能表による
（試験方法） 工事建築材料品質性能表による

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	DATE
			-	'15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事
改修工事特記仕様書(3)

SHEET NO. A-12

6 内装改修工事

25 タイル張り　(6.16.2~4)

伸縮調整目地の位置　床タイル（※縦、横とも4m以内ごと　・図示　・　　）
　　壁タイル以外（・図示　・　　）
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り
タイルの形状、寸法

主な用途による区分 施工箇所	形状寸法(㎜)	再生材の適用 G	吸水率による区分 I類	II類	III類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし

標準的な曲りの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　　見本焼き　・行う
試験張り　・行う　　見本焼き　・行う

・既製調合モルタル
　モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和材等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
（品質・性能）工事建築材料等品質性能表による
（試験方法）　工事建築材料等品質性能表による

・既製調合目地材
（品質・性能）工事建築材料等品質性能表による
（試験方法）　工事建築材料等品質性能表による

・接着剤による陶磁器質タイル張り
　タイルの形状、寸法

主な用途による区分 施工箇所	形状寸法(㎜)	再生材の適用 G	吸水率による区分 I類	II類	III類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　　見本焼き　・行う
内装タイル接着材張りに使用する有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※規制対象外　・

26 セルフレベリング材塗り　(6.17.2)(表6.17.1)

・せっこう系　塗厚（　）㎜
・セメント系　塗厚（　）㎜

27 防煙たれ壁

・固定式
　高さ　※５００　・
　材質　網入り磨き板ガラス（厚さ　※６．８　・　　）
　　アルミ製枠（下枠吊ボルト付き、揺れ(地震等)による落下防止機構を有すること）
・可動式
　降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）付き
　品質・規格　（財）日本建築センターの防災認定品
　・垂直降下式（巻取り型）
　　高さ　※５００mm　・
　　材質　※不燃布（不燃認定品）　・
　　ガイドレール　※固定式（壁埋込型）　・可動式（天井収納型）
　・回転降下式
　　高さ　※５００mm　・
　　材質　※鋼鈑又はアルミ製　・
　　ガイドレール　※固定式（壁埋込型）　・可動式（天井収納型）

28 木製造付け家具

ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外
材料に合板、集成材を使用する場合は、内装工事、せっこうボードその他ボード及び合板張りによる

7 ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア　(20.2.2)

施工箇所	構法	寸法(㎜)	高さ(㎜)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上げ材	備考
	・ﾊﾟﾈﾙ構法 ・溝構法	・500×500		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(b)(5)(ⅰ)~(ⅲ)による　・
厚さ　10.5㎜
平坦度　パネル周辺部　1.0㎜以下
　　図心と各頂点を結ぶ線上部　2.0㎜以下

表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書19章による。
構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼製（仕上げ：　　）　・
スロープ及びボーダー　・製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
　フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　・20~30パーセント　・
　配線取り出し開口　・パネル1枚につき、40㎜×80㎜　程度の開口1箇所以上
　　・図示
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・なし　・あり（形式、施工箇所：図示）

（性能）　建築材料等品質性能表による
（試験方法）　建築材料等品質性能表による

2 可動間仕切　(20.2.3)

構造形式	構成基材の種類 スタッド	パネル	総厚さ(㎜)	表面仕上材 材質	厚さ(㎜)	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)	防火性能
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式				・鋼板	・0.6 ・0.8	・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　　）　・なし
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による

7 ユニット及びその他工事

3 移動間仕切　(20.2.4)

走行方向	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ(㎜)	表面仕上材 材質	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)
・平行方向 移動式 ・二方向 移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ブッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能　標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての
　　透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示
（品質・性能及び試験方法）
　建築材料等品質性能表による

④ トイレブース　(20.2.5)

表面材の材質	脚部 形状	ドアエッジ 形状	材質
⊙メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	・標準 ⊙R	・アルミニウム製 ⊙ステンレス製 ・表面材と同材

（品質・性能）　建築材料等品質性能表による
（試験方法）　建築材料等品質性能表による

5 視覚障害者用床タイル　(11.2.2)(19.2.2)

施工箇所		種類	寸法(㎜)	厚さ(㎜)
屋内		・塩化ビニル製	・300×300・	・7.0
		・磁器質タイル・せっ器質タイル	・300×300・	・
		・レジンコンクリート製・コンクリート製	・300×300・	・
屋外		・磁器質タイル・せっ器質タイル	・300×300・	・
		・レジンコンクリート製・コンクリート製	・300×300・	・

ブロックパターンは JIS T 9251 による

6 階段滑り止め　(20.2.6)

材種	幅(㎜)	取付け工法	端部フラットエンド	
・ステンレス製(SUS304) ビニルタイヤ入り	・約35	※接着工法 ・埋込み工法	・あり	・ビニル製 ・ステンレス製
			・なし	―

7 手すり

材種	表面仕上げ	直径(㎜)	取付箇所	備考
・集成材	・クリアラッカー　・	・35　・45　・		
・ステンレスパイプ	・ＨＬ			
・鋼製パイプ	・ＥＰ－Ｇ　・ＳＯＰ　・			
・ビニル製ハンドレール				

8 黒板及びホワイトボード G　(20.2.8)

種類		寸法(㎜)	色彩	形式	
・黒板	※ 焼付け		※ 緑・黒	・平面・曲面	・ｽｸﾘｰﾝ付引分
・ホワイトボード	ほうろう		白	・平面・曲面	・ｽｸﾘｰﾝ付引分

9 鏡　(20.2.9)

取付箇所　（　　）
寸法（㎜）　・図示
厚さ（㎜）　※ 5

10 表示　(20.2.10)

区分	材質	寸法(㎜)	厚さ(㎜)	取付高さ(㎜)	備考
・衝突防止表示（・両面　・片面）	・ステンレス製 ・図示	・30φ	・市販品	・図示	
・室名札	・アクリル板	・図示	・5	・図示	
・ピクトグラフ	・アクリル板	・図示	・5	・図示	
・とびら番号	・アクリル板	・図示	・5	・図示	
・庁舎案内板	・アクリル板	・図示	・5	・図示	
・各階案内板	・アクリル板	・図示	・5	・図示	

案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示は市販品とする。
色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。

11ブラインド　(20.2.12)

形式	操作方法	種類	スラットの材種	ｽﾗｯﾄ幅(㎜)	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	寸法 取付箇所
・横型	・手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※ アルミニウム合金製	※ 25	※鋼製	・図示
	・電動	―				
・縦型	・手動	※２本操作ｺｰﾄﾞ式 ・１本操作ｺｰﾄﾞ式	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100	ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示
	・電動	―				

アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合G

7 ユニット及びその他工事

12 ロールスクリーン G　(20.2.13)

材種	操作方式	遮光性	寸法(㎜)	取付箇所	備考
・ポリエステル	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・１級 ・２級 ・３級	・図示	・図示	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。

13 カーテン　(20.2.14)

形式		開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ		・図示	
					・図示	暗幕

使用される繊維のうち、ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については G とする
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※300㎜以上

14 カーテンレール　(20.2.14)

材　種　※ アルミニウム製　・ ステンレス製
形式　・シングル　・ダブル
　　・片引き　・引分け
強さによる区分　※10-90　・
仕上げ　※アルマイト　・
形状　※角形　・

15 ブラインド及びカーテンボックス

溝型×深さ（㎜）　・90×150　・120×80　・120×150　・150×80　・図示（－）

材質　・集成材（仕上げ：　　）
　・アルミニウム製　押出し型材（市販品）
表面処理・C-1
　・C-2（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
皮膜等の種類　※標準仕様書表14.2.1による　・
・鋼製（仕上げ：　　）

⑯ 天井点検口　(－)

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製	・450×450 ⊙600×600	⊙一般形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙額縁タイプ ・目地タイプ	⊙額縁タイプ ・目地タイプ
		・気密形			

（品質・性能）　建築材料等品質性能表による
（試験方法）　建築材料等品質性能表による

17 床点検口　(－)

材種	寸法	形式		備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ・600×600	・一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

（品質・性能）　建築材料等品質性能表による
（試験方法）　建築材料等品質性能表による

18 エキスパンション・ジョイント金物

材種	クリアランス	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50　・100 ・150	・有り（　　） ・無し	

外部は防水型とする

19 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金	

20 流し台ユニット

材種	寸法(㎜) W	D	H	備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	-	-	市販品 ステンレス製 ・1段式　・

品質・性能　JIS A 4420による
形状　※図示　・

21 収納式幼児用ベッド

材質　※ＦＲＰ、ＡＢＳ樹脂、ポリプロピレン製
使用対象年齢　生後１ヶ月から２才まで
強度、安全性
　保護枠、ベルト等により落下防止を考慮したもの
　使用材料に有害なものをふくまないこと
　製品にバリ、エッジが無く５mm以上１３mm未満の隙間がないこと
　床面等の強度はＳＧ規格（乳幼児用ベッド）に準拠する強度を有すること
　使用方法、注意事項等の記載があること
本体寸法(㎜)　※７００×５６０程度
固定形式　※床固定　・

7 ユニット及びその他工事

22 幼児用いす

材質　※ＦＲＰ、ＡＢＳ樹脂、ポリプロピレン製
使用対象年齢　生後５ヶ月から２．５才まで
強度、安全性
　保護枠、ベルト等により落下防止を考慮したもの
　使用材料に有害なものをふくまないこと
　製品にバリ、エッジが無く５mm以上１３mm未満の隙間がないこと
　床面等の強度はＳＧ規格(乳幼児用ハイチェアー)に準拠する強度を有すること
　使用方法、注意事項等の記載があること
本体寸法(㎜)　※Ｗ３７０×Ｄ５６０×Ｈ８６０程度
固定形式　※床固定　・

23 更衣台

材質　※ＦＲＰ、ＡＢＳ樹脂、ポリプロピレン製
強度、安全性
　耐荷重　１００ｋｇ程度

　製品にバリ、エッジが無く５mm以上１３mm未満の隙間がないこと
　ボード面に凹凸などスリップ防止があること
　使用方法、注意事項等の記載があること
ボード寸法(㎜)　※Ｗ４７０×Ｄ４５０（ボード展開時）
固定形式　※床、壁固定

24 洗面カウンター

材質　※人工大理石　・メラミン樹脂化粧板（心材：集成材 G ）
ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外　・第三種
形状　※図示

25 旗竿

材種	形式	高さ(㎜)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

26 旗竿受金物

材　種　・ステンレス製（SUS 304）

27 車止め支柱

形式		材種	柱径、肉厚(㎜)	高さ(㎜)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製		

28 フェンス

フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
　・樹脂塗装メッシュフェンス
　・鋼管フェンス
　・アルミフェンス
高さ　・図示　・

8 塗装改修工事

① 材料

屋内に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(7.1.3)
　※規制対象外　・第三種
防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
　・次の箇所を除き防火材料とする（箇所：　　）

② 下地調整

既存塗膜の除去範囲（塗替えでRB種の場合）　(7.2.1)(表7.2.1~7)
　※塗替え面積の30%　・図示
下地調整　(7.2.2~7)(表7.2.1~7)

下地面の種類	下地調整の種別 塗替え	新規	ひび割れ部の補修
木部	※RB種　・	・RA種　・RB種	
鉄鋼面	※RB種　・	RA種	
亜鉛めっき鋼面	※RB種　・	RA種	
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※RB種　・	RC種	
ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面	※RB種　・	・RA種　・RB種	・行う
ｺﾝｸﾘｰﾄ面(DP以外)、ALCﾊﾟﾈﾙ面	※RB種　・	・RA種	・行う
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP）、押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・	・RA種	・行う
石こうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面	※RB種　・	・RA種　・RB種	

※既存塗膜の状態を確認し監督員と協議すること

3 錆止め塗料塗り

錆止め塗料塗りの種別　(7.3.2~3)(表7.3.1~4)

塗装面			塗料	工程
鉄鋼面	屋内(EP-G以外) 屋外	塗替え	※A種	※C種
		新規：見え掛り部分	※A種	※A種
		新規：見え隠れ部分	※A種	※B種
	屋内(EP-G)	塗替え		※C種
		新規：見え掛り部分	※B種	※A種
		新規：見え隠れ部分		※B種
亜鉛めっき鋼面	屋内(EP-G以外)	塗替え	※A種　・	※C種
	屋外	新規	※A種　・	※A種
	屋内(EP-G)	塗替え	※C種	※C種
		新規	※C種	※A種

④ 塗装　(7.4.2~7.15.2)(表7.4.1~7.15.1)

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	新規
⊙合成樹脂調合ペイント塗り(SOP) 種類　※１種 ・	木部（外部） 木部（内部） 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面 鋼製建具	※B種　・ ※B種　・ ※B種　・ ※B種　・ ※A種　・	※A種　・ ※B種　・ ・A種　・B種 ※B種　・ ※B種　・
・クリアラッカー塗り(CL)	木部	・A種 ※B種	・A種 ※B種
・フタル酸樹脂エナメル塗り(FE)	屋内木部 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	(表7.6.1) (表7.6.2) (表7.6.2)	
・アクリル樹脂系水分散系塗料塗り(NAD)	屋内のコンクリート面、モルタル面	※B種　・	・B種
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面 上塗り ・１級 ・２級 ・３級	・A種 ・B種 ・C種	※A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り ・１級 ・２級 ・３級	・A種 ・B種 ・C種	※A種
	コンクリート面	・A－１種　・A－２種 ・B－１種　・B－２種 ・C－１種　・C－２種	

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	DATE
			-	'15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事
改修工事特記仕様書(4)

SHEET NO. A-13

8 塗装改修工事

・耐候性塗料塗り（DP）	押出成形セメント板面	・A－1種 ・B－1種 ・C－1種	・A－2種 ・B－2種 ・C－2種
・つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G）	屋内木部	※B種 ・	※A種 ・
	屋内鉄鋼面	※B種 ・	・A種 ・B種
	屋内亜鉛めっき鋼面	※B種 ・	・A種 ・B種
	コンクリート面	※B種 ・	・A種 ・B種
・合成樹脂エマルションペイント塗り（EP）		※B種 ・	・A種 ・B種
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP-T）	屋内ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、木部等	・A種 ※B種 ・C種	・A種 ・B種
・ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）	木部	・A種 ※B種	・A種 ※B種
・ラッカーエナメル塗り（LE）		・A種 ※B種	・A種 ※B種
・オイルステイン塗り（OS）	木部		
・木材保護塗料塗り（WP）	木部	・A種 ※B種	・A種 ※B種

つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面）の塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書7．9．1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする ・
合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書7．10．1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする ・

・高日射反射塗料塗り G
下地調整（改修標準仕様書表7.2.2） ・RA種 ・RB種 ・RC種

工程	塗料その他				塗付け量（kg/㎡）
	規格番号	規格名称	種類	等級	
塗料塗り	JISK5675	耐候性屋根用塗料	2種	・1級 ・2級 ・3級	塗料製造所の仕様による

11 排水工事

1 排水管

排水管用材料 (21.2.1)(表 21.2.1)(21.3.3)

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（1種）	・B形管	※図示	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示	
	・VU		※図示	
	・RS-VU G		※図示	

基床の厚さ及び種類 ・図示
砂地業に用いる材料 ※標準仕様書（21.2.3）(a)(1) ・図示
砂利地業に用いる材料 ※標準仕様書（21.2.3）(a)(2) ・図示
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書（6.14）
設計基準強度18N/㎟ とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）
セメント1：砂2：砂利4程度とする。
・図示

2 側溝、排水桝等

側塊、排水桝等 (21.2.2)
形状及び寸法 ・図示 ・
砂地業に用いる材料 ※標準仕様書（21.2.3）(a)(1) ・図示
砂利地業に用いる材料 ※標準仕様書（21.2.3）(a)(2) ・図示
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書（6.14）
設計基準強度18N/㎟ とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）
セメント1：砂2：砂利4程度とする。
・図示

3 鋳鉄製ふた

(21.2.2)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉形（テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）	・T－2用 ・T－6用 ・T－20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209による

4 グレーチング

(21.2.2)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛 めっき（付着量）	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用）	・歩行用	・細目 ・	・（ ）	・凹凸形 ・
		・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・（ ）	・平形 ・
・ステンレ	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用）	・歩行用	―	―	・凹凸形 ・
		・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	―	―	・平形 ・

（品質・性能）
工事建築材料等品質性能表による
（荷重試験方法）
工事建築材料等品質性能表による

11 排水工事

5 排水管

[21.2.1][表21.2.1]

材 種	管の種類	形 状	呼び径
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（1種）	・B形管 ・	※図示
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示
	・VU		※図示
	・RS－VU G		※図示

6 鋳鉄製マンホールふた

[21.2.2]

種 類	適用荷重(安全荷重(kN))	鍵
・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式）	・T－2用 （5）	・有
・密閉型（テーパ・パッキン式）	・T－6用 （15）	・無
・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）	・T－20用 （50）	

7 街きょ、縁石及び側溝の地業材料

※再生クラッシャラン G ・切込砂利又は切込砕石 [22.10.2]

12 その他（舗装）工事

1 路床

路床の材料、路床安定処理、盛土の種別、試験
「9章 環境配慮改修工事」「項目4」による。

2 路盤

[22.3.2～3][表22.3.1][表22.3.3]

舗装の種類	路盤の厚さ(㎜) 車道部	路盤の厚さ(㎜) 歩道部	路盤材料
・アスファルト舗装	※図示	※図示	・再生クラッシャラン(0～40) G
・カラー舗装	※図示	※図示	・クラッシャラン鉄鋼スラグ(CS-40) G
・コンクリート舗装	※図示	※図示	・クラッシャラン(C-40)
・排水性アスファルト舗装	※図示	―	
・インターロッキングブロック舗装	※図示	※図示	
・転圧コンクリート舗装	※図示	―	
・コンクリート平板舗装	―	※図示	
・舗石舗装	―	※図示	

試験 ※路盤の締固め度試験 [22.3.5]

3 アスファルト舗装

[22.4.2～3][表22.4.1]

舗装の種類	車道部の基層	備 考
・アスファルト舗装	・無し ・有り	

アスファルト ㊟再生アスファルト G ・ストレートアスファルト [22.4.3]
骨材 ※アスファルトコンクリート再生骨材 G ・砕石 ・道路用鉄鋼スラグ G

加熱アスファルト混合物等の種類 [22.4.4][表22.4.6]

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)	※密粒度アスファルト混合物(13F) ・細粒度ギャップアスファルト混合物(13F)
基層	粗粒度アスファルト混合物(20)	

シールコートの施工 ・行う [22.4.5]
試験 ・アスファルト混合物等の抽出試験 [22.4.6]

4 コンクリート舗装

早強セメント ※使用しない ・使用する [22.5.3]
注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ [22.5.6]
試験 ・コンクリート版の厚さ試験

5 排水性アスファルト舗装 G

舗装材料及び厚さ 【22.8.3】【表22.8.1】
※ポリマー改質アスファルトⅡ型 表層厚さ(㎜) ※40 ・
・ポリマー改質アスファルトⅠ型 表層厚さ(㎜) ※40 ・
試験 ・アスファルト混合物等の抽出試験 [22.8.6]

6 ブロック系舗装

[22.9.2～4]

舗 装	種 類	寸法(㎜)	厚さ(㎜)	備 考
・コンクリート平板舗装	※普通平板(N) ・透水平板(P) ・	※300角 ・	※60	目地材 ※砂 ・モルタル 表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し
・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装	※普通ブロック		車道部 ※80 ・	色彩及び表面加工
	・透水性ブロック		歩道部 ※60 ・	※標準品 ・
	・植生用ブロック		※80 ・100	
・舗石舗装	※小舗石（花崗岩） ・		※80～100	施工方法 ※うろこ張り ・ 基層 ※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装

コンクリート平板舗装、インターロッキングブロック舗装の歩道部は、原則、再生材料を用いた舗装用ブロック G とする。

7 路面表示用塗料

路面表示用塗料 JIS K 5665、ガラスビーズ JIS R 3301の1号による
種類 ・1種(常温施工) G ・2種(加熱施工) G
※3種1号(溶融施工) ・
1種、2種：揮発性有機溶剤の含有量は塗料総量に対して5％以下とする
色 ※図示 ・白 ・黄
幅(㎜) ※図示 ・150 ・100
厚さ(㎜) ※1.0 ・

8 カラー舗装

[22.6.2～6]

種 類	区 分	車道部の基底
※加熱系アスファルト混合物	・車道	・有
・常温系樹脂系混合物	⊙歩道	⊙無
・常温系ニート工法	・	
・常温系塗布工法		

9 砂利敷き

・A種 ・B種 ・その他（図示） [22.10.2～3]

12 その他（植栽）工事

1 植栽地の確認

土壌の水素イオン濃度（pH）試験 ・行う [23.1.3]
水溶性塩類（EC）の試験 ・行う

2 植栽基盤の整備

[23.2.2][23.2.4]

植 栽	工法	有効土層の厚さ（㎝）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上(※100 ・120 ・150) 樹高 7以上～12m未満(※80 ・100) 樹高 3m以上7m未満(※60 ・80) 樹高 3m未満(※50 ・60)	・葉張り部分 ・図示	・適用する
※芝、地被類	※B種 ・	※20	・植栽部分 ・図示	・適用する

植栽基盤の排水設備
・設ける（・暗きょ ・開きょ ・排水層 ・竪穴排水 ・ ）

3 植込み用土

※客土（※黒土 ・真砂土 ・ ） ・現場発生土の良質土 [23.2.3]

4 土壌改良材

[23.2.3]
施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合は監督職員と協議を行うものとする。
・パーク堆肥 G ・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト） G

5 支柱

支柱材 ※丸太（間伐材） G ・真竹 ・ [23.3.2]
形式 [23.3.3]
・添え柱 ・鳥居形 ・八ツ掛け形 ・布掛け形 ・ワイヤ掛け形 ・地下埋設形

6 幹巻き用材料

※幹巻き用テープ ・わら、こも [23.3.2]

7 芝

※コウライシバ ・ノシバ ・ [23.4.2]

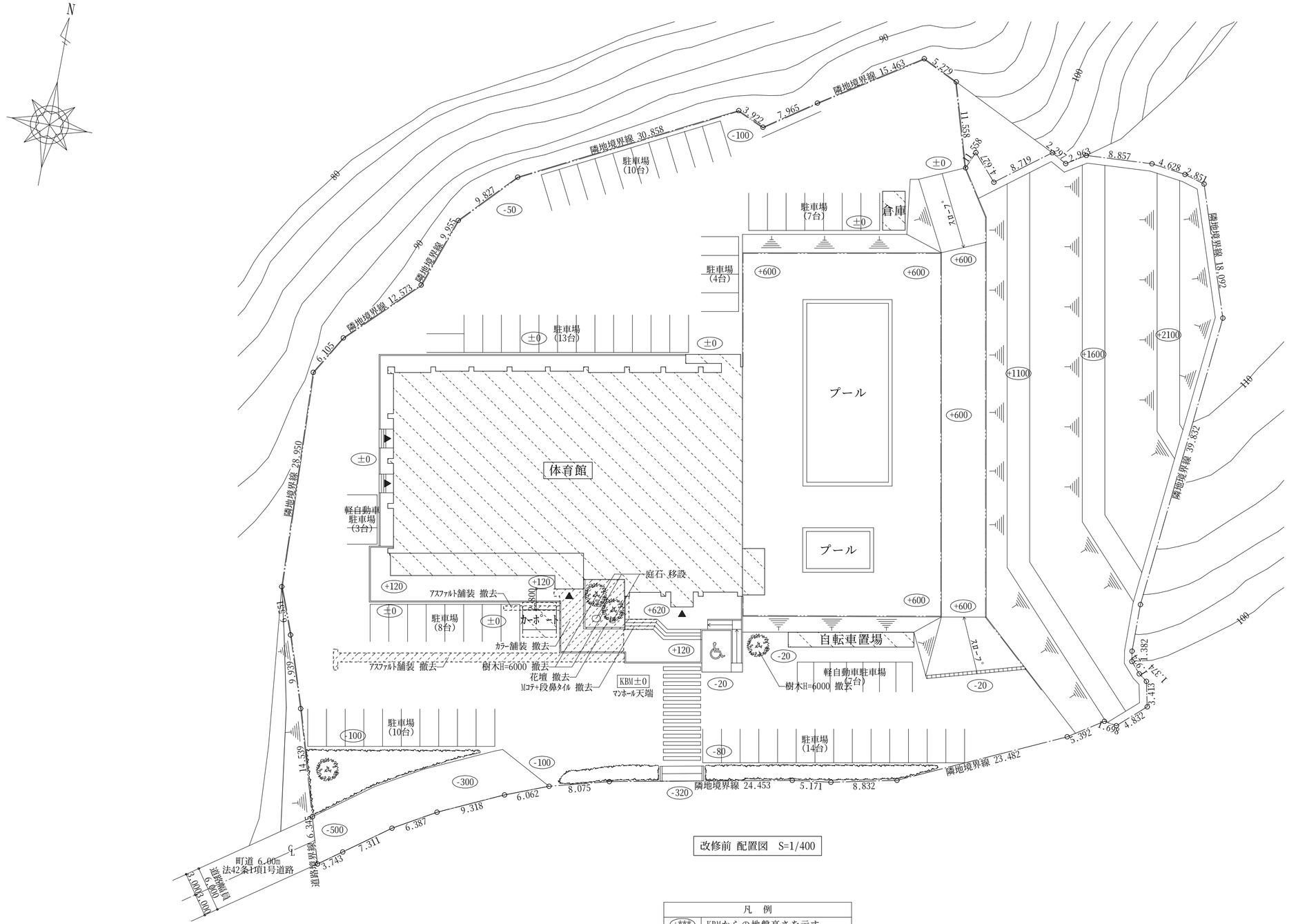
8 吹付けは種

種子の種類 ※洋芝類（採取後2年以内） ・ [23.4.2]
種子の量 ※発芽率 80％ 以上 ・

9 新植、移植樹木、芝等の枯補償

[23.3.4][23.3.6][23.4.7]
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から1年 ・無し
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から1年 ・無し

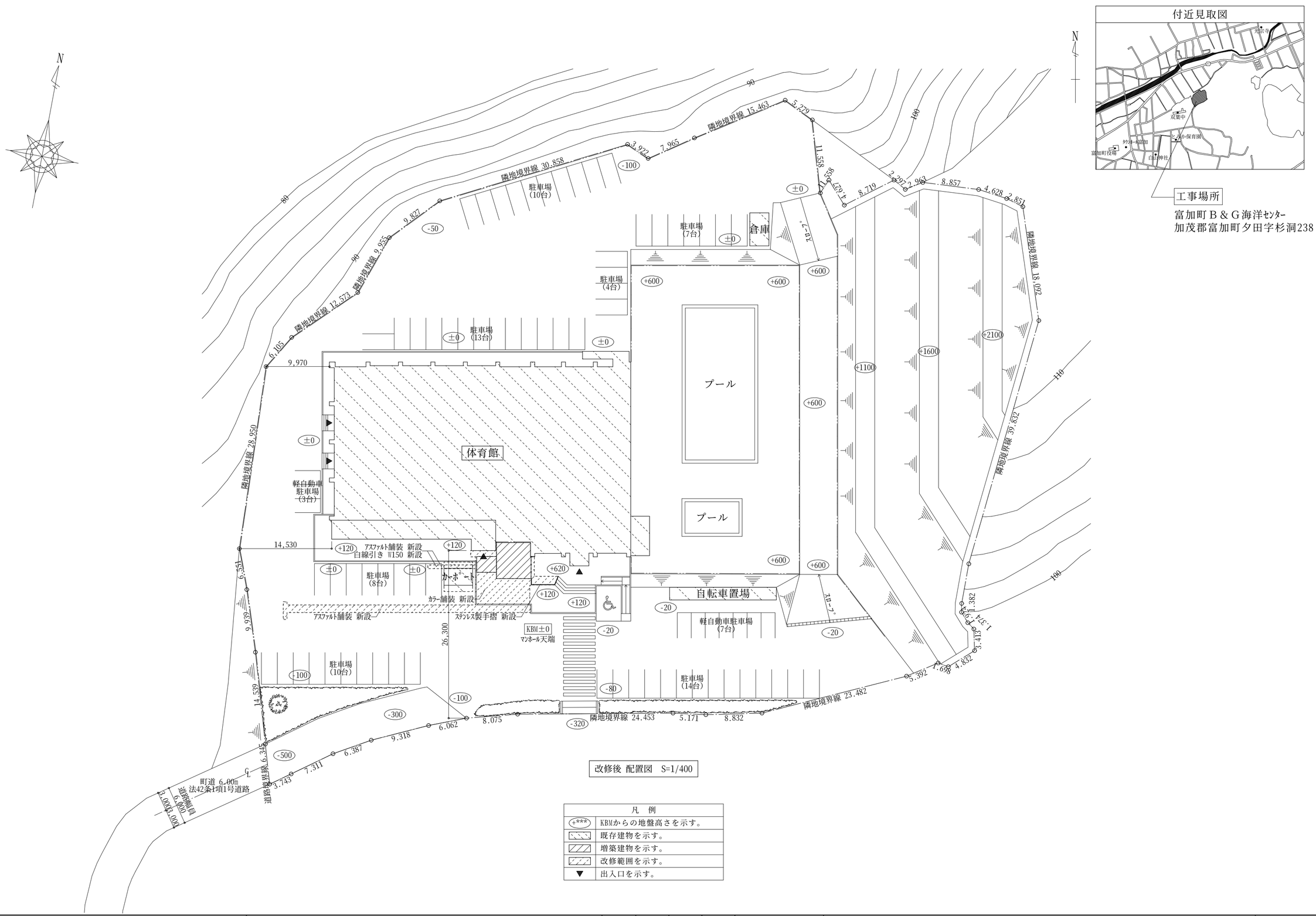
CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
			-	改修工事特記仕様書(5)	A-14
			DATE '15.08		



改修前 配置図　S=1/400

凡　例	
+***	KBMからの地盤高さを示す。
	既設建物を示す。
	撤去範囲を示す。
▼	出入口を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/400		A-15
				DATE '15.08	改修前 配置図	



改修後 配置図　S=1/400

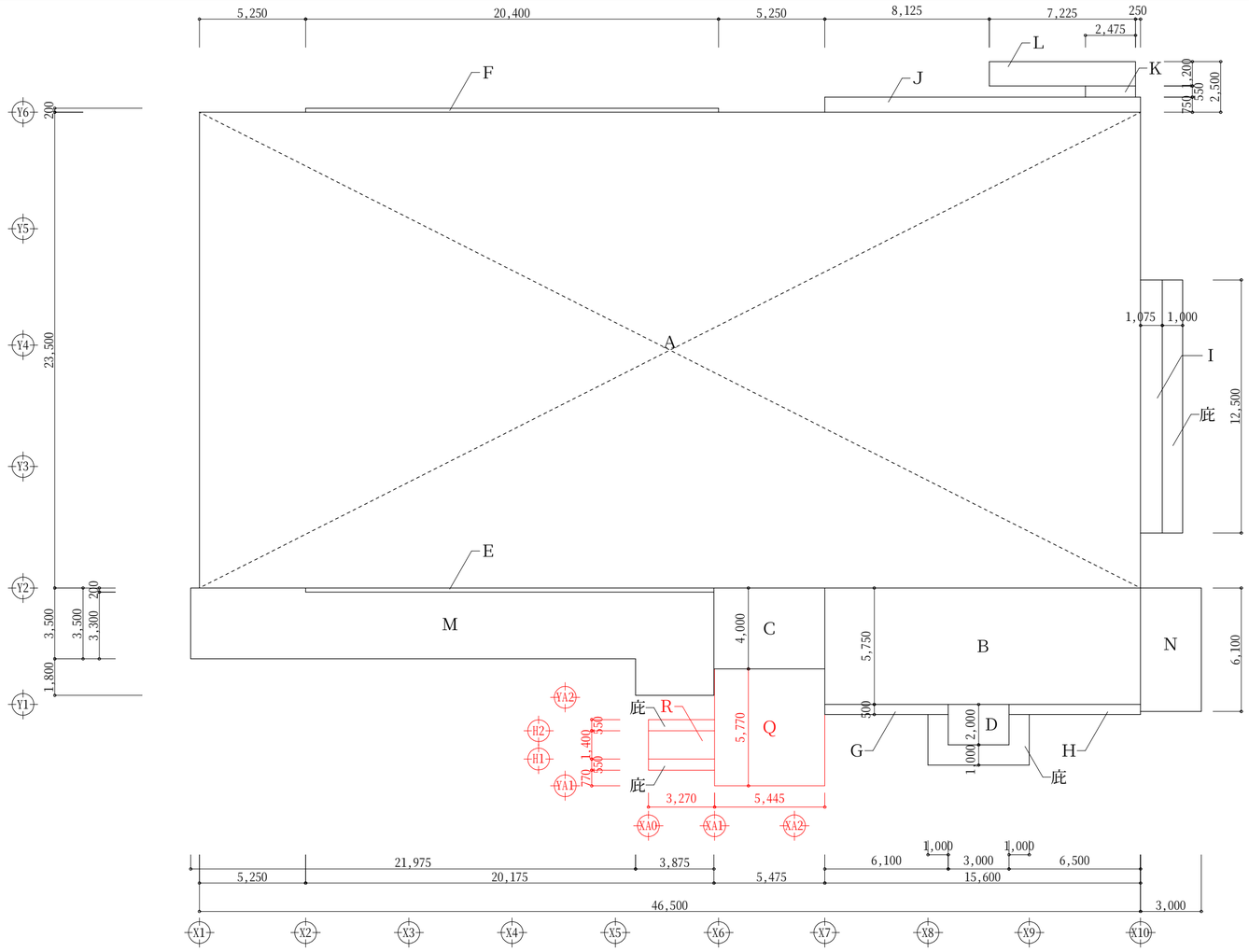
凡　例	
+***	KBMからの地盤高さを示す。
	既存建物を示す。
	増築建物を示す。
	改修範囲を示す。
▼	出入口を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/400		A-16
				DATE '15.08	改修後 配置図	

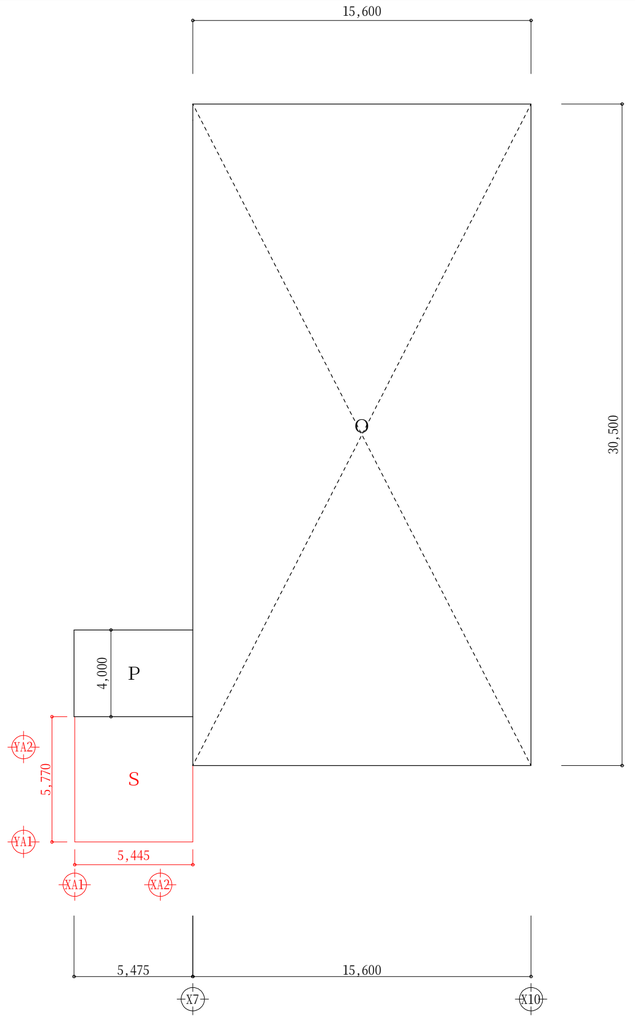
敷地求積図　S=1/400

敷地求積表				
番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	4.627	2.221	10.276567	5.13828350
2	4.529	0.693	3.138597	1.56929850
3	6.037	1.064	6.423368	3.21168400
4	7.867	3.462	27.235554	13.61777700
5	8.794	1.587	13.956078	6.97803900
6	9.918	1.855	18.397890	9.19894500
7	13.269	2.427	32.203863	16.10193150
8	15.604	2.897	45.204788	22.60239400
9	20.886	3.534	73.811124	36.90556200
10	20.109	7.162	144.020658	72.01032900
11	21.618	9.156	197.934408	98.96720400
12	14.360	0.816	11.717760	5.85888000
13	11.544	1.093	12.617592	6.30879600
14	22.888	5.342	122.267696	61.13384800
15	19.853	2.138	42.445714	21.22285700
16	22.689	3.409	77.346801	38.67340050
17	27.456	8.072	221.624832	110.81241600
18	25.631	4.595	117.774445	58.88722250
19	29.456	5.644	166.249664	83.12483200
20	33.589	7.079	237.776531	118.88826550
21	35.714	7.079	252.819406	126.40970300
22	33.459	2.817	94.254003	47.12700150
23	20.203	2.041	41.234323	20.61716150
24	19.347	2.064	39.932208	19.96610400
25	38.041	4.004	152.316164	76.15808200
26	38.134	8.497	324.024598	162.01229900
27	42.588	4.464	190.112832	95.05641600
28	49.736	20.964	1,042.665504	521.33275200
29	34.243	2.796	95.743428	47.87171400
30	42.400	6.479	274.709600	137.35480000
31	59.123	23.012	1,360.538476	680.26923800
32	60.955	7.731	471.243105	235.62155250
33	55.324	7.679	424.832996	212.41649800
34	68.959	25.369	1,749.420871	874.71043550
35	71.076	8.353	593.697828	296.84891400
36	72.046	4.078	293.803588	146.90179400
37	73.059	5.039	368.144301	184.07215050
38	74.357	23.622	1,756.461054	878.23052700
39	70.708	19.367	1,369.401836	684.70091800
40	74.357	40.591	3,018.224987	1,509.11249350
合　計				7,748.00251900
敷地面積				7,748.00㎡

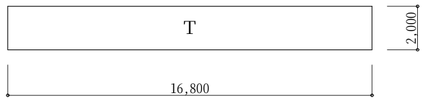
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/400		A-17
				DATE '15.08	敷地求積図	



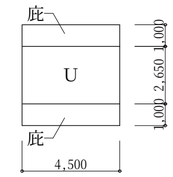
1階求積図　S=1/200



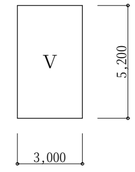
2階求積図　S=1/200



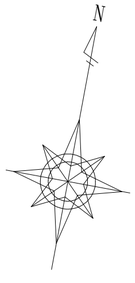
自転車置場求積図　S=1/200



ｶｰﾎﾟｰﾄ求積図　S=1/200



倉庫求積図　S=1/200



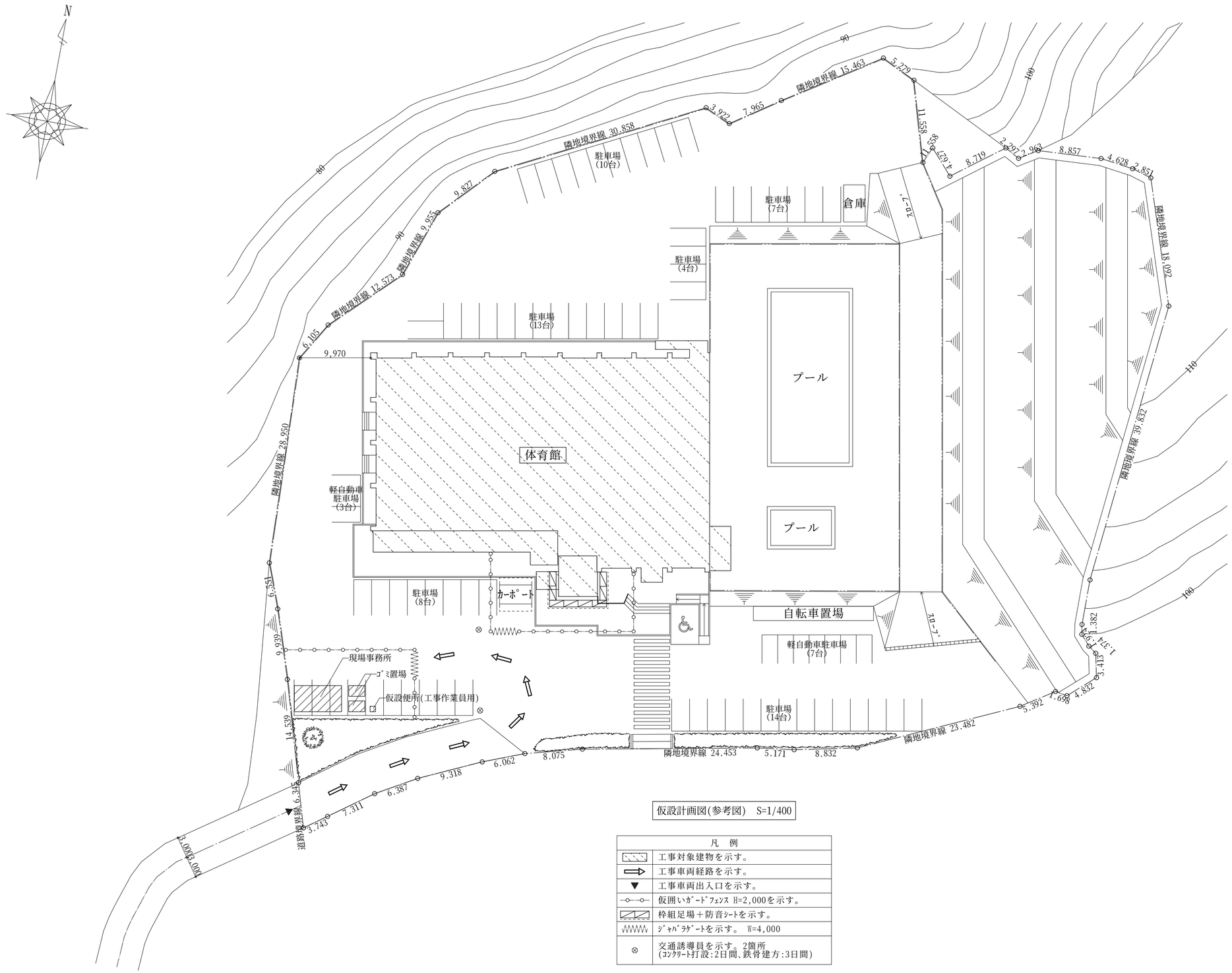
床面積表

建物名	記号	階	X	×	Y	=	小計	階面積	延べ床面積
体育館	A	1	46.500	×	23.500	=	1092.7500		
	B		15.600	×	5.750	=	89.7000		
	C		5.475	×	4.000	=	21.9000		
	D		3.000	×	2.000	=	6.0000		
	E		20.175	×	0.200	=	4.0350		
	F		20.400	×	0.200	=	4.0800		
	M		25.850	×	3.500	=	90.4750		
			3.875	×	1.800	=	6.9750		
			20.175	×	-0.200	=	-4.0350		
						=	93.4150		
	N		3.000	×	6.100	=	18.3000	1,330.18	
	O	2	15.600	×	30.500	=	475.8000		
	P		5.475	×	4.000	=	21.9000	497.70	1,827.88
自転車置場	T	1	16.800	×	2.000	=		33.60	33.60
ｶｰﾎﾟｰﾄ	U	1	4.500	×	4.650	=		20.92	20.92
倉庫	V	1	3.000	×	5.200	=		15.60	15.60
増築部便所	Q	1	5.445	×	5.770	=		31.41	
	S	2	5.445	×	5.770	=		31.41	62.82
合計									1,960.82

建築面積表

建物名	記号	階	X	×	Y	=	小計	建築面積
体育館	A	1	46.500	×	23.500	=	1092.7500	
	B		15.600	×	5.750	=	89.7000	
	C		5.475	×	4.000	=	21.9000	
	D		3.000	×	2.000	=	6.0000	
	E		20.175	×	0.200	=	4.0350	
	F		20.400	×	0.200	=	4.0800	
	G		6.100	×	0.500	=	3.0500	
	H		6.500	×	0.500	=	3.2500	
	I		12.500	×	1.075	=	13.4375	
	J		15.600	×	0.750	=	11.7000	
	K		2.475	×	0.550	=	1.3612	
	L		7.225	×	1.200	=	8.6700	
	M		25.850	×	3.500	=	90.4750	
			3.875	×	1.800	=	6.9750	
			20.175	×	-0.200	=	-4.0350	
						=	93.4150	
	N		3.000	×	6.100	=	18.3000	1,371.65
自転車置場	T	1	16.800	×	2.000	=	33.6000	33.60
ｶｰﾎﾟｰﾄ	U	1	4.500	×	2.650	=	11.9250	11.93
倉庫	V	1	3.000	×	5.200	=	15.6000	15.60
増築部便所	Q	1	5.445	×	5.770	=	31.4176	
	R		3.270	×	1.400	=	4.5780	36.00
合計								1,468.78

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-**
				DATE '15.08	求積図	



仮設計画図(参考図)　S=1/400

凡　例	
	工事対象建物を示す。
	工事車両経路を示す。
	工事車両出入口を示す。
	仮囲いｶﾞｰﾄﾞﾌｪﾝｽ H=2,000を示す。
	枠組足場＋防音ｼｰﾄを示す。
	ｼﾞｬﾊﾞﾗｹﾞｰﾄを示す。　W=4,000
⊗	交通誘導員を示す。2箇所 (ｺﾝｸﾘｰﾄ打設:2日間、鉄骨建方:3日間)

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/400		A-19
				DATE '15.08	仮設計画図(参考図)	

設計概要

工事名称	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ等改修工事
建築場所	岐阜県加茂郡富加町夕田字杉洞238
用途地域	指定なし
防火区域	指定なし
構造・規模	既設部分:鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ、一部鉄骨造 2階建 増築部分:鉄骨造 2階建

面積								
敷地面積			7,748.00 ㎡					
建築面積		増築部分	36.00 ㎡	既設部分	1,432.78 ㎡	合計	1,468.78 ㎡	
延床面積			62.82 ㎡		1,898.00 ㎡		1,960.82 ㎡	
申請部分床面積	階	1 階	2 階				合計	
	㎡	31.41 ㎡	31.41 ㎡				62.84 ㎡	

外部仕上表

屋根	既設	ｱﾘｰﾅ:ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t=0.4 瓦棒葺 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ:ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t=0.4 折板 階段:ｱｽﾌｧﾙﾄ露出防水 玄関:ｼﾝｸﾞﾙｱｽﾌｧﾙﾄ防水	笠木	既設	ｱﾙﾐ笠木 W=150
	増築			増築	ｱﾙﾐ笠木 W=150
	増築	ﾃﾞｯｷｺﾝｸﾘｰﾄt=130+Mｺﾃ+合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水厚2.0(接着工法 S-F2)			
外壁	既設	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し+弾性ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付 一部:ALCﾊﾟﾈﾙt=100+防水形複層塗材RE 凹凸模様			
	増築	ALCﾊﾟﾈﾙt=120+防水形複層塗材RE 凹凸模様 外壁ﾗｲﾝ ｳﾚﾀﾝ樹脂塗装			
樋	既設	白ｶﾞｽ管 φ150			
	増築	SGP100A DP塗(SUS製掴み金物@1200)			
庇・軒裏	既設	庇 :防水Mｺﾃ+ｳﾚﾀﾝ塗装+RC下地 軒裏:FKt=10+10 ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付			
	増築	庇 :折板 ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t=0.8 H=200			

内部仕上表

	階	室名		床 仕上	床 塗装	巾木 仕上	巾木 H	巾木 塗装	壁 仕上	壁 塗装	天井 仕上	天井 高さ	天井 塗装	天井 廻縁	備考	室名
改修	1	玄関・下足ｺｰﾅｰ	既設のまま	磁器質100角ﾀｲﾙ貼		Mｺﾃ	100	VP	Mｺﾃ 一部:GB-Rt=12+9	VP	ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板t=12(不燃認定第1021号)+GB-Rt=9捨貼	2,900		ｱﾙﾐ		玄関・下足ｺｰﾅｰ
		ﾎｰﾙ・廊下	既設のまま	ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙt=2.0(Mｺﾃ下地)		ｿﾌﾄ巾木	75		Mｺﾃ(ﾀﾃ目地切@1800)	VP	ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板t=12(不燃認定第1021号)+GB-Rt=9捨貼	2,550～2,750		ｱﾙﾐ	掲示板H=1200(ﾋﾞﾆｰﾙ製ｸﾞﾘｰﾝ ｱﾙﾐ枠)	ﾎｰﾙ・廊下
		事務室	既設のまま	LVSt=2.0		塩ﾋﾞ巾木	100		Mｺﾃ 一部:GB-Rt=12.5	EP	ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板t=12(不燃認定第1021号)+GB-Rt=9捨貼 一部:GB-Rt=12.5	2,400～2,550	EP (GB-R)	ｱﾙﾐ	ｶｳﾝﾀｰ(下部戸棚付)、流し台(ｺﾝﾛﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ付)、吊戸棚、水切棚、面台、ﾌﾟﾗｲﾝﾄ、ﾌﾟﾗｲﾝﾄBOX、造り付戸棚	事務室
		昇降口	既設のまま	磁器質100角ﾀｲﾙ貼		Mｺﾃ	100	VP	GB-Rt=12.5 寒冷紗貼	EP	GB-Rt=12.5 目透し貼	2,700	EP	ｱﾙﾐ	上り框(ﾅﾗ積層材 W4000×D450×t50)、下足入、ｽﾃﾝﾚｽ製傘立(600×450)	昇降口
		ｱﾘｰﾅ	既設のまま	積層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12+ﾗﾜﾝ合板t=12捨貼+LGS既製床組(体育館用)	UE (4回塗)	堅木	100	OSCL	ﾊﾟｲﾝ小巾板t=9+ﾗﾜﾝ合板t=5.5捨貼+木下地		ﾊﾟｲﾝ小巾板t=9+ﾗﾜﾝ合板t=5.5捨貼+木下地	11,100		塩ﾋﾞ	ｼﾞｬﾊﾞﾗ式ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ1対、ﾊﾞﾚｰ・ﾊﾞﾄﾐﾝﾄﾝ・ﾃﾆｽ兼用支柱2対・基礎3対、ﾊﾞﾚｰﾈｯﾄ2張、ｺｰﾄﾗｲﾝ、吊ﾊﾞﾄﾝ(昇降式ｳｲﾝﾁ付)、床下換気用ﾊﾟﾝﾁﾝｸﾞﾒﾀﾙ	ｱﾘｰﾅ
		ｷﾞｬﾗﾘｰ	既設のまま	積層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12+ﾗﾜﾝ合板t=12捨貼+LGS既製床組(体育館用)	UE (4回塗)	堅木	100	OSCL	ﾊﾟｲﾝ小巾板t=9+ﾗﾜﾝ合板t=5.5捨貼+木下地		LGS下地Mﾊﾞｰ(W25×D19×t0.5)@100 流し張り 一部:GB-Dt=9(準不燃認定第200号)	2,700	OP	塩ﾋﾞ		ｷﾞｬﾗﾘｰ
		器具庫	既設のまま	Mｺﾃ(目仕切)	防塵塗装	Mｺﾃ	100		Mｺﾃ(目地切)		ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上	3,200				器具庫
		器具倉庫	既設のまま	積層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12+ﾗﾜﾝ合板t=12捨貼+LGS既製床組(体育館用)	UE (4回塗)	塩ﾋﾞ巾木	100		ALC板補修 一部:GB-Rt=12.5	EP	GB-Rt=12.5 目透し貼	2,700	EP	ｱﾙﾐ		器具倉庫
		男子ﾄｲﾚ(1)	改修前	ﾈﾌﾚｯｸｽ敷t=18+Mｺﾃ 撤去		100角ﾀｲﾙ貼 撤去	100		半磁器質100角ﾀｲﾙ貼 撤去		FKt=6 目透し貼 撤去	2,350	VP	ｱﾙﾐ撤去		男子ﾄｲﾚ(1)
			改修後	LVSt=2.0(Mｺﾃ下地) 新設		ﾒﾀﾙ巾木 新設	60		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(GL工法) 新設		FKt=6.0 目透し貼 新設	2,300	EP	塩ﾋﾞ新設		
		女子ﾄｲﾚ(1)	改修前	磁器質100角ﾀｲﾙ貼 撤去		100角ﾀｲﾙ貼 撤去	100		半磁器質100角ﾀｲﾙ貼 撤去 一部:ﾃﾗｿﾞｰ間仕切 t=40		FKt=6 目透し貼 撤去	2,300	EP	ｱﾙﾐ撤去		女子ﾄｲﾚ(1)
			改修後	LVSt=2.0(Mｺﾃ下地) 新設		ﾒﾀﾙ巾木 新設	60		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(GL工法) 新設 一部:KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(LGS下地)		FKt=6.0 目透し貼 新設	2,300	EP	塩ﾋﾞ新設		
		身障者ﾄｲﾚ	既設のまま	LVSt=2.0		100角ﾀｲﾙ貼	100		半磁器質100角ﾀｲﾙ貼 一部:ﾃﾗｿﾞｰ間仕切 t=40		FKt=6 目透し貼	2,300	EP	ｱﾙﾐ		身障者ﾄｲﾚ
		ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ	既設のまま	ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙt=2.0(Mｺﾃ下地)		ｿﾌﾄ巾木	75		GB-Rt=12+9 柱型:Mｺﾃ	VP	ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板t=12+GB-Rt=9捨貼	2,550		ｱﾙﾐ	ﾌﾟﾗｲﾝﾄ、ﾌﾟﾗｲﾝﾄBOX、平面黒板、掲示板H=1200(ﾋﾞﾆｰﾙ製ｸﾞﾘｰﾝ ｱﾙﾐ枠)	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ
		機械室	既設のまま	Mｺﾃ	防塵塗装				Mｺﾃ+ｸﾞﾗｽｳｰﾙﾏｯﾄt=50		ｸﾞﾗｽｳｰﾙﾏｯﾄt=50	3,200		ｱﾙﾐ		機械室
		男子更衣室	既設のまま	ﾈﾌﾚｯｸｽ敷t=18+Mｺﾃ		Mｺﾃ	100	VP	Mｺﾃ	VP	FKt=6 目透し貼	2,350	VP	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ枠ｶﾞﾗｽｽｸﾘｰﾝ、ﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝ、C型ﾚｰﾙ、姿見鏡(W900×H1500)	男子更衣室
		男子ｼｬﾜｰ室	既設のまま	ﾈﾌﾚｯｸｽ敷t=18+Mｺﾃ		100角ﾀｲﾙ貼	100		半磁器質100角ﾀｲﾙ貼		FKt=6 目透し貼	2,350	VP	ｱﾙﾐ	ｽﾃﾝﾚｽ製手洗、ﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝ、C型ﾚｰﾙ、姿見鏡(W600×H600)	男子ｼｬﾜｰ室
		男子ﾄｲﾚ(2)	既設のまま	ﾈﾌﾚｯｸｽ敷t=18+Mｺﾃ		100角ﾀｲﾙ貼	100		半磁器質100角ﾀｲﾙ貼		FKt=6 目透し貼	2,350	VP	ｱﾙﾐ		男子ﾄｲﾚ(2)
		女子更衣室	既設のまま	ﾈﾌﾚｯｸｽ敷t=18+Mｺﾃ		Mｺﾃ	100	VP	Mｺﾃ	VP	FKt=6 目透し貼	2,350	VP	ｱﾙﾐ	ｱﾙﾐ枠ｶﾞﾗｽｽｸﾘｰﾝ、ﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝ、C型ﾚｰﾙ、姿見鏡(W900×H1500)	女子更衣室
		女子ｼｬﾜｰ室	既設のまま	ﾈﾌﾚｯｸｽ敷t=18+Mｺﾃ		100角ﾀｲﾙ貼	100		半磁器質100角ﾀｲﾙ貼		FKt=6 目透し貼	2,350	VP	ｱﾙﾐ	ｽﾃﾝﾚｽ製手洗、ﾋﾞﾆｰﾙｶｰﾃﾝ、C型ﾚｰﾙ、姿見鏡(W600×H600)	女子ｼｬﾜｰ室
		女子ﾄｲﾚ(2)	既設のまま	ﾈﾌﾚｯｸｽ敷t=18+Mｺﾃ		100角ﾀｲﾙ貼	100		半磁器質100角ﾀｲﾙ貼		FKt=6 目透し貼	2,350	VP	ｱﾙﾐ		女子ﾄｲﾚ(2)
		倉庫	既設のまま	Mｺﾃ	防塵塗装	Mｺﾃ	100		Mｺﾃ		ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上	3,200				倉庫
		階段室	既設のまま	ﾋﾞﾆｰﾙ床ﾀｲﾙt=2.0(Mｺﾃ下地)		Mｺﾃ	100	VP	Mｺﾃ(目地切)	VP	GB-Dt=9(不燃認定第1004号)+LGS19			ｱﾙﾐ	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ	階段室
	2	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ	改修前	積層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12+ﾗﾜﾝ合板t=12捨貼+LGS既製床組(柔道用)	UE (4回塗)	堅木 一部撤去	100	OSCL	壁 :有孔ｼﾅ合板t=6.0 目透し貼 寒冷紗貼 一部撤去 腰壁:天然木化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12 ﾀﾃ羽目板貼 一部撤去	OP	GB-Pt=9不燃紙裏打(準不燃認定第2006号)	3,550	VP	塩ﾋﾞ		ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾙｰﾑ
			改修後	既設のまま 一部 LVSt=2.0 木目調(Mｺﾃ下地)		堅木 一部新設	100	OSCL	壁 :有孔ｼﾅ合板t=6.0 目透し貼 寒冷紗貼 一部新設 腰壁:天然木化粧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12 ﾀﾃ羽目板貼 一部新設	OP	既設のまま	3,550	VP	塩ﾋﾞ		
増築	1	男子ﾄｲﾚ	増築	磁器質100角ﾀｲﾙ貼(Mｺﾃ下地)		100角ﾀｲﾙ貼	100		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(LGS下地)		FKt=6.0 目透し貼	2,800	EP	塩ﾋﾞ	洋便器、小便器、洗面ｶｳﾝﾀｰ、化粧鏡、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、棚板、面台、防汚陶板、ｱﾙﾐｽｸﾘｰﾝ	男子ﾄｲﾚ
		女子ﾄｲﾚ	増築	磁器質100角ﾀｲﾙ貼(Mｺﾃ下地)		100角ﾀｲﾙ貼	100		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(LGS下地)		FKt=6.0 目透し貼	2,800	EP	塩ﾋﾞ	洋便器、洗面ｶｳﾝﾀｰ、化粧鏡、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、掃除流し、棚板、面台	女子ﾄｲﾚ
		多目的ﾄｲﾚ	増築	磁器質100角ﾀｲﾙ貼(Mｺﾃ下地)		100角ﾀｲﾙ貼	100		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(LGS下地)		FKt=6.0 目透し貼	2,400	EP	塩ﾋﾞ	洋便器、洗面ｶｳﾝﾀｰ、化粧鏡、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、ｵｽﾄﾒｲﾄ	多目的ﾄｲﾚ
		PS	増築	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し								4,150				PS
	2	通路	増築	LVSt=2.0 木目調(Mｺﾃ下地)		ﾒﾀﾙ巾木	60		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(LGS下地)		FKt=6.0 目透し貼	2,500	EP	塩ﾋﾞ		通路
		物入	増築	LVSt=2.0(Mｺﾃ下地)		ﾒﾀﾙ巾木	60		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(LGS下地)		FKt=6.0 目透し貼	2,500	EP	塩ﾋﾞ	棚板	物入
		男子ﾄｲﾚ	増築	LVSt=2.0(Mｺﾃ下地)		ﾒﾀﾙ巾木	60		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(LGS下地)		FKt=6.0 目透し貼	2,500	EP	塩ﾋﾞ	洋便器、小便器、掃除流し、洗面ｶｳﾝﾀｰ、化粧鏡、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、棚板、面台、防汚陶板	男子ﾄｲﾚ
		女子ﾄｲﾚ	増築	LVSt=2.0(Mｺﾃ下地)		ﾒﾀﾙ巾木	60		KFKt=6.0 ｱﾙﾐｼﾞｮｲﾅｰ共+GB-St=12.5(LGS下地)		FKt=6.0 目透し貼	2,500	EP	塩ﾋﾞ	洋便器、洗面ｶｳﾝﾀｰ、化粧鏡、ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ、棚板、面台	女子ﾄｲﾚ
		PS	増築	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し								3,450				PS

内外装材符号リスト

Mｺﾃ	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ押え	VP	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂ｴﾅﾒﾙ塗		
ALC	軽量気泡ｺﾝｸﾘｰﾄﾊﾟﾈﾙ	UE	ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ樹脂ｴﾅﾒﾙ		
GB-R	石こうﾎﾞｰﾄﾞ	OSCL	ｵｲﾙｽﾀｲﾝｸﾘｱﾗｯｶｰ		
GB-D	化粧石こうﾎﾞｰﾄﾞ	OP	ｵｲﾙ調合ﾍﾟｲﾝﾄ		
GB-P	吸音用穴あき石こうﾎﾞｰﾄﾞ				
GB-S	ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石こうﾎﾞｰﾄﾞ				
FK	けい酸ｶﾙｼｳﾑ板貼				
LVS	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ				
EP	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ				

内装制限（防火材料認定番号）

a	石膏ボードｔ－９．５	QM－９８２８
b	石膏ボードｔ－１２．５	NM－８６１９
c	ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板ｔ－９，１２，１５～	NM－８５９９
d	繊維混入珪酸ｶﾙｼｳﾑ板ｔ－６～	NM－８５７８
e	ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ 準不燃下地	QM－００２０
f	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞｔ－９．５	QM－０５２４
g	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞｔ－９．５(不燃)	NM－１８６４

防耐火構造認定番号　耐火建築物

便所(増築)		庇(増築)	
屋根	FP060FL-9095:合成ｽﾗﾌﾞﾃﾞｯｷH=130 (ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄH50+ｺﾝｸﾘｰﾄ山高80)	屋根	FP030RL-0617:折板 ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t=0.8 H=200
			FP030RF-0085:Fｽｶｲﾗｲﾄ
柱	FP060CM-9460:吹付ﾛｯｸｳｰﾙt=25	柱	FP060CN-9401:水系発砲性耐火塗料t=4
梁	FP060BM-9408:吹付ﾛｯｸｳｰﾙt=25	梁	FP060BN-9346:水系発砲性耐火塗料t=4
床	FP060FL-9095:合成ｽﾗﾌﾞﾃﾞｯｷH=130 (ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄH50+ｺﾝｸﾘｰﾄ山高80)	床	-
外壁	建告H12 1399号:ALCﾊﾟﾈﾙt=100	外壁	-

使用材料のホルムアルデヒド放散量

1、内装に使用する、集成材、合板類、縁甲板等の
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量は、Ｆ☆☆☆☆とする。
2、塗装は、室内に使用する場合、告示対象外の塗料の
使用もしくは、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量Ｆ☆☆☆☆とし、
外部で使用する場合は、Ｆ☆☆☆とする。
3、天井裏に使用する材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量は、
Ｆ☆☆☆とする。
4、外壁面壁下地はLGS50とする。
5、天井裏 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ断熱材t100 24kg/m3敷込とする。

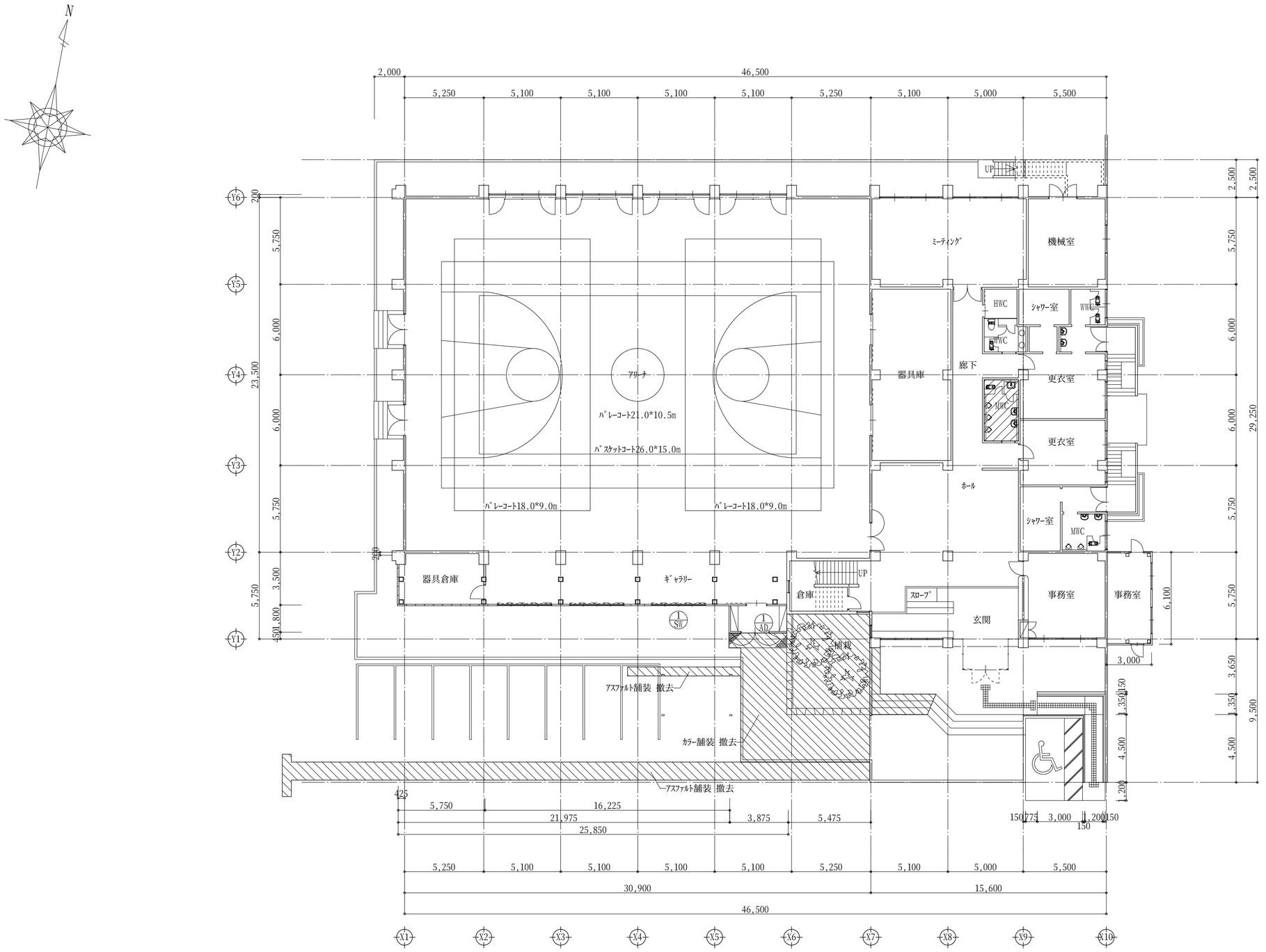
（注意事項）施行令第112条-5　竪穴区画による間仕切は、GB-Rｔ=15.0＋15.0（両面貼）とする。（準耐火構造　1時間耐火）

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	DATE
				－	'15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

内部・外部仕上表

SHEET NO. A-20

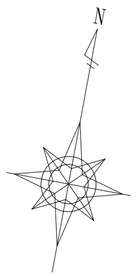


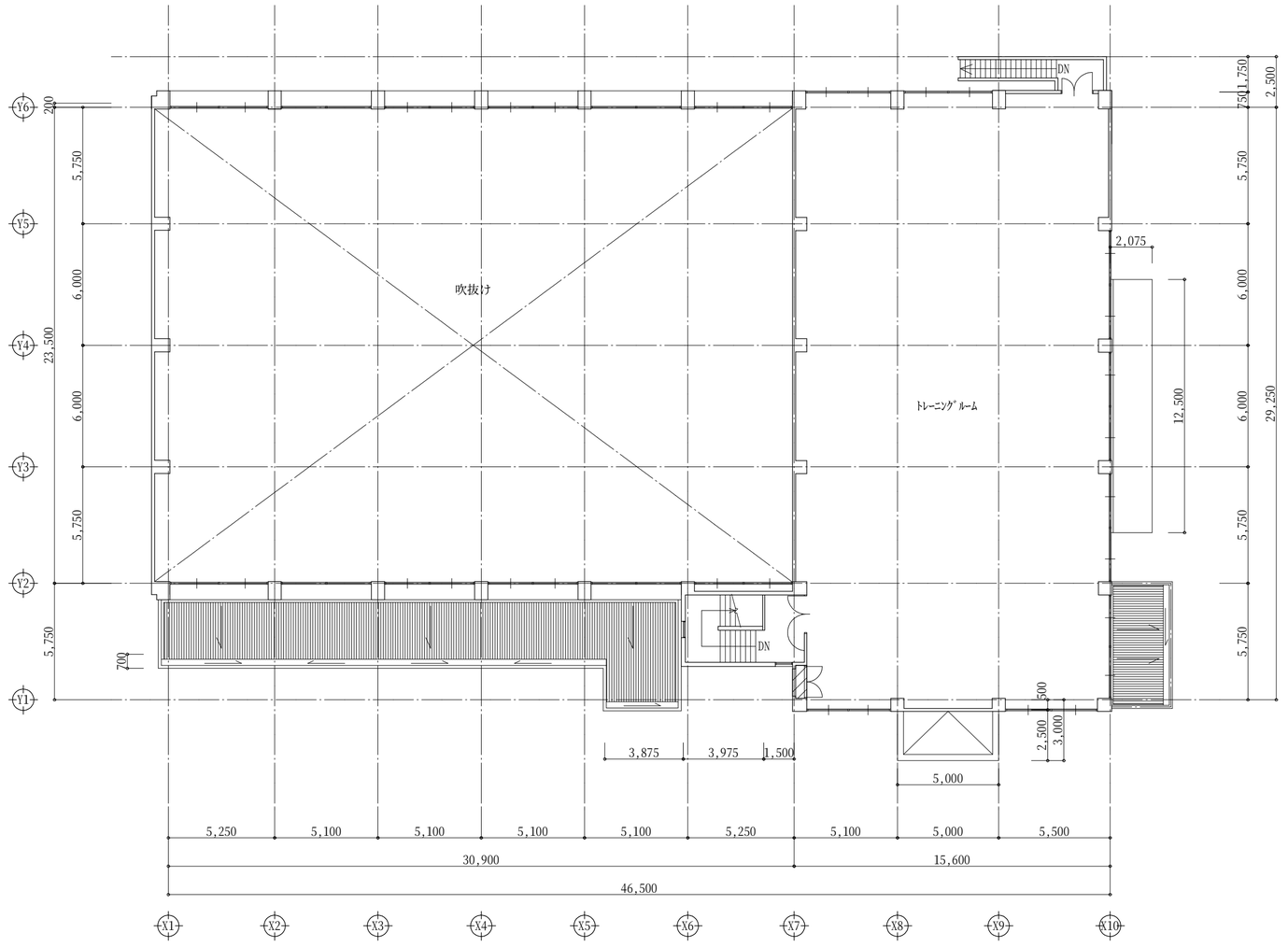
改修前　１階平面図　S=1/200

凡例

改修範囲を示す。
撤去範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-21
				DATE '15.08	改修前　１階平面図	





改修前　２階平面図　S=1/200

凡例

改修範囲を示す。
撤去範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW	

SCALE S=1/200

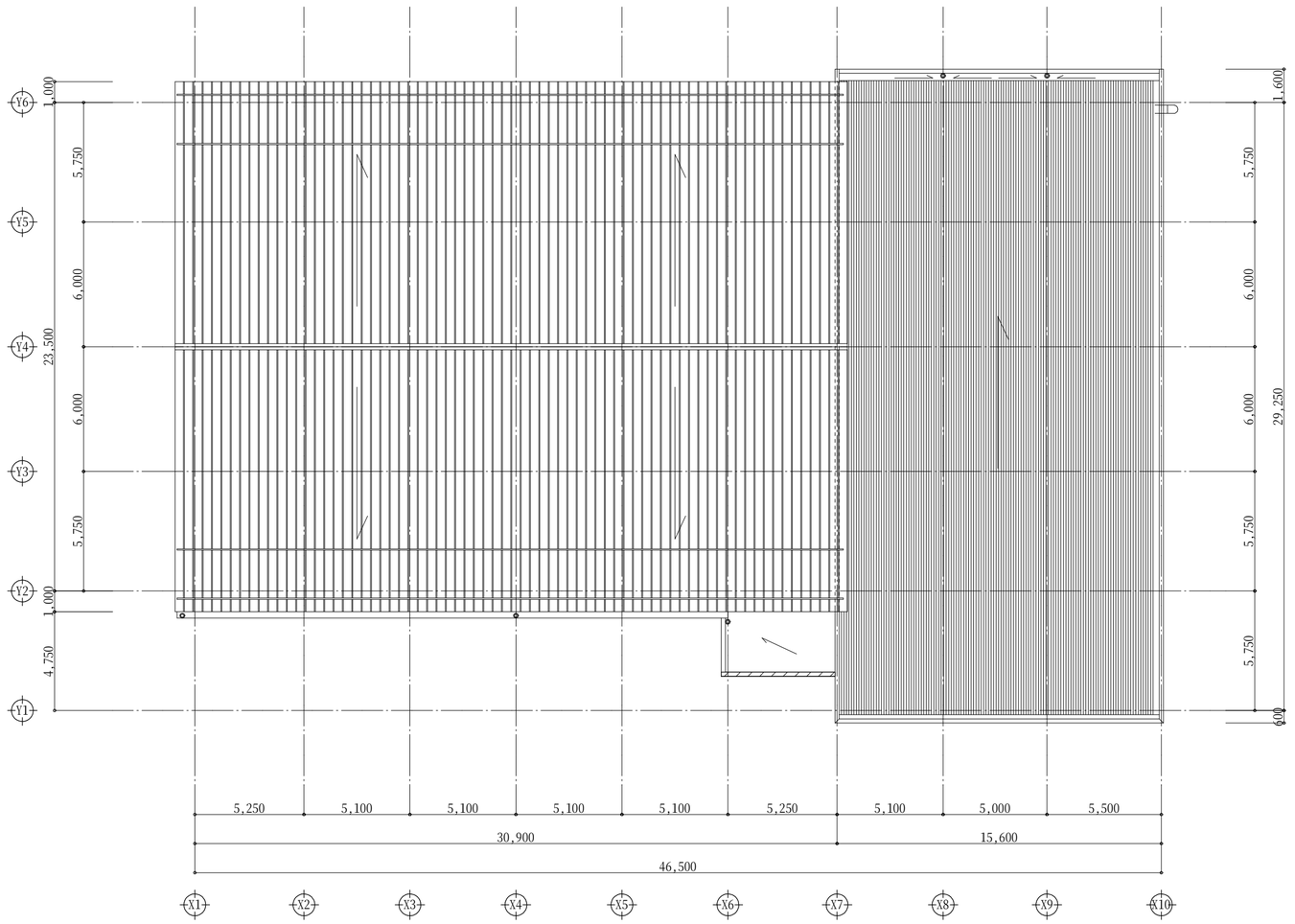
DATE '15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

改修前　２階平面図

SHEET NO. A-22

N



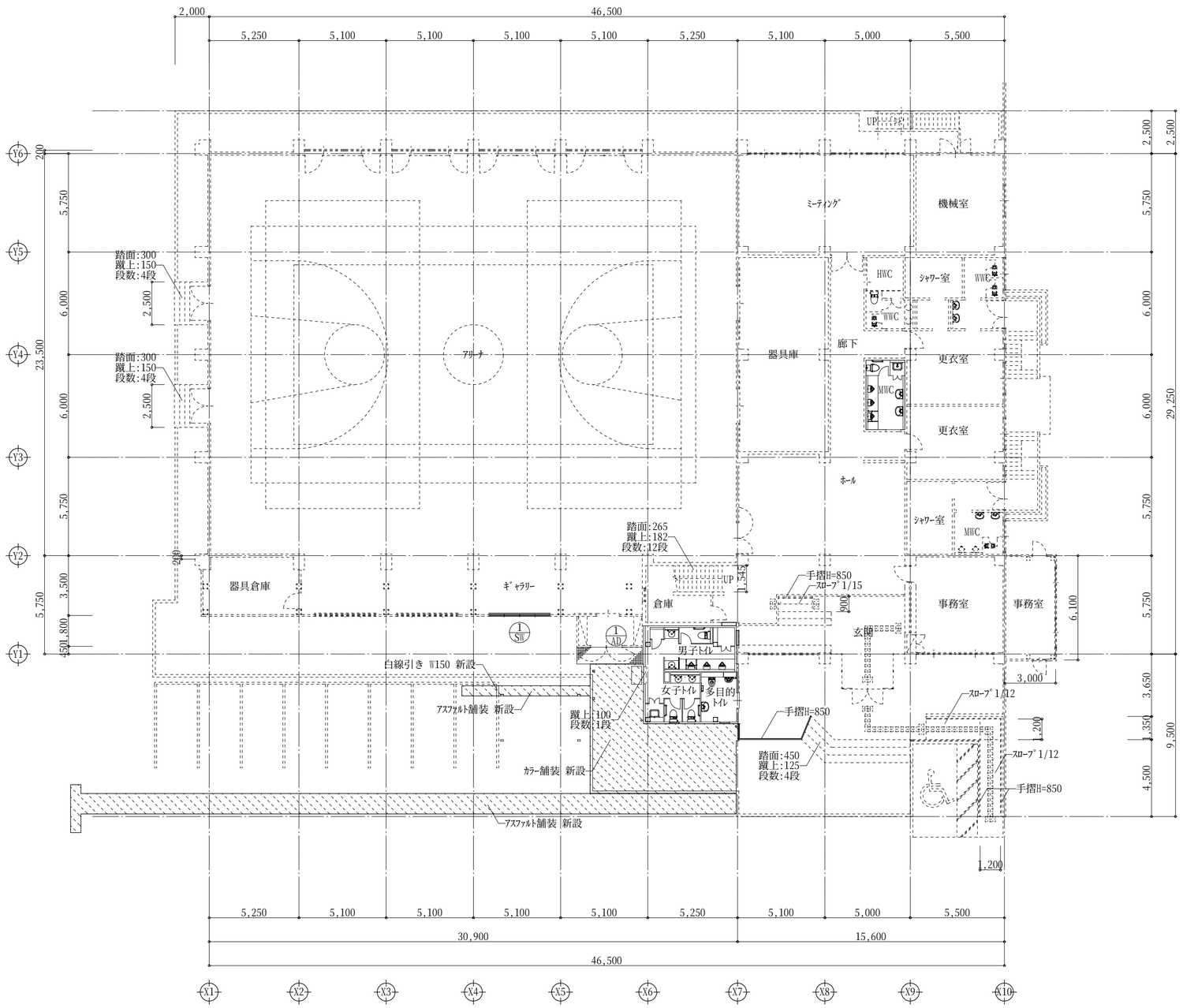
改修前 屋根伏図 S=1/200

凡例

改修範囲を示す。
撤去範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-23
				DATE '15.08	改修前 屋根伏図	

N



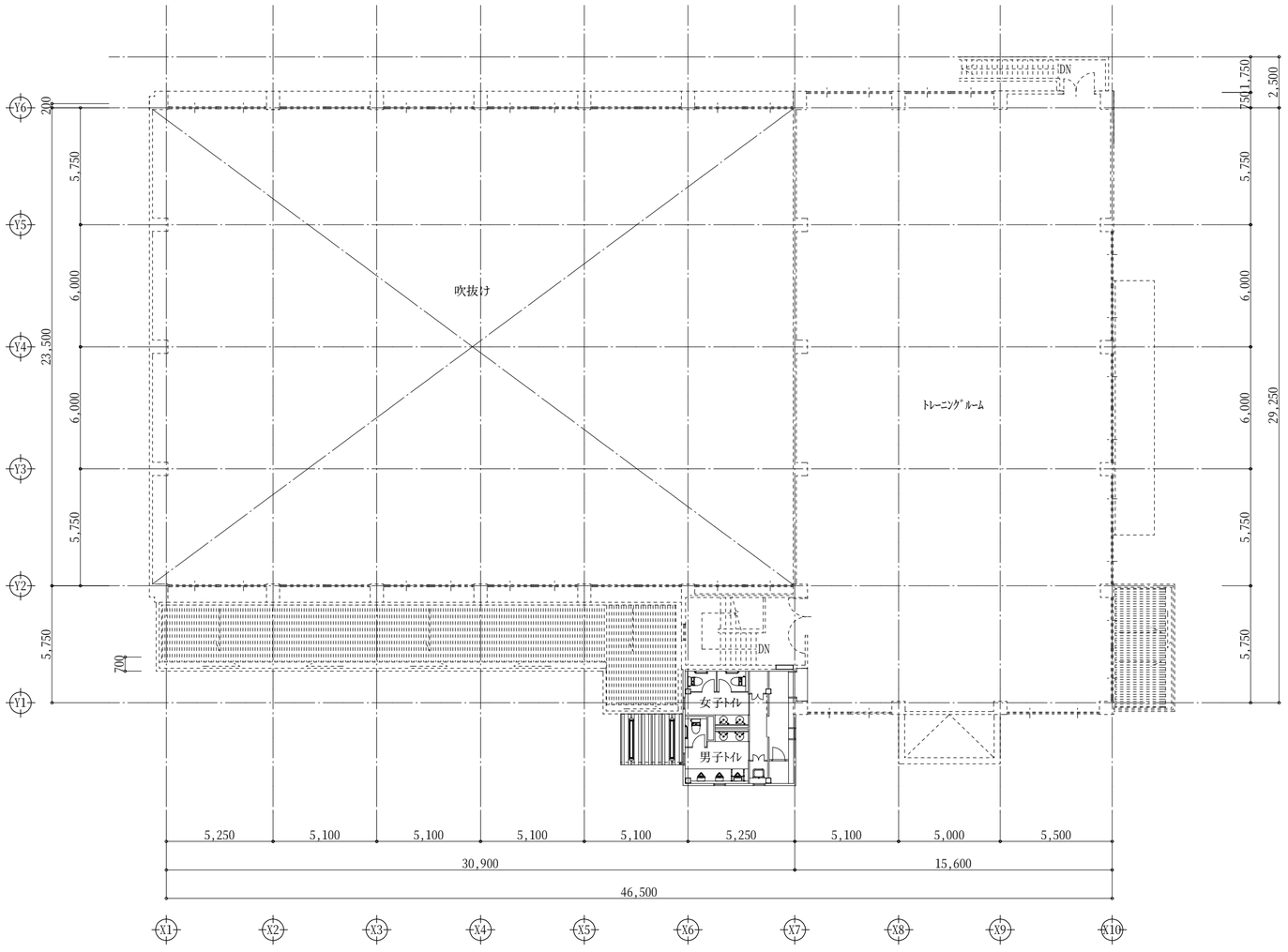
改修後 1階平面図 S=1/200

凡例

======= 既設範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町B＆G海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-24
				DATE '15.08	改修後 1階平面図	

N



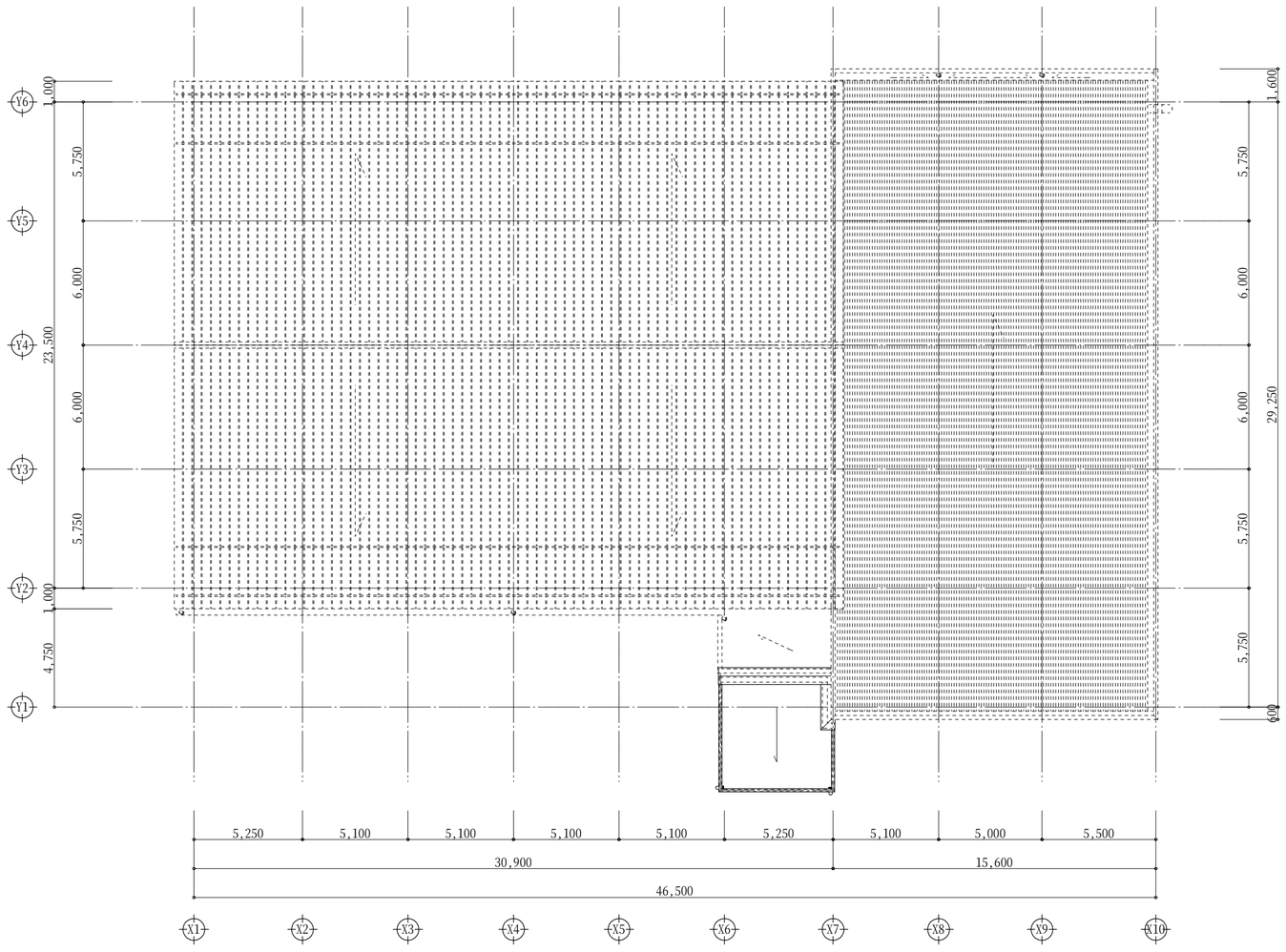
改修後　２階平面図　S=1/200

凡例

======: 既設範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-25
				DATE '15.08	改修後　２階平面図	

N

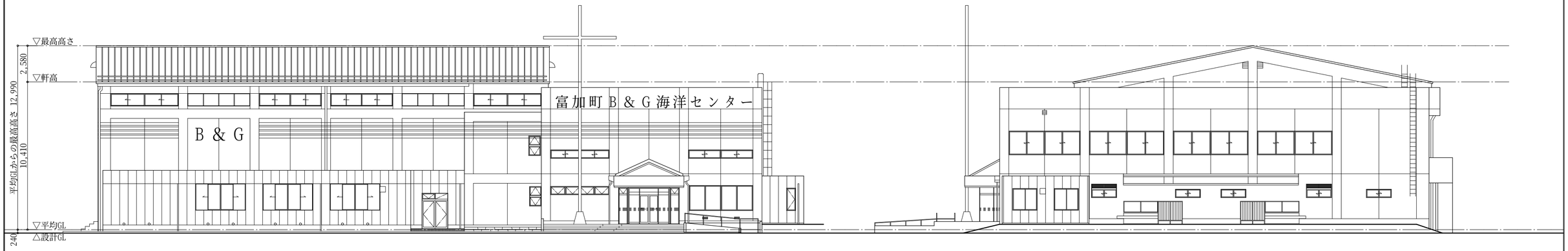


改修後 屋根伏図 S=1/200

凡例

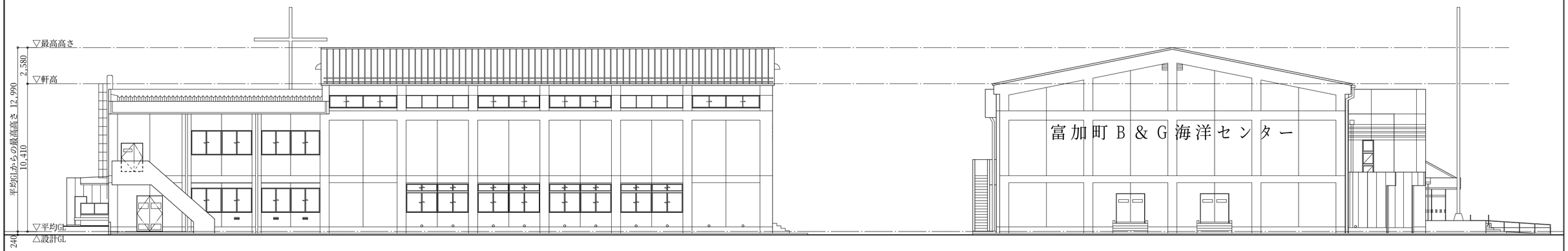
======= 既設範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-26
				DATE '15.08	改修後 屋根伏図	



改修前 南立面図　S=1/200

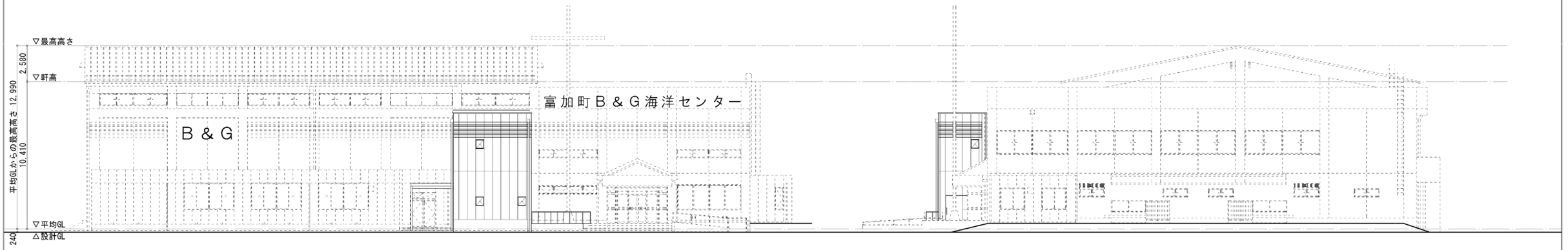
改修前 東立面図　S=1/200



改修前 北立面図　S=1/200

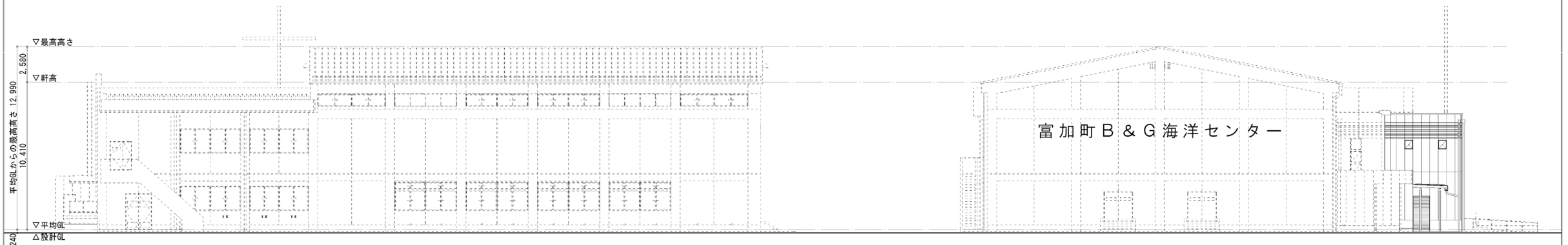
改修前 西立面図　S=1/200

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE S=1/200	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO. A-27
				DATE '15.08	改修前 立面図	



改修後 南立面図　S=1/200

改修後 東立面図　S=1/200



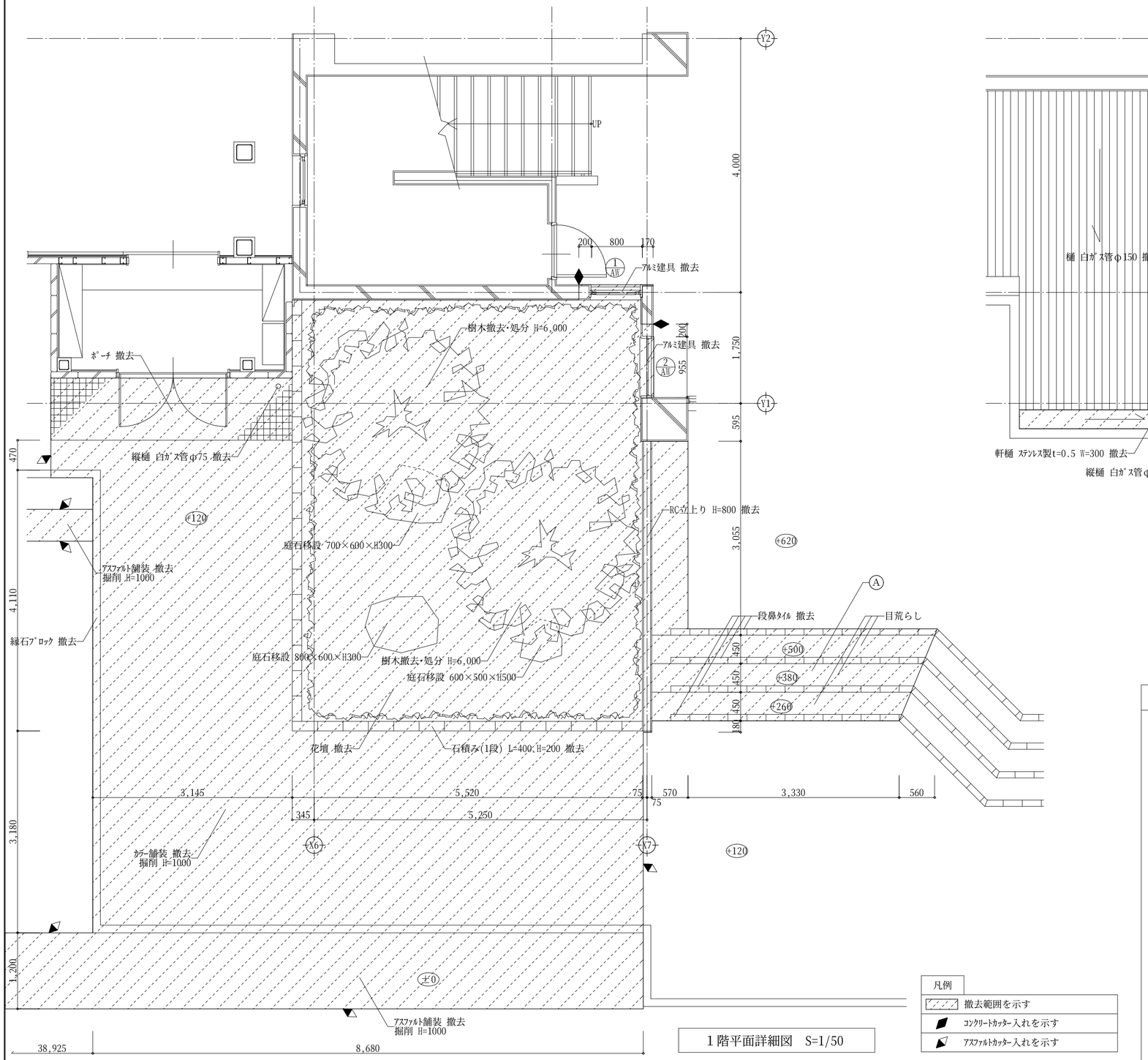
改修後 北立面図　S=1/200

改修後 西立面図　S=1/200

凡例

既設範囲を示す。

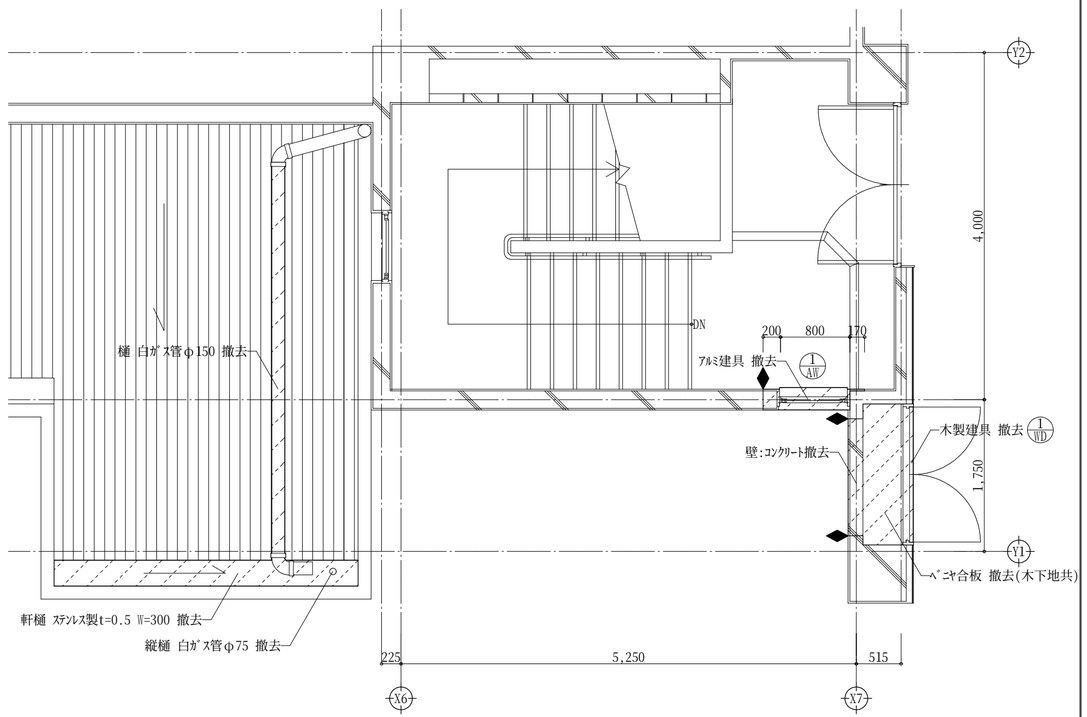
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町B＆G海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-28
				DATE '15.08	改修後 立面図	



1階平面詳細図 S=1/50

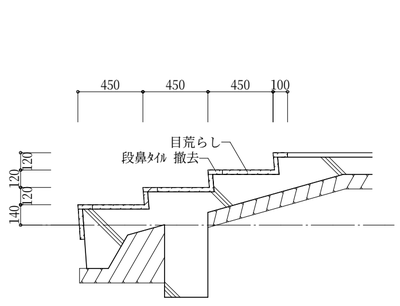
凡例

- 撤去範囲を示す
- ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入れを示す
- ｱｽﾌｧﾙﾄｶｯﾀｰ入れを示す

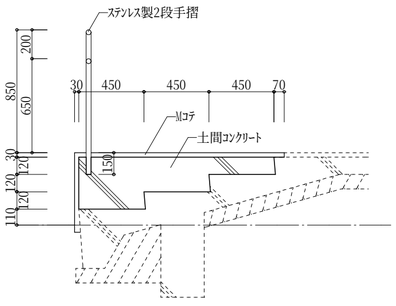


2階平面詳細図 S=1/50

Ⓐ 外部階段詳細図 S=1/30

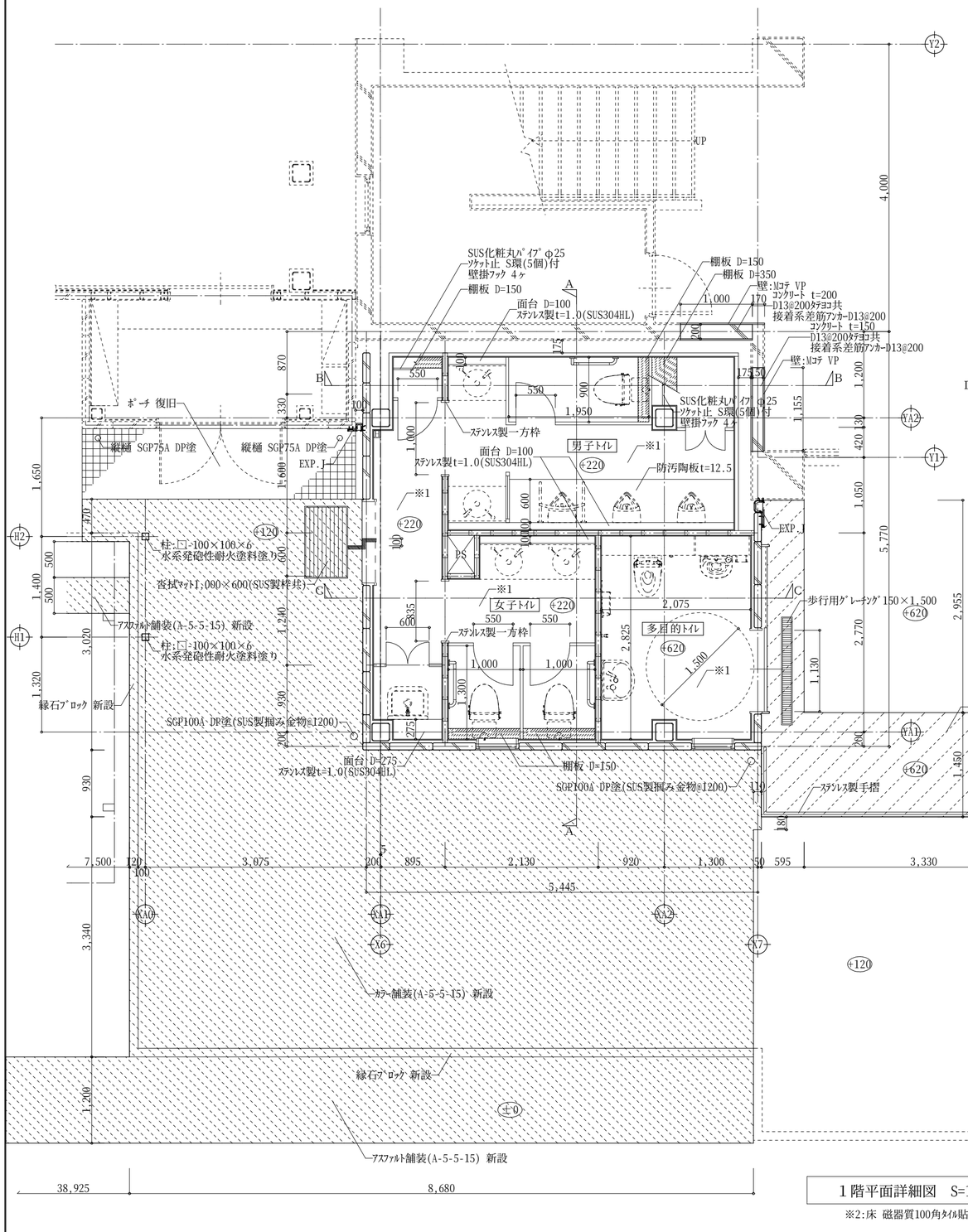


改修前



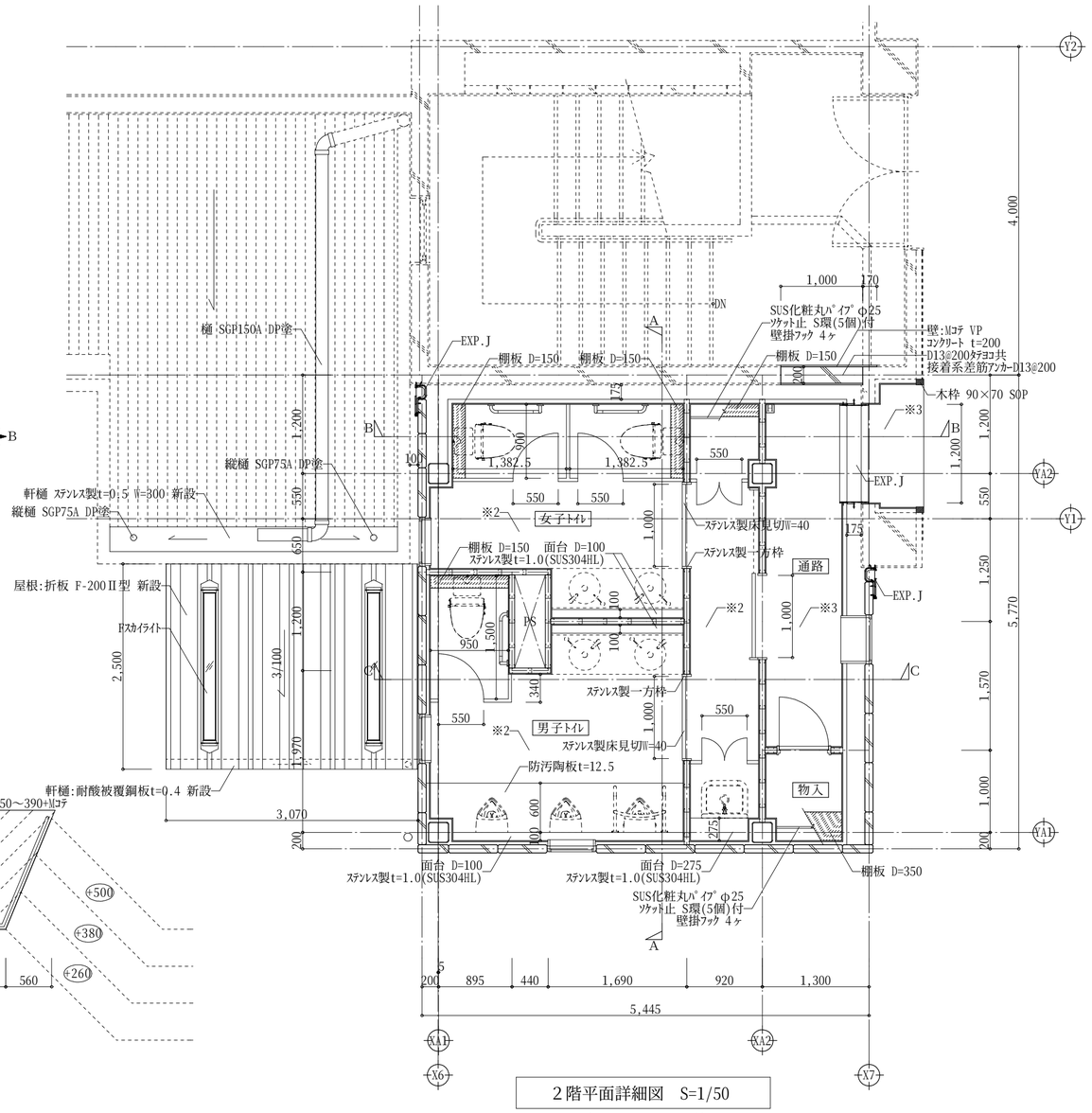
改修後

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/30,50	増築トイレ 現況平面図	A-29
				DATE '15.08		



1階平面詳細図　S=1/50

※2:床 磁器質100角ﾀｲﾙ貼(ﾓﾙﾀ下地)



2階平面詳細図　S=1/50

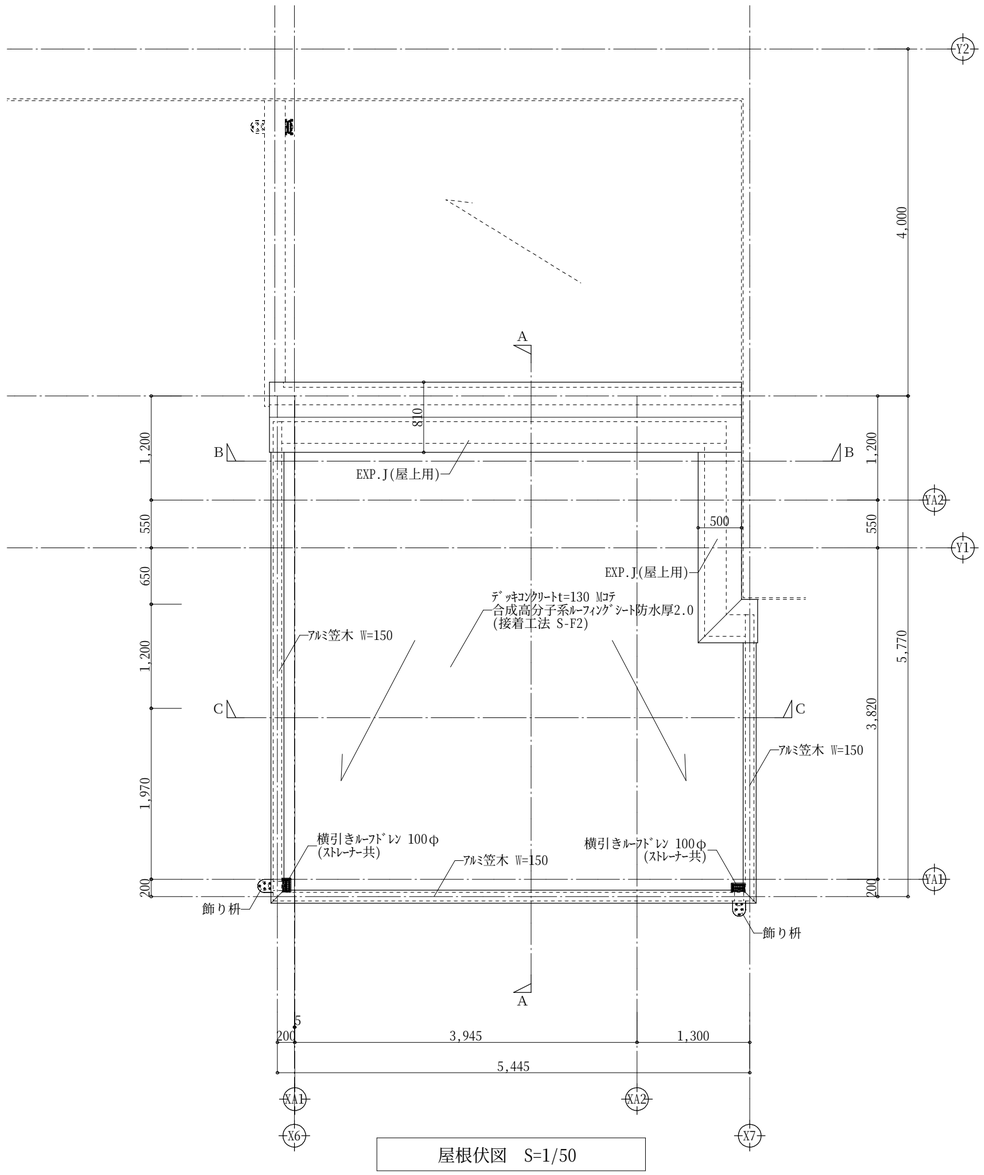
※2:床 LVSt=2.0 (ﾓﾙﾀ下地)

※3:床 LVSt=2.0 木目調(ﾓﾙﾀ下地)

凡例

▨	棚板:ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭt=20 FL+1500
------	既設範囲を示す
A\ /A	矩計図切断位置を示す
四	消火器ABC10型 格納箱要

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50	増築トイレ 平面詳細図	A-30
				DATE '15.08		

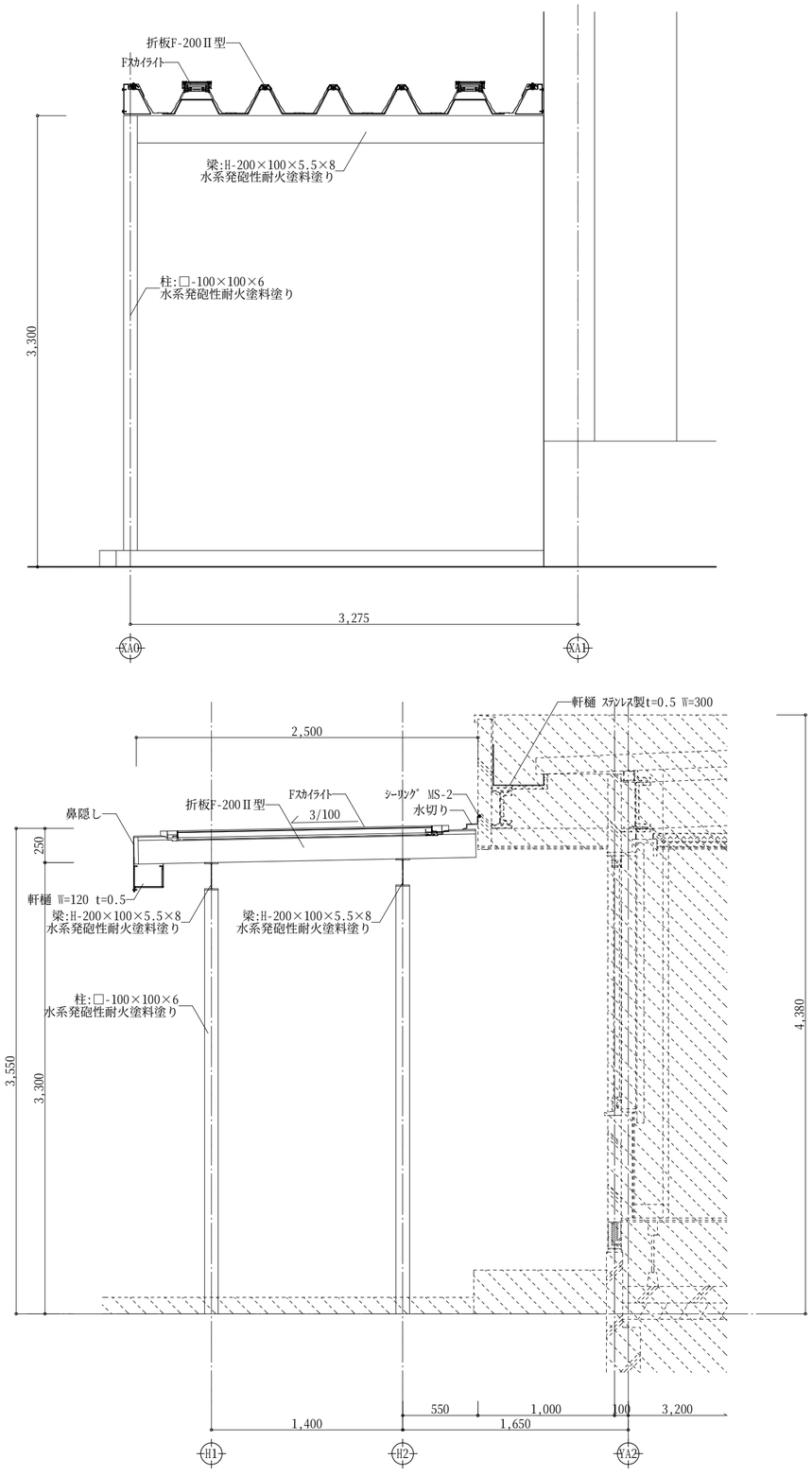


屋根伏図　S=1/50

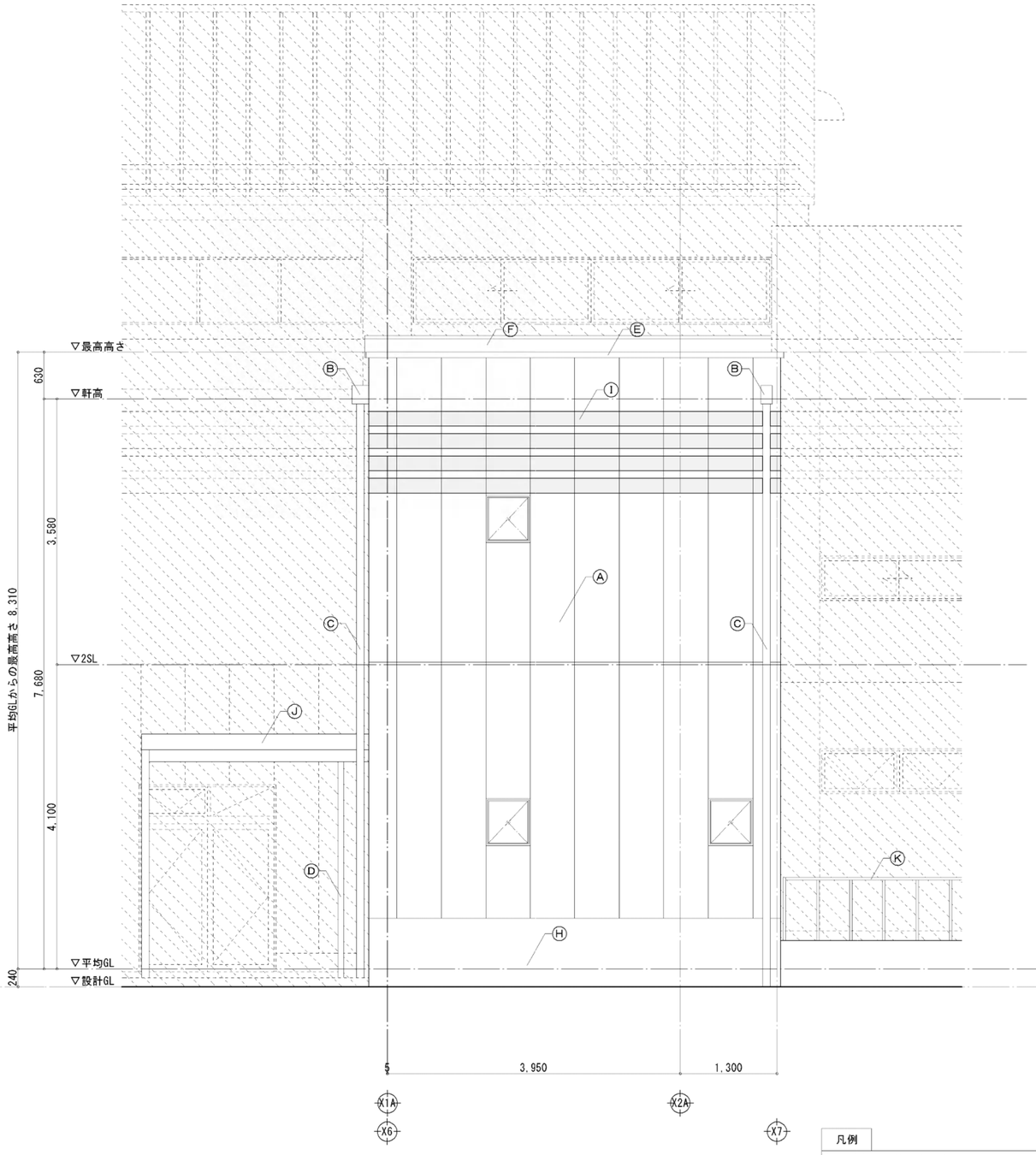
凡例

既設範囲を示す

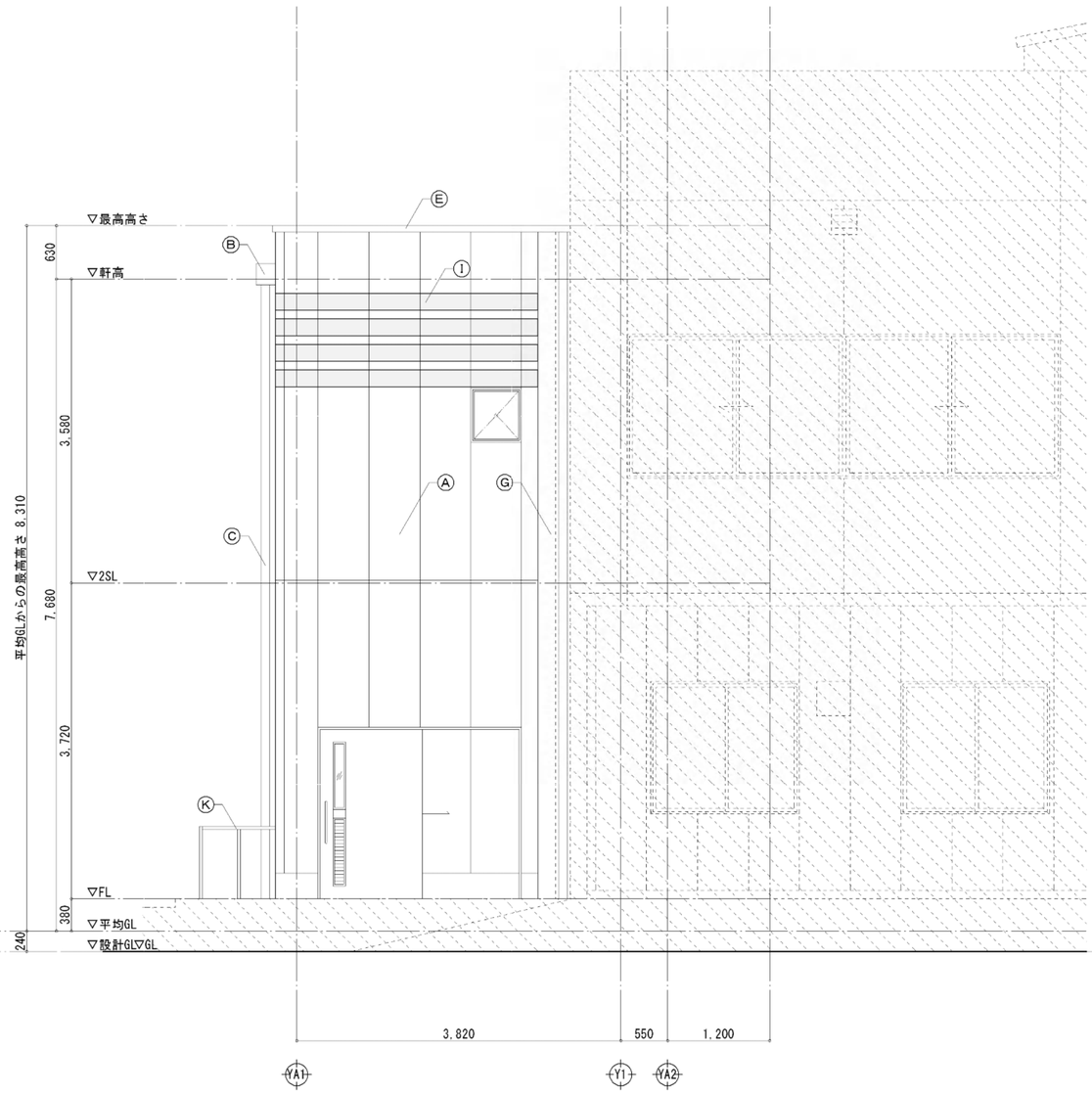
庇部分詳細図　S=1/30



CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/30,50		A-31
				DATE '15.08	増築トイレ　屋根伏図	



南立面詳細図　S=1/50

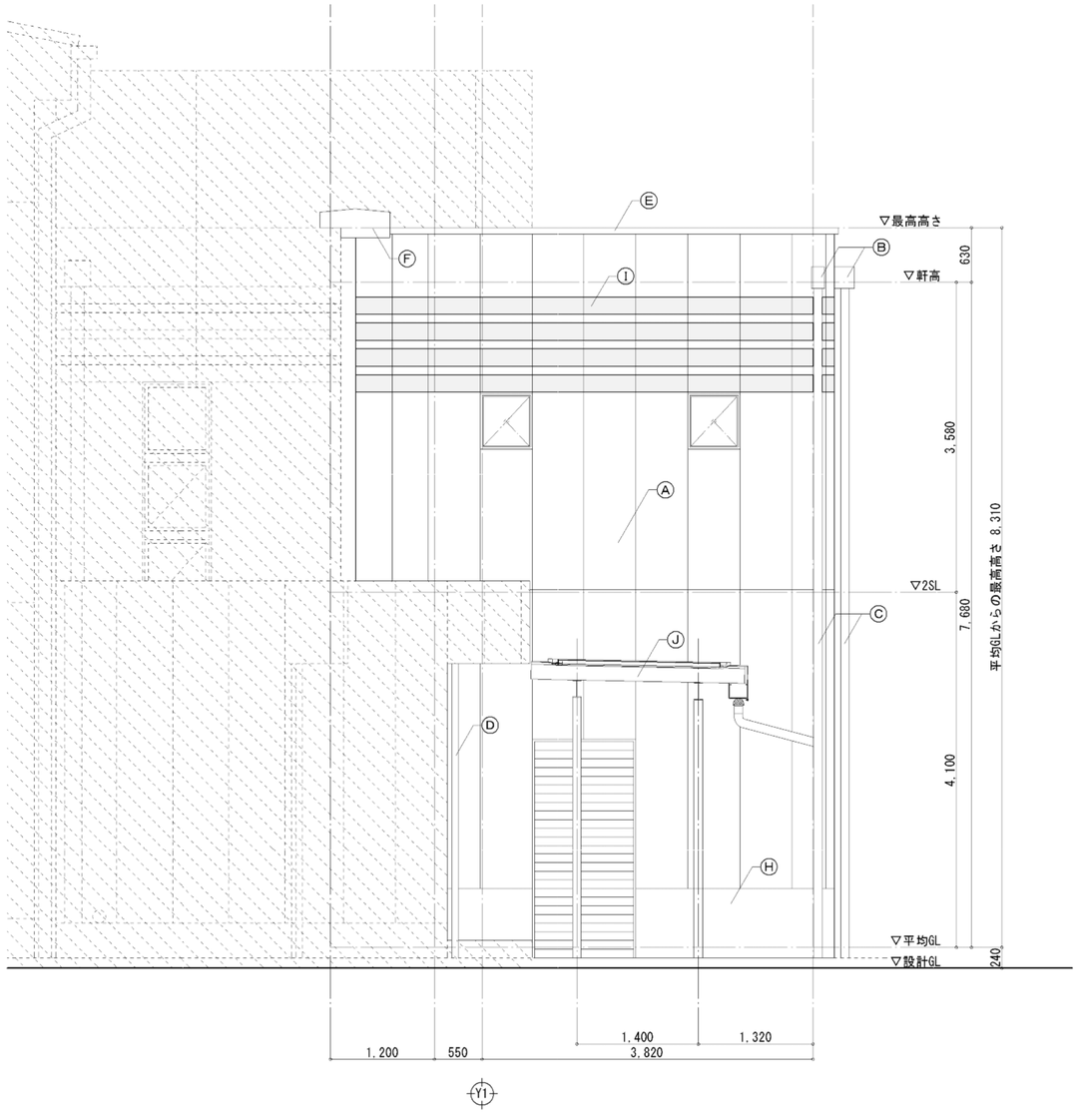


東立面詳細図　S=1/50

凡例

	既設範囲を示す	Ⓕ	EXP.J(屋上用)
Ⓐ	ALCﾊﾟﾈﾙ t=120 防水形複層塗材RE 凹凸模様	Ⓖ	EXP.J(外壁用)
Ⓑ	飾り樋	Ⓗ	巾木 ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き
Ⓒ	SGP100A DP塗(SUS製掴み金物@1200)	Ⓘ	ｳﾚﾀﾝ樹脂塗装
Ⓓ	SGP75A DP塗	Ⓙ	庇:折板 ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 H=200
Ⓔ	ｱﾙﾐ笠木 W150	Ⓚ	ｽﾃﾝﾚｽ製手摺 H=850

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50	増築トイレ 立面詳細図(1)	A-32
				DATE '15.08		

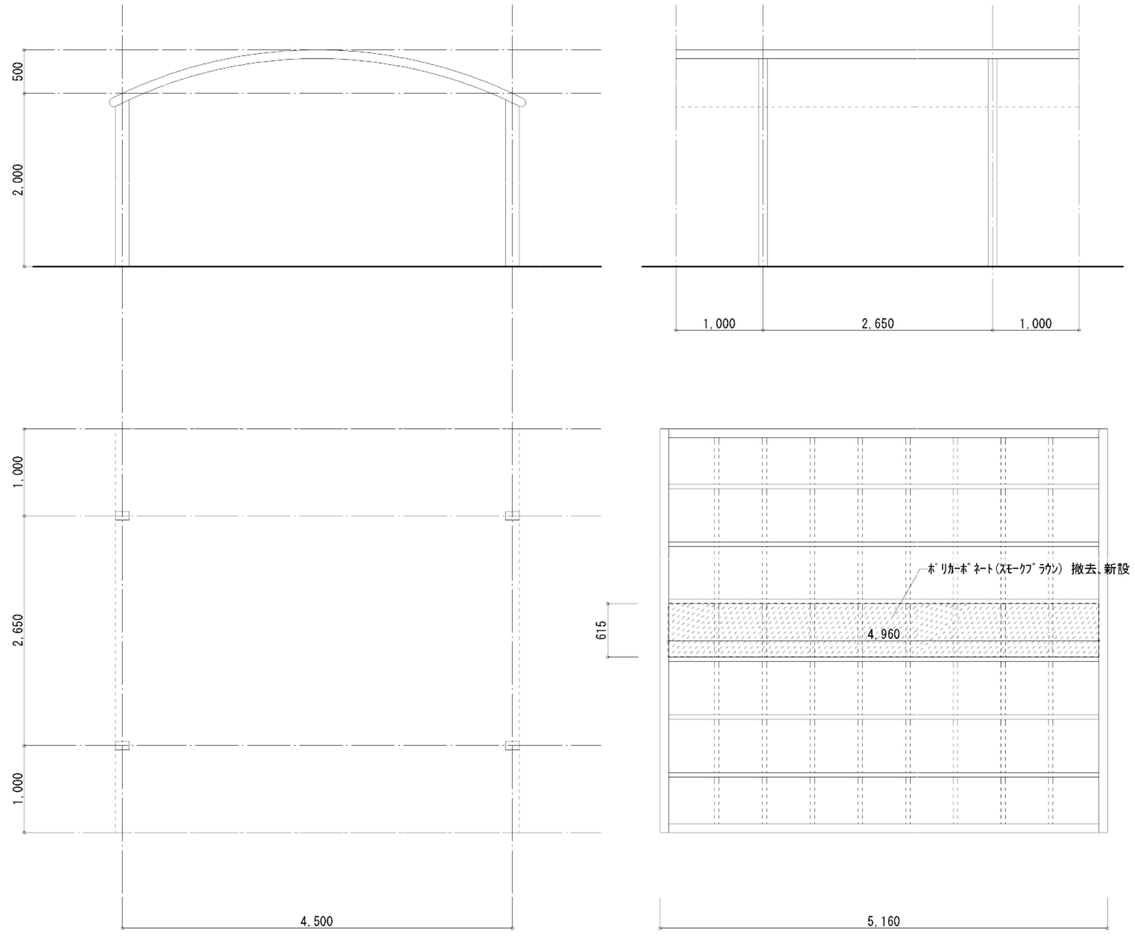


西立面詳細図　S=1/50

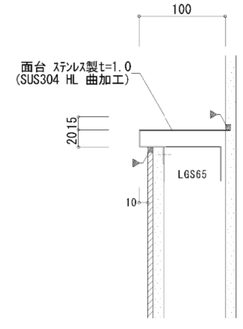
凡例

	既設範囲を示す	Ⓕ	EXP.J(屋上用)
Ⓐ	ALCﾊﾟﾈﾙ t=120 防水形複層塗材RE 凹凸模様	Ⓖ	EXP.J(外壁用)
Ⓑ	飾り樋	Ⓗ	巾木 ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き
Ⓒ	SGP100A DP塗(SUS製摺み金物@1200)	Ⓘ	ｳﾚﾀﾝ樹脂塗装
Ⓓ	SGP75A DP塗	Ⓙ	庇:折板 ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 H=200
Ⓔ	ｱﾙﾐ笠木 W150		

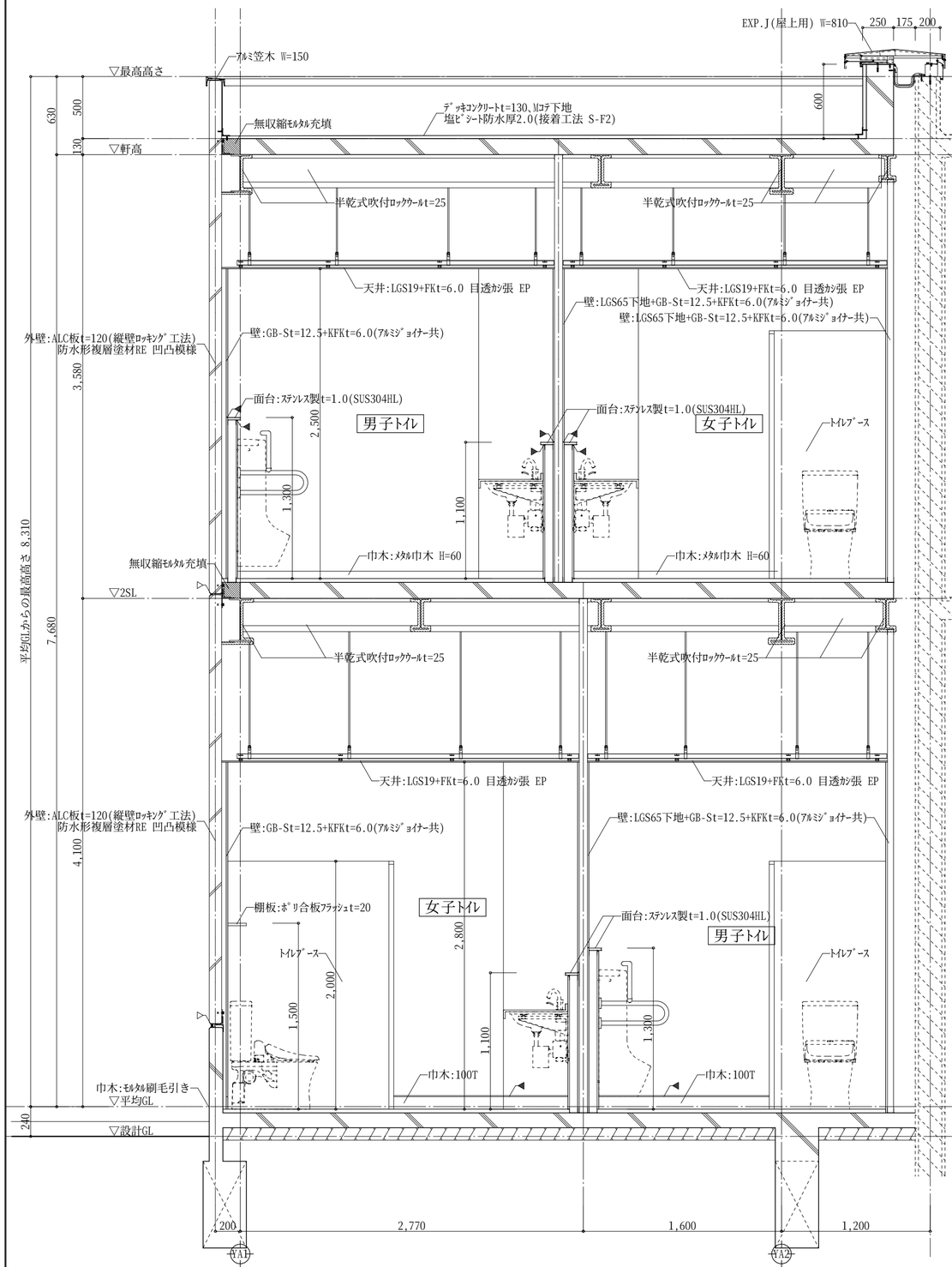
カーポート詳細図 S=1/50



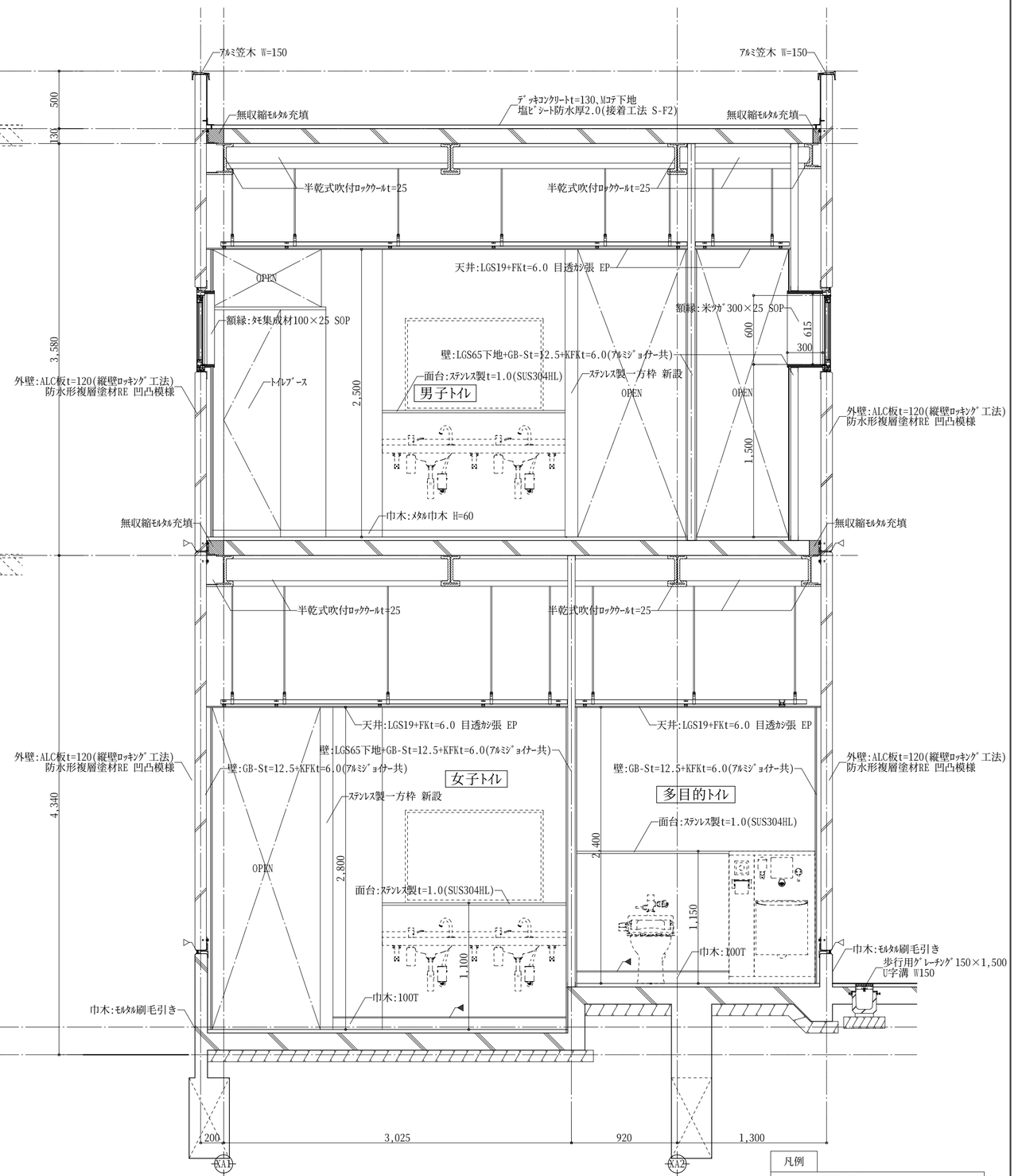
面台詳細図 S=1/5



CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/5,50	増築トイレ 立面詳細図(2)	A-33
				DATE '15.08		



A-A矩計図 S=1/30



C-C矩計図 S=1/30

凡例

- 既設範囲を示す
- ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す
- ｼｰﾘﾝｸﾞ(AC-1)を示す

CHECK	DESIGN	DRAW	

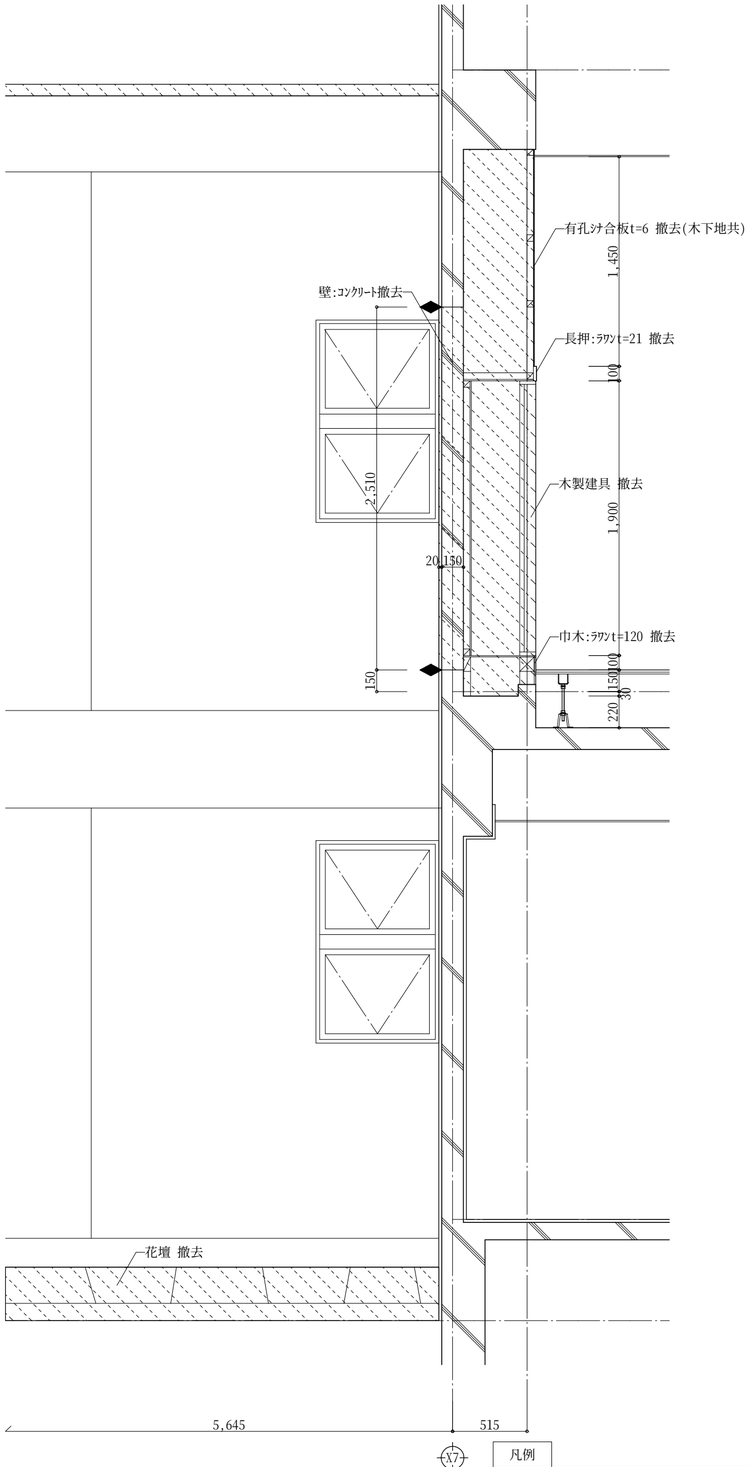
SCALE S=1/30

DATE '15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

増築トイレ 矩計図(1)

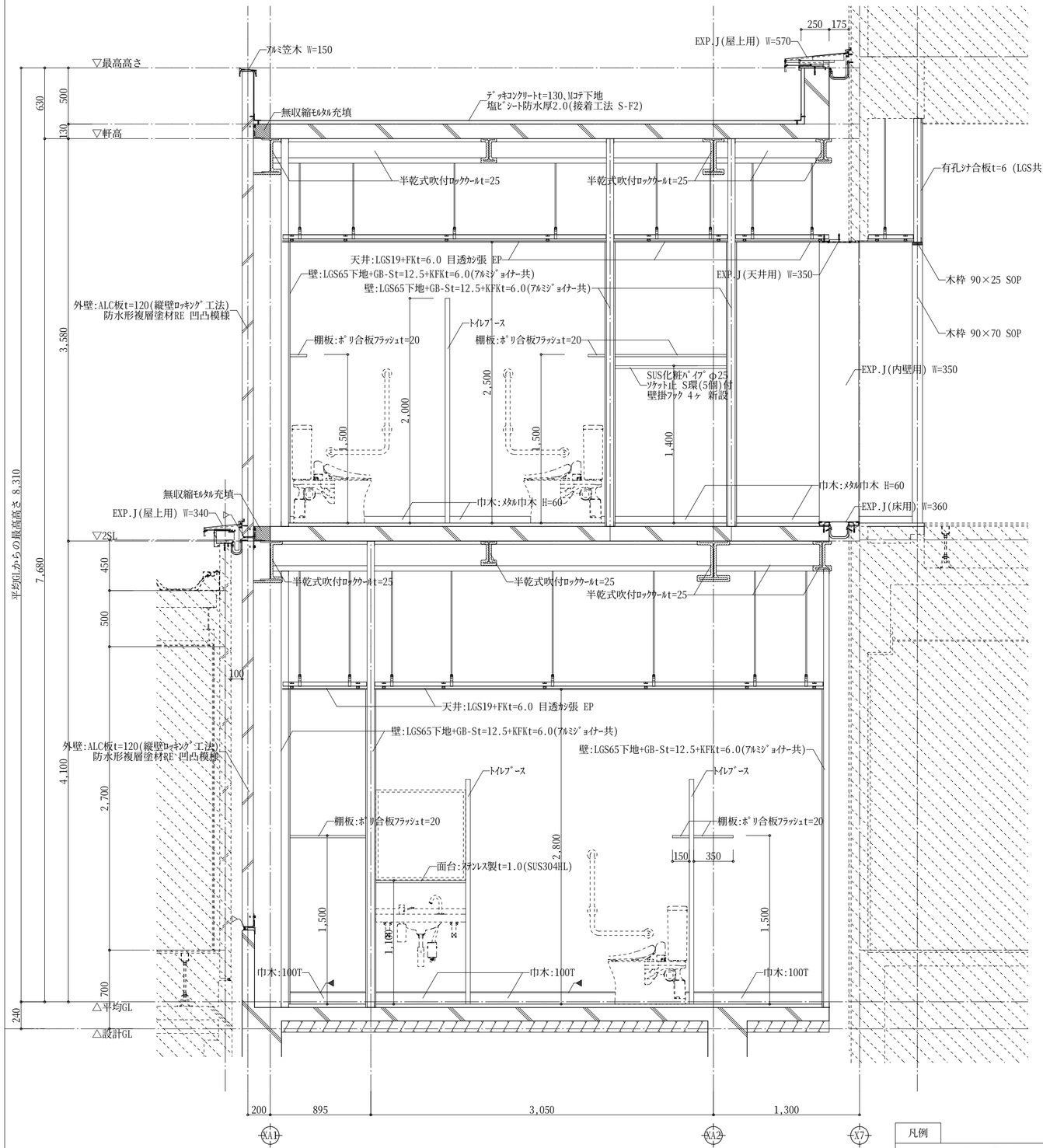
SHEET NO. A-34



改修前 B-B矩計図 S=1/30

凡例

	撤去範囲を示す
	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入れを示す



改修後 B-B矩計図 S=1/30

凡例

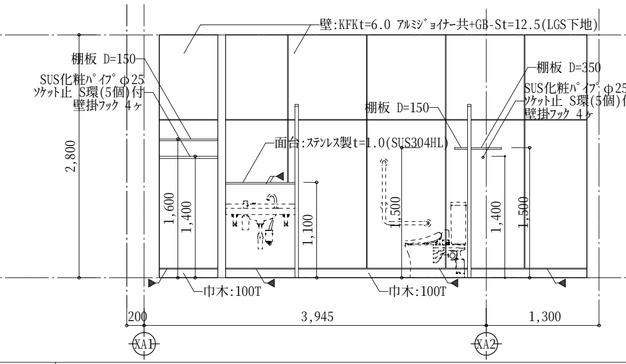
	既設範囲を示す
	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す
	ｼｰﾘﾝｸﾞ(AC-1)を示す

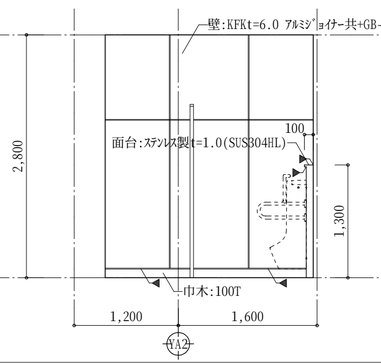
CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	DATE
			S=1/30	'15.08

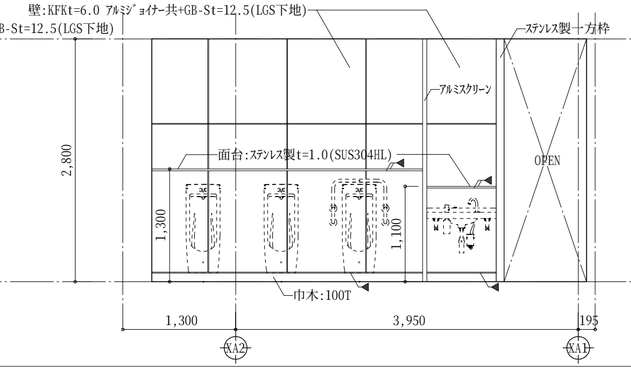
富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

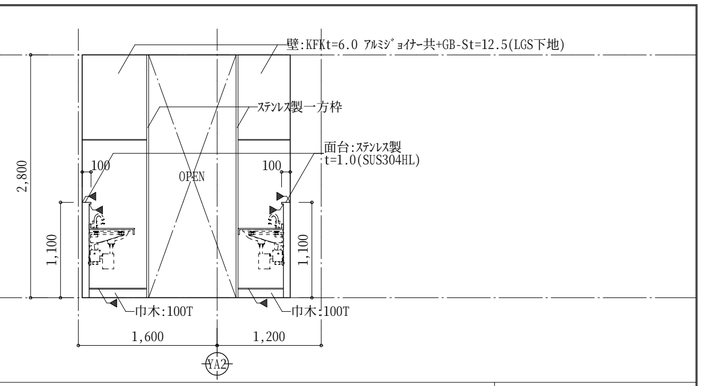
増築トイレ 矩計図(2)

SHEET NO. A-35

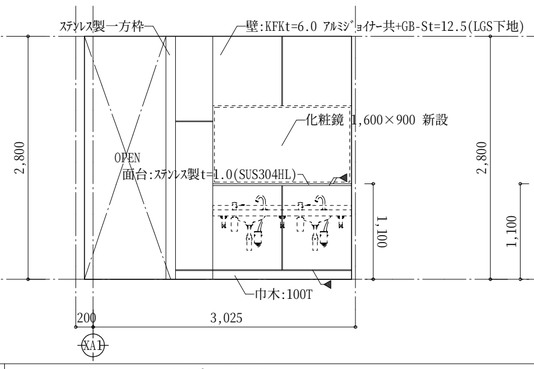


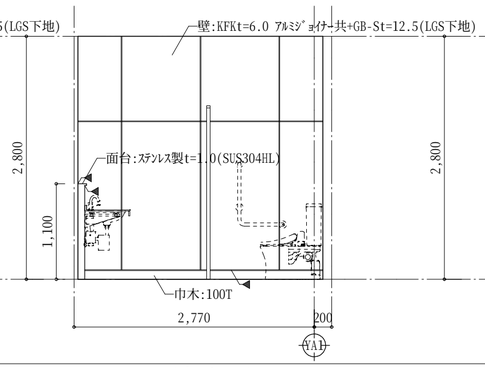


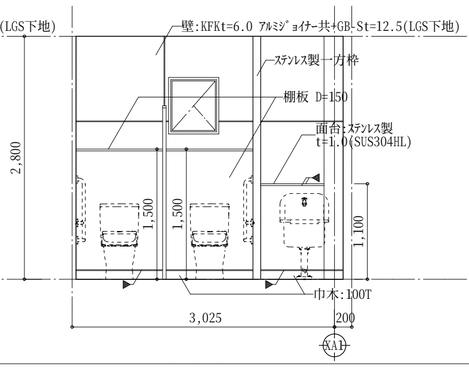


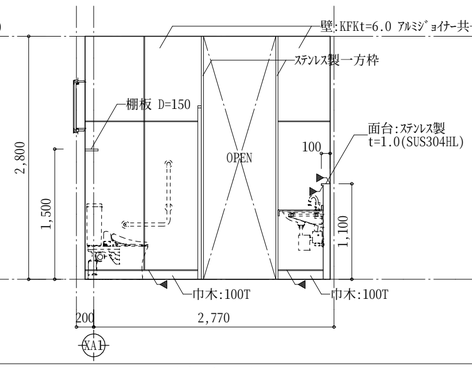


1階	A(男子ﾄｲﾚ)	B(男子ﾄｲﾚ)	C(男子ﾄｲﾚ)	D(男子ﾄｲﾚ)	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。

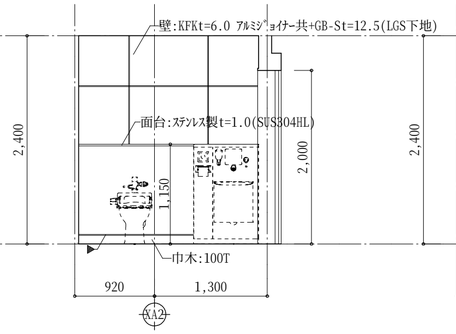


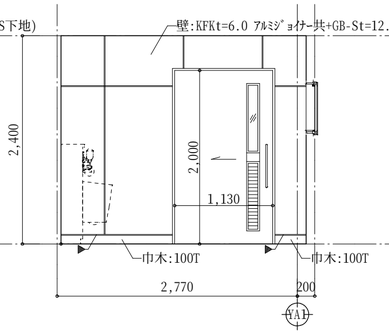


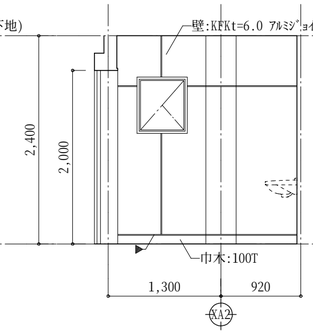


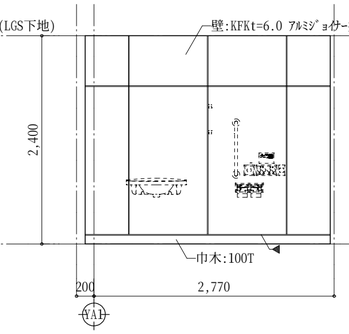


1階	A(女子ﾄｲﾚ)	B(女子ﾄｲﾚ)	C(女子ﾄｲﾚ)	D(女子ﾄｲﾚ)	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。

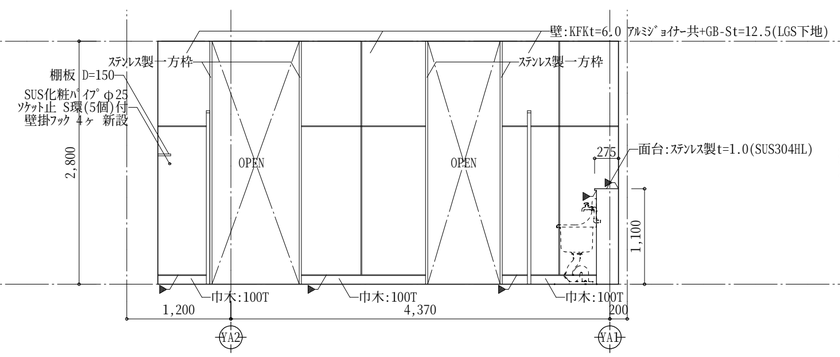


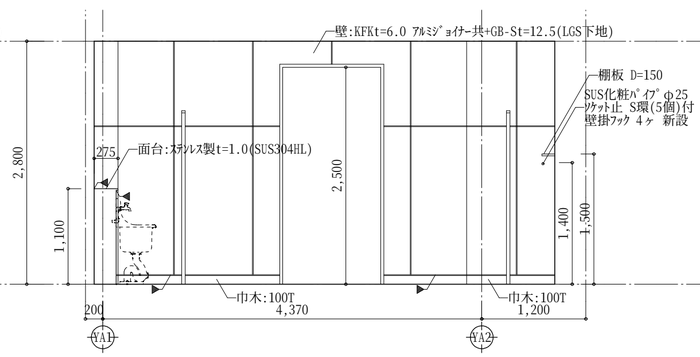






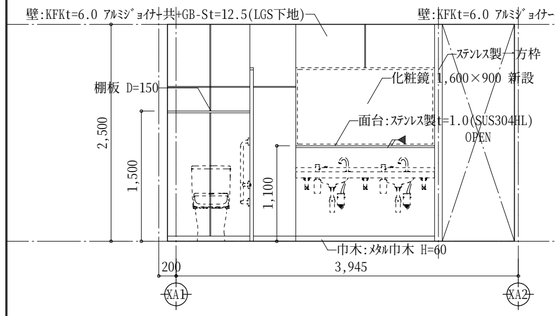
1階	A(多目的ﾄｲﾚ)	B(多目的ﾄｲﾚ)	C(多目的ﾄｲﾚ)	D(多目的ﾄｲﾚ)	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。

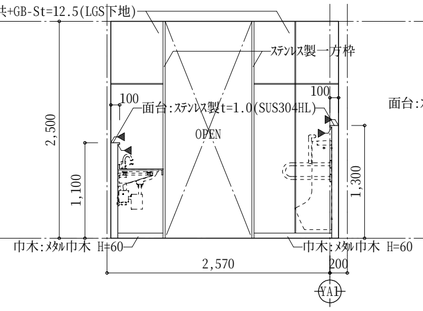


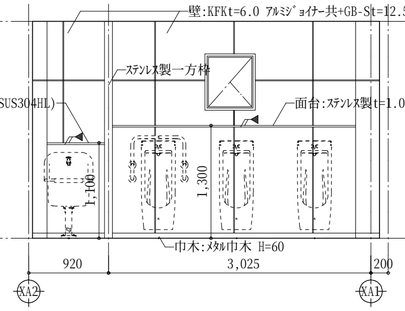


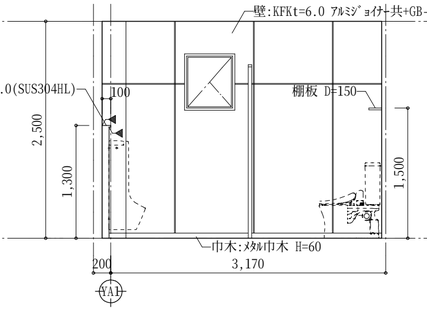
1階	B(前室)	D(前室)	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50	増築トイレ 展開図(1)	A-36
				DATE '15.08		

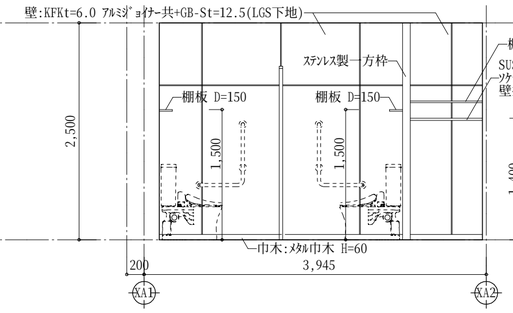


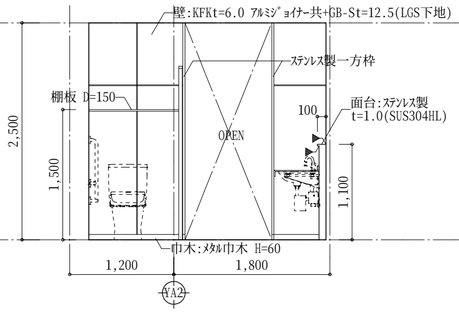


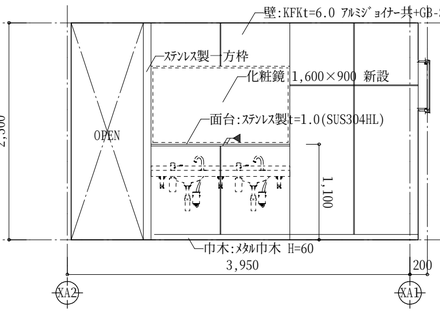


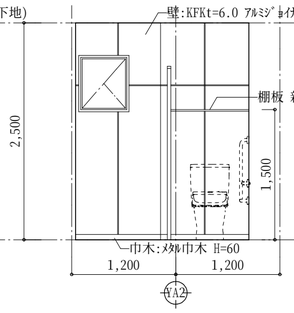


2階	A(男子ﾄｲﾚ)	B(男子ﾄｲﾚ)	C(男子ﾄｲﾚ)	D(男子ﾄｲﾚ)	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。

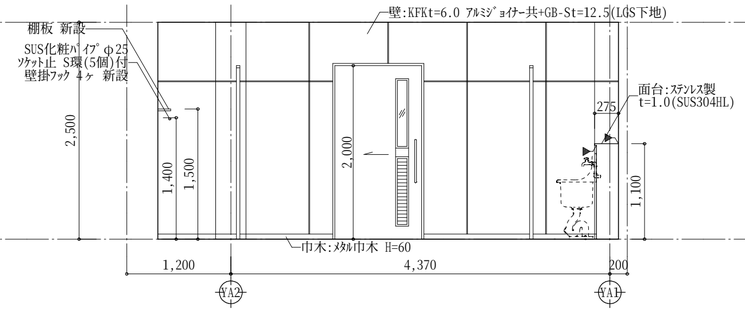


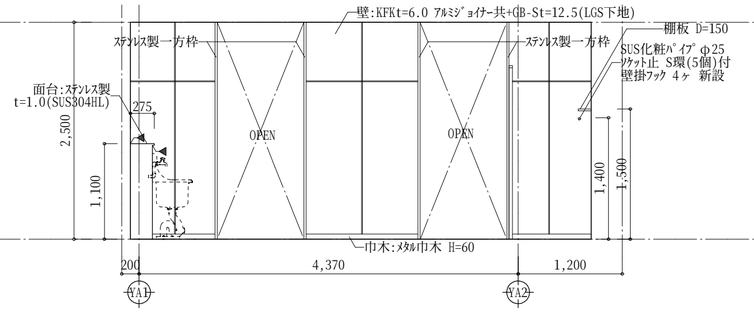




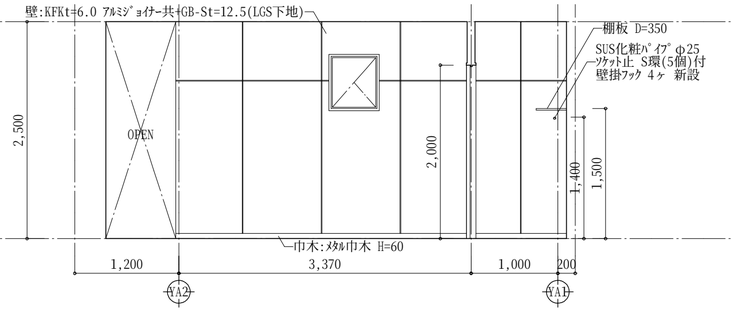


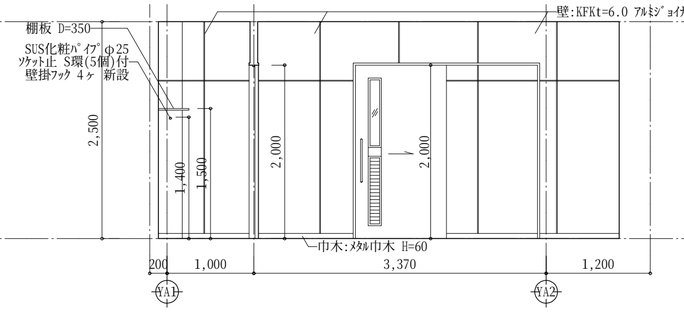
2階	A(女子ﾄｲﾚ)	B(女子ﾄｲﾚ)	C(女子ﾄｲﾚ)	D(女子ﾄｲﾚ)	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。





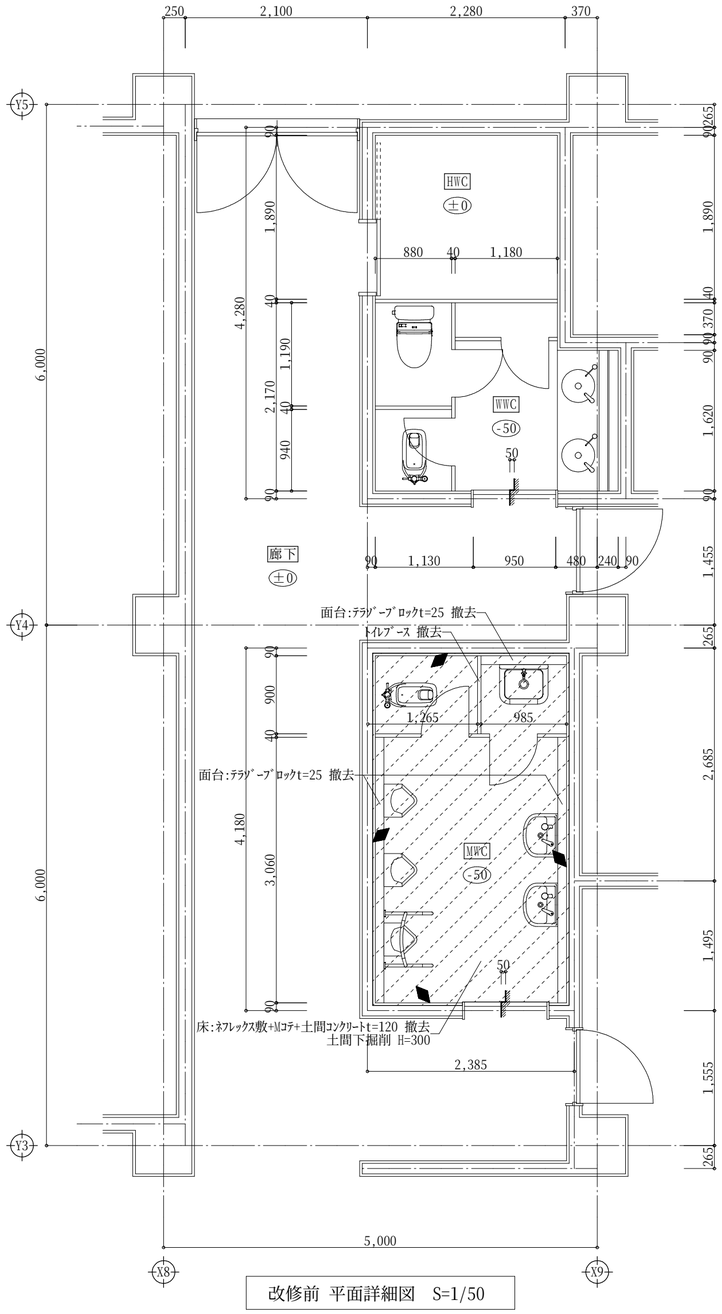
2階	B(前室)	D(前室)	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。





2階	B(通路)	D(通路)	ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。

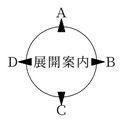
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		A-37
				DATE '15.08	増築トイレ 展開図(2)	

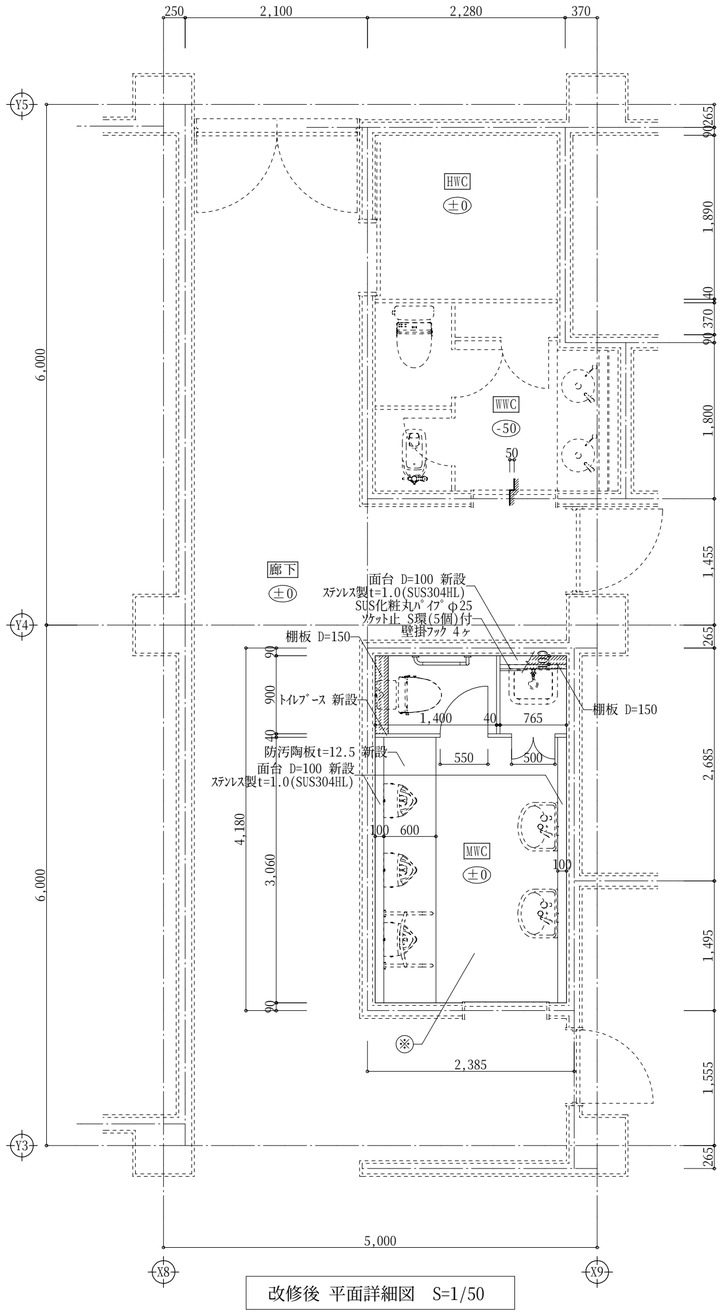


改修前 平面詳細図 S=1/50

凡例

改修範囲を示す	ｺﾝｸﾘｰﾄｶｯﾀｰ入



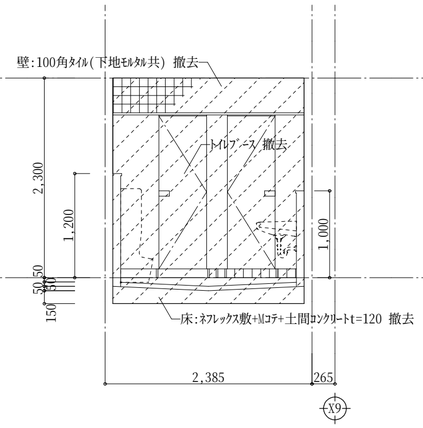


改修後 平面詳細図 S=1/50

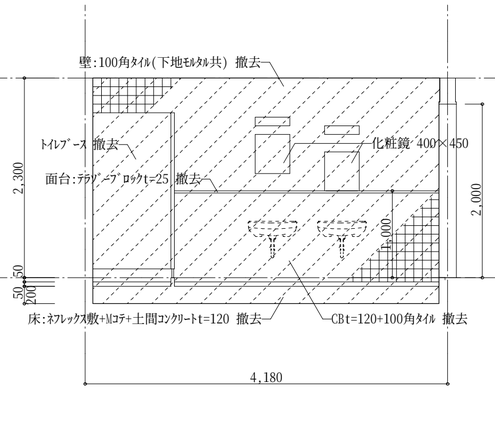
凡例

======= 既設範囲を示す	棚板:ﾎﾞﾘ合板ﾌﾗｯｼｭt=20 FL+1500
※	土間ｺﾝｸﾘｰﾄt=120金ｺﾞﾃ押えの 上LVSt=2.0 D10@200ﾀﾃﾖｺ共 周囲差筋ｱﾝｶｰD10@400 防湿ﾌｨﾙﾑt=0.15、砕石t=100

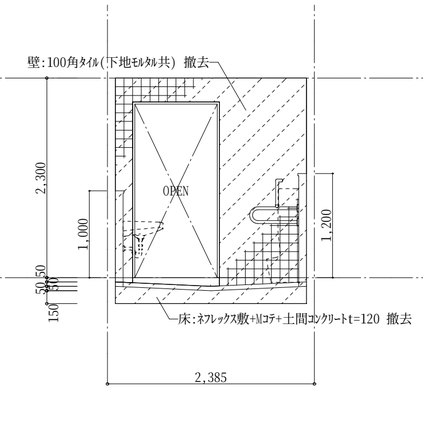
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50	改修前・後 1階便所平面詳細図	A-38
				DATE '15.08		



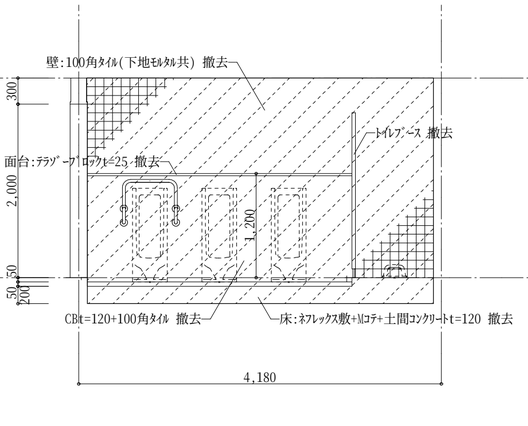
改修前展開図 A(MWC) S=1/50



改修前展開図 B(MWC) S=1/50

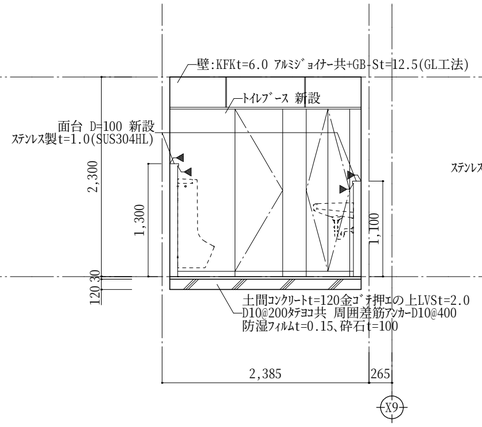


改修前展開図 C(MWC) S=1/50

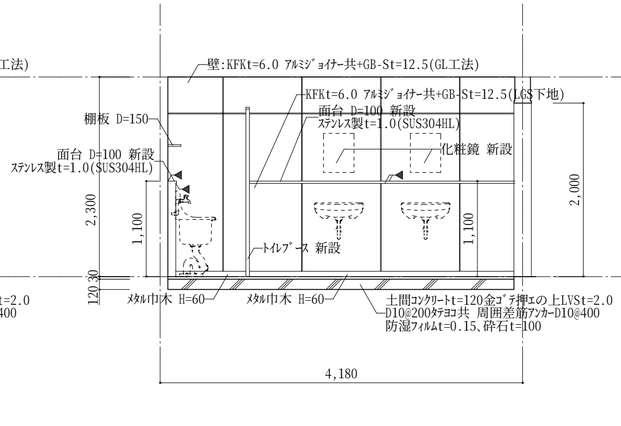


改修前展開図 D(MWC) S=1/50

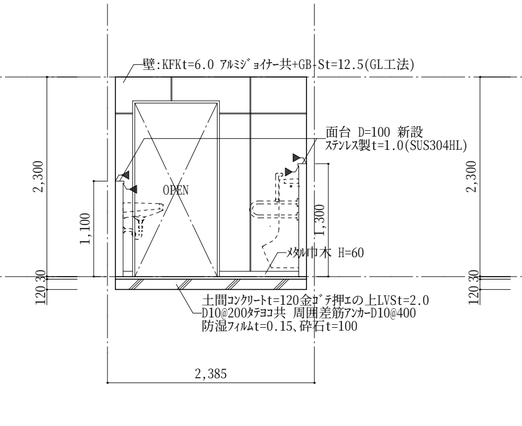
改修範囲を示す。



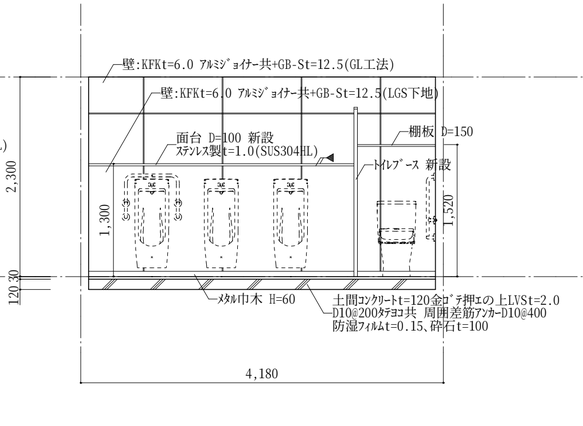
改修後展開図 A(MWC) S=1/50



改修後展開図 B(MWC) S=1/50



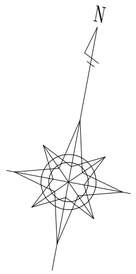
改修後展開図 C(MWC) S=1/50

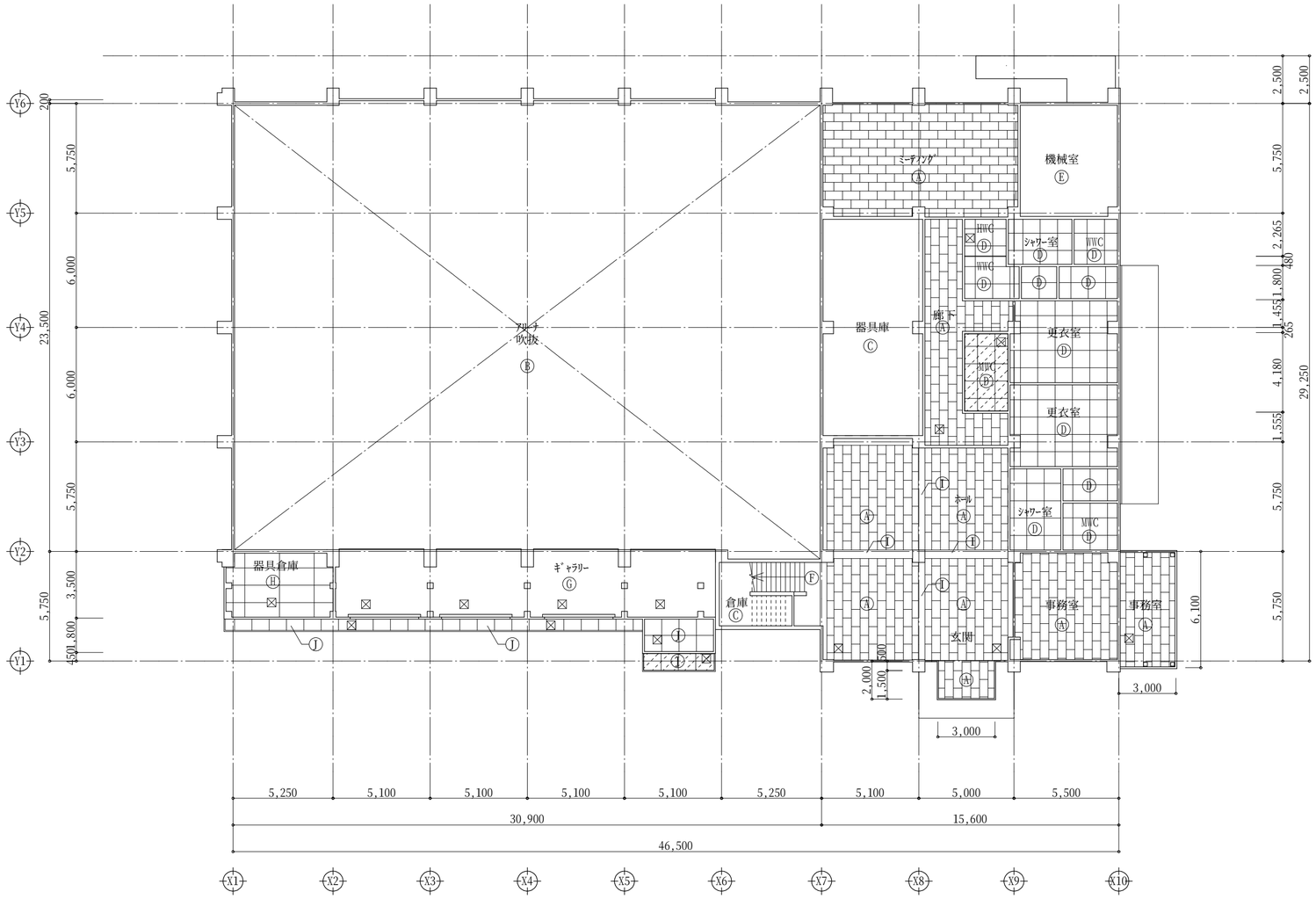


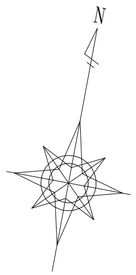
改修後展開図 D(MWC) S=1/50

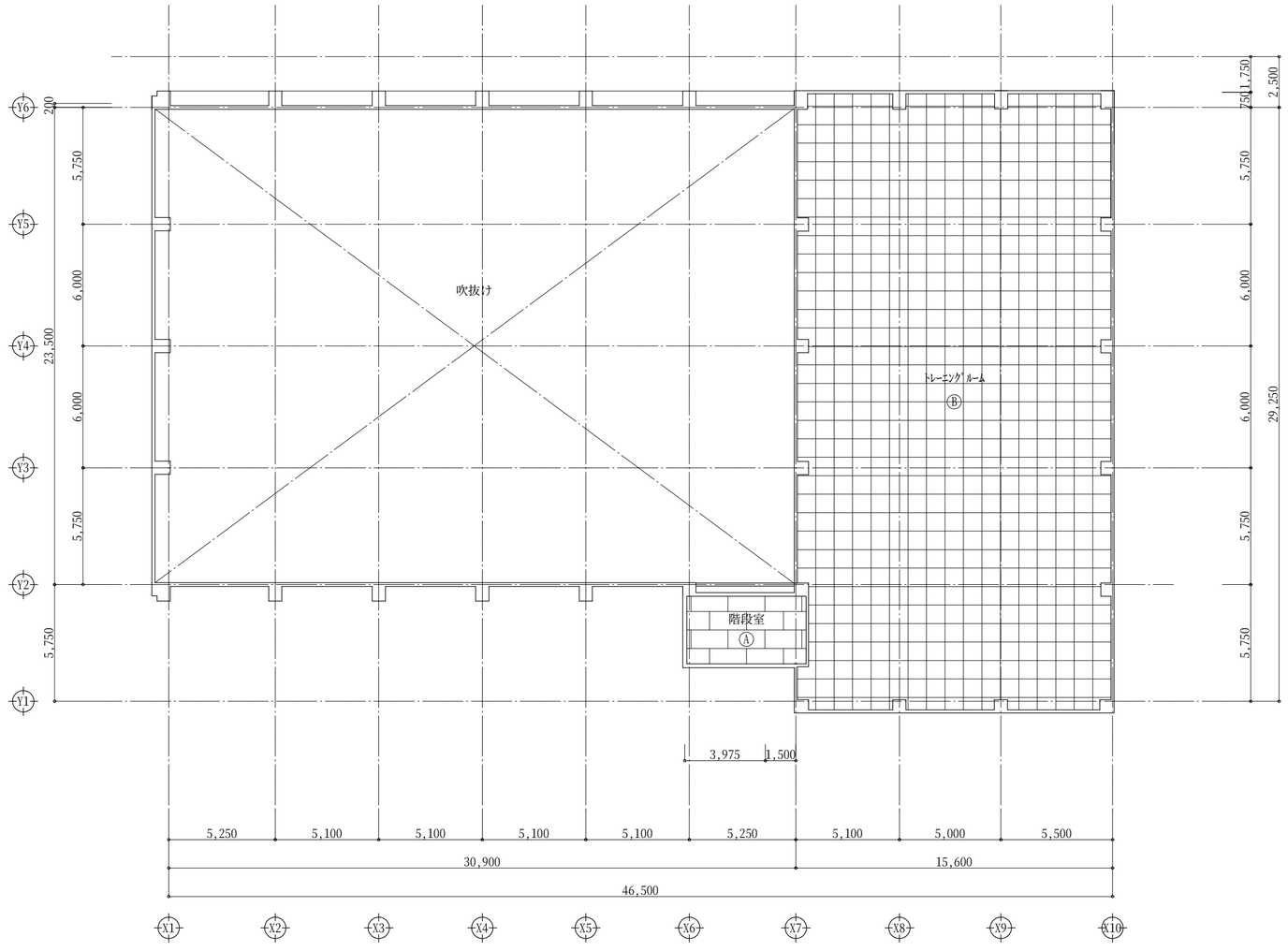
ｼｰﾘﾝｸﾞ(MS-2)を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		A-39
				DATE '15.08	改修前・後 1階便所展開図	




Y6
Y5
Y4
Y3
Y2
Y1
200
5,750
6,000
6,000
5,750
23,500
3,500
450
1,800
5,750
アリーナ
吹抜
B
器具庫
C
ミーティング
A
機械室
E
HWC
D
WWC
D
シャワー室
D
WWC
D
D
D



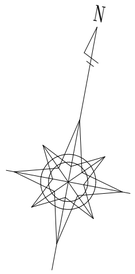


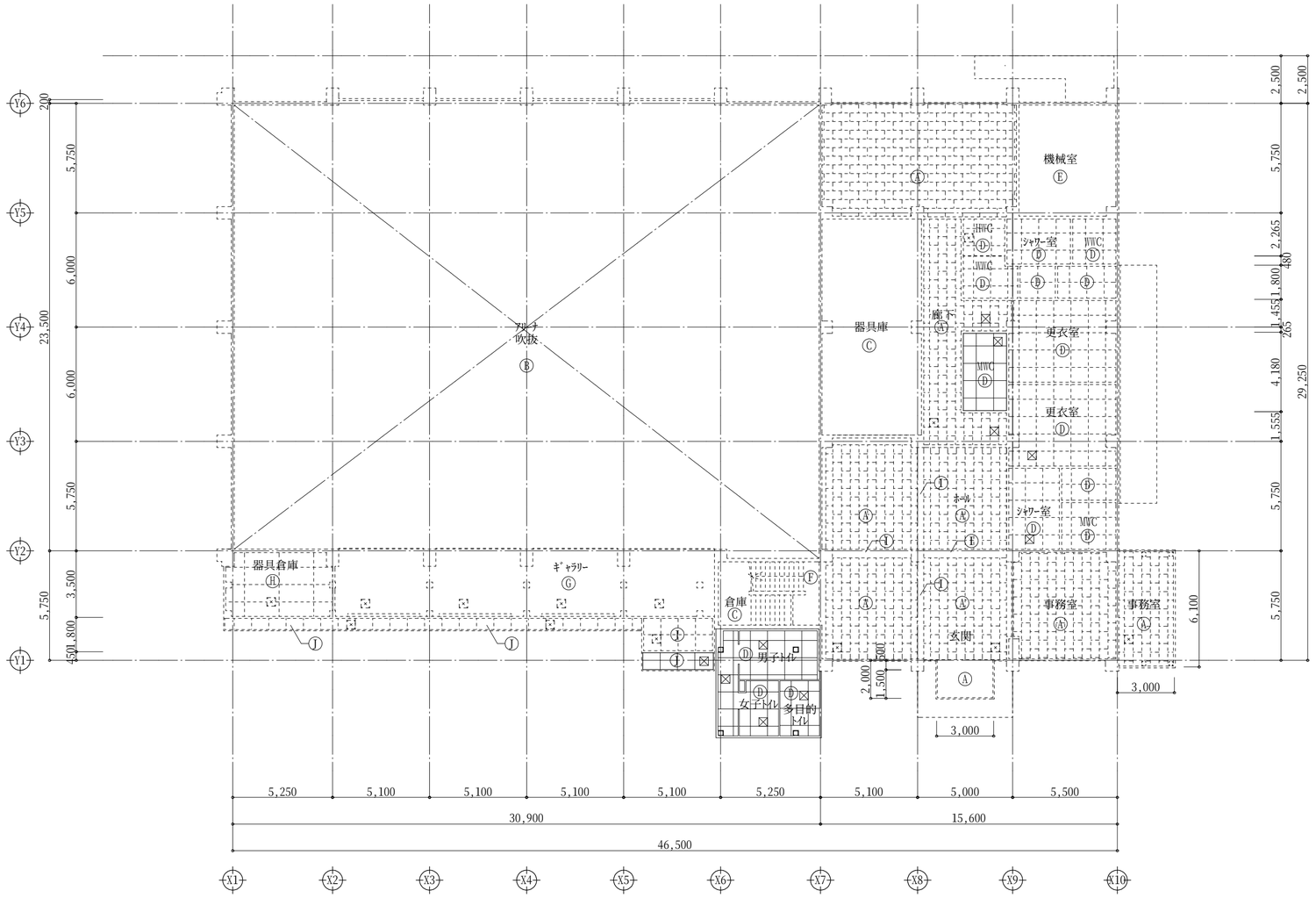
改修前　２階天井伏図　S=1/200

凡例

Ⓐ	GB-Dt=9.0(不燃認定第1004号)
Ⓑ	GB-P t=9.0(準不燃認定 第2006号)
	撤去範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200	改修前　２階天井伏図	A-41
				DATE '15.08		



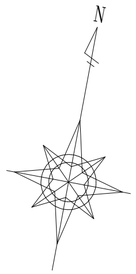


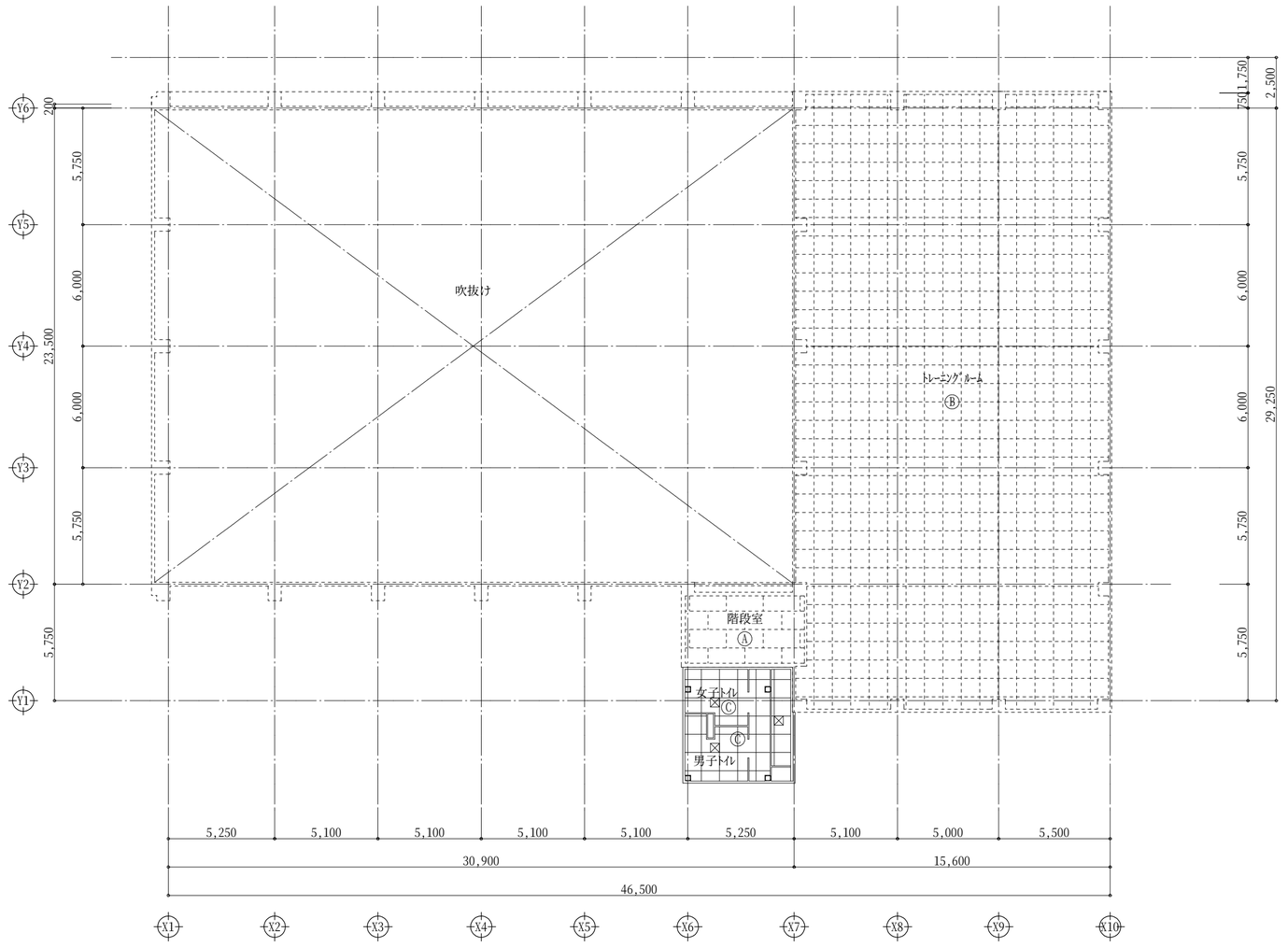
改修後　1階天井伏図　S=1/200

凡例

Ⓐ	既設のまま
Ⓑ	既設のまま
Ⓒ	既設のまま
Ⓓ	FKt=6 目透かし貼 EP(LGS下地共) 新設
Ⓔ	既設のまま
Ⓕ	既設のまま
Ⓖ	既設のまま
Ⓗ	既設のまま
Ⓘ	既設のまま
Ⓙ	軒天:FKt=12+12(ｼﾞｮｲﾝﾄﾃｰﾌﾟ貼)・ｱｸﾘﾙﾘｼﾝ吹付 新設
☒	天井点検口 ｱﾙﾐ枠 600×600 新設
：＝＝＝：	既設範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-42
				DATE '15.08	改修後　1階天井伏図	



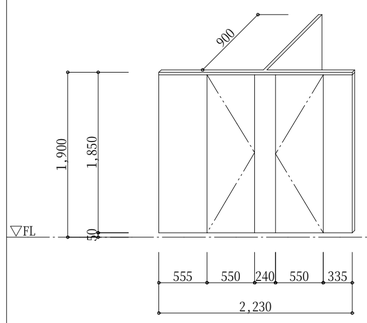
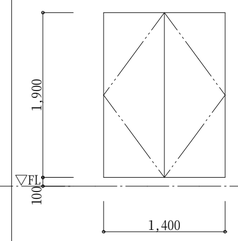
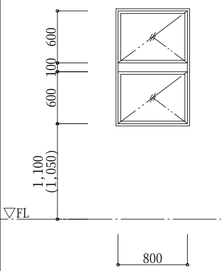
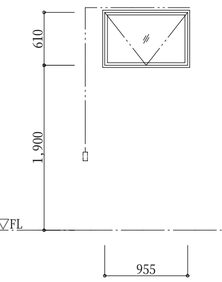


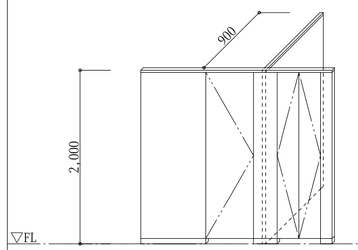
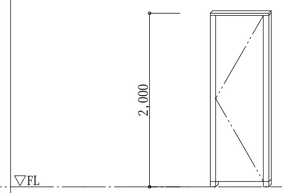
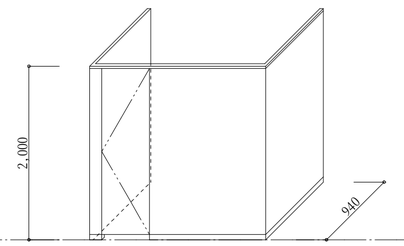
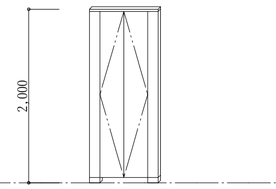
改修後　２階天井伏図　S=1/200

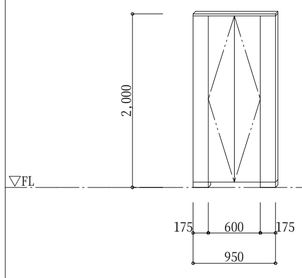
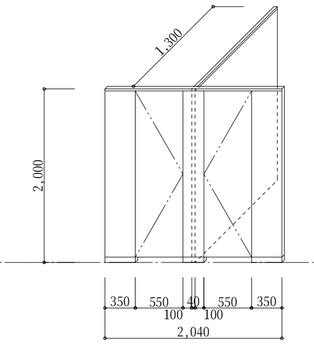
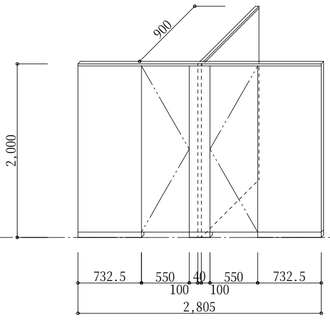
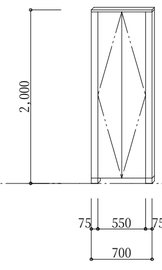
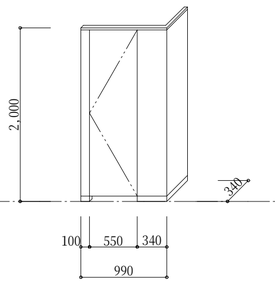
凡例

Ⓐ	既設のまま
Ⓑ	既設のまま
Ⓒ	FKt=6 目透かし貼 EP(LGS下地共) 新設
☒	天井点検口 ｱﾙﾐ枠 600×600 新設
:::::	既設範囲を示す。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		A-43
				DATE '15.08	改修後　２階天井伏図	

符号・位置・数量	① TB	② TB	① TB 1階MWC 1	① WD トレーニングルーム 1	① AW 1・2階階段室	② AW 1階玄関 1
撤去処分 建具姿図	欠番	欠番			 ※( )内は2階寸法を示す。	
型式・見込			トイレブース 36	両開きフラッシュ戸 40	2段滑り出し窓 40	内倒し窓 40
仕　上			シナ合板 OP	シナ合板 OP	アルミ アルマイト仕上	アルミ アルマイト仕上
ガラス			-	-	網入り型板ガラス t=6.8	透明ガラス t=5.0
金　物			ラッチ丁番、ラバトリーヒンジ、握手、戸当り、帽子掛、内ロック表示付	丁番、取手	付属金物一式	付属金物一式
備　考						

符号・位置・数量	① TB	② TB 1階MWC 1	③ TB 1階男子トイレ 1	④ TB 1階男子トイレ 1	⑤ TB 1階男子トイレ 1
新設・改修 建具姿図	欠番				
型式・見込		トイレブース 40	トイレブース 40	トイレブース 40	トイレブース 40
仕　上		メラミン化粧合板	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板
ガラス		-	-	-	-
金　物		グレビティヒンジ(中心吊型)、表示付スライドラッチ、戸当帽子掛、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式	グレビティヒンジ(中心吊型)、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式	グレビティヒンジ(中心吊型)、表示付スライドラッチ、戸当帽子掛、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式	グレビティヒンジ(中心吊型)、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式
備　考					

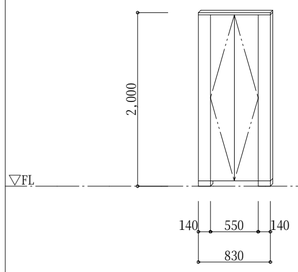
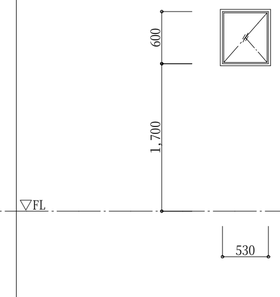
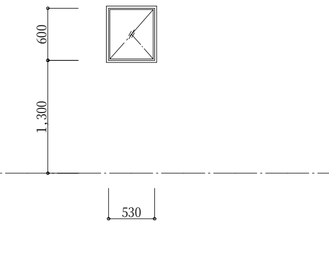
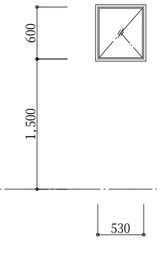
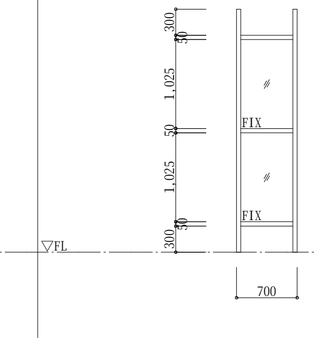
符号・位置・数量	⑥ TB 1階女子トイレ 1	⑦ TB 1階女子トイレ 1	⑧ TB 2階女子トイレ 1	⑨ TB 2階女子トイレ 1	⑩ TB 2階男子トイレ 1
新設・改修 建具姿図					
型式・見込	トイレブース 40	トイレブース 40	トイレブース 40	トイレブース 40	トイレブース 40
仕　上	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板	メラミン化粧合板
ガラス	-	-	-	-	-
金　物	グレビティヒンジ(中心吊型)、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式	グレビティヒンジ(中心吊型)、表示付スライドラッチ、戸当帽子掛、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式	グレビティヒンジ(中心吊型)、表示付スライドラッチ、戸当帽子掛、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式	グレビティヒンジ(中心吊型)、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式	グレビティヒンジ(中心吊型)、表示付スライドラッチ、戸当帽子掛、頭ツナギ、笠木キャップ、小口:アルミアールエッジ、ステンレス巾木、付属金物一式
備　考					

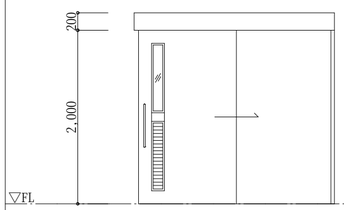
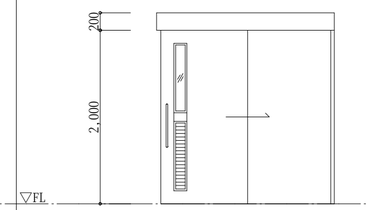
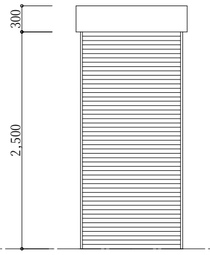
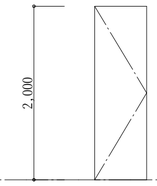
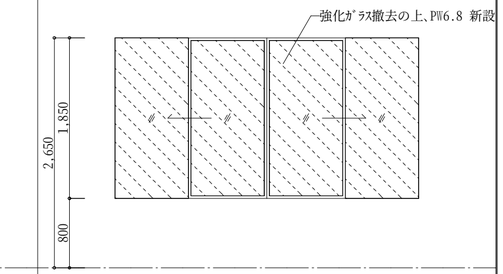
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	DATE
				S=1/50	'15.08

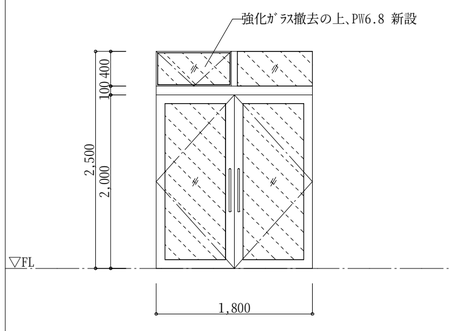
富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

改修前・後 建具表(1)

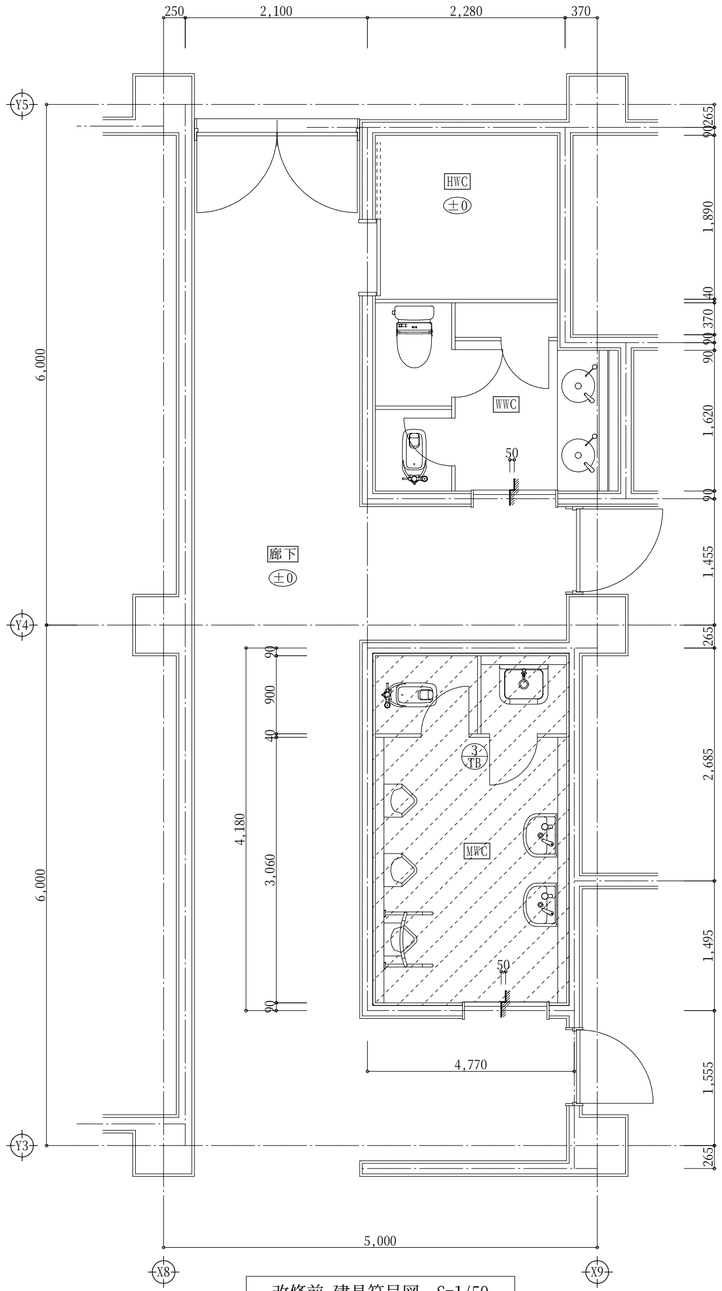
SHEET NO. A-44

符号・位置・数量	11 TB 2階男子ﾄｲﾚ	1	1 AW 1階女子ﾄｲﾚ	1	2 AW 1階多目的ﾄｲﾚ	1	3 AW 2階男子ﾄｲﾚ、2階女子ﾄｲﾚ、廊下	4	1 AS 1階男子ﾄｲﾚ	1
新設・改修 建具姿図										
型式・見込	ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	40	縦滑り出し窓	70	縦滑り出し窓	70	縦滑り出し窓	70	ｱﾙﾐｽｸﾘｰﾝ	50
仕　上	ﾒﾗﾐﾝ化粧合板		電解二次着色(つや消し)		電解二次着色(つや消し)		電解二次着色(つや消し)		ｼﾙﾊﾞｰ	
ガラス	-		FL3		FL3		FL3		型板強化ｶﾞﾗｽ t=4	
金　物	ｸﾞﾚﾋﾟﾃｨﾋﾝｼﾞ(中心吊型)、頭ﾂﾌｷﾞ、笠木ｷｬｯﾌﾟ、小口:ｱﾙﾐﾌｰﾙｴｯｼﾞ、ｽﾃﾝﾚｽ巾木、付属金物一式		滑り出し金物一式、取付金物一式		滑り出し金物一式、取付金物一式		滑り出し金物一式、取付金物一式			
備　考										

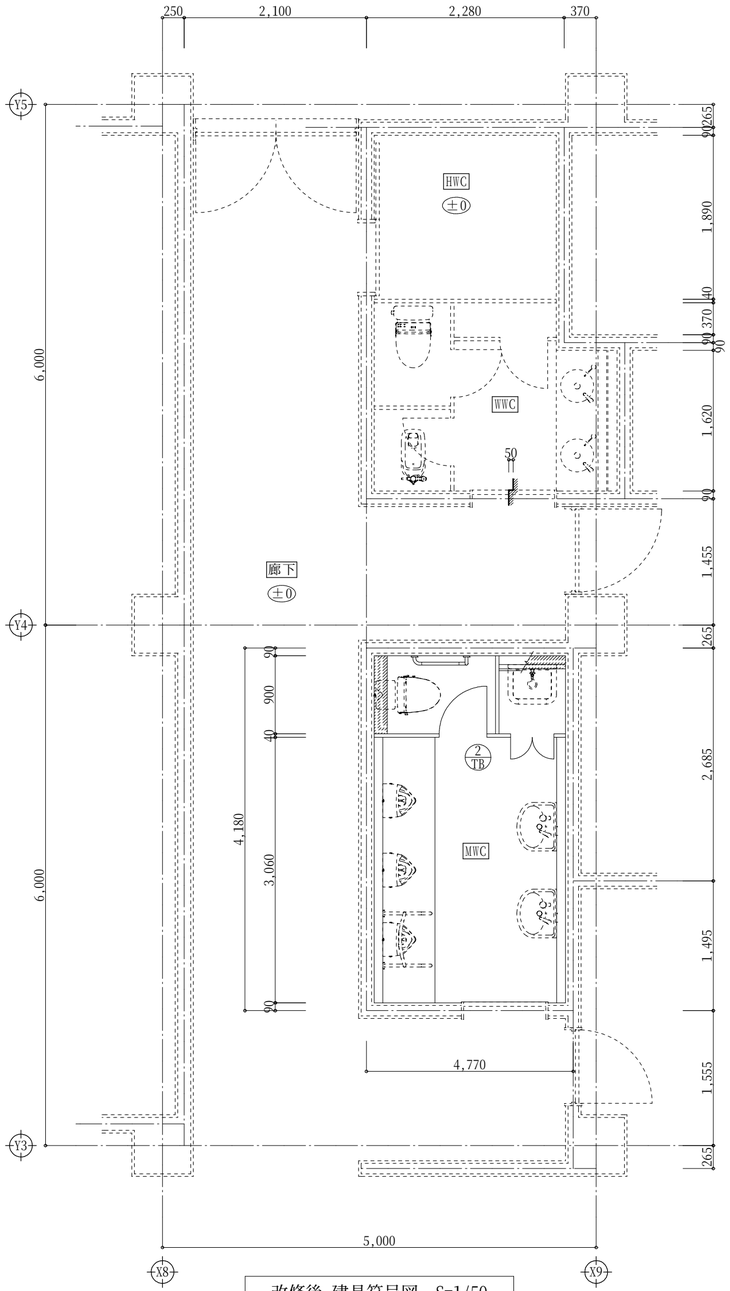
符号・位置・数量	1 LSD 1階多目的ﾄｲﾚ	1	2 LSD 通路	1	1 LS 1階男子ﾄｲﾚ	1	1 WD 通路	1	1 SW ｷﾞｬﾗﾘｰ	1
新設・改修 建具姿図										
型式・見込	片引き軽量ｽﾁｰﾙ製ﾊﾝｶﾞｰ戸	扉:40 枠:200	片引き軽量ｽﾁｰﾙ製ﾊﾝｶﾞｰ戸	扉:40 枠:200	手動式軽量ｼｬｯﾀｰ(内巻き)		片開きﾌﾗｯｼｭ戸	40	引分けｽﾁｰﾙ窓	40
仕　上	亜鉛めっき鋼板 t=0.6		亜鉛めっき鋼板 t=0.6 SOP		ｶﾗｰ鋼板t=0.5		ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ		ｽﾁｰﾙ・OP	
ガラス	型板強化ｶﾞﾗｽ t=4		型板強化ｶﾞﾗｽ t=4		-		-		強化ｶﾞﾗｽ FL8 撤去の上、PW6.8 新設	
金　物	ﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、ｻﾑﾀｰﾝ、表示錠、指詰防止仕様、ｽﾃﾝﾚｽ沓摺t=1.5、ﾊﾝｶﾞｰ金物一式		ﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、指詰防止仕様、ｽﾃﾝﾚｽ沓摺t=1.5、ﾊﾝｶﾞｰ金物一式		ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、水切、ｹｰｽ、手掛ｹ		丁番、握り玉		付属金物一式	
備　考									ｽﾃﾝﾚｽ製網戸	

符号・位置・数量	1 AD 昇降口	1
新設・改修 建具姿図		
型式・見込	外倒しﾗﾝﾏ付両開きﾄﾞｱ	70
仕　上	ｱﾙﾐｼﾙﾊﾟｰ	
ガラス	強化ｶﾞﾗｽ FL8 撤去の上、PW6.8 新設	
金　物	丁番、DC、押棒、ﾌﾗﾝｽ落し、ﾗﾝﾏ操作ﾁｪｰﾝ	
備　考		

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE S=1/50	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO. A-45
				DATE '15.08	改修前・後 建具表(2)	

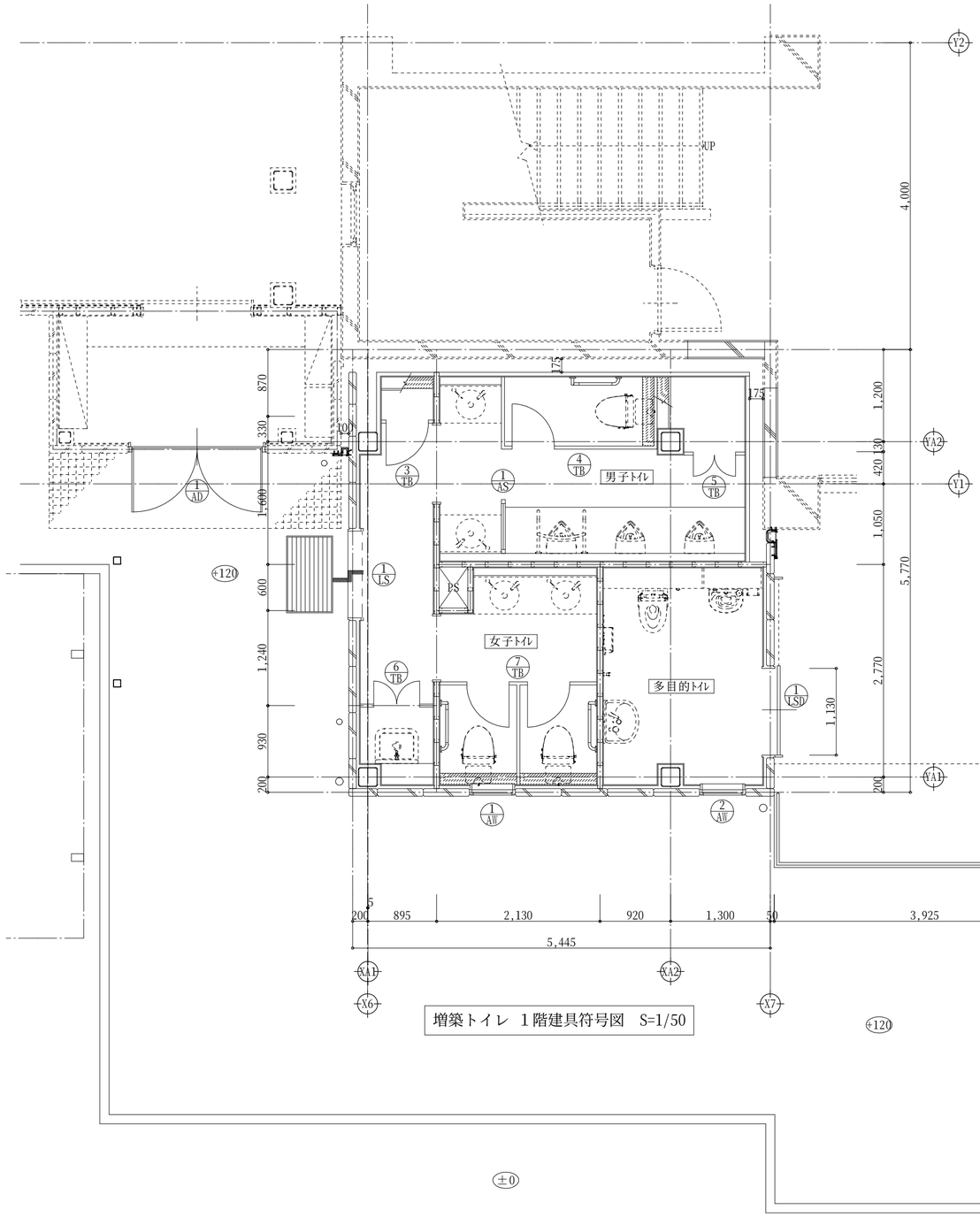


改修前 建具符号図　S=1/50

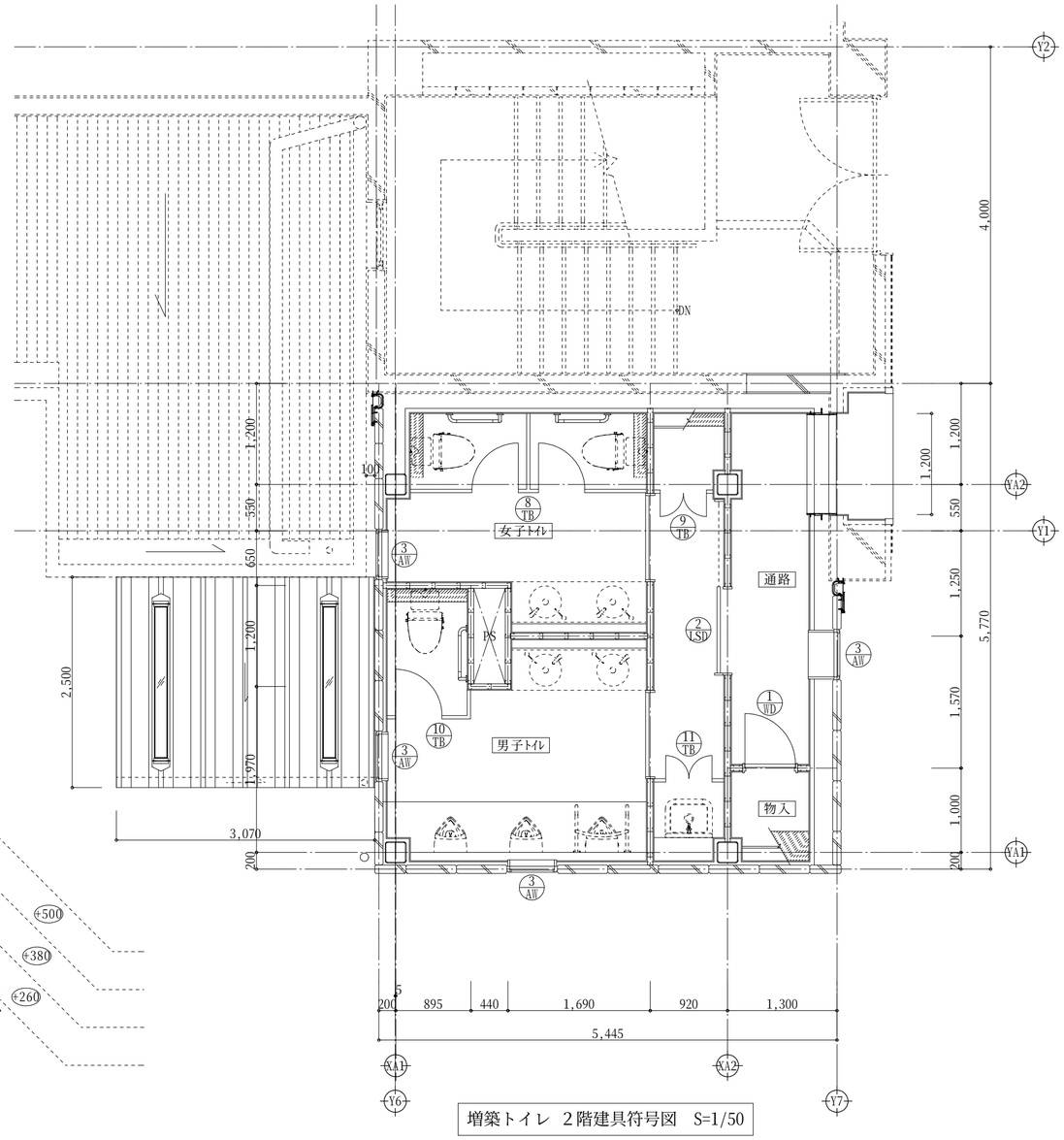


改修後 建具符号図　S=1/50

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		A-46
				DATE '15.08	建具符号図(1)	



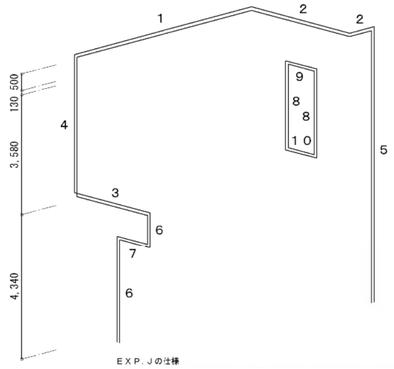
増築トイレ　１階建具符号図　S=1/50



増築トイレ　２階建具符号図　S=1/50

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		A-47
				DATE '15.08	建具符号図(2)	

ＥＸＰ．Ｊ キープラン

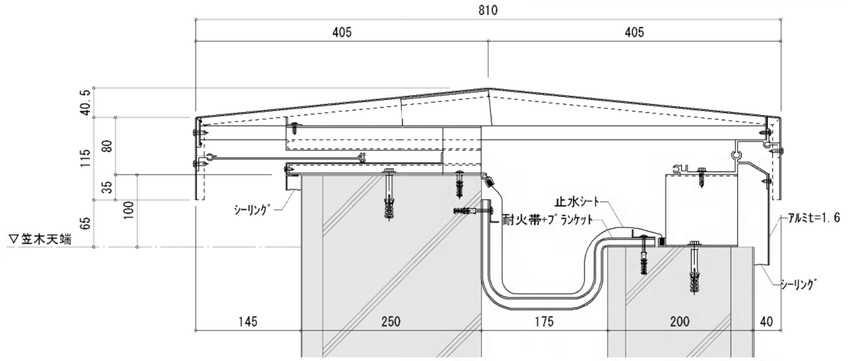


ＥＸＰ．Ｊの仕様

・ＥＸＰ．Ｊシステムに於いては、ＳＵＳ製、三次元可動方式とする。
・ＥＸＰ．Ｊのクリアランスは2F以上は175㎜、可動値外部±100㎜、内部±75㎜仕様とする。
　1Fはクリアランス100㎜、可動値±50㎜とする。
・構造体が変位時に脱落・破損が無い事を確認出来る仕様とする。
＊以上の点を留意し、各仕様毎の条件を厳守する事により各性能を保持する事。
（パラキャップ社 ﾊﾟﾗEX-U100mm・75mm可動シリーズ同等以上の性能を有する事）

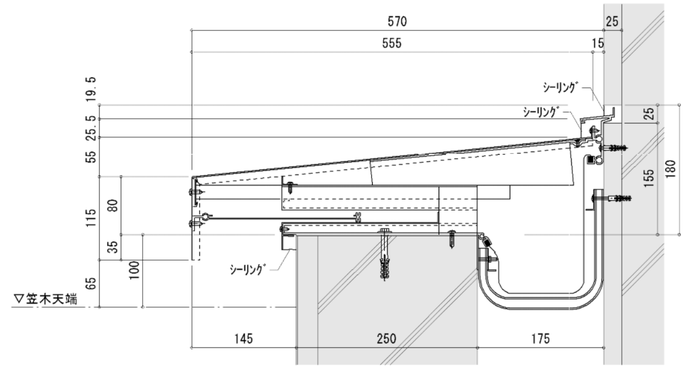
1 屋上用 SUS304 t=1.5 HL（U&UPRO-AF175-100同等以上）

・ジョイントは本体曲げ箱目地ジョイント方式とし、ジョイント材仕様は不可とする。
・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする
・端末小口は全面可動式小口蓋とし、一部分的可動は不可とする。
・（一部分的可動ではＸＹＺ三次元連動に対応出来ない為）
・止水シートは、Ｙ方向可動用レール使用の事。
・可動式回転軸仕様とする（Ｚ方向可動対策）
・カバー・下地材にて外部と内部を遮断し、
　下地材及びゴムを取付ける為に隙間が生ずる事のないようにする。（気密性を高める）
・下地は、立骨方式とる。



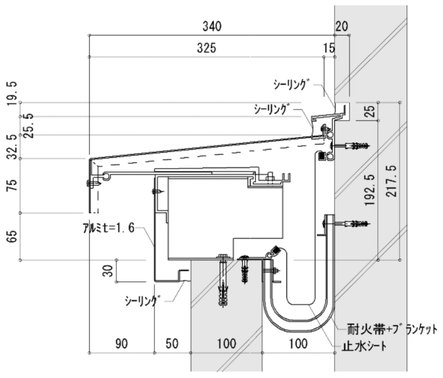
2 屋上用 SUS304 t=1.5 HL（DKRAO-AF175-100同等以上）

・ジョイントは本体曲げ箱目地ジョイント方式とし、ジョイント材仕様は不可とする。
・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする
・端末小口は全面可動式小口蓋とし、一部分的可動は不可とする。
・（一部分的可動ではＸＹＺ三次元連動に対応出来ない為）
・止水シートは、Ｙ方向可動用レール使用の事。
・可動式回転軸仕様とする（Ｚ方向可動対策）
・カバー・下地材にて外部と内部を遮断し、
　下地材及びゴムを取付ける為に隙間が生ずる事のないようにする。（気密性を高める）
・下地は、立骨方式とる。



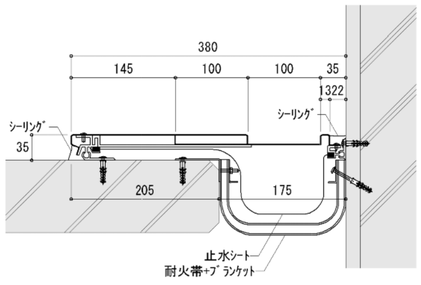
3 屋上用 SUS304 t=1.5 HL（U&UPRO-AF100-50同等以上）

・ジョイントは本体曲げ箱目地ジョイント方式とし、ジョイント材仕様は不可とする。
・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする
・端末小口は全面可動式小口蓋とし、一部分的可動は不可とする。
・（一部分的可動ではＸＹＺ三次元連動に対応出来ない為）
・止水シートは、Ｙ方向可動用レール使用の事。
・可動式回転軸仕様とする（Ｚ方向可動対策）
・カバー・下地材にて外部と内部を遮断し、
　下地材及びゴムを取付ける為に隙間が生ずる事のないようにする。（気密性を高める）



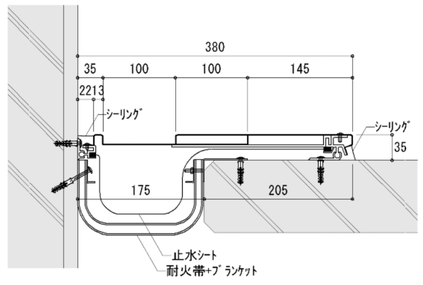
4 外壁用 SUS304 t=1.2 HL（UZR-AF175-100同等以上）

ジョイントは本体同士の差込み方式（印籠方式）とし、
ジョイント材使用は不可とする。
・下地は、可動式回転軸仕様(Y方向可動対策)。
　カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする。
　又、カバーは２枚パネル方式とし、１枚パネル方式は不可とする。
・外部に於いては、変位時に僅かでも隙間を発生させない事
　（よって、１枚パネル方式は不可）



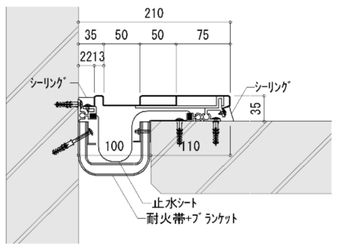
5 外壁用 SUS304 t=1.2 HL（UZR-AF175-100同等以上）

ジョイントは本体同士の差込み方式（印籠方式）とし、
ジョイント材使用は不可とする。
・下地は、可動式回転軸仕様(Y方向可動対策)。
　カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする。
　又、カバーは２枚パネル方式とし、１枚パネル方式は不可とする。
・外部に於いては、変位時に僅かでも隙間を発生させない事
　（よって、１枚パネル方式は不可）



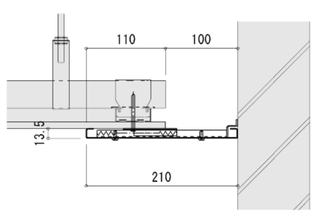
6 外壁用 SUS304 t=1.0 HL（UZR-AF100-50同等以上）

ジョイントは本体同士の差込み方式（印籠方式）とし、
ジョイント材使用は不可とする。
・下地は、可動式回転軸仕様(Y方向可動対策)。
　カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする。
　又、カバーは２枚パネル方式とし、１枚パネル方式は不可とする。
・外部に於いては、変位時に僅かでも隙間を発生させない事
　（よって、１枚パネル方式は不可）



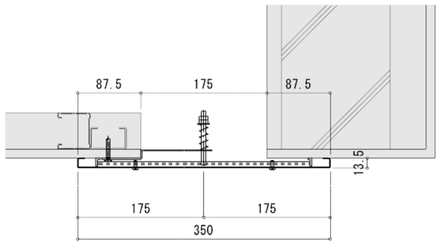
7 軒天用 SUS304 t=1.0 HL（DCIN100-50同等以上）

・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする
・非破壊端末アジャスト装置付きとする（Ｙ方向への変位量確保）
・単純な片側固定方式にはしない事（Ｚ方向可動時に隙間が
　生ずる事のない事・カバーにたわみが発生しない事）



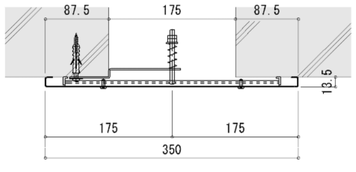
8 内壁用 SUS304 t=1.2 HL（DB175-75同等以上）

・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする
・非破壊端末アジャスト装置付きとする（Ｚ方向への変位量確保）
・単純な片側固定方式にはしない事（Ｙ方向可動時に隙間が
　生ずる事のない事・カバーにたわみが発生しない事）



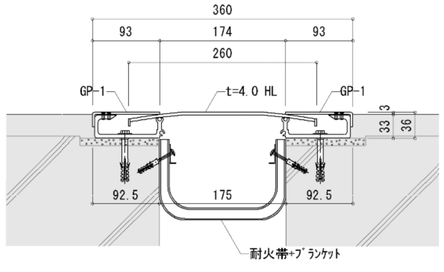
9 天井用 SUS304 t=1.2 HL（DB175-75同等以上）

・カバーはビス止め方式とし、嵌合方式は不可とする
・非破壊端末アジャスト装置付きとする（Ｙ方向への変位量確保）
・単純な片側固定方式にはしない事（Ｚ方向可動時に隙間が
　生ずる事のない事・カバーにたわみが発生しない事）

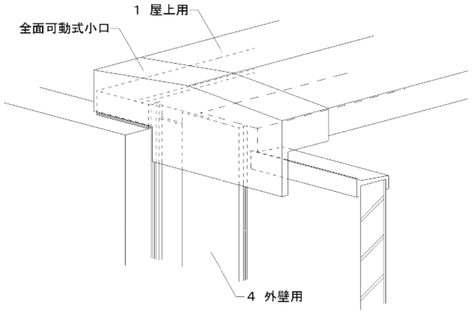


10 床用 SUS304 t=3.0 GP-1（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ）・ｾﾝﾀｰｶﾊﾞｰ t=4.0 HL（UF-AF175-75同等以上）

・非破壊端末アジャスト装置付きとする
・スライドカバーの接点はステンレスとし、アルミ及びゴム系は
　不可とする（荷重はステンレス製シャフトにて受ける事とする）



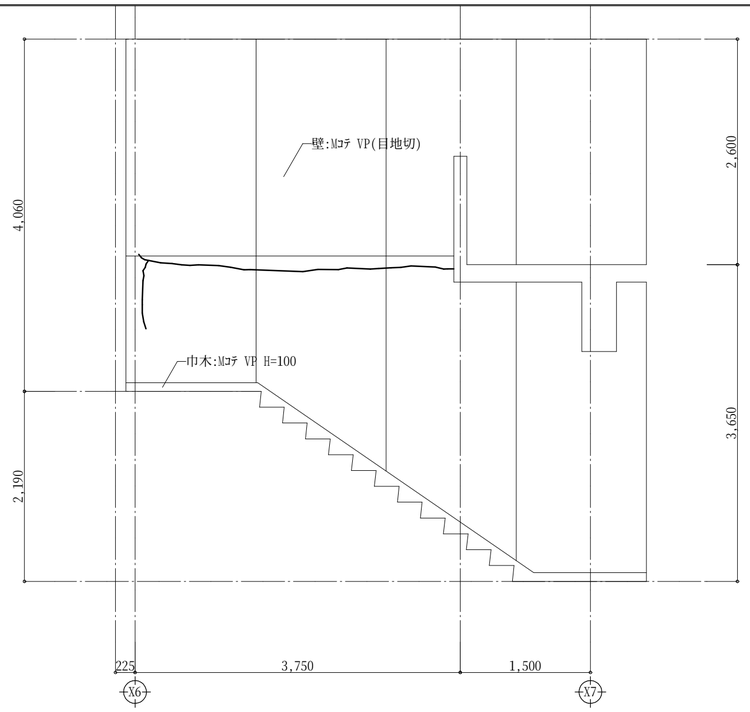
屋上小口納まり図



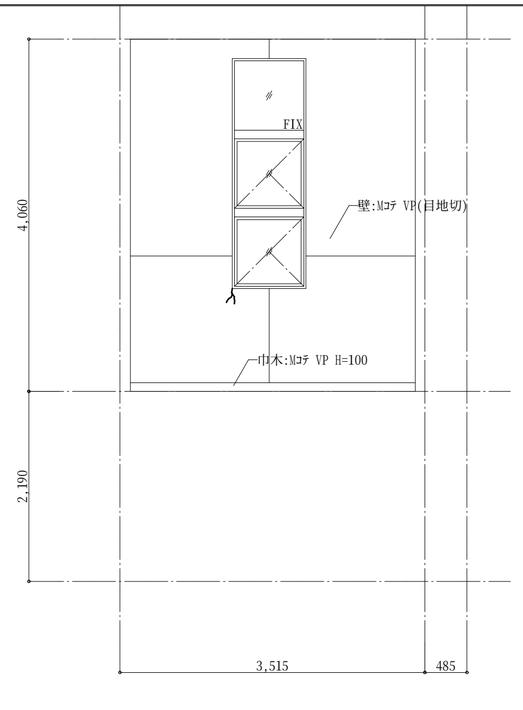
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/6		A-48
				DATE '15.08	部分詳細図	

改修前

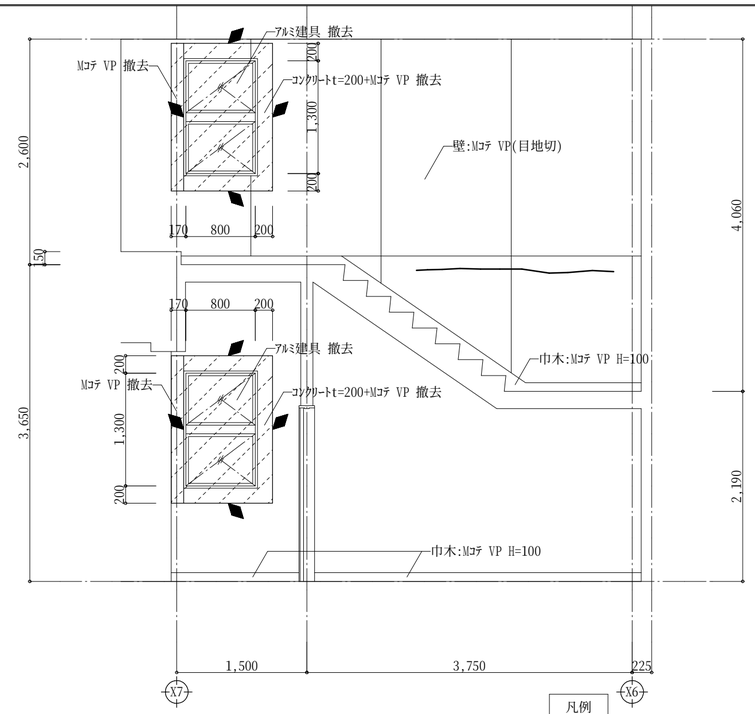
A (階段)



C (階段)

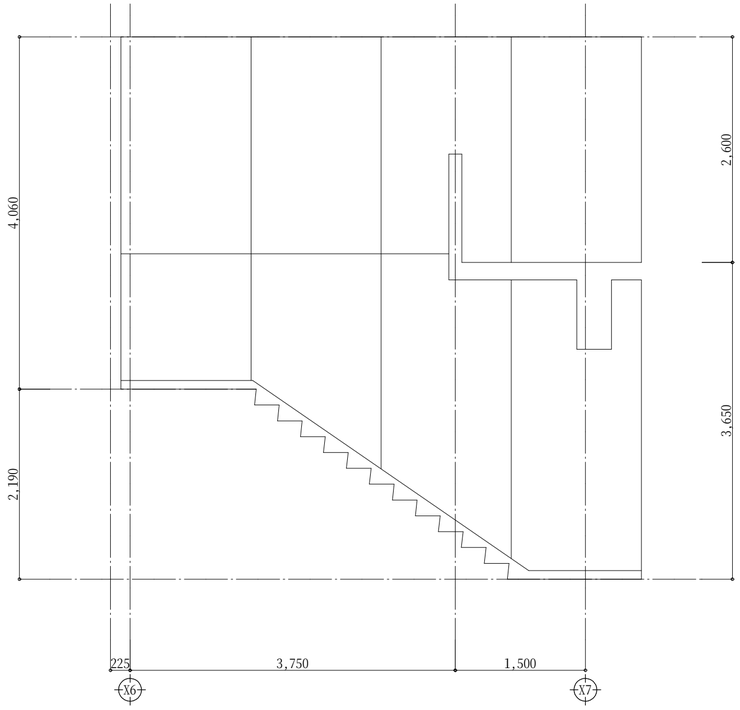


D (階段)

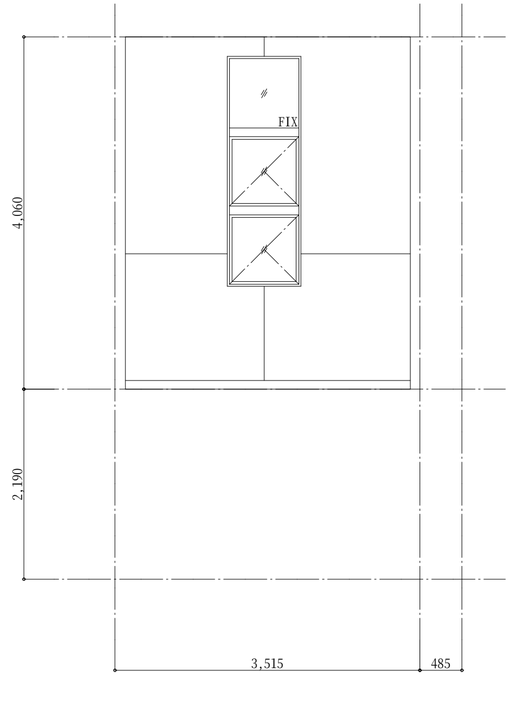


改修後

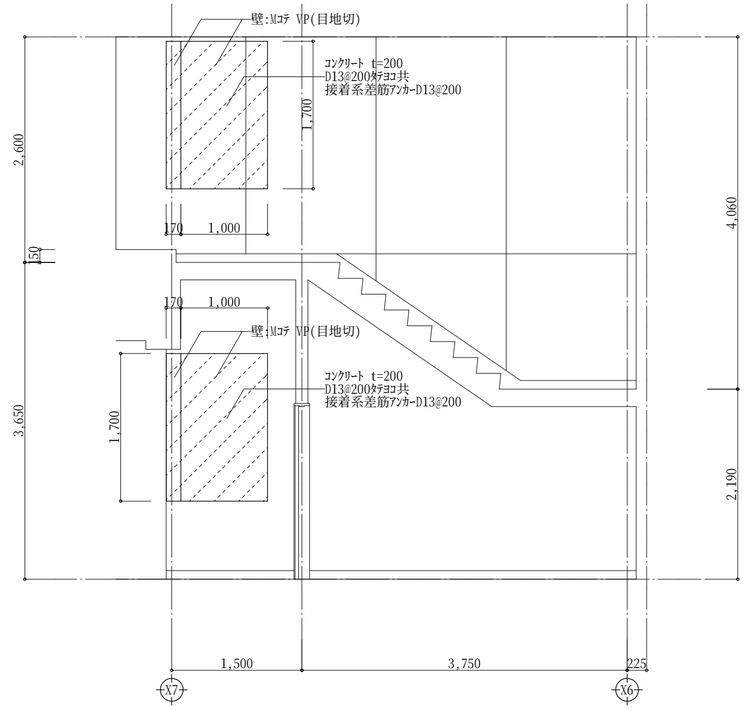
A (階段)



C (階段)



D (階段)



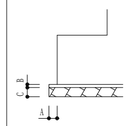
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE S=1/50	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO. A-49
				DATE '15.08	ｸﾗｯｸ補修図	

1．一般事項

1．特記仕様書と重複して記入された項目があれば、本構造特記仕様書を優先する。
2．本構造特記仕様書に特記された事項を適用する。なお、選択事項は⊙印を適用し、⊙印が無い場合は
　※印を適用する。⊙印と◎印が有る場合は、共に適用する。特記のない場合は、公共建築工事標準仕様書
　・建築工事編（（社）公共建築協会平成２５年版）による。
3．設計荷重
　1）地震荷重　（a）地震地域係数Ｚ　＊1．0　・0．9　・0．8　・0．7
　（b）重要度係数Ⅰ　＊1．00　・1．25　・1．50
　2）積雪荷重　（a）地域　＊一般区域　・多雪区域
　（b）垂直積雪量　２５ｃｍ（・長期　＊短期）　単位荷重　２０Ｎ/ｍ²・ｃｍ
　3）風荷重　（a）地表面粗度区分　・Ⅰ　＊Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ
　（b）建物高さと軒の高さの平均Ｈ　Ｈ＝　8．23ｍ
　（c）基準風速V_0　V_0＝ 32 ｍ／ｓ
　（d）速度圧ｑ　ｑ＝　Ｎ/㎡

② 地業工事

① 砂利（砕石）・捨てコンクリート地業



	A（mm）	B 捨てコンクリート厚さ（mm）	C 地業材	C 厚さ（mm）
独立基礎	・５０ ＊１００ ・１５０ ・２００	＊５０　・６０	・砂利 （砕石）	・５０ ・６０ ⊙１００ ・１５０
礎　盤		＊５０　・６０ ・１５０	・砂利 （砕石）	・５０ ⊙６０ ・１００ ・１５０
地中梁	・５０ ＊１００	＊５０　・６０	・砂利 （砕石）	・５０ ・６０ ⊙１００ ・１５０
床　版	――	＊５０　・６０		
土　間		＊無し　・５０ ・６０	・砂利	⊙１００ ・１５０

2．既製杭地業　杭材はＪＩＳ規格品、及び建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。
　1）杭種・杭長・支持力　（kN／本）

杭　種	杭径・杭長	杭先端深さ	長期設計支持力	短期設計支持力	備　考

　2）工法
　a　打撃工法　ハンマー種別　・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー
　プレボーリング　・行う（ＧＬ－　　ｍまで）　・行わない
　b　埋込み工法　・セメントミルク工法
　オーガーの支持地盤への掘削深さ　＊１．５ｍ程度　・
　杭の支持地盤への根入れ深さ　＊１ｍ以上　・　α＝350以上
　・プレボーリング拡大根固め工法（工法名：　　又は同等の工法）
　・中堀り拡大根固め工法（工法名：　　）
　・回転根固め工法（工法名：　　）
　・その他（工法名：　　）
　3）　継手　＊モルタル溶接継手　・但し、監督員の承認の上、無溶接継手とすることができる
　・無溶接継手（工法名：　　）
　4）　杭頭の処理　＊切断しない
　5）　ネガティブフリクション対策　・あり（ＳＬコンクリート打設前）　＊なし

3．場所打ちコンクリート杭地業
　1）　杭径・杭長・支持力　（kN／本）

杭径、形状	杭先端深さ	長期設計支持力	短期設計支持力	備　考
C	ＧＬ－　　ｍ			
C	ＧＬ－　　ｍ			
C	ＧＬ－　　ｍ			
C	ＧＬ－　　ｍ			

　注）（1）　杭径は施工径を示す。
　2）　工法　・アースドリル工法　（＊安定液使用　・無水掘削）
　・リバースサーキュレーション工法
　・オールケーシング工法　・拡底杭工法
　・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
　3）　表層ケーシング　・施工に必要な長さ　・ＧＬ－　　ｍまで
　4）　孔壁測定　＊行う（・全数　・５０％　・　　）　・行わない
　5）　余盛り　・５００ｍｍ　＊８００ｍｍ
　6）　コンクリート
　a　セメント　・普通ポルトランドセメント　＊高炉セメントＢ種
　b　Ｆｃ　・２１　・２４　・２７
　c　ＳＬ　＊１８　・２１
　d　Ｗ／Ｃ　・５５以下　＊６０以下
　e　Ｗ　＊１８５以下　・２００以下
　f　Ｃ　＊３４０以上　・３１０以上
　g　構造体コンクリートと供試体の強度の差を考慮した割増（N/mm）　＊０　・３
　7）　鉄筋
　a　材料　・ＳＤ２９５Ａ（Ｄ16以下）・ＳＤ３４５（Ｄ19以上）・ＳＤ３９０　（Ｄ　以上）
　b　最小かぶり厚さ　＊１００
　c　帯筋の形状　＊配筋基準図７．Ｂ．４　丸形（ロ）

4．試験杭
　試験施工　＊行う（試験杭の位置、本数は監督員と協議の上決定。）　・行わない
　試験杭は本杭と（＊兼用　・別途）
5．載荷試験
　1）　平板載荷試験　試験方法は、地盤工学会基準「地盤の平板載荷試験方法」による。
　・行う（位置は別図による。）　・行わない

試験深さ（m）	最大荷重（kN/m²）	箇所数	備　考
ＧＬ－			
ＧＬ－			

　載荷方法　・１サイクル法　・多サイクル法（　サイクル）
　2）　杭載荷試験　試験方法は、地盤工学会基準「杭の鉛直載荷試験方法・同解説」による。
　・行う（位置は別図による。）　・行わない

杭　径	最大荷重（kN）	備　考

　反力杭　＊本杭と兼用　・本杭と別途
　載荷方法　・１サイクル法　・多サイクル法（　サイクル）
6．地盤改良地業
　⊙ラップルコンクリート　（形状は別図による。）
　・表層改良工法　（改良深さ、範囲、固化材の種別・量は別図による。）
　・深層改良工法　（改良深さ、工法等は別図による。）
7．その他
　1）杭の位置ずれの精度　＊１００　・
　2）打込杭の推定支持力の算定方法　＊下式による　・

$$R=\frac{F}{5S+0.1}$$

　R：杭の長期推定支持力（kN）　ドロップハンマーの場合　F＝Ⅱ×g×H
　S：杭の最終貫入量（m）　ディーゼルハンマー及び油圧ハンマーの場合　F＝2Ⅱ×g×H
　F：ハンマーの打撃エネルギー（kJ）　Ⅱ：重りの質量（t）　g：重力の加速度（m/s²）
　H：重りの落下高さ（m）
　やっとこ打ちの場合推定支持力を低減する。低減率は10%もしくは試験打に基づく適切な値とする。
　3）埋込杭、場所打ちコンクリート杭の支持地盤　深さ（ＧＬ－ 16～18m付近 ）　土質名（ 固結シルト　）

③ 鉄筋工事

① 鉄筋　異形鉄筋を使用し、ＪＩＳ規格品、及び建築基準法に基づく認定を受けたものとする。

種　類	径	使用場所	継　手	備　考
＊ＳＤ２９５Ａ	Ｄ16以下	スターラップ・フープ 床版	＊重ね継手	
＊ＳＤ３４５ ・ＳＤ２９５Ｂ	Ｄ19以上 Ｄ25以下	小梁・大梁・柱の主筋	＊ガス圧接 ・重ね継手	柱・梁の主筋は、ガス圧接とする。Ｄ29以上に重ね継手は用いない。
・ＳＤ３９０	Ｄ29以上 Ｄ　以下	基礎梁の主筋		
・ＫＳＳ７８５		スターラップ・フープ		

② 継手・定着
　1）重ね継手長さ（主筋、耐力壁）、定着長さ（梁筋の柱定着）
　＊配筋基準図の値　・40d（軽量コンクリート50d）と配筋基準図の値のうち大きい値
　2）継手は監督員の承諾の上、機械式継手、溶接継手とすることができる。継手位置等は認定条件による。
　3）機械式鉄筋定着工法　・使用する　＊使用しない　但し、監督員の承諾の上、機械式定着とすることができる
3．溶接金網　ＪＩＳ規格品とする。
　1）　鉄線形（mm）　＊６
　2）　網目寸法（mm）　・５０　＊１００
④ 試験
　1）　鉄筋の材料試験　＊規格証明書の提出　・行う
　2）　圧接部の試験・検査

検査項目	試験方法	時期・回数
＊外観検査	目　視	圧接作業完了時に全数
＊抜取り検査	・引張試験 ＪＩＳ Ｚ ３１２０	１検査ロットに ＊３本　・５本
	⊙超音波探傷試験 ＪＩＳ Ｚ ３０６２	１検査ロットに ＊３０箇所

　注）（1）　１検査ロットは、１組の作業班が１日に施工した圧接箇所の数量で、２００箇所程度以内とする。
　（2）　コンクリート打設前に係員に検査結果を報告すること。

④ コンクリート工事

① 材料　コンクリートに用いる材料は、ＪＩＳ規格品、及び建築基準法に基づく認定を受けたものとする。
　1）　セメント

種　類		使用箇所
◎ポルトランドセメント ＪＩＳ Ｒ ５２１０	＊普通	基礎、基礎梁
・高炉セメント ＪＩＳ Ｒ ５２１１	＊Ｂ種	

　2）　骨　材　アルカリシリカ反応性試験結果が無害と判定されたものを用いる。
　細骨材の塩分含有量は、ＮａＣｌ換算で０．０４%以下とする。
　3）　混和材料　ＡＥ減水剤は全ての構造体コンクリートに使用する。
　（高性能ＡＥ減水剤を使用する場合は適用しない。）

混和材料	記号	備　考
・高性能ＡＥ減水剤	Ａ	
・膨張剤（材）	Ｂ	
・躯体防水剤（材）	Ｃ	
・防せい剤	Ｄ	

② コンクリート　ＪＩＳＱ１００１及び、ＪＩＳＱ１０１１に基づき、ＪＩＳ Ａ５３０８への適合を認証された、コンクリートとする。
　1）　構造体コンクリート

	Ｆｃ	SL 基礎・地中梁	SL その他	W	w/c	記号	備　考
普通コンクリート	・１８					1	
	＊２１	-	１８			2	
	⊙２４	１５	１８	１７５	５５	3	
	２７	１５	１８	１７５	５５	4	
	３０	１５	１８	１７５	５５	5	
	３３	１５	１８	１７５	５５	6	
						7	
軽量コンクリート						１１	
						１２	
						１３	

　注）（1）　構造体コンクリートの調合管理強度　⊙Ｆｃ＋Ｓ
　（2）　鼻中コンクリートの場合のＳ　＊6
　（3）　Ｗは、特記のない場合は１８５ｋｇ/m³以下とする。
　（4）　ＳＬは特記のない場合は、基礎・地中梁は１５ｃｍ、その他は１８ｃｍとする。
　（5）　普通コンクリートのγは２．３とする。
　（6）　軽量コンクリート　種類　＊１種　・２種
　γ　＊１．８５　・１．５５
　（7）　塩化物量は、塩素イオン量として０．３ｋｇ/m³以下とする。
　2）　レディーミクストコンクリート

種　類	Ｆｃ	γ	SL
土間コンクリート	＊１８　・２１	＊２．３	＊１５
かさ上げコンクリート	＊１８	＊２．３	＊１８
防水押えコンクリート	＊１８	＊２．３	＊１８
捨てコンクリート	＊１８	＊２．３	＊１８　⊙１５
ラップルコンクリート	＊１８	＊２．３	＊１５

③ 試験
　1）　材料試験（セメント・骨材・練混ぜ水・混和材料等）　・行う　＊試験結果報告書の提出
　2）　フレッシュコンクリートの試験（ＳＬ・空気量・温度・塩化物量・軽量コンクリートのγ）
　＊行う　・行わない
　3）　構造体コンクリートの圧縮試験（試験は調合管理強度の管理用、材齢２８日圧縮強度推定用、型枠取外し時期決定用、及び２８日を超え９１日以内の圧縮強度推定用等とし、２８日圧縮強度推定用は公的機関による試験とする。）
　＊行う　・行わない

⑤ 鉄骨工事

① 鋼材　原則として高炉材とし、ＪＩＳ規格品、又は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。
　但し、ＳＳ４００材に限り、電炉材を可とする。

規　格	鋼材名	使用箇所
一般構造用圧延鋼材 ＪＩＳ Ｇ 3101	⊙ＳＳ４００　・ＳＳ４９０ ・	小梁
溶接構造用圧延鋼材 ＪＩＳ Ｇ 3106	・ＳＭ４００Ａ　・ＳＭ４９０Ａ	
建築構造用圧延鋼材 ＪＩＳ Ｇ 3136	・ＳＮ４００Ａ　・ＳＮ４００Ｂ ・ＳＮ４００Ｃ ・ＳＮ４９０Ｂ　⊙ＳＮ４９０Ｃ	ﾀﾞｲﾌﾗﾑ、ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ
溶接構造用遠心力鋳鋼管 ＪＩＳ Ｇ 5201	・ＳＣＷ４９０－ＣＦ	
建築構造用冷間成形角形鋼管	⊙ＢＣＲ２９５ ・ＢＣＰ２３５　・ＢＣＰ３２５	柱
一般構造用角形鋼管 ＪＩＳ Ｇ 3466	・ＳＴＫＲ４００　・ＳＴＫＲ４９０	
建築構造用炭素鋼管 ＪＩＳ Ｇ 3475	・ＳＴＫＮ４００Ｂ ・ＳＴＫＮ４９０Ｂ	
一般構造用炭素鋼管 ＪＩＳ Ｇ 3444	⊙ＳＴＫ４００　・ＳＴＫ４９０	
一般構造用軽量形鋼 ＪＩＳ Ｇ 3350	⊙ＳＳＣ４００	屋根受用

② 高力ボルト　ＪＩＳ・ＪＳＳ規格品、及び建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。

種　類	使用箇所
・トルシア形高力ボルト（Ｓ１０Ｔ）	全　般
⊙ＪＩＳ形高力ボルト（Ｆ１０Ｔ）	トルシア形が使用出来ない部分
・溶融亜鉛めっき高力ボルト（Ｆ８Ｔ相当）	溶融亜鉛めっき鋼材

構造特記仕様書の記号説明
　Ｆｃ　：設計基準強度（N/mm²）　γ　：気乾単位容積質量（t/m³）
　ＳＬ　：スランプ　（ｃｍ）　Ｗ　：単位水量　（kg/m³）
　w/c：水セメント比（%）　Ｃ　：単位セメント量　（kg/m³）
　Ｓ　：構造体強度補正値（N/mm²）

3．普通ボルト　ＪＩＳ規格品とする。
　1）　材質　＊ＳＳ４００
④ アンカーボルト　ＪＩＳ規格品、又はＪＳＳ（日本鋼構造協会）規格品とする。
　1）　材質
　a）　構造用アンカーボルト　・ＳＮＲ４００Ｂ　・ＳＮＲ４９０Ｂ（Ｍ42以上）
　・ＳＳ４００　・ＳＳ４９０（Ｍ42以上）
　⊙ＡＢＲ４００　・ＡＢＲ４９０
　・ＡＢＭ４００　・ＡＢＭ４９０
　・ＳＤ４９０
　b）　建方用アンカーボルト　・ＳＳ４００　・ＳＳ４９０（Ｍ42以上）
5．スタッドボルト　ＪＩＳ規格品とする。

軸　径	長さ（mm）
・１３φ ・１６φ	・８０　・１００　・１２０
・１９φ ・２２φ	・８０　・１００　・１３０　・１５０

⑥ デッキプレート　ＪＩＳ規格品又は公共建築協会規格品とする。
　1）　構造用
　＊合成スラブ　・その他（　）
　形状（山高さmm）　⊙５０　・７５
　板厚（mm）　⊙１．２　・１．６
　材料　・ＳＤＰ１Ｔ　・ＳＤＰ２　・ＳＤＰ１ＴＧ
　＊ＳＤＰ２Ｇ
　めっき量　＊Ｚ１２　・Ｚ２７　・無し
　鉄骨部材との溶接方法　＊焼抜栓溶接　・アークスポット溶接　・隅肉溶接
　2）　型枠用　形状　＊フラットタイプ　・山高さ　mm
　板厚（mm）　・０．８　⊙１．０　・１．２　・１．４　・１．６
　材料　＊ＳＧＣＣ　・ＳＧＨＣ
　めっき量　＊Ｚ１２　・Ｚ２７　・無し
　鉄骨部材との溶接方法　＊アークスポット溶接　・隅肉溶接
⑦ さび止め塗装（鉄鋼面）
　1）　素地ごしらえ　・Ａ種　・Ｂ種　＊Ｃ種
　2）　さび止め塗装　意匠図による。

使用箇所 屋内	使用箇所 屋外	種　類（規格番号）
◯		シアナミド鉛さび止めペイント　（ＪＩＳ　Ｋ　５６２５）　２種
		鉛・クロムフリーさび止めペイント（ＪＩＳ　Ｋ　５６７４）　１種
	-	鉛・クロムフリーさび止めペイント（ＪＩＳ　Ｋ　５６７４）　２種
	-	水系さび止めペイント　（ＪＡＳＳ　18　Ｍ-111）

⑧ 溶接
　1）　柱梁完全溶込み溶接部工法
　＊ノンスカラップ工法　・スカラップ工法（改良型）
　2）　エンドタブを切除する箇所：
　上記以外は、切除不要
⑨ 試験・検査
　1）　材料試験　＊規格証明書の提出　・行う
　2）　溶接部の検査

検査方法	検査箇所	検査率又は検査数 社内	検査率又は検査数 第三者		備　考
＊外観検査		＊１００%			
＊超音波探傷試験	完全溶け込み溶接部	＊１００%	工場溶接部	検査水準 ＊第６ AOQL（%） ・2.5　＊4.0	
			現場溶接部	＊１００%	
・マクロ試験					
・浸透探傷試験					

　注）　特記なき限り、第三者機関が行う外観検査箇所はその他の試験（超音波探傷試験、マクロ試験、浸透探傷試験等）と同一試験箇所において実施する。
　3）　溶接技量試験　＊行う（但し、ＡＷ検定有資格者は免除）　・行わない
　4）　現寸検査　＊行う　・行わない
⑩ 鉄骨製作工場
　鉄骨製作工場認定制度に基づき、指定性能評価機関（（株）日本鉄骨評価センター又は、（株）全国鉄骨評価機構）の評価を受け、大臣認定を取得した下記のグレード以上の鉄骨製作工場とする。
　・Ｓグレード　・Ｈグレード　◎Ｍグレード　・Ｒグレード　・

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE -	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				DATE '15.08	構造特記仕様書	S-01

1．共通事項

A.　適 用 範 囲

設計図に記載がない場合、本配筋基準図を適用する。

B.　凡　　例

(1)　d　----- 異形鉄筋の径（呼び名に用いた数値）。

(2)　ho　----- 柱の内のり高さ。

(3)　lo　----- 有効スパン。

(4)　L　----- 継手　定着長さ及び帯筋の溶接長さ。

(5)　――――　----- 継手及び余長。

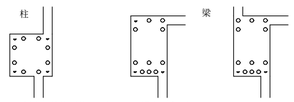
C.　鉄筋の種別はＪＩＳによる。

2．鉄筋の末端部及び中間部の加工

異形鉄筋の末端部には次の場合フックをつける。

(1)　柱の四隅にある主筋（下図の　印）、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。

(2)　梁の主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（下図の　印）にある場合。ただし、基礎梁を除く。



(3)　煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。

(4)　杭基礎のベース筋。

(5)　帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

鉄筋の折曲げ形状及びすけ法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D）		
		SD295A,SD295B,SD345		SD390
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135°及び 90°				

注）　片持ちスラブ先端，壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には，余長は４ｄ以上とする。

3．鉄筋の継手及び定着

A．鉄筋の重ね継手

鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種　類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	Ｌ1（フックなし）	Ｌ1h（フックあり）
SD295A SD295B	18	45ｄ	35ｄ
	21	40ｄ	30ｄ
	24　27	35ｄ	25ｄ
	30　33　36	35ｄ	25ｄ
SD345	18	50ｄ	35ｄ
	21	45ｄ	30ｄ
	24　27	40ｄ	30ｄ
	30　33　36	35ｄ	25ｄ
SD390	21	50ｄ	35ｄ
	24　27	45ｄ	35ｄ
	30　33　36	40ｄ	30ｄ

注）1)　Ｌ1 ,Ｌ1h ：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ

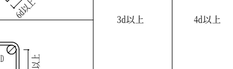
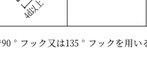
2)　フックありの場合のＬ1hは、右図に示すようにフック部分 l_h を含まない。

3)　軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

B.　隣合う継手の位置

隣合う継手の位置は下表による。但し、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合は除く。

隣合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	
	フックなしの場合	
圧接継手	-	
機械式継手	-	

C.　鉄筋の定着

（１）鉄筋の定着の長さは下表による。

表１.鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種　類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	フックなし				フックあり			
		Ｌ1	Ｌ2	Ｌ3		Ｌ1h	Ｌ2h	Ｌ3h	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45ｄ	40ｄ	20ｄ	10ｄ かつ 150mm 以上	35ｄ	30ｄ	10ｄ	-
	21	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	24　27	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
	30　33　36	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
SD345	18	50ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	21	45ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	24　27	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	30　33　36	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
SD390	21	50ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	24　27	45ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	30　33　36	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		

注）1)　Ｌ1 ，Ｌ1h ：2）以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

2)　Ｌ2 ，Ｌ2h ：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

3)　Ｌ3 ：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。

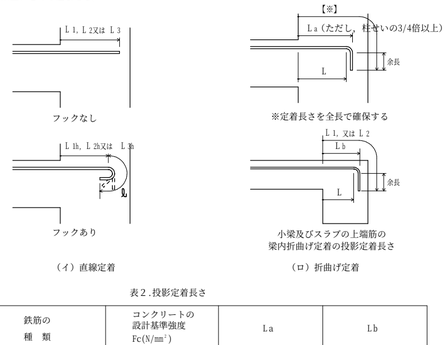
4)　Ｌ3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ

5)　フックありの場合は（2）に示すようにフック部分 l_h を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6)　軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(2)定着の方法は下図による。

なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さＬaが、表１のフックあり定着長さを確保できない場合は、全長を表１に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を８ｄ、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表２に示す長さ（梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの３／４倍以上）をのみ込ませる。



（イ）直線定着　　（ロ）折曲げ定着

表２.投影定着長さ

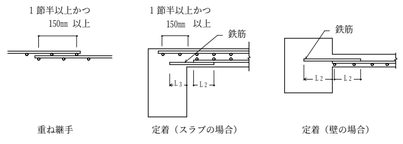
鉄筋の種　類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	Ｌa	Ｌb
SD295A SD295B	18	20ｄ	15ｄ
	21	15ｄ	15ｄ
	24　27	15ｄ	15ｄ
	30　33　36	15ｄ	15ｄ
SD345	18	20ｄ	20ｄ
	21	20ｄ	20ｄ
	24　27	20ｄ	15ｄ
	30　33　36	15ｄ	15ｄ
SD390	21	20ｄ	20ｄ
	24　27	20ｄ	20ｄ
	30　33　36	20ｄ	15ｄ

注）1)　Ｌa ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁，片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）

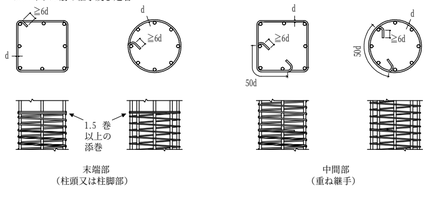
2)　Ｌb ：割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

3)　軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

D.　溶接金網の継手及び定着



E.　スパイラル筋の継手及び定着



4．鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

A.　鉄筋のかぶり厚さ

（１）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

（２）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

（３）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

鉄筋の最小かぶり厚さ（単位:mm）

構　造　部　分　の　種　別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ 耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱 梁 耐力壁	屋　内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋　外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁、耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			※40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			※60
煙突等高熱を受ける部分				60

注）1)　※印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、10mm加えた値とする。

2)　「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。

3)　スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。

4)　杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

B.　鉄筋の相互のあき

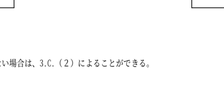
鉄筋相互のあきは、次の値のうち最大のもの以上とする。但し、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。

(1)　粗骨材の最大寸法の　1.25 倍

(2)　25mm

(3)　隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値ｄ）の 1.5 倍

(4)　鉄骨鉄筋コンクリート造の場合は、主筋と平行する鉄骨とのあきは、上記 (1)～(3) による。



Dは鉄筋の最大外径

5．基　礎

A.　基礎の配筋

直接基礎（独立基礎）

直接基礎（連続基礎）

B.　基礎接合部の補強

※Ｌ2hを確保できない場合は、3.C.（2）によることができる。

6．基　礎　梁

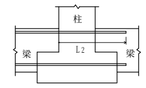
A.　基礎梁筋の継手及び定着

(1)　一般事項

↑）　梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。

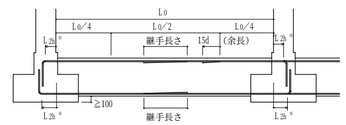
但し、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。

⇊）　梁筋を柱内に定着する場合は、「8．大梁」の項による。

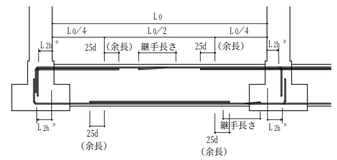


(2)　主筋の継手及び定着位置

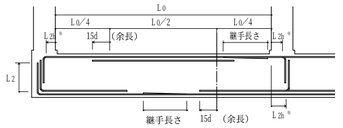
（A形）　独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



（B形）　独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合



（C形）　連続基礎及びべた基礎の場合

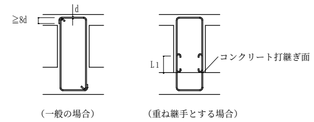


注）　1）破線は、柱内定着の場合を示す。

※　Ｌaを確保できない場合は、3.C.（2）によることができる。

B.　あ ば ら 筋

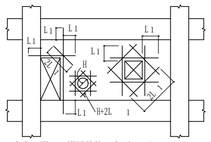
(1) あばら筋組立ての形及びフックの位置は、「８．大梁」の項による。但し、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ梁せいが 1.5m 以上の場合は下図によることができる。



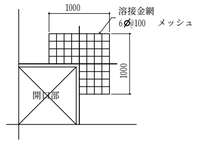
(2) あばら筋の割付、腹筋　及び　幅止め筋は「８．大梁」の項による。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-	配筋基準図(1)	S-02
				DATE '15.08		

E.　壁開口部の補強　（耐震壁を除く）



（注）　出入口開口の縦補強筋は上下のはりに定着する



（注）　溶接金網を用いる場合は、斜め補強筋　1-D13 のかわりに 1 枚、2-D13 のかわりに 2 枚を主筋の外側の被り部分に入れる。

壁の種別	A　形		B　形	
	補強筋		補強筋	
	縦、横	斜め	縦、横	斜め
W12 ， W15	1-D13	1-D13	2-D13	1-D13
W18 ， W20	2-D13	2-D13	4-D13	2-D13

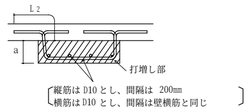
（注）　特記がなければ B 形とする。

（注）　開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋ができる場合は補強を省略することができる。

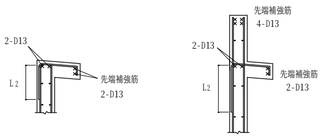
F.　打増し補強筋

(1)　a が50㎜ 未満の打増しの場合は、補強不要とする。

(2)　a が200㎜ を越える場合は特記による。



G　パラペット配筋



11．スラブ

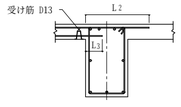
A.　一般事項

(1)　配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。

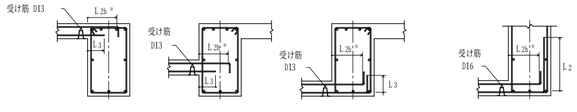
(2)　鉄筋の重ね継手長さは、L1 とする。

B.　定着長さ及び受け筋

(1)　鉄筋を引き通す場合



(2)　鉄筋を引き通す事が出来ない場合

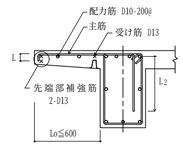


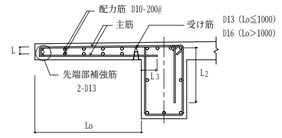
一般スラブ　　耐圧スラブ

※　L2b を確保できない場合は、3.C.（2）によることができる。

C.　片持ちスラブ

(1)　片持ちスラブの配筋



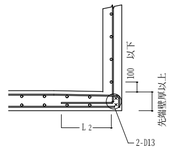


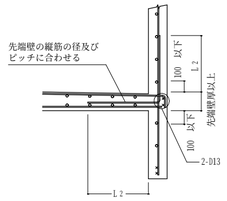
注)　1)　片持ちスラブの先端部及び三辺固定スラブの自由端には、上図により補強筋を配置する。

2)　スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

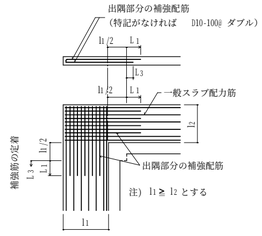
3)　先端の折曲げ長さ　は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

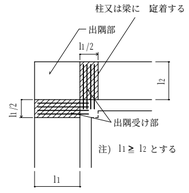
(2)　先端に壁が付く場合





(3)　出隅部の補強





D.　スラブ開口部の補強

(1)　スラブ開口の最大径が 700㎜ 以下の場合は、右図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部は斜め方向に　2-D13（L=2L1）シングルを、上下筋の内側に配筋する。

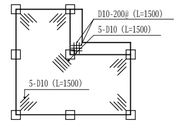
(2)　スラブ開口の最大径が、700㎜　をこえる場合は、特記による。

(3)　スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

E.　その他の補強

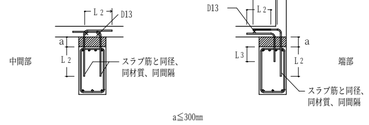
1.　屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



2.　土間スラブ（土に接する構造スラブ）の打継ぎ補強筋

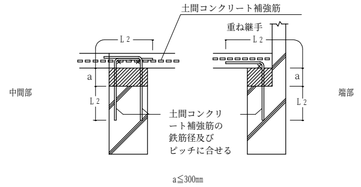
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記がない場合には下図による。



a≦300㎜

3.　土間コンクリート（床荷重を直接支持地盤へ伝達できるもの）の補強筋

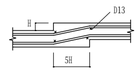
土間コンクリートと基礎梁との接合部は下図による。



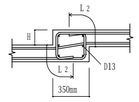
a≦300㎜

4.　段差のあるスラブの補強

150㎜ 以下の段差のあるスラブの補強は、特記がない場合には下図による。



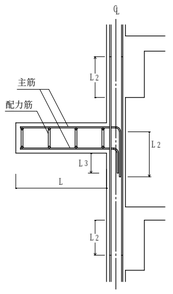
(a)　H　≦70 の場合



(b)　70<H≦150　の場合

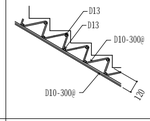
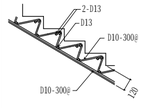
12．階段

A.　片持スラブ形階段



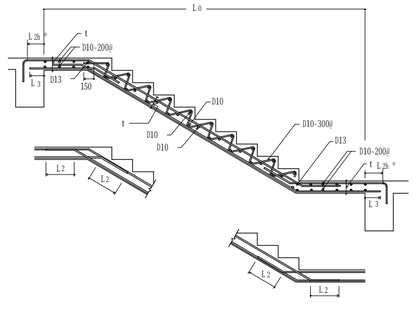
（注）　1.）　壁配筋は、10．Cによる。
2.）　階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3.）　階段配力筋の継手及び定着長さは、3．C（1）の L3（スラブ）とする。

片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
許容スパン（㎜）	L ≦1500	L ≦2000

（注）　許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

B.　二辺固定スラブ形階段



※　L2b を確保できない場合は、3.C.（2）によることができる。

二辺固定スラブ形階段基準配筋

配筋種別	スラブ厚さ t(㎜)	上端筋、下端筋とも（全域）	許容スパン（㎜）
KB1	150	D13-200@	L0 ≦3000
KB2	150	D13-150@	L0 ≦3500
KB3	150	D13-100@	L0 ≦4000
KB4	180	D13，D16-150@	L0 ≦4500
KB5	180	D16-150@	L0 ≦5000
KB6	180	D16-125@	L0 ≦5500
KB7	200	D16-100@	L0 ≦6000

（注）　許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-	配筋基準図(2)	S-03
				DATE '15.08		

鉄　骨　構　造　基　準

1．一般事項　（適用事項は○印で示す）

①　本工事は指示のない限り、下記最新版を適用する。
1．日本建築学会　建築工事標準仕様書　ＪＡＳＳ６　鉄骨工事
2．日本建築学会　鉄骨工事技術指針　工場製作編
3．日本建築学会　鉄骨精度測定指針
4．日本建築学会　高力ボルト接合設計施工指針
5．日本建築学会　鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準・同解説
6．日本建築学会　鋼構造設計基準
7．国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　公共建築工事標準仕様書
8．建設省住宅局建築指導課　ＳＣＳＳ－Ｈ９７　鉄骨構造標準接合部Ｈ形鋼編

②　製作工場は下記の通りとし工事監理者の承諾した工場とする。

1	国土交通大臣認定工場	グレード	S	H	Ⓜ	R	J
2	岐阜県鐵構工業協同組合工場	グレード	H	Ⓜ	R	J	なし
3	指定工場						

注）グレードの適用範囲　（対象グレードは○印以上とする）
Ｓグレード　1．全ての鉄骨溶接構造。
Ｈグレード　1．鉄骨溶接構造の４００Ｎ、４９０Ｎ及び５２０Ｎ級鋼で板厚60㎜以下の鋼材。
Ｍグレード　1．鉄骨溶接構造の４００Ｎ及び４９０Ｎ級鋼で板厚 2㎝以下の鋼材。
Ｒグレード　1．鉄骨溶接構造の５階以下の建築物。（延べ面積３０００㎡以内、高さ２０ｍ以下のもの）
2．４００Ｎ及び４９０Ｎ級鋼で板厚 2㎝以下の鋼材。
Ｊグレード　1．鉄骨溶接構造の３階以下の建築物。（延べ面積５００㎡以内、高さ１３ｍ以下かつ軒高１０ｍ以下のもの）
2．４００Ｎ級鋼で板厚16㎜以下の鋼材。

③　鉄骨工事着手前に提出する書類。
1．　認定工場認定証の写し（指定ゴム印のあるもの）
2．　工場製作要領書
3．　溶接工事作業計画書
4．　現場建方時に製作工場名表示看板を掲げること建設省住指発第３４７号）

⑤　鉄骨工事完了後提出する書類。
1．　鋼材規格証明書（実物又は裏書きミルシート）
2．　高力ボルト規格証明書
3．　防錆塗料成分証明書
4．　鉄骨工事施工状況報告書の内、製作工場に求められる書類
5．　中間検査（岐阜県告示４８０号）において製作工場が求められる書類（特記による）
⑥　社内検査報告書

2．材　料　（ＪＩＳ規格品を使用すること）　（適用事項は○印で示す）

1．鋼材の材質

材　質	使用箇所		備　考
⊙ＳＳ４００	⊙形鋼	⊙鋼板	
・ＳＮ４００Ａ	・形鋼	・鋼板	溶接を伴わない二次部材等
・ＳＮ４００Ｂ	・形鋼	・鋼板	突き合せ溶接を行なう部材
・ＳＮ４００Ｃ	・形鋼	・鋼板	板厚方向に突き合せ溶接をされる部材
⊙ＳＳＣ４００	⊙形鋼		
・ＳＴＫＮ４００	・鋼管		
・ＳＴＫＲ４００	・冷間成形角形鋼管		
・ＳＭ４９０	・形鋼	・鋼板	
・ＳＮ４９０Ｂ	・形鋼	・鋼板（t≦40）	突き合せ溶接を行なう部材
⊙ＳＮ４９０Ｃ	・形鋼	⊙鋼板（t≦40）	板厚方向に突き合せ溶接をされる部材
・ＳＴＫ４９０	・鋼管		
・ＳＴＫＲ４９０	・冷間成形角形鋼管		
⊙ＢＣＲ２９５	・冷間成形角形鋼管		
・ＢＣＰ２３５	・冷間成形角形鋼管		
・ＢＣＰ３２５	・冷間成形角形鋼管		

2．ボルト
⊙　高力ボルト　⊙Ｆ１０Ｔ　⊙Ｍ１６　⊙Ｍ２０　・Ｍ２２
・Ｓ１０Ｔ認定品　・Ｍ１６　・Ｍ２０　・Ｍ２２
・　中ボルト　Ｍ１２
⊙　アンカーボルト（国土交通大臣認定既成露出柱脚を除く）
（ＳＳ４００）　Ｍ１２　Ｌ＝　２５０㎜　ナット（・シングル　・ダブル）
Ｍ１６　Ｌ＝　３２０㎜　ナット（・シングル　・ダブル）
（ＡＢＲ４００）　Ｍ３０　Ｌ＝　６００㎜　ナット（・シングル　⊙ダブル）
・　頭付スタッド　φ１６　Ｌ＝　８０　㎜　使用箇所（・柱　・梁　）

3．　防錆塗料は下記の通りとする。（素地ごしらえはＣ種若しくはＢ種とする）

塗料種類	塗り回数
⊙ＪＩＳ　Ｋ　５６２５　２種	工場　１回
・ＪＩＳ　Ｋ　５６７４　１種	（組立後塗装困難となる部分は２回塗りとする）
・ＪＩＳ　Ｋ　５６７４　２種	現場タッチアップ　１回
・ＪＡＳＳ　１８　Ｍ－１１１	

3．検査　（適用事項は◙印で示す）

1．　工事監理者が行う検査項目
◙　現寸検査.　◙　組立検査.　◙　製品検査.　◙　建方検査.

2．　溶接部検査

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数		備考
		社内検査	第三者検査	
◙　突合せ溶接部	超音波探傷検査	１００％	１０％	
◙　隅肉溶接部	外観（目視）検査	１００％	１０％	
□	マクロ試験・その他	個	個	

※現場溶接部については、原則として第三者による全数検査を行う。
※第三者検査機関は、ＣＩＷ認定検査会社とする。
※第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

工　作　標　準

1．切断　（ＪＡＳＳ　６）

1．　鋼材の切断面はいちじるしい切欠きを生じない様にする。ノッチの深さは１㎜以下とする。
2．　せん断切断する場合の鋼材の板厚は、１㎝以下とする。
3．　切断面のたれ、まくれは取り除く。

2．開先加工　（ＪＡＳＳ　６）

1．　開先の加工は、切削加工機又は自動ガス切断機による加工を原則とする。
2．　開先加工面は、あらさ２００μmRy以下、ノッチ深さは２㎜以下とする。
3．　スカラップは、ｒ１＝３５、ｒ２＝１０㎜程度の複合円とした改良スカラップ工法又はノンスカラップ工法とし、開先加工形状は特記による。

3．孔あけ加工　（ＪＡＳＳ　６）

1．　高力ボルト用孔の孔あけ加工は、ドリルあけとする。接合面をブラスト処理する場合は、ブラスト前に孔あけ加工する。
2．　ボルト・アンカーボルト・鉄筋貫通孔はドリルあけを原則とするが、板厚13　㎜以下の時は、せん断孔としてもよい。但し、切断面にばりなどが生じた場合は、グラインダーなどにより修正する。
3．　アンカーボルト孔・セパ孔・設備貫通孔等で、径３０㎜以上はガス孔としてもよい。
4．　孔径は下記とする。　（単位：㎜）

種類	孔径　ｄ	公称軸径　ｄ１
高力ボルト	ｄ１+２．０	ｄ１<２７
	ｄ１+３．０	ｄ１≧２７
ボルト	ｄ１+０．５	－
アンカーボルト	ｄ１+５．０	－

4．摩擦面の処理　（ＪＡＳＳ　６）

すべり係数０．４５以上確保できる方法は下記の通りとする。
1．　自然発錆　――　ディスクグラインダー等で黒皮などを、スプライスプレートの全面の範囲について除去した後、自然放置して発生させた赤さび状態を確保する。
2．　プラスト処理　――　ショットプラスト等で５０μmR以上のあらさを確保する。

5．溶接　（ＪＡＳＳ　６）

1．　組立溶接・本溶接とも ＪＩＳ Ｚ ３８０１ 又は ＪＩＳ Ｚ ３８４１ の有資格者が行なう。
2．　溶接に使用する材料は母材の材質に適合したものを使用する。
3．　開先のある溶接の両端には、健全な溶接の全断面が確保できるようにエンドタブを用いる。ただし、工事監理者の承諾があればその他適切な方法を用ることができる。
4．　気温が－５℃を下回る場合は、溶接を行ってはならない。気温が－５℃から５℃においては、溶接部より１００㎜の範囲の母材部分を適切に加熱すれば溶接することができる。
5．　完全溶込み溶接の突合せ継手の余盛高さは０㎜以上とし、Ｔ継手の余盛高さは突合せる材の厚さの１／４とし、材の厚さが 4㎜を超える場合は１０㎜とする。このときの許容差はＪＡＳＳ６－付則６「鉄骨精度検査基準」による。余盛は応力集中を避けるため滑らかに仕上げ、過大であったりビード表面形状に不整があってはならない。
6．　溶接材料と入熱、パス間温度の組合せは、下記鋼材の種類４００Ｎ及び４９０Ｎ級鋼の項による。ただし、４００Ｎ級鋼のＳＴＫＲ・ＢＣＲ及びＢＣＰの場合は、ＹＧＷ－１１、１５で入熱３０ KJ／cm以下、パス間温度２５０℃以下とし、４９０Ｎ級鋼のＳＴＫＲ・ＢＣＰの場合は、ＹＧＷ－１８、１９で入熱３０KJ／cm以下、パス間温度２５０℃以下とする。

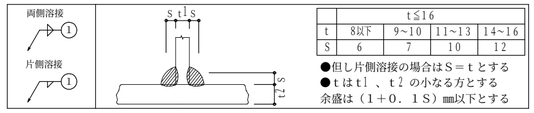
鋼材の種類と溶接材料

鋼材の種類	溶接材料	入熱（ＫＪ／cm）	パス間温度（℃）
４００Ｎ級鋼	JIS Z 3211 3212	４０以下	３５０以下
	YGW-11、15		
	YGW-18、19		
	JIS Z 3214		
	YGA-50W、50P		
４９０Ｎ級鋼	JIS Z 3212	４０以下	３５０以下
	YGW-11、15	３０以下	２５０以下
	YGW-18、19	４０以下	３５０以下
	JIS Z 3214	４０以下	３５０以下
	YGA-50W、50P		

7．　構造耐力上主要な部分の溶接部は、割れ、内部欠陥等の構造耐力上支障のある欠陥がないものとする。
8．　突合わせ継手の食い違いは、板厚が15㎜以下では１．５㎜以下、　㎜を越える場合は、板厚の１／１０以下かつ３㎜以下とする。
9．　柱仕口部における梁フランジは、通しダイアフラムの場合は、ダイアフラムの板厚の範囲に収まること。内ダイアフラムの場合のダイアフラムと梁フランジのずれ量は、はりのフランジ厚btf が柱のフランジ厚 ctf以下の時は btf　の１／４かつ５㎜以下、btf　がctf　を越える時には btfの１／５かつ４㎜以下とする。
10．　０．３㎜を越えるアンダーカットはあってはならない。但し、アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの１０％以下であり、かつ、その断面が鋭角的でない場合は、アンダーカットの深さを１㎜以下とすることができる。

溶接基準図　（注）ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：ルート面　Ｓ：サイズ（単位㎜）

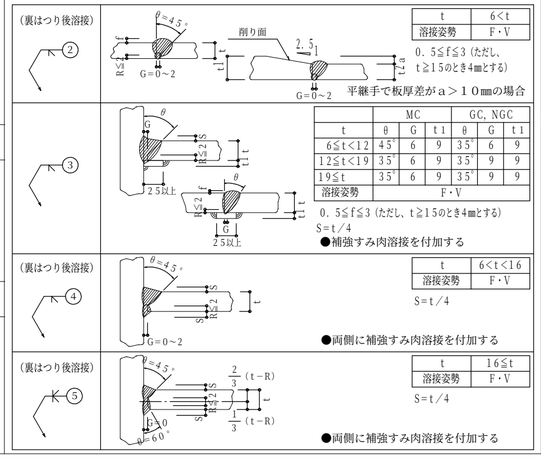
（１）　すみ肉溶接



	t≦16
t	8以下	9～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

●但し片側溶接の場合はＳ＝ｔとする
●ｔはｔ1　、ｔ2 の小なる方とする
余盛は（１＋０．１Ｓ）㎜以下とする

（２）　突合せ溶接（平継手　Ｔ形継手）



	t	6<t
	溶接姿勢	Ｆ・Ｖ

0．５≦ｆ≦３（ただし、ｔ≧15のとき4㎜とする）
平継手で板厚差がａ＞１０㎜の場合

	MC			GC、NGC		
t	θ	G	t1	θ	G	t1
6≦t<12	45°	6	9	35°	6	9
12≦t<19	35°	6	9	35°	9	9
19≦t	35°	6	9	35°	9	9
溶接姿勢	Ｆ・Ｖ					

0．５≦ｆ≦３（ただし、ｔ≧15のとき4㎜とする）
S=t／4
●補強すみ肉溶接を付加する

	t	6<t<16
	溶接姿勢	Ｆ・Ｖ

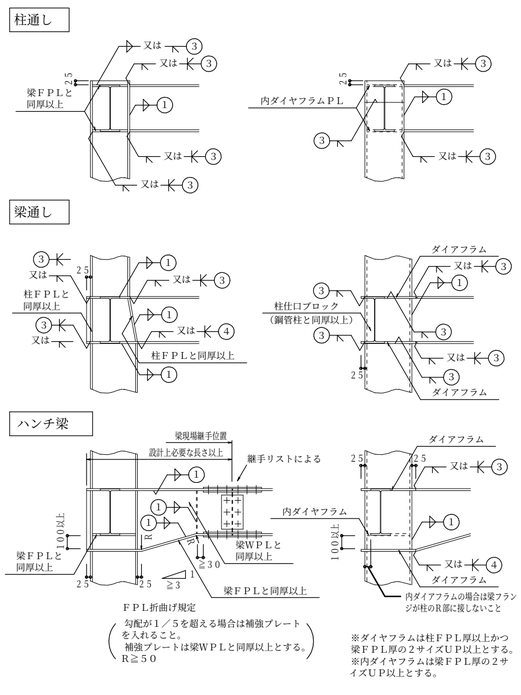
S=t／4
●両側に補強すみ肉溶接を付加する

	t	16≦t
	溶接姿勢	Ｆ・Ｖ

S=t／4
●両側に補強すみ肉溶接を付加する

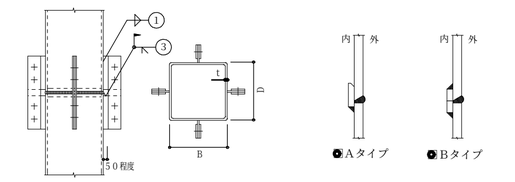
仕口の標準

柱梁接合部



角型鋼管現場継手

角型鋼管柱継手（現場溶接）
注）現場溶接は原則として超音波探傷試験を１００％行なう



CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-	鉄骨構造基準図	S-04
				DATE '15.08		

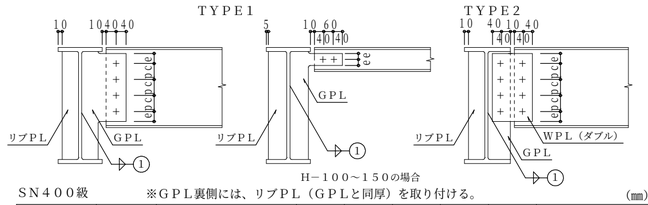
継手基準図

（1） ボルトピッチ（P），ボルト穴径・最小縁端距離（㎜）

呼び径	孔 径	最小縁端距離（e）				ピッチ（P）	
		(1)	(2)	(3)	(2)（3）の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	30	40	55	60

〔注〕 （1）引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（2）せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（3）圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

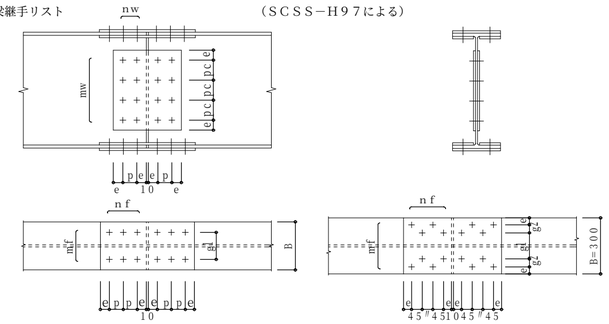
（2） ピン接合梁継手リスト （剛接合の場合は設計図書による）



SN400級 ※GPL裏側には、リブPL（GPLと同厚）を取り付ける。 （㎜）

符 号	タイプ	部 材	ボルト径	ボルト mwxnw	ピッチ pc	GPL厚	ウェブ添板 WPL厚	備考
	TYPE1	H−100x 50x 5 x 7	M16	1x2	−	6		ボルトは横打ち
		H−125x 60x 6 x 8	M16	1x2	−	9		〃
		H−150x 75x 5 x 7	M16	1x2	−	9		〃
		H−175x 90x 5 x 8	M16	2x1	60	6		
B19		H−198x 99x 4.5x 7	M16	2x1	60	6		
B20		H−200x100x 5.5x 8	M16	2x1	60	9		
B24		H−248x124x 5 x 8	M16	3x1	60	9		
B25		H−250x125x 6 x 9	M16	3x1	60	9		
		H−298x149x 5.5x 8	M20	3x1	60	9		
		H−300x150x 6.5x 9	M20	3x1	60	12		
		H−346x174x 6 x 9	M20	4x1	60	9		
		H−350x175x 7 x11	M20	4x1	60	9		
		H−396x199x 7 x11	M20	5x1	60	9		
		H−400x200x 8 x13	M20	5x1	60	12		
		H−446x199x 8 x12	M20	6x1	60	12		
		H−450x200x 9 x14	M20	6x1	60	12		
		H−148x100x 6 x 9	M16	1x2	−	9		ボルトは横打ち
		H−194x150x 6 x 9	M16	2x1	−	9		
		H−244x175x 7 x11	M20	2x2	90	12		
		[−150x 75x 6.5x10	M16	2x1	60	9		
		□−100x100x 6	M12	2x1	60	6x2		ボルトは横打ち
		H−150x150x 7.5x10	M20	1x2	−	12		ボルトは横打ち
	TYPE2	H−350x175x 7 x11	M20	4x1	60	9	6	
		H−400x200x 8 x13	M20	4x1	60	9	9	
		H−450x200x 9 x14	M20	4x1	60	9	9	
		H−496x199x 9 x14	M20	5x1	60	9	9	
		H−500x200x10 x16	M20	5x1	60	12	9	
		H−596x199x10 x15	M22	7x1	60	12	9	
		H−600x200x11 x17	M22	7x1	60	12	9	
		H−606x201x12 x20	M22	7x1	60	12	9	
		H−294x200x 8 x12	M20	3x1	60	9	9	
		H−340x250x 9 x14	M20	4x1	60	9	9	
		H−390x300x10 x16	M20	4x1	60	12	9	
		H−440x300x11 x18	M20	5x1	60	12	9	
		H−482x300x11 x15	M20	6x1	60	12	9	
		H−488x300x11 x18	M20	6x1	60	12	9	
		H−588x300x12 x20	M22	7x1	60	12	9	

（3） 梁継手リスト （SCSS−H97による）



梁継手 ディティールの共通事項 （㎜）

フランジ幅	高力ボルト使用区分			フランジゲージ		フランジ添板幅		ウェブ添板	フランジボルト列
B	M16	M20	M22	g1	g2	外側	内側		
100	○			60		100	−		シングル
125	○			75		125	−		〃
150	○	○	○	90		150	60		〃
175	○	○	○	105		175	70		〃
200		○	○	120		200	80		〃
250		○	○	150		250	100		〃
300		○	○	150	40	300	110		チドリ
350		○	○	140	70	350	140		ダブル
400		○	○	140	90	400	170		〃

梁継手リスト
SN400級 （㎜）

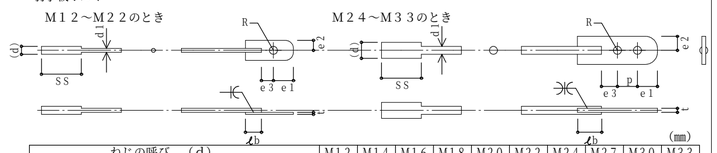
符 号	部 材	ボルト径	フランジ					ウェブ			
			ボルト	ゲージ		外添板	内添板	ボルト	ピッチ	添板寸法	
			nfxmf	g1	g2	厚x長さ	厚x幅	mwxnw	pc	厚x幅x長さ	
	H−200x100x 5.5x 8	M16	2x2	60		16x290	−	2x1	60	6x140x170	
	H−248x124x 5 x 8	M16	3x2	75		12x410	−	2x2	90	6x170x290	
CG25	H−250x125x 6 x 9	M16	3x2	75		12x410	−	2x2	90	6x170x290	
	H−298x149x 5.5x 8	M20	2x2	90		9x290	9x 60	2x1	120	6x200x170	
G2	H−300x150x 6.5x 9	M20	2x2	90		9x290	9x 60	2x1	120	6x200x170	
	H−346x174x 6 x 9	M20	2x2	105		9x290	9x 70	3x1	90	6x260x170	
G1	H−350x175x 7 x11	M20	2x2	105		9x290	9x 70	3x1	90	6x260x170	
	H−396x199x 7 x11	M20	3x2	120		9x410	9x 80	4x1	60	9x260x170	
	H−400x200x 8 x13	M20	3x2	120		9x410	9x 80	4x1	60	9x260x170	
	H−446x199x 8 x12	M20	3x2	120		12x410	12x 80	5x1	60	9x320x170	
	H−450x200x 9 x14	M20	3x2	120		12x410	12x 80	5x1	60	9x320x170	
	H−496x199x 9 x14	M20	3x2	120		12x410	12x 80	5x1	60	9x320x170	
	H−500x200x10 x16	M20	3x2	120		12x410	12x 80	5x1	60	9x320x170	
	H−596x199x10 x15	M22	3x2	120		12x410	12x 80	7x1	60	9x440x170	
	H−600x200x11 x17	M22	3x2	120		12x410	12x 80	7x1	60	9x440x170	
	H−148x100x 6 x 9	M16	2x2	60		16x290	−	1x2	60	6x 80x290	
	H−194x150x 6 x 9	M20	2x2	90		9x290	9x 60	2x1	60	6x140x230	
	H−244x175x 7 x11	M20	2x2	105		9x290	9x 70	2x1	60	9x140x170	
	H−294x200x 8 x12	M20	3x2	120		9x410	9x 80	3x1	60	9x200x170	
G3	H−340x250x 9 x14	M20	4x2	150		12x530	12x100	3x2	60	9x200x290	
	H−390x300x10 x16	M20	4x2	150		12x440	12x110	4x1	60	9x260x170	
	H−440x300x11 x18	M20	4x2	150		12x440	12x110	5x1	60	9x320x170	
	H−488x300x11 x18	M20	4x2	150		12x440	12x110	4x2	90	12x350x290	
	H−588x300x12 x20	M20	5x2	150		12x530	16x110	4x2	60	9x440x290	
	H−692x300x13 x20	M20	6x2	60		19x620	19x110	9x1	60	12x620x290	

SN490級（添板の材質はSN490Aとする） （㎜）

符 号	部 材	ボルト径	フランジ					ウェブ			
			ボルト	ゲージ		外添板	内添板	ボルト	ピッチ	添板寸法	
			nfxmf	g1	g2	厚x長さ	厚x幅	mwxnw	pc	厚x幅x長さ	
	H−440x300x11 x18	M20	6x2	150	40	12x620	12x110	5x2	60	9x320x290	

丸鋼ブレース （JIS規格品とする・・・・・・・・JIS A 5540〜5542）

羽子板ボルト



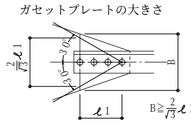
（㎜）

ねじの呼び （d）		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	M27	M30	M33
軸径（d1）	最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99	24.99	27.67	30.67
	最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77	24.77	27.42	30.42
調整ねじの長さ SS		100	115	125	140	150	165	175	200	200	225
取付ボルト穴径許容差 ＋0，−0．5㎜ R		13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5	21.5	23.5	23.5
はしあき（最小） 注（2） e1		35	40	45	50	50	55	50	50	55	55
切り板製	へりあき（最小） 注（1） e2	22	28	28	34	34	38	38	45	45	50
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9	9	12	12
平板製	へりあき（最小） 注（1） e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5	45	45	50
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9	9	12	12
ボルト端から取付ボルト穴心のあき（最小） e3		47	52	59	66	66	73	70	72	83	90
溶接長さ（最小） ℓb		40	50	55	60	75	85	85	90	95	110
取り付けボルト本数 注（2）		1−M12	1−M16	1−M16	1−M20	1−M20	1−M22	2−M20	2−M20	2−M22	2−M22
溶接長（ℓ） 注（4）	TYPE1	60	60	80	80	80	80	100	100	103	127
	TYPE2	42	42	56	56	56	56	70	70	72	84
	TYPE3	54	54	72	72	72	72	90	90	92	104
サイズ S		6	6	8	8	8	8	10	10	10	10

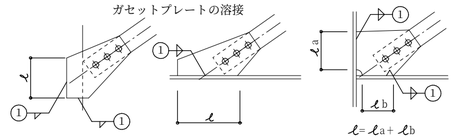
注（1） e1，e2が確保されていれば形状は自由でよい。
（2） 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする。
（3） 取付ボルトの種類は JIS B 1186２種高力ボルト(F10T)または JIS B 1180中８g１０．９
（4） 溶接長のＴＹＰＥは下記に準じる。

平鋼、山形鋼ブレース

ガセットプレートの大きさ



ガセットプレートの溶接



SN400級 （㎜）

符号		部材	高力ボルト 本数−径	ガセットプレート 厚x幅 t B	溶接長（ℓ） TYPE1	TYPE2	TYPE3	サイズ S	備考
平鋼		FB− 65x 6	2−M16	6x 65	113	69	81	6	
		FB− 75x 6	2−M16	6x 75	130	72	89	6	
		FB− 65x 9	3−M16	9x 65	127	80	96	8	
		FB− 75x 9	3−M16	9x 75	147	89	105	8	
		FB− 90x 9	3−M20	9x 90	176	104	120	8	
		FB−100x 9	3−M20	9x100	196	114	130	8	
		FB− 90x12	3−M20	12x 90	188	114	134	10	
		FB−100x12	4−M20	12x100	209	124	144	10	
		FB− 90x16	4−M20	16x 90	193	122	148	13	
		FB−100x16	5−M20	16x100	214	133	159	13	

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				-		S-05
				DATE '15.08	鉄骨継手基準図	

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準

ＪＦＥ建材
株式会社

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、
(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(㎜)	表　面　処　理
ＱＬデッキ ■ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 ■エンボ有り □無し	■1.2 □1.6	□裏面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(P) ■亜鉛めっき　[□Z12　■Z27] □ZAM(高耐食溶融めっき鋼板) [□K27　□K35] □無し( )
ＱＬセルラー □ＧＫＸ－５０ □ＧＫＸ－７５		□1.2 □1.6	亜鉛めっき Ｚ２７限定
材　質		ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるＳＤＰ１Ｔ、ＳＤＰ２、ＳＤＰ２Ｇ	

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート　□軽量コンクリート(□1種　□2種)
設計基準強度	□１８　■２１　□（２４）Ｎ／㎟
厚さ(ＱＬデッキ山上)	□６０　□７０　■８０　□８５　□９０　□９５　□１００　□（１２０）㎜

材料／溶接金網・異形鉄筋

□ 溶 接 金 網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１	□φ６-１５０×１５０　□φ６-１００×１００
■ 異 形 鉄 筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７	■Ｄ１０-@２００　□（Ｄ１３@２００ﾀﾞﾌﾞﾙ）

接　　合

■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鋲	接合箇所は特記による
□頭付きスタッド	JIS B 1198　□φ１３　□φ１６　□φ１９　□φ２２各長さ・ピッチは特記による
□そ　の　他	

耐　　火

	１　時　間	２　時　間
連　続　支　持	■ＦＰ０６０ＦＬ－９０９５	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１０７
単　純　支　持	□ＦＰ０６０ＦＬ－９１０１	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１１３
そ　の　他 □指定なし	□ＦＰ０３０ＲＬ－０４１３ □	

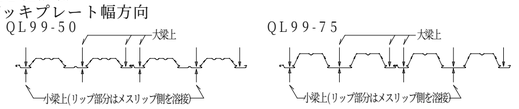
特　　記

支保工有無 □無　■有	その他：

上欄内の採用項目に■を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



デッキプレートスパン方向

「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

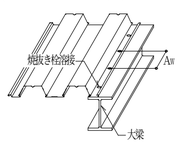
$$Aw = \frac{1.5Qa}{Qn} \times 1000\text{mm} \text{ かつ } 600\text{mm} \text{ 以下}$$

Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力 (N)
Qn：設計最大せん断力(N/m)
Aw：焼抜き栓溶接ピッチ

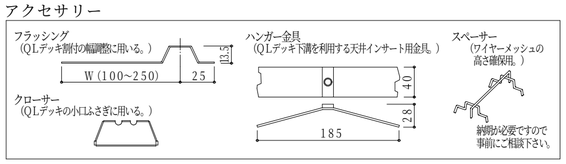
板厚	Qa (N)
1.2	4,900
1.6	7,350(Sｱﾙﾐ), 6,860(A.P.Ⅱ)

Aw＝（６００）㎜

(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要



アクセサリー

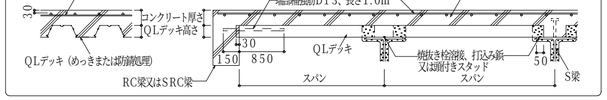


耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支 持 梁 ：鉄骨(S)梁 及び 大梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁
コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/㎜ 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (Ｄ１０－@２００)	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.6m 以下	90mm 以上	φ6－100x100	4,400N/㎡以下 注2)
		ＱＬ９９－７５	3.0m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
			3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.6m 以下	95mm 以上	Ｄ10－@200	5,400N/㎡以下 注2)
		ＱＬ９９－７５	2.7m 以下	85mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
			3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	Ｄ10－@200	5,400N/㎡以下 注2)



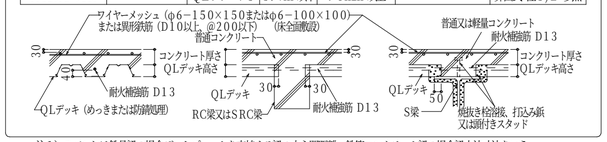
【単純支持合成スラブ】

支 持 梁 ：鉄骨(S)梁　　コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/㎟以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）
耐火補強筋 ：Ｄ１３（デッキプレート谷溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (Ｄ１０－@２００)	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下			算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上		算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照

支 持 梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁の場合　　コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/㎟ 以上の普通コンクリート
耐火補強筋：Ｄ１３（デッキプレート谷溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (Ｄ１０－@２００)	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ6－150x150	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ6－100x100	算出式 注5)A 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照



注1）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合溶接法ではない。
注2）スパンが３．４mを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径１６mm以上、ピッチ３００mm以下）で結合する。
注3）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注4）梁の耐火被覆　梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注5）許容積載荷重Ｗ　算出式　　ℓ：支持スパン（m）

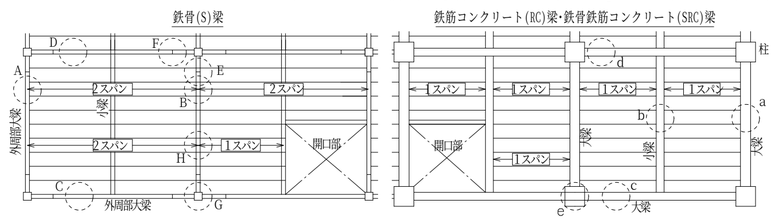
[A] ＱＬ９９－５０	[B] ＱＬ９９－７５
$W=5,400x\left(\frac{2.7}{\ell}\right)^2$ かつ9,800 N/㎡ 以下	$W=5,400x\left(\frac{3.4}{\ell}\right)^2$ かつ9,800 N/㎡ 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

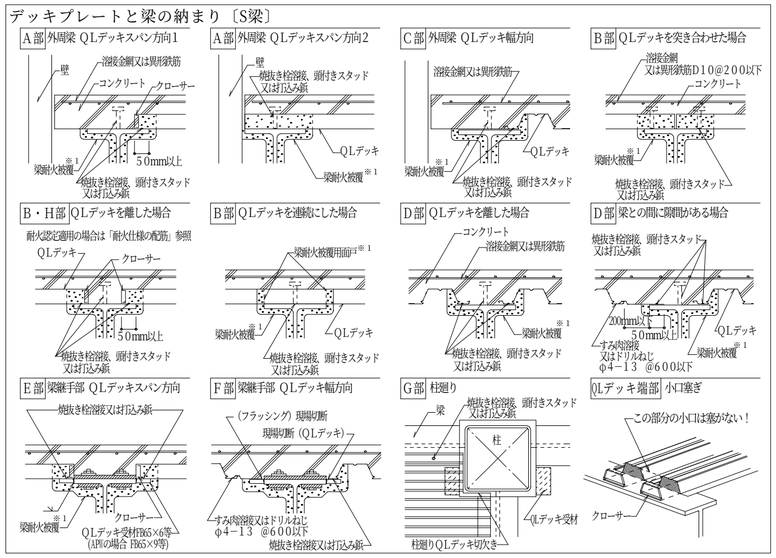
付帯条件
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

標　　準　　納　　ま　　り

図中※1は、梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。　※2はＱＬデッキ耐火認定を適用する場合に必要。

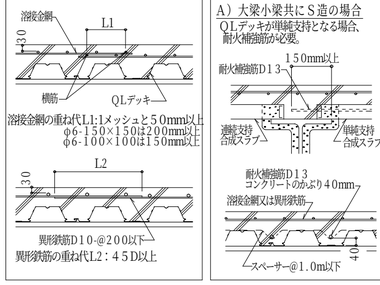


デッキプレートと梁の納まり〔S梁〕



スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

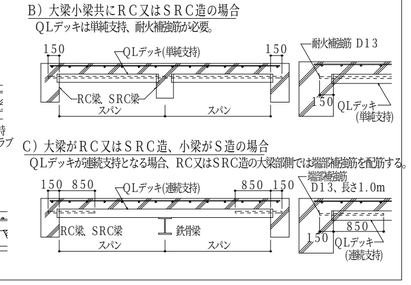


耐火仕様の配筋：ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による。

・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、ＱＬデッキの各溝中央部にかぶり４０mmで配筋する。
・耐火補強筋、端部補強筋共、梁へ１５０mm以上定着させる。梁上で定着が１５０mmとれない場合は、Ｌ型に曲げて１５０mm以上を確保する。

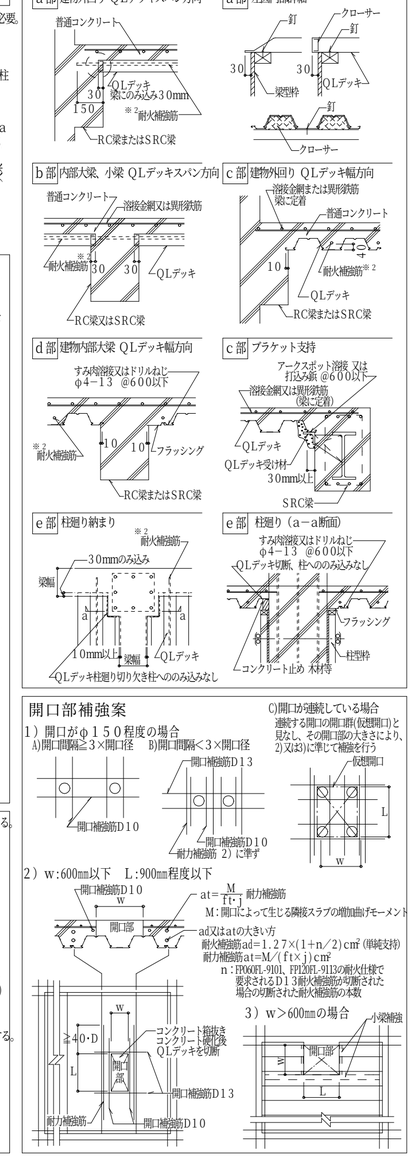
A）大梁小梁共にＳ造の場合
ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。

B）大梁小梁共にＲＣ又はＳＲＣ造の場合
ＱＬデッキは単純支持、耐火補強筋が必要。



C）大梁がＲＣ又はＳＲＣ造、小梁がＳ造の場合
ＱＬデッキが連続支持となる場合、ＲＣ又はＳＲＣ造の大梁端部では端部補強筋を配筋する。

デッキプレートと梁の納まり〔RC・SRC梁〕



開口部補強案

1）開口がφ１５０程度の場合
A)開口間隔≧３×開口径　B)開口間隔＜３×開口径

C)開口が連続している場合
連続する開口の開口部(仮想開口)と見なし、その開口部の大きさにより、
2)又は3)に準じて補強を行う

2）w：600㎜以下　L：900㎜程度以下

3）w＞600㎜の場合

施工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
ＱＬデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
コンクリート打設
↓
検　査

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1）墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2）各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。
(頭付きスタッドの場合は３０mm以上)
3）デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０mm以上あることを確認する。

ＲＣ梁またはＳＲＣ梁の場合
1）デッキプレートは梁型枠に釘止めする。
2）デッキプレートの梁型枠へののみ込み代が幅方向１０mm以上、長手方向が３０mmあることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については打込鋲製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)、　日本ドライブイット(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６０６号(平成19年6月20日改正)の第2接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般錆止め塗装）

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］―アーク手溶接―

(1) 溶接機
交流アーク溶接機 AW２５０A以上　エンジン溶接機 ２３０A以上
(2) 溶接棒
JIS Z 3211の E4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４㎜ゆのもの
(3) 標準溶接条件
梁フランジ板厚：６㎜以上
溶 接 電 流　：１９０～２３０A(標準２１０A)
(4) 溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
(5) 手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順　・　要　領
1	アーク発生	(ＱＬデッキを梁になじませ(隙間２㎜以下)溶接棒をＱＬデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	ＱＬデッキ焼抜き	溶接棒を右引き上げてアークを飛ばし、径10m弱で"の"の字を描いて(ＱＬデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁まで押し込み、焼抜きの小側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら溶着。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接脚の目安；電流値２１０A(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］―ＣＯ₂アークスポット溶接 ―

(1) 一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８KVA以上　３相　２００V
発電機の場合　　３５KVA以上　３相　２００V
(2) ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ１.２mm
(3) 標準溶接条件：下表

ＱＬデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流 (A)	電圧 (V)	アークタイム (秒)
1.2mm	6～9mm未満	３００～３２０	３３～３５	３.０～４.０×１度打ち
	9mm以上	３００～３２０	３３～３５	３.０～４.０×２度打ち
1.6mm	6～9mm未満	３００～３２０	３４～３６	３.５～４.５×１度打ち
	9mm以上	３００～３２０	３４～３６	４.０～４.５×２度打ち

注1.デッキプレート　板厚１．２、１．６mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
2.CO₂ガス流量：２０ℓ/分以上

検　　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1) 検査前での計測
2) 溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３mmに保ち、１０m程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接部を確認する。
□溶接後の外観検査
1) 溶接脚寸の確認　2) 焼き切れ、余盛り不足の有無
3) 標準余盛り径　SPW：8mm以上　A.P.Ⅱ：25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不良台部所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：重ね溶接して補修する。
【そ　の　他】
(1)ＱＬデッキ桁互の嵌合状況　(2)溶接金網の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

(参考)ひび割れ拡大防止のための留意事項

[1]設計上の留意点
1)小梁の剛性を大きくする。
2)ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3)スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
(コンクリート厚さをＱＬデッキ山上から 80～90mmと厚くする。)
4)デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。

[2]施工上の留意点
1)水セメント比を小さくする。
単位水量　175リットル/㎥ 以下
ベースコンクリートスランプ　10㎝
高性能AE減水剤
スランプ 15㎝
2)溶接金網の位置―かぶり厚さ30㎜―を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3)コンクリート打込み後１週間は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4)打込み後初期には散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5)打込み後４～７日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

大梁上の補強例

柱廻りの補強例

CHECK	DESIGN	DRAW	

SCALE　-
DATE　'15.08

富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事
デッキプレート仕様書

SHEET NO.
S-06

ボーリング柱状図

調査名　富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ等改修工事

事業・工事名

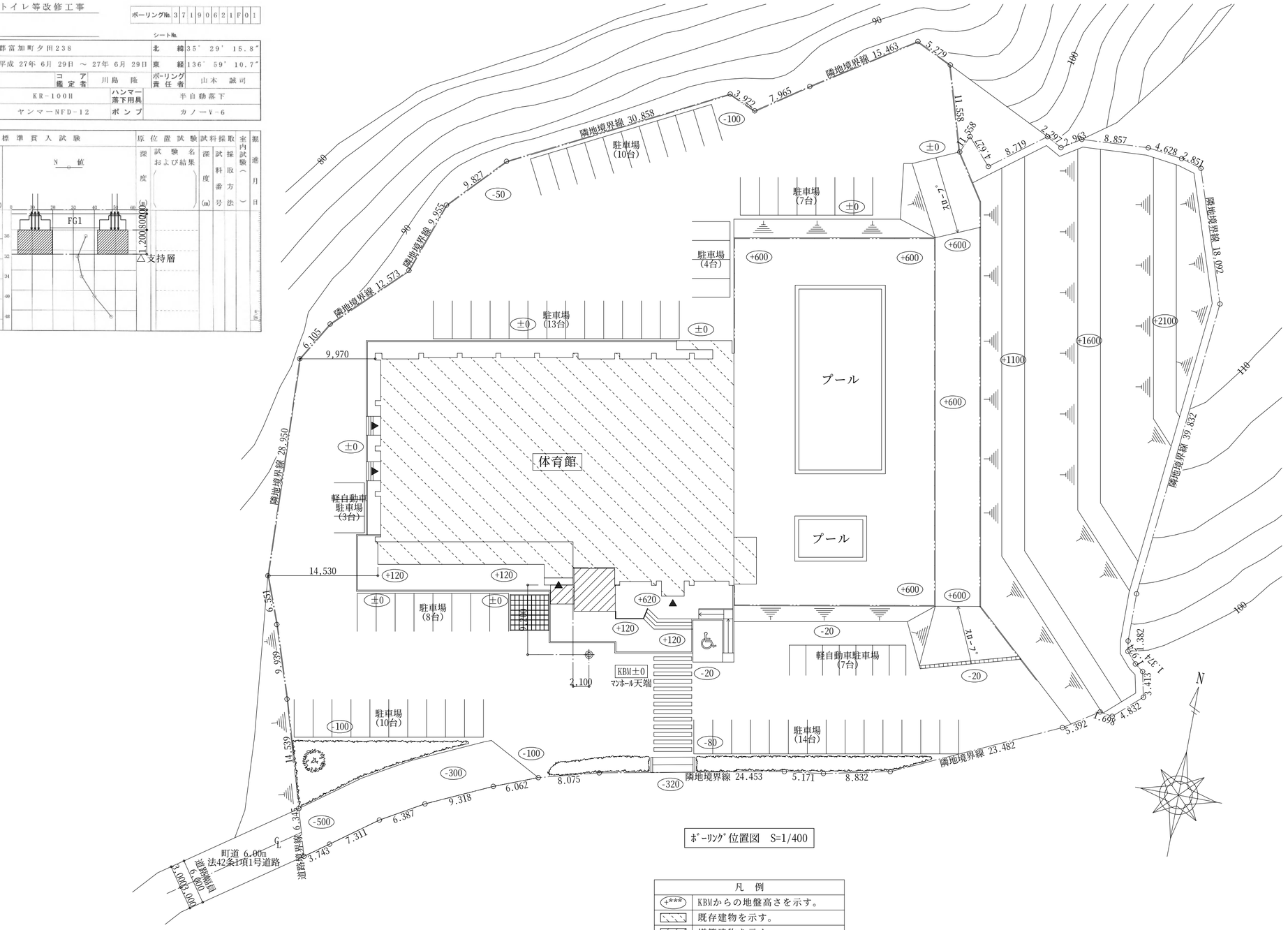
ボーリングNo. 3 7 1 9 0 6 2 1 F 0 1

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	加茂郡富加町夕田238	北緯	35° 29′ 15.8″
発注機関	株式会社 山田建築事務所	調査期間	平成27年6月29日 ～ 27年6月29日	東経	136° 59′ 10.7″
調査業者名	株式会社 岐阜ソイルコンサルタント 電話（058-277-6813）	主任技師	現場代理人	コア鑑定者	川島 隆
孔口標高	KBM +0.05m	角度	上180° 90° 下0° 0°	方向	北0° 90°東 180°南 270°西
総掘進長	5.45m	地盤勾配	水平0° 鉛直90° 0°	使用機械	試錐機 KR-100H / エンジン ヤンマーNFD-12
				ボーリング責任者	山本 誠司
				ハンマー落下用具	半自動落下
				ポンプ	カノーV-6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	-0.05	0.50	0.50		盛土	黒褐～暗褐色			表層部5cmアスファルト。 径5～30mmの角礫主体。 全体に粘性土分多く混入。
2					風化岩	暗黄灰～暗灰色			記号・砂岩の風化岩でシルト混り砂状を呈する。 全体に亀裂多く発達する。 地層の傾り具合は、良く締まっている。 深度5m付近より、色調変化。 岩級区分「D」級。
3									
4									
5	-5.00	4.95	5.45						

孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
	1.15	10	12	14	36/30	26							
	2.15	9	10	13	32/30	23							
	3.15	9	11	14	34/30	25							
	4.15	12	13	15	40/30	28							
	5.15	13	16	19	48/30	35							
	5.45												6/29



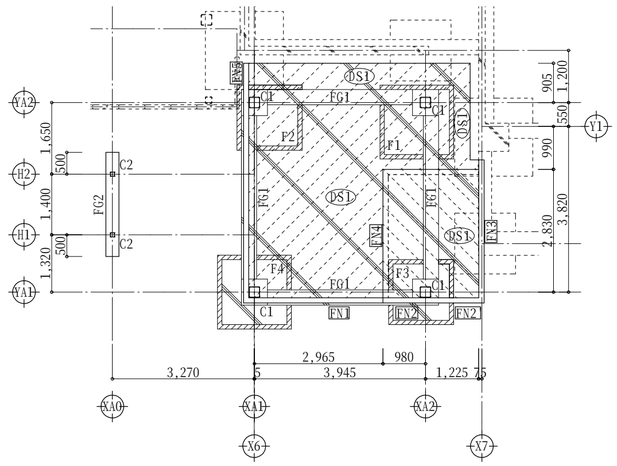
ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ位置図　S=1/400

凡　例	
±***	KBMからの地盤高さを示す。
	既存建物を示す。
	増築建物を示す。
▼	出入口を示す。

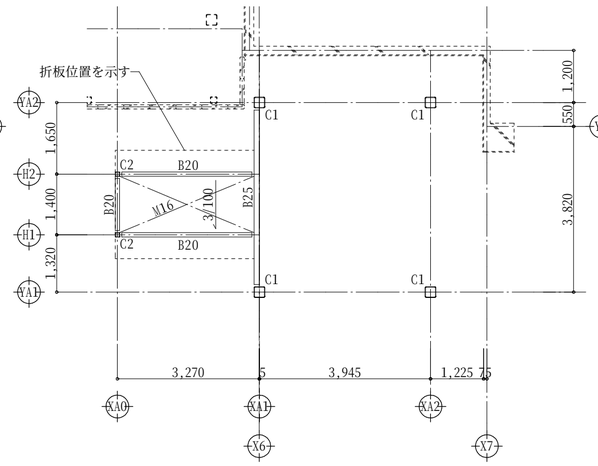
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/150,400	ボーリング柱状図	S-07
				DATE '15.08		

凡例

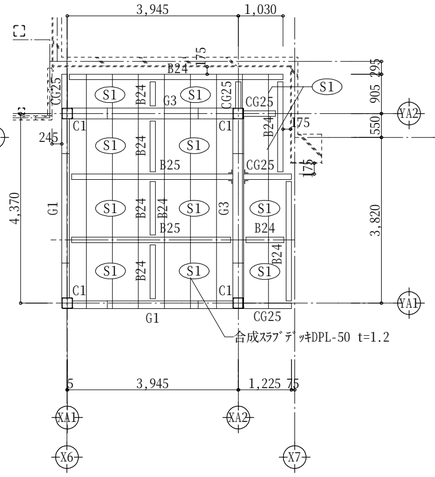
C1	1F	□-250×250×12
	2F	□-250×250× 9
C2	1F	□-100×100× 6
G1	H-350×175×7.0×11	
G2	H-300×150×6.5×9	
G3	H-340×250× 9×14	
B25	H-250×125× 6×9	
B24	H-248×124× 5×8	
B20	H-200×100×5.5×8	
CG25	H-250×125× 6×9	
M16		
DS1	ｺﾝｸﾘｰﾄt=150 D13@200ﾀﾃﾖｺ共ｼﾝｸﾞﾙ 砕石t=100 防湿ｼｰﾄt=0.15	
S1	合成ｽﾗﾌﾞ用DPL-50 t=1.2 D10@200ﾀﾃﾖｺ共ｼﾝｸﾞﾙ ｺﾝｸﾘｰﾄ山高80 焼抜き栓溶接@600	
RS1	合成ｽﾗﾌﾞ用DPL-50 t=1.2 D10@200ﾀﾃﾖｺ共ｼﾝｸﾞﾙ ｺﾝｸﾘｰﾄ山高80 焼抜き栓溶接@600	
	剛接合を示す。	



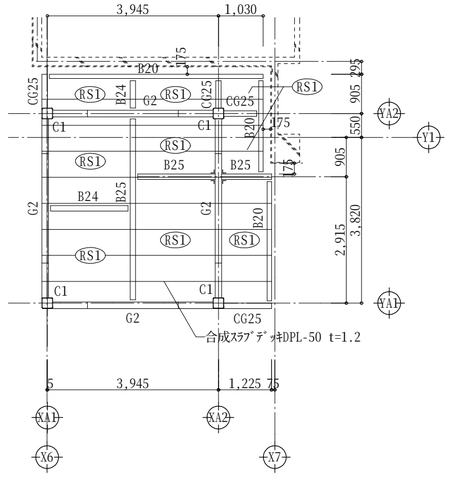
基礎伏図　S=1/100



2階梁伏図　S=1/100



2階梁伏図　S=1/100

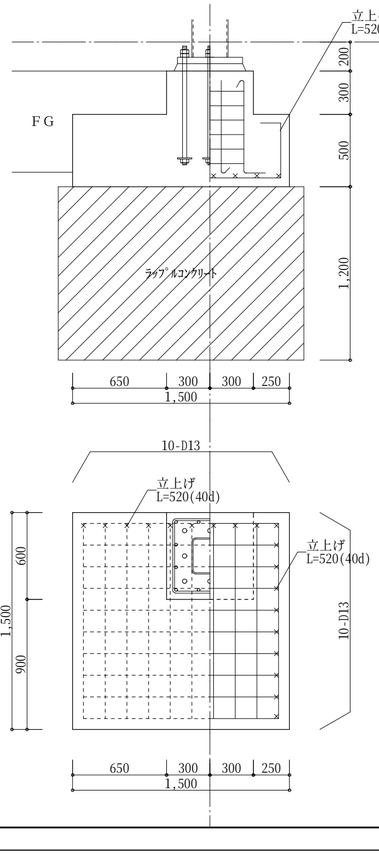


R階梁伏図　S=1/100

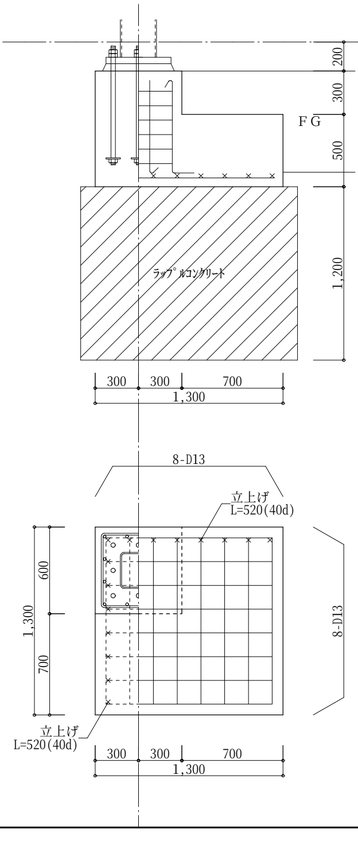
ﾗｯﾌﾟﾙｺﾝｸﾘｰﾄを示す。
天端ﾚﾍﾞﾙはGL+190
天端ﾚﾍﾞﾙはGL+590

基礎詳細図　S=1/30

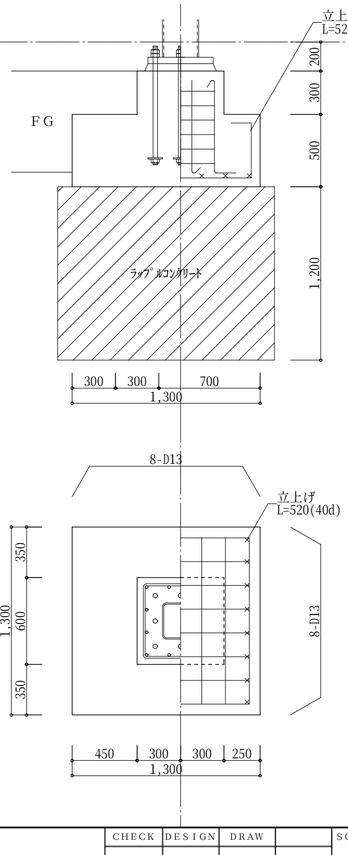
F1



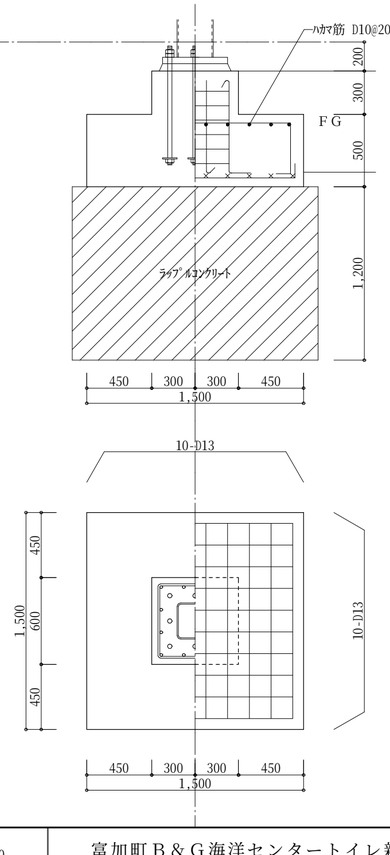
F2



F3



F4



使用材料

1．ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=21
2．鉄筋	SD295A(D16以下)
	SD345 (D19以上)
3．地耐力	300KN/㎡
4．ﾗｯﾌﾟﾙ	Fc=18
5．鉄骨	形鋼・鋼板:SS400
	ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑPL :SN490C
	角形鋼管 :BCR295
	丸形鋼管 :STK400
	軽量形鋼 :SSC400
	高力ﾎﾞﾙﾄ :F10T 規格品
	普通ﾎﾞﾙﾄ :SS400
	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ :ABR400

柱部材	□-250×250×12
ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ	450×450×45(SN490C)
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	8-M30(SNR400B)
ｺﾝｸﾘｰﾄ柱断面	600×600
立上り筋	12-D19
HOOP	D13 @100
設計基準強度	21N/mm2以上

CHECK	DESIGN	DRAW	

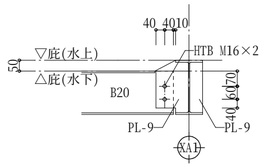
SCALE S=1/30,100

DATE '15.08

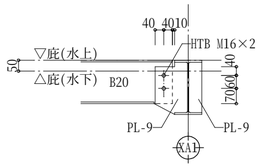
富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

基礎伏図・梁伏図・基礎詳細図

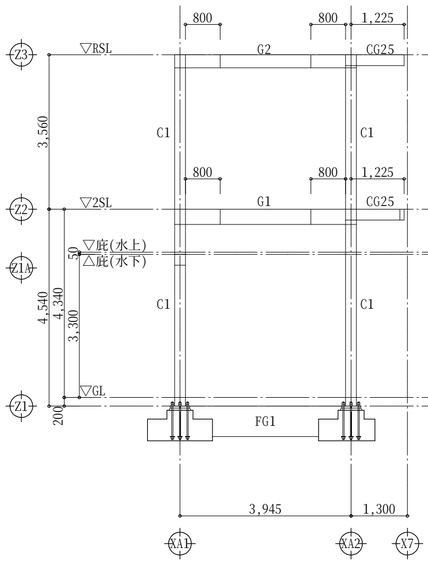
SHEET NO. S-08



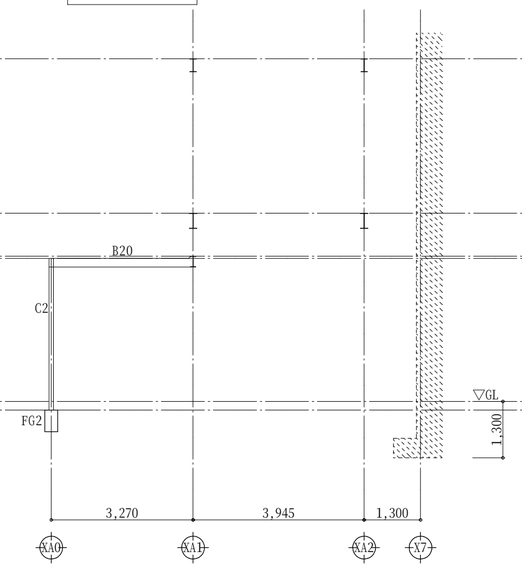
H1通　S=1/20



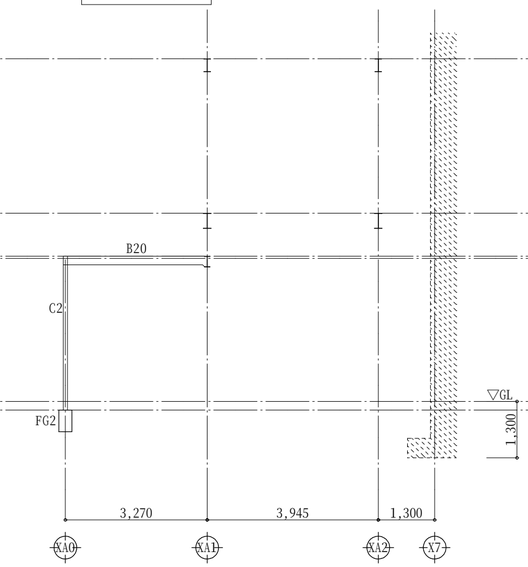
H2通　S=1/20



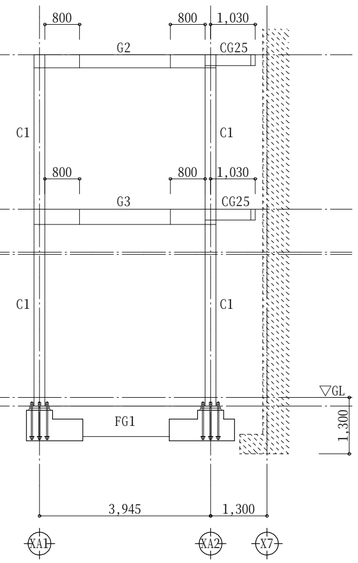
YA1通軸組図　S=1/100



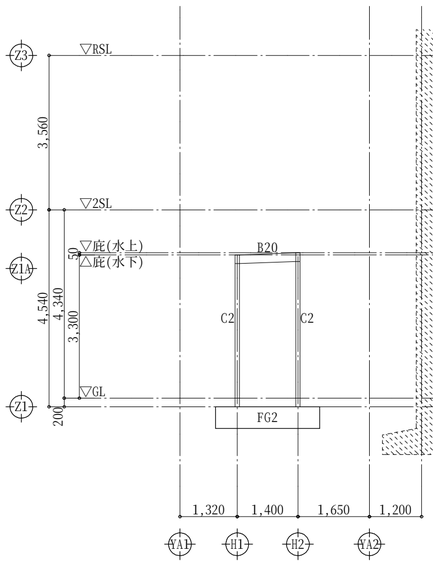
H1通軸組図　S=1/100



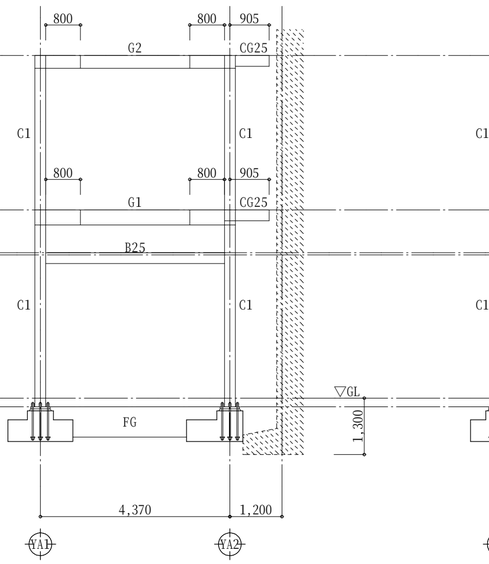
H2通軸組図　S=1/100



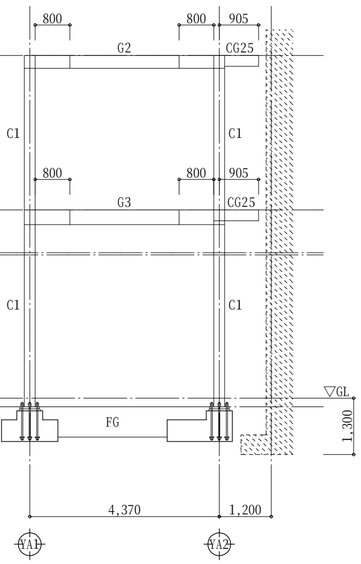
YA2通軸組図　S=1/100



XA0通軸組図　S=1/100



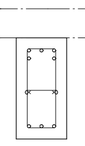
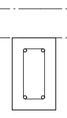
XA1通軸組図　S=1/100



XA2通軸組図　S=1/100

使用材料	
1．ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=21
2．鉄筋	SD295A(D16以下)
	SD345（D19以上）
3．地耐力	300KN/㎡
4．ﾗｯﾌﾟﾙ	Fc=18
5．鉄骨	形鋼・鋼板:SS400
	ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑPL :SN490C
	角形鋼管 :BCR295
	丸形鋼管 :STK400
	軽量形鋼 :SSC400
	高力ﾎﾞﾙﾄ :F10T 規格品
	普通ﾎﾞﾙﾄ :SS400
	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ :ABR400

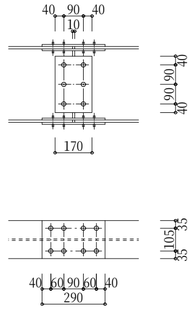
地中梁リスト　S=1/30

符　号	FG1	FG2
位　置	全断面	全断面
断　面		
B×D	350 × 700	300 × 500
上端筋	3-D22/2-D22	2-D22
下端筋	3-D22	2-D22
ＳＴＰ	2-D13@200	2-D10@200
腹筋	2-D13	
幅止筋	D10@1000	

※地中梁主筋の柱への定着長さは40dとする。

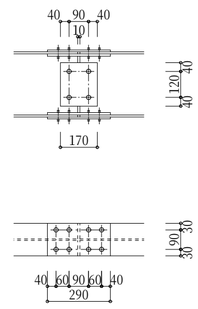
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/30,100	軸組図	S-09
				DATE '15.08		

G1　H-350×175×7.0×11



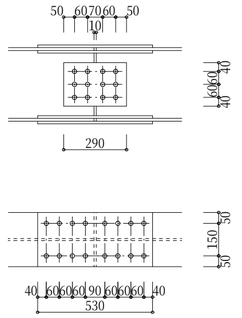
G1　H-350×175×7.0×11
ﾌﾗﾝｼﾞ 4PL-9 HTB M20×16ｺ
ｳｪﾌﾞ 2PL-6 HTB M20× 6ｺ

G2　H-300×150×6.5×9



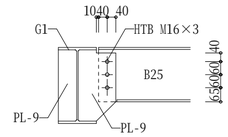
G2　H-300×150×6.5× 9
ﾌﾗﾝｼﾞ 4PL-9 HTB M20×16ｺ
ｳｪﾌﾞ 2PL-6 HTB M20× 4ｺ

G3　H-340×250×9.0×14

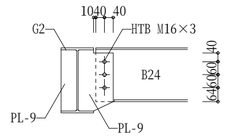


G3　H-340×250×9.0×14
ﾌﾗﾝｼﾞ 4PL-12 HTB M20×32ｺ
ｳｪﾌﾞ 2PL- 9 HTB M20×12ｺ

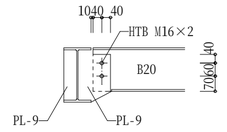
小梁継手詳細図



B25:H-250×125×6×9

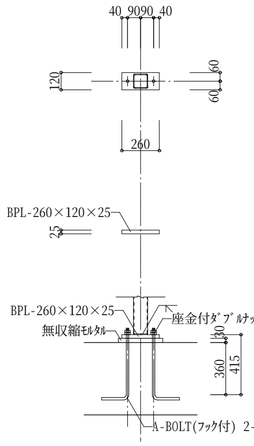


B24:H-248×124×5×8



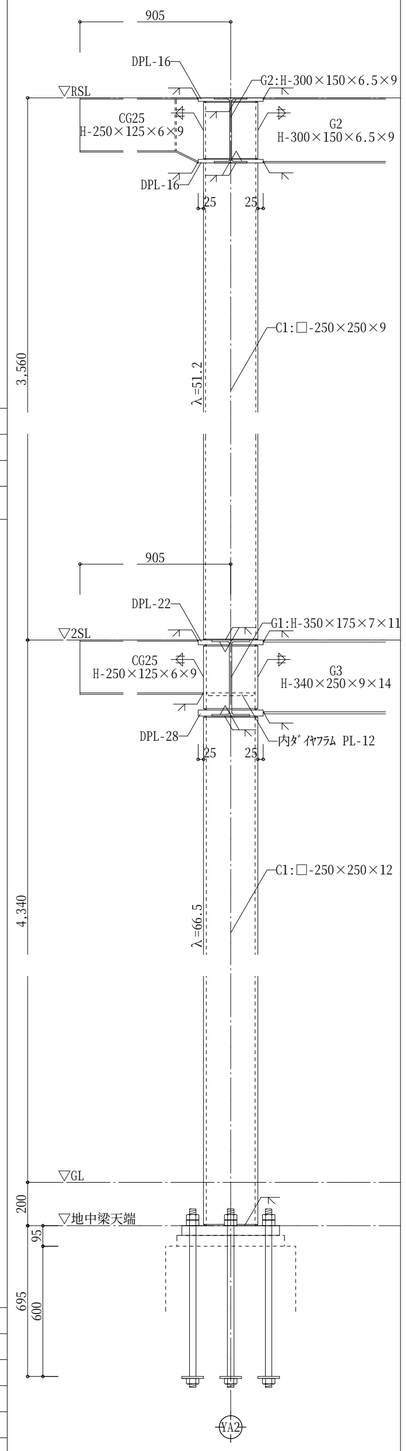
B20:H-200×100×5.5×8

C2 柱脚詳細図　S=1/30

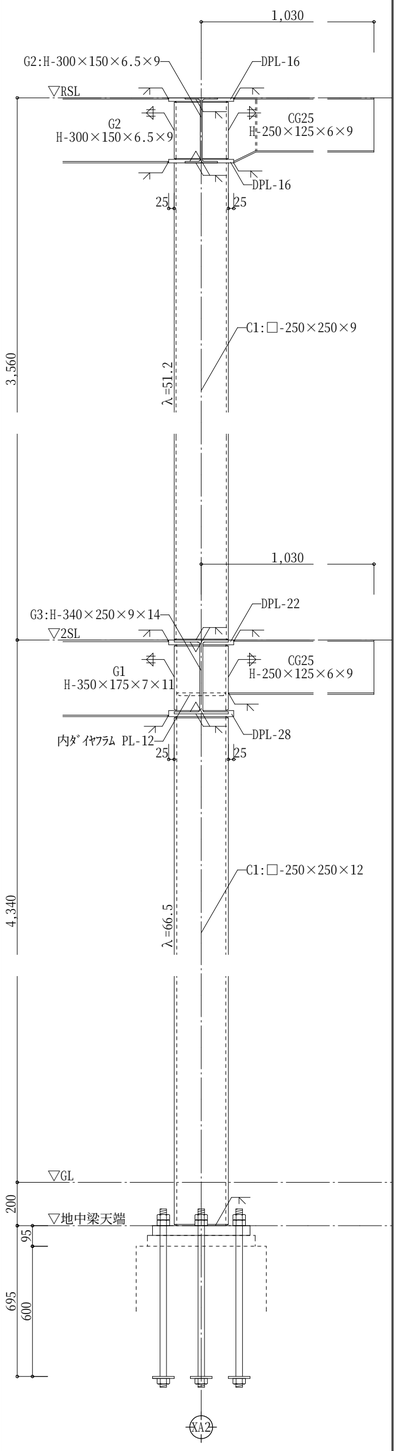


柱部材	□-100×100×6
ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ	260×120×25(SN490C)
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	2-M18(SNR400B)

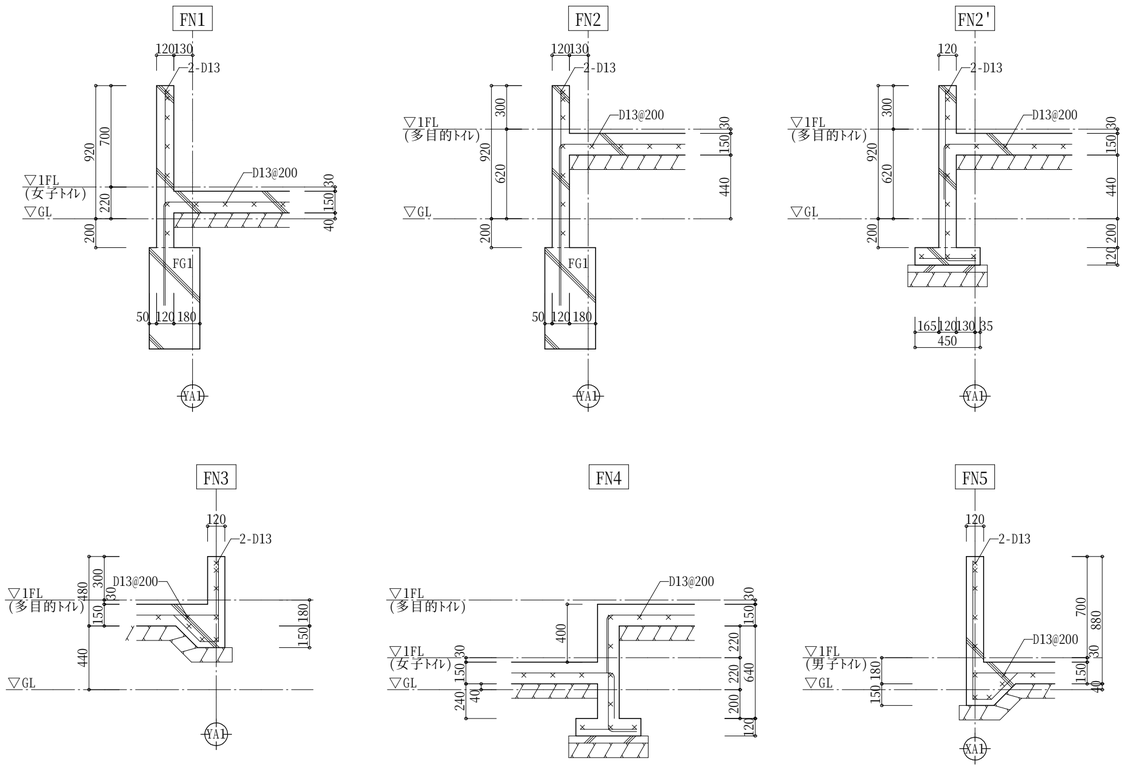
XA2通 鉄骨詳細図 S=1/20



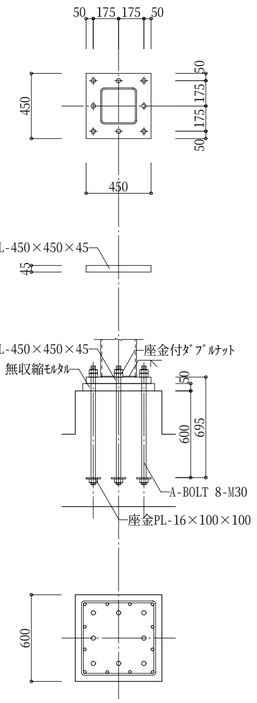
YA2通 鉄骨詳細図 S=1/20



立上り詳細図　S=1/30



C1 柱脚詳細図　S=1/30



柱部材	□-250×250×12
ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ	450×450×45(SN490C)
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	8-M30(SNR400B)
ｺﾝｸﾘｰﾄ柱断面	600×600
立上り筋	12-D19
HOOP	D13 @100
設計基準強度	21N/mm2以上

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/20,30	鉄骨詳細図	S-10
				DATE '15.08		

特　記　事　項

工事名称　　富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

工事種別

１．幹線設備	一式
２．照明設備	一式
３．コンセント設備	一式
４．呼出し設備	一式
５．自火報設備	一式

一般仕様

１．新設工事共通仕様書
（１）特記仕様、図面及び現場説明書（現場説明に対する質問回答書を含む）に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編…平成25年版）及び公共建築設備工事標準図（電気設備工事編…平成25年版）による。
（２）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事の仕様書を適用する。

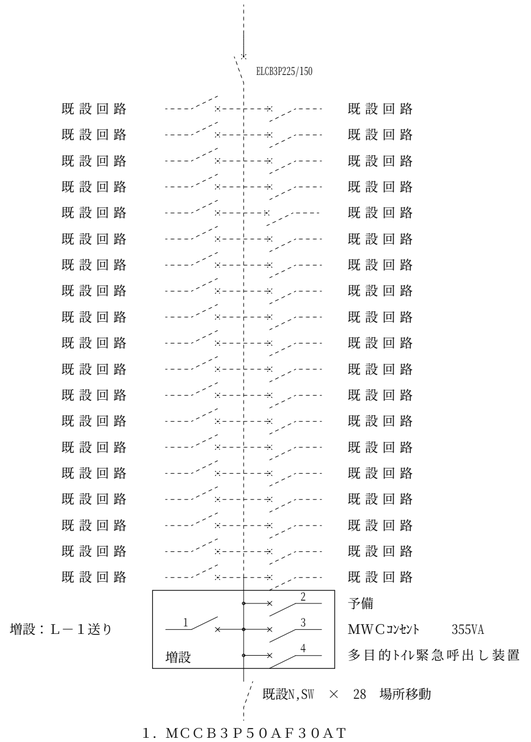
２．改修工事共通仕様書
（１）特記仕様、図面及び現場説明書（現場説明に対する質問回答書を含む）に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編…平成25年版）及び公共建築設備工事標準図（電気設備工事編…平成25年版）による。
（２）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事の仕様書を適用する。

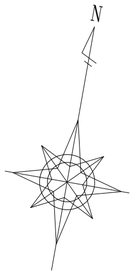
３．設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次の（１）～（５）の順番とおりとする。
（１）質問回答書
（２）現場説明書
（３）特記仕様
（４）図面
（５）標準仕様書及び標準図

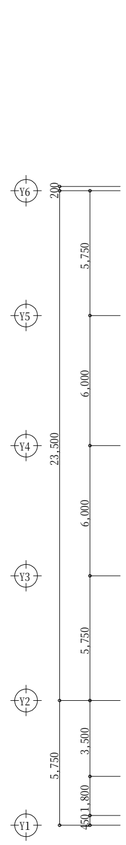
一般共通事項

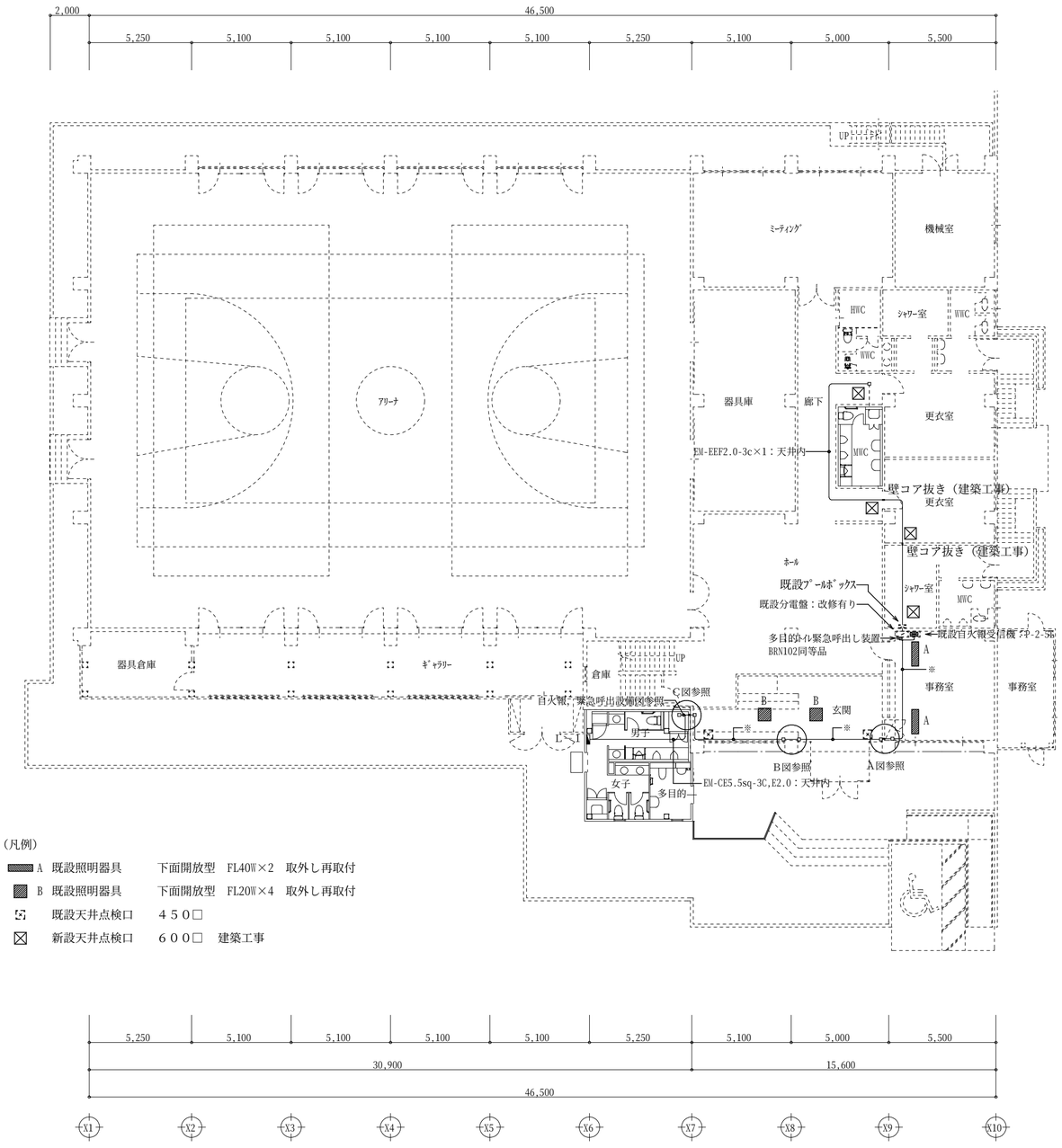
機材等	１．本工事に使用する設備機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。但し、仮設工事材料、リサイクル製品及び特に指定したものは新品でなくともよい。また、これらの設備機材等は、監督員の承諾を受ける。 ２．主要材料については契約後速やかに主要機材の製作所名等一覧表を提出し、監督員の確認を受ける。 ３．設計図書に記載してあるもの及び監督員の指示する材料、仕上げの程度、色合い等は、あらかじめ見本を提出して確認を受ける。
機材の品質・性能証明	使用する機材が、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第１編第１章第４節１．４．２(ｂ)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を、省略することができる。 但し、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。
材料搬入報告書の省略について	材料搬入報告書の作成対象は機器類のみとし、配管及び配線資材については報告書の作成を省略する。 但し、当該資材の使用に際しては、設計仕様への適合について事前に監督員の確認を受けることとする。
機器姿図	姿図の形状及び寸法は、概略を示す。
産業廃棄物の適正処理について	産業廃棄物が搬出される工事にあたっては監督員の指示に従い、産業廃棄物関連書類の提出及び確認並びに処理施設の現地確認並びに建設廃棄物処理状況の管理を行い、産業廃棄物が最終処分に至るまで適正に処理されていることを確認する。
再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書の提出	建設リサイクル法の実施に係る岐阜県指針に基づき、工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を、また工事完了時に同計画書の実施報告書を監督職員に提出するものとする。

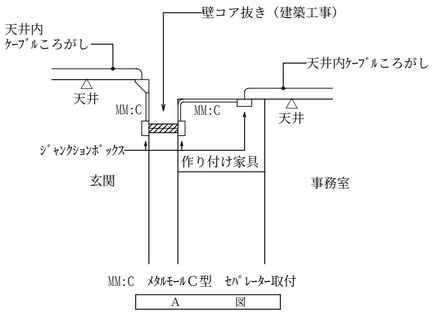
A	ＬＥＤダウンライト　１００形電球１灯相当	B	ＬＥＤダウンライト　６０形電球１灯相当	C	ＬＥＤ　ブラケット
	器具光束９０６１ｍ、消費電力１３．９Ｗ 昼白色 高気密ＳＢ、拡散タイプ 枠：アルミダイカスト（ホワイトつや消し） 埋込穴φ１００、埋込高８０		器具光束５１４１ｍ、消費電力８Ｗ 昼白色 高気密ＳＢ、拡散タイプ 枠：アルミダイカスト（ホワイトつや消し） 埋込穴φ１００、埋込高７８		器具光束５１４１ｍ、消費電力８Ｗ カバー：ガラス（乳白つや消し） アルミダイカスト（ホワイト） Ｗ＝１２０　Ｈ＝１２０　出しろ７５
	パナソニック　ＬＧＢ７４１２０ＬＥ１同等品		パナソニック　ＬＧＢ７３１２０ＬＥ１同等品		パナソニック　ＬＧＢ８１５０３ＬＥ１同等品

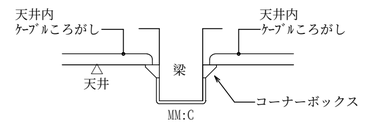

ELCB3P225/150
既設回路
既設回路
既設回路

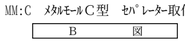


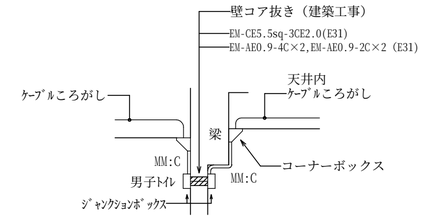


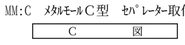












（注記） 1． 図中明記なき配線は下記とする。

※ EM-CE5.5sq-3C,E2.0
EM-AE0.9-4C×2,EM-AE0.9-2C×2

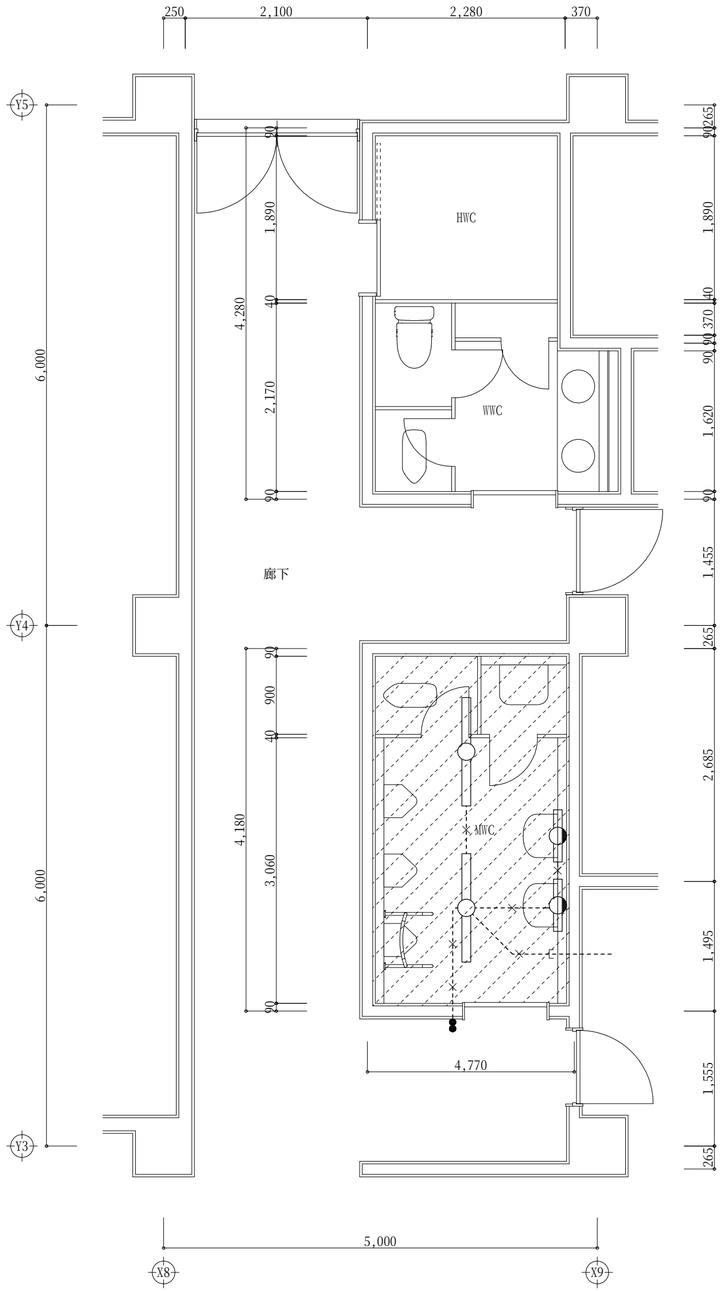
2． 防火区画貫通ヶ所は関係法規に基き防火措置を行うこと。

（凡例）

A	既設照明器具	下面開放型 FL40W×2	取外し再取付
B	既設照明器具	下面開放型 FL20W×4	取外し再取付
	既設天井点検口	４５０□	
	新設天井点検口	６００□ 建築工事	

改修後 １階平面図 S=1/200

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		E-02
				DATE '15.08	改修後 １階全体電気設備図	



（注記）図中明記なき配管配線は下記とする。

EM-EEF1.6-2c
EM-EEF1.6-3c

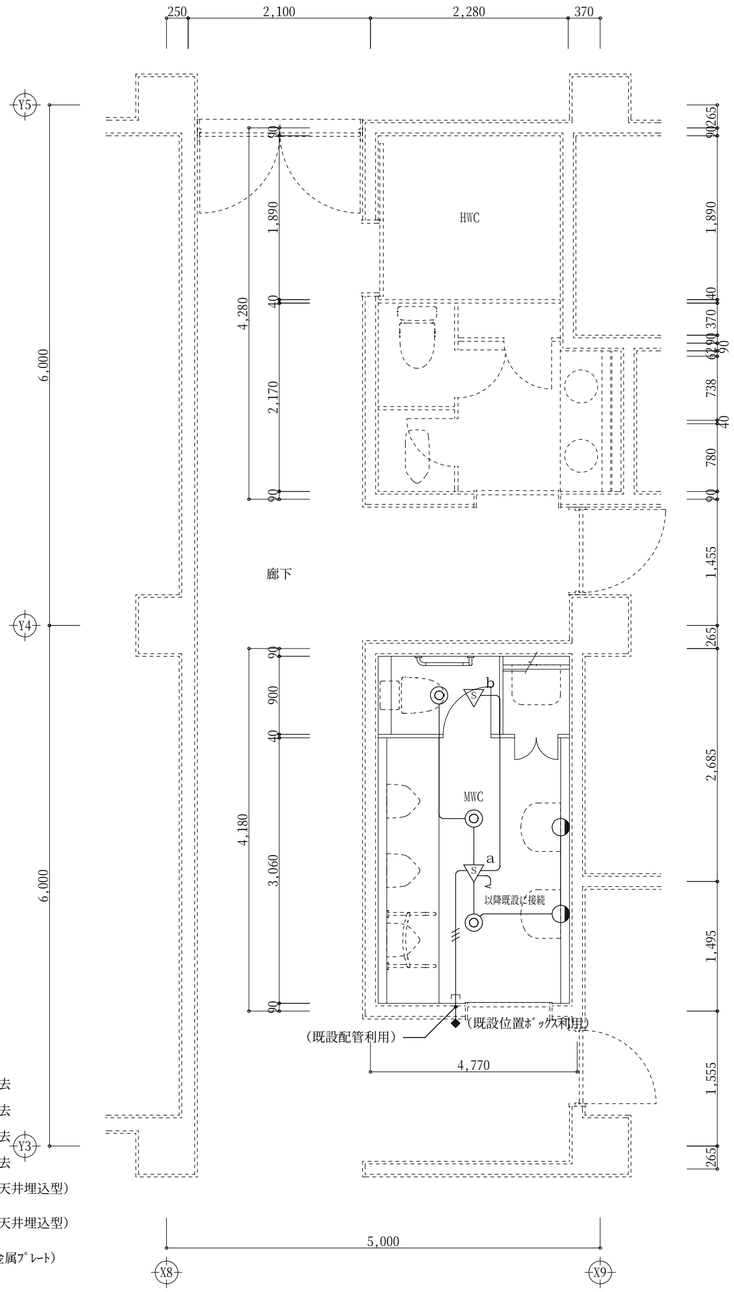
（凡例）

	直付型蛍光灯（FL40W×1）撤去
	ブラケット　（FL10W×1）撤去
	埋込スイッチ（1P15A-2）　撤去
	配線　撤去
S a	熱線センサスイッチ（親機　天井埋込型） WTK2411　同等品
S b	熱線センサスイッチ（子機　天井埋込型） WTK2911　同等品
◆	切替スイッチ（1回路用　新金属ﾌﾟﾚｰﾄ） WTC5820W　同等品

改修前　平面詳細図　S=1/50

凡例

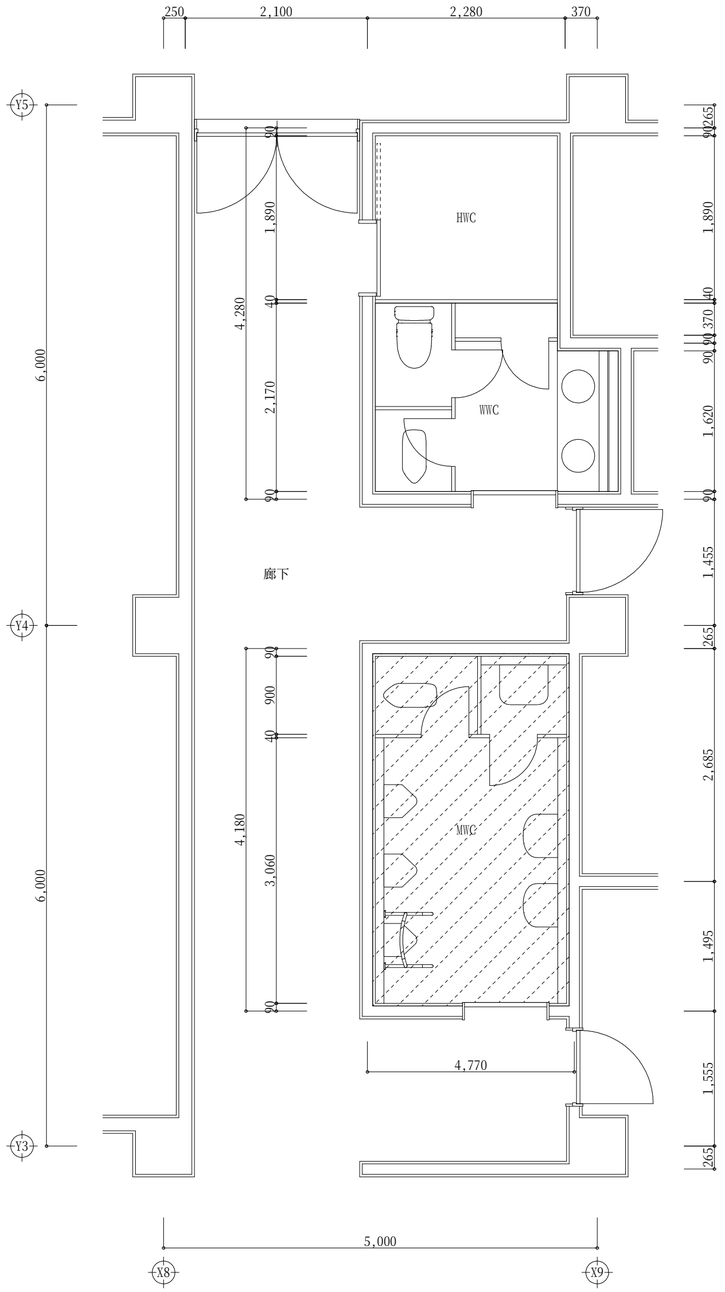
改修範囲を示す



M　W　C
（A）－2
（B）－1
（C）－2

改修後　平面詳細図　S=1/50

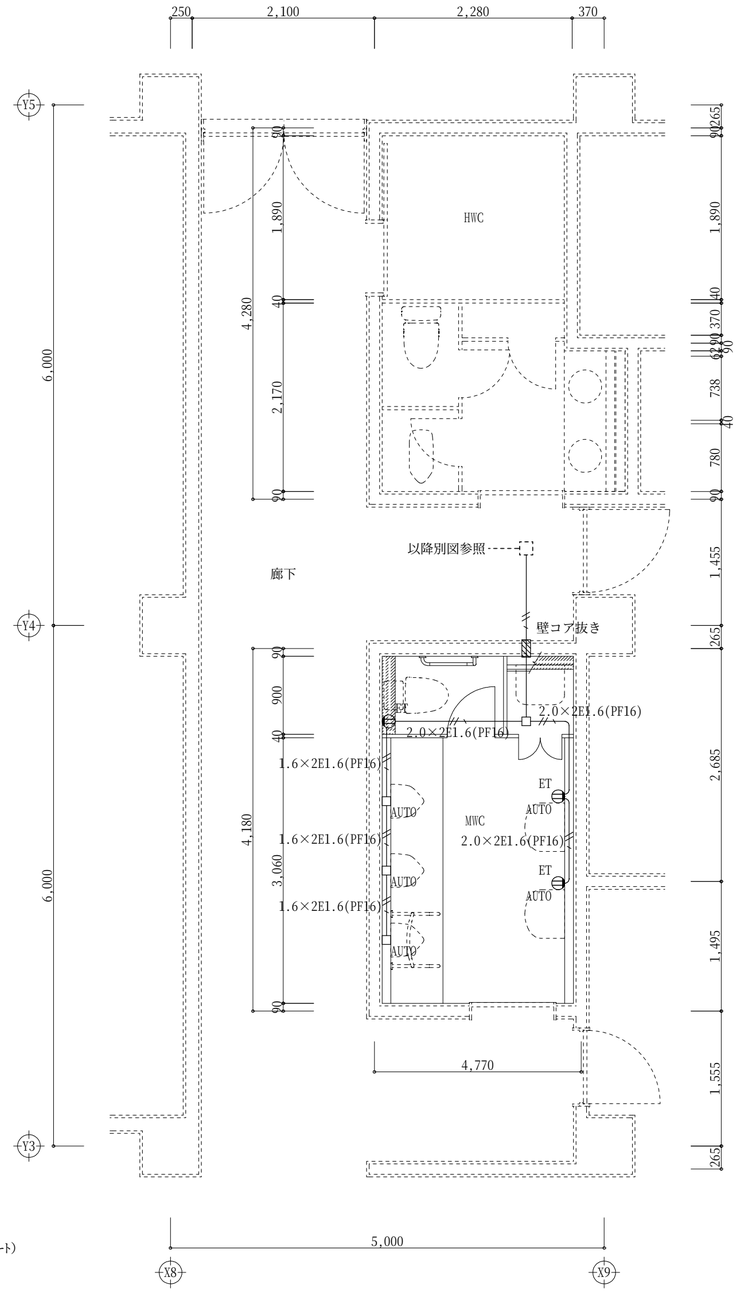
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		E-03
				DATE '15.08	改修前・後　１階便所　照明設備図	



改修前 平面詳細図 S=1/50

凡例

▨	改修範囲を示す



改修後 平面詳細図 S=1/50

凡例

:::::::	既設範囲を示す
▨	棚板:ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭt=20 FL+1500

（凡例）

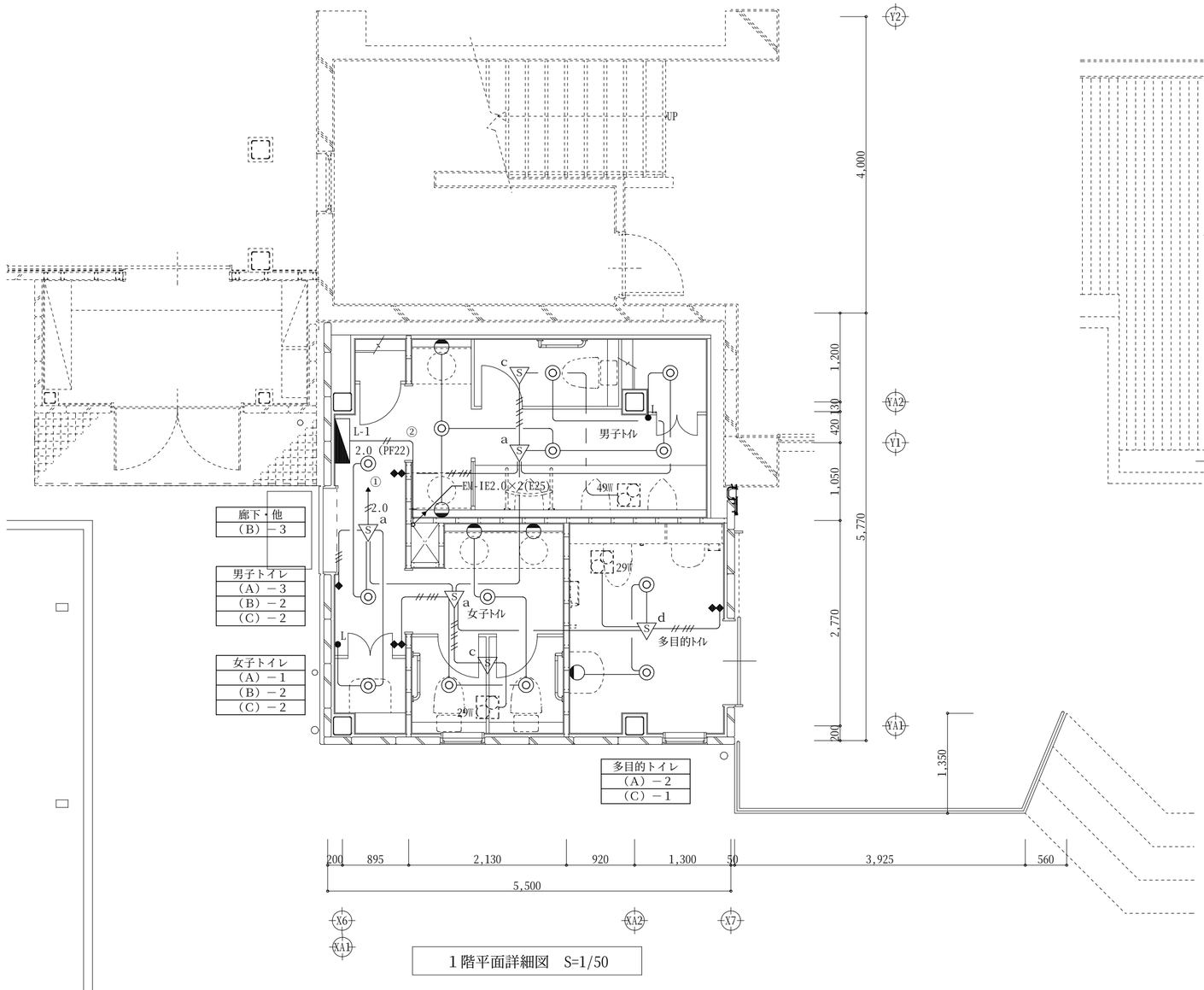
ⓔET　埋込コンセント(2P15A-1・ET付　新金属ﾌﾟﾚｰﾄ)

□AUTO　位置ボックス（鋼製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ）

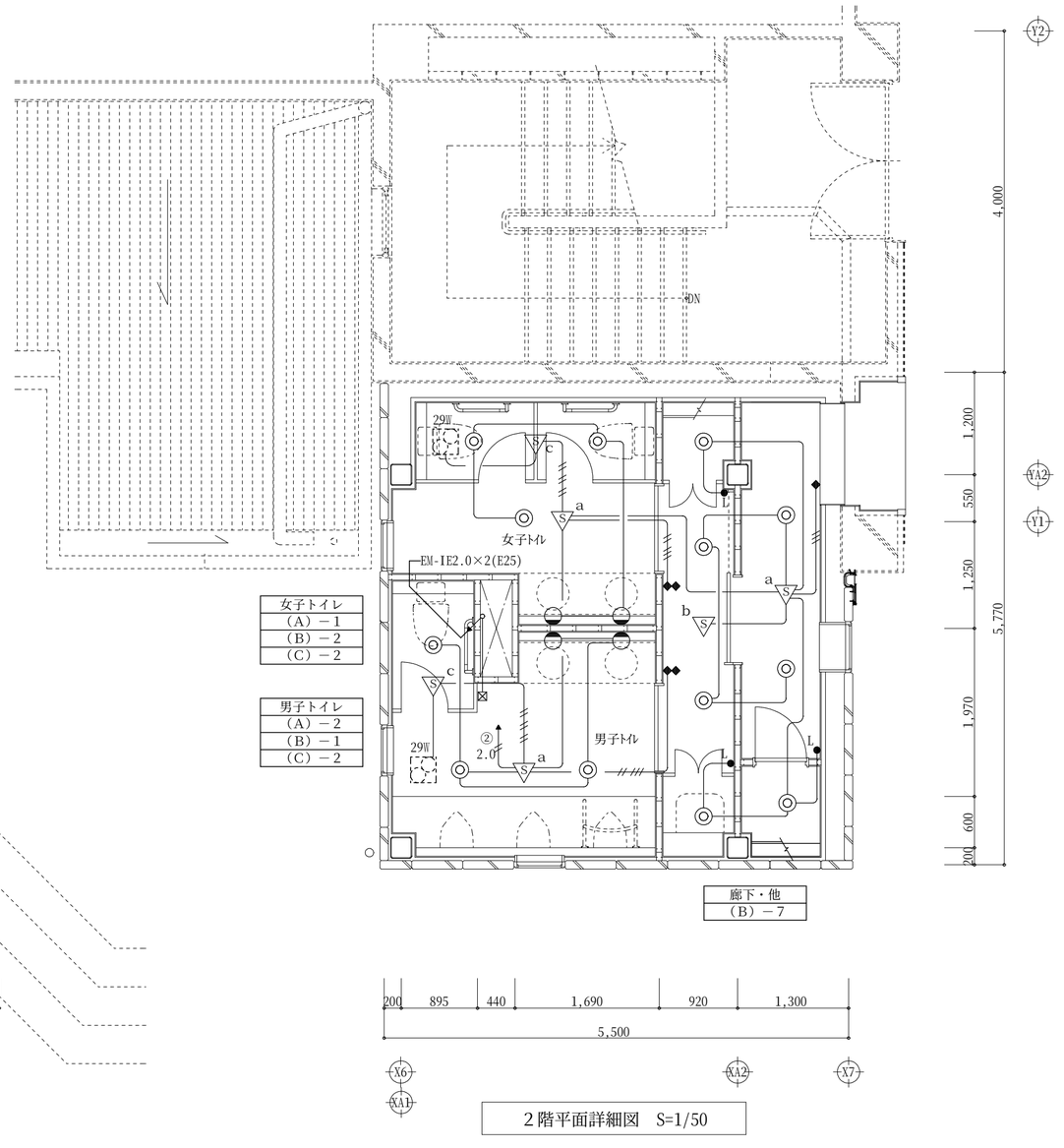
（注記）図中明記なき配線は下記とする。
但し、壁立下げ等はPF管保護とする。

—//— EM-EEF2.0-3c（1cｱｰｽ）

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50	改修前・後　１階便所　コンセント設備図	E-04
				DATE '15.08		



1階平面詳細図　S=1/50



2階平面詳細図　S=1/50

（注記）図中明記なき配線は下記とする。
但し、壁立下げ等はPF管保護とする。

———	EM-EEF1.6-2c
——/——/——	EM-EEF1.6-3c
——//——//——	EM-EEF1.6-2c＋EM-EEF1.6-3c
——///——///——	EM-EEF1.6-2c×2＋EM-EEF1.6-3c
——//2.0——//——	EM-EEF2.0-2c

（凡例）

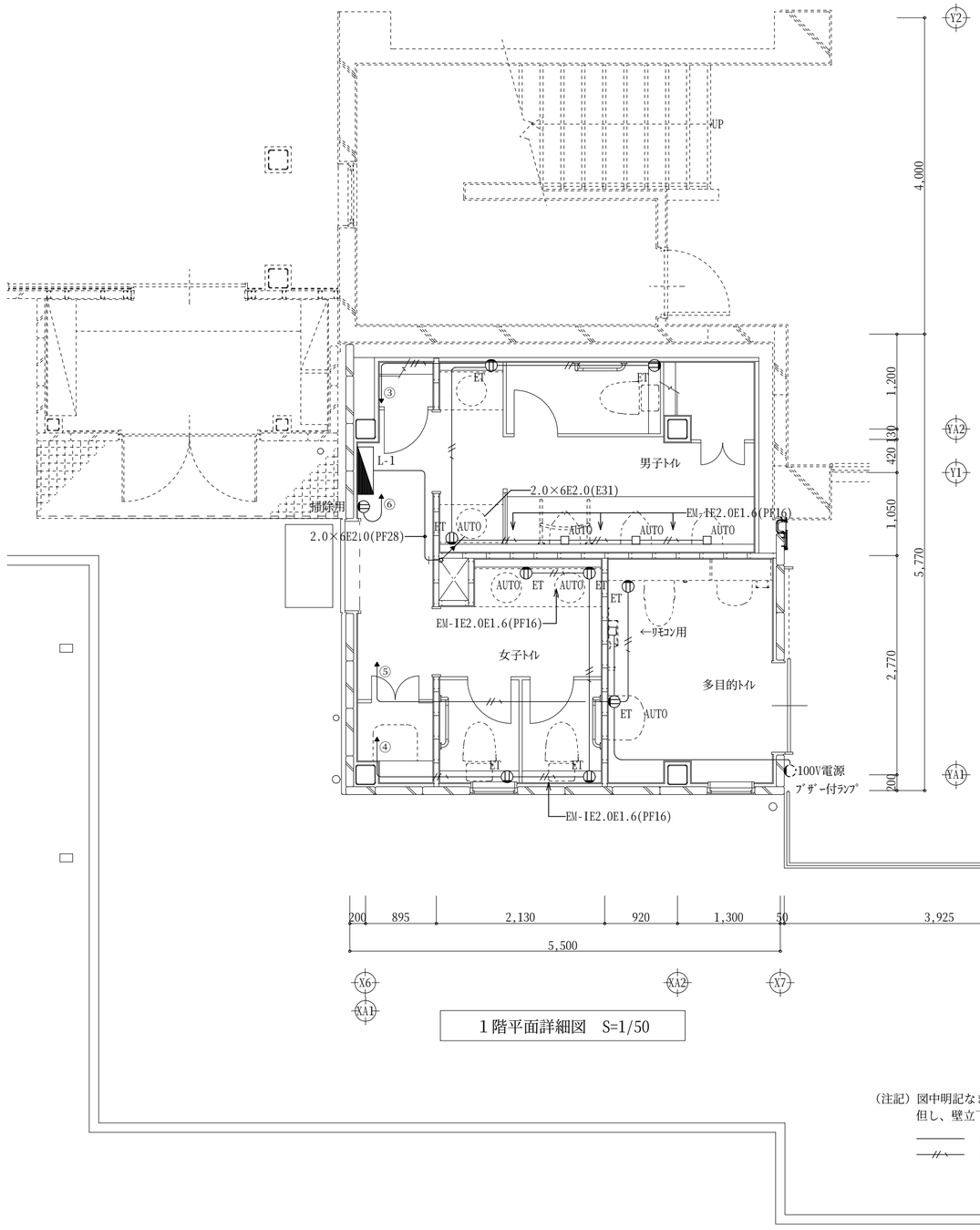
Sa	熱線センサスイッチ（親機　天井埋込型）	WTK24819	同等品
Sb	熱線センサスイッチ（子機　天井埋込型）	WTK2910	同等品
Sc	熱線センサスイッチ（子機　天井埋込型　換気扇連動型）	WTK2933K	同等品
Sd	熱線センサスイッチ（換気扇　遅れ・OFF機能付）	WTK2614	同等品
◆	切替スイッチ　（1回路用　新金属ﾌﾟﾚｰﾄ）	WTC5820W	同等品
◆◆	切替スイッチ　（2回路用　新金属ﾌﾟﾚｰﾄ）	WTC5822W	同等品
●L	埋込スイッチ　1P15A-1　ﾗﾝﾌﾟ付　新金属ﾌﾟﾚｰﾄ		

CHECK	DESIGN	DRAW	SCALE	DATE
			S=1/50	'15.08

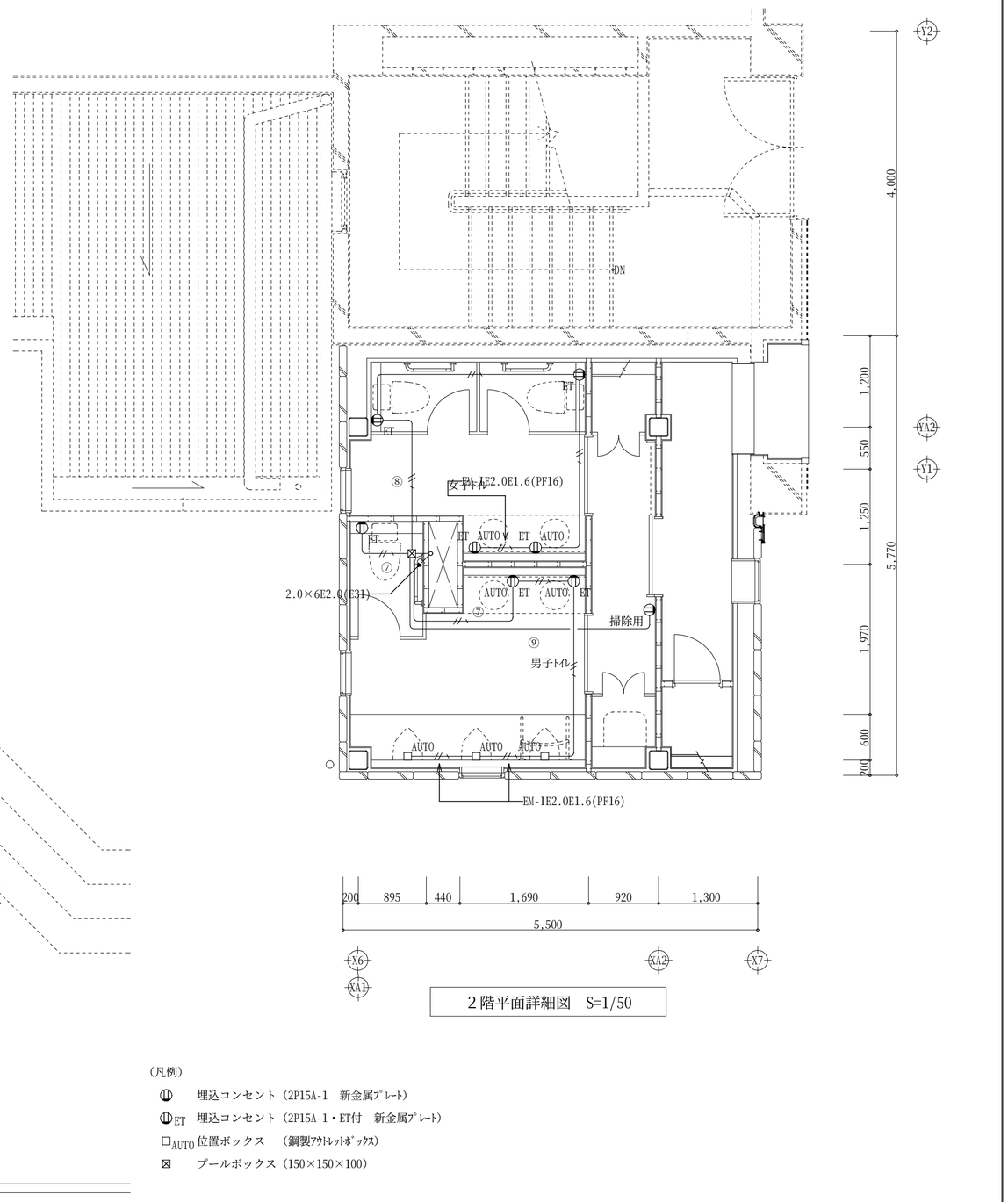
富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

増築トイレ　照明設備図

SHEET NO. E-05



1階平面詳細図　S=1/50



2階平面詳細図　S=1/50

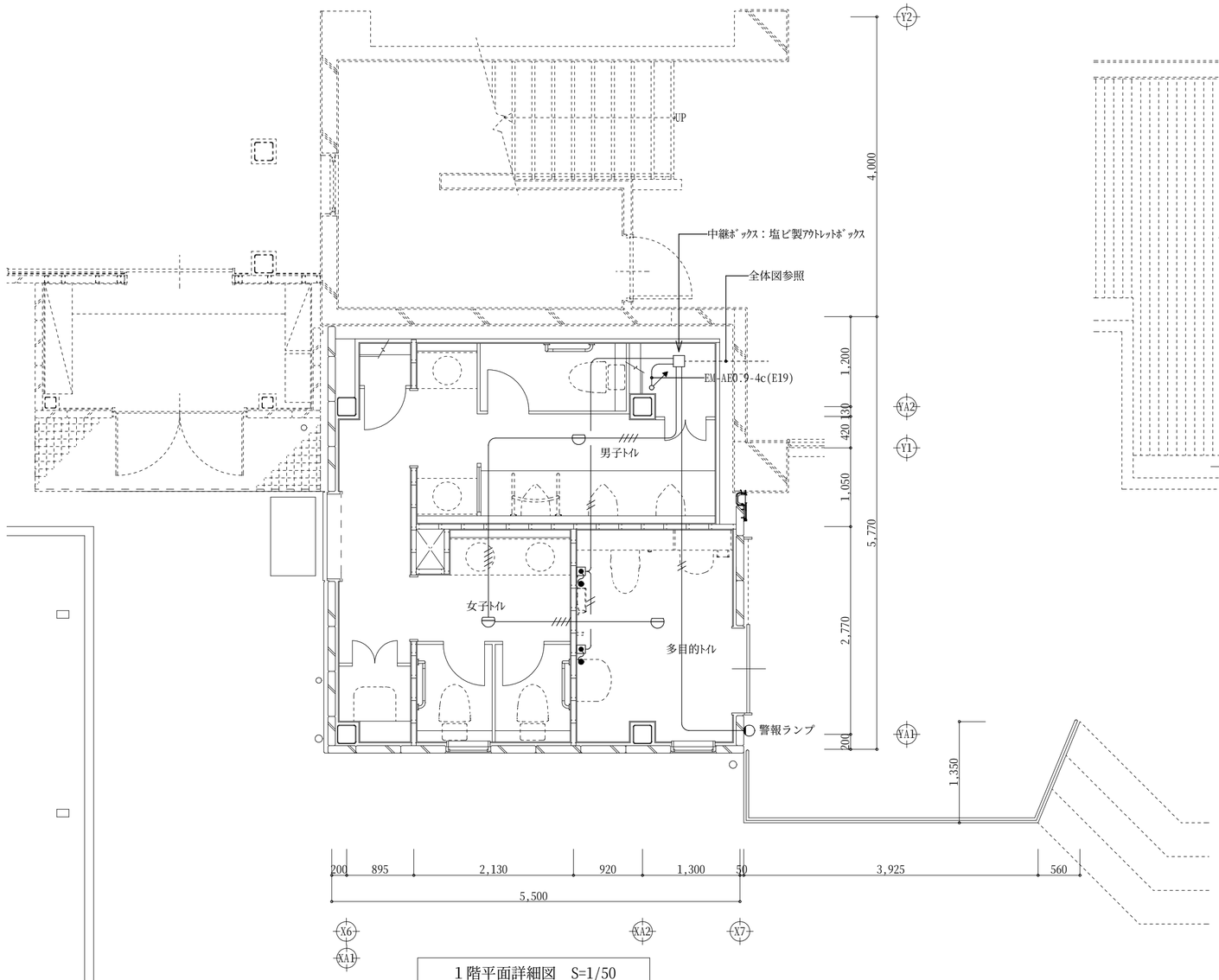
（注記）図中明記なき配線は下記とする。
但し、壁立下げ等はPF管保護とする。

——— EM-EEF2.0-2c
—//— EM-EEF2.0-3c(1cﾌﾞｰｽ)

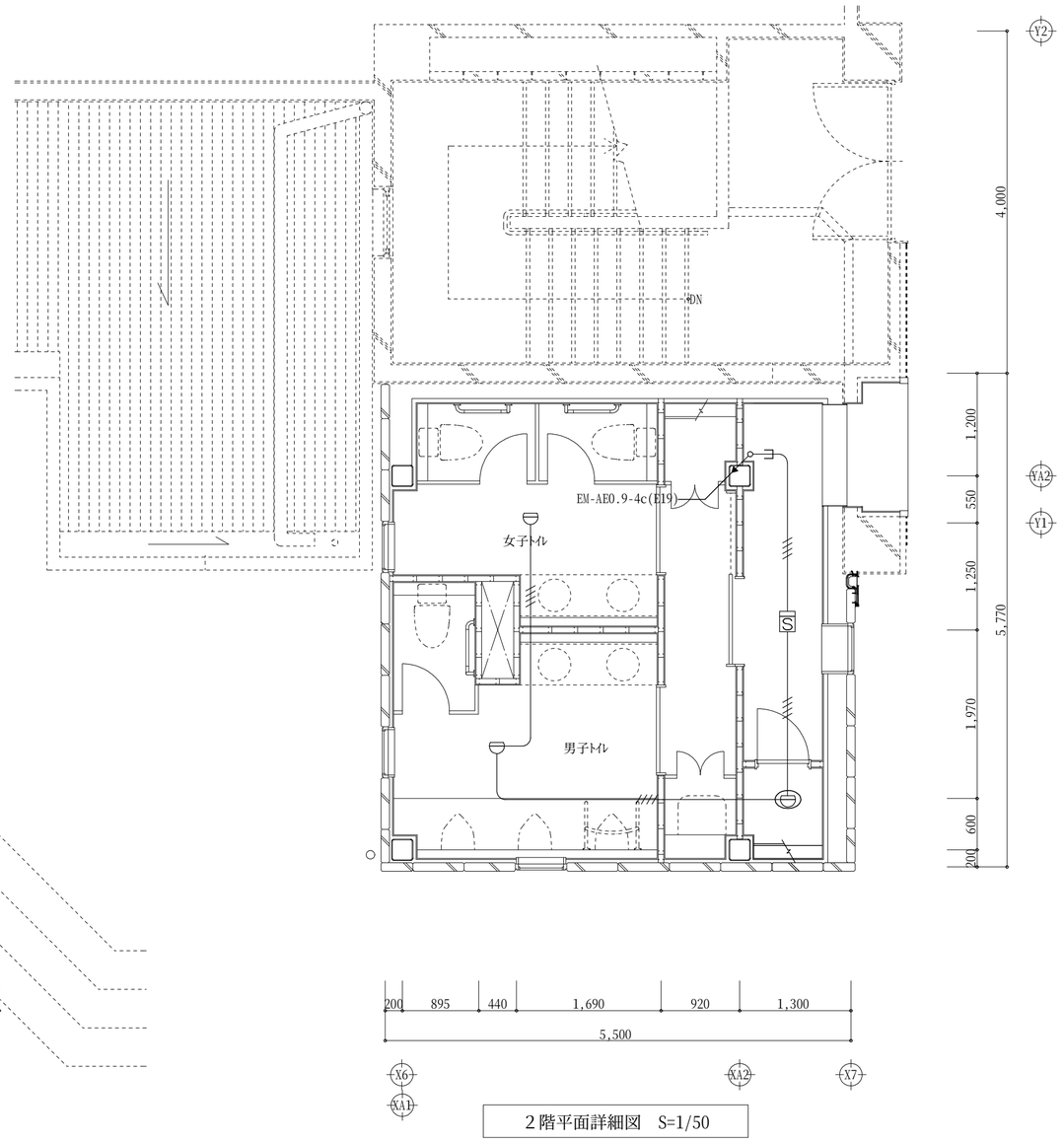
（凡例）

- ⓘ 埋込コンセント（2P15A-1　新金属ﾌﾟﾚｰﾄ）
- ⓘET 埋込コンセント（2P15A-1・ET付　新金属ﾌﾟﾚｰﾄ）
- □AUTO 位置ボックス　（鋼製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ）
- ⊠ プールボックス（150×150×100）

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		E-06
				DATE '15.08	増築トイレ　コンセント設備図	



１階平面詳細図　S=1/50



２階平面詳細図　S=1/50

（注記）図中明記なき配線は下記とする。
但し、壁立下げ等はPF管保護とする。

——//——	EM-AE0.9-2c
——///——	EM-AE0.9-4c

（凡例）

熱感知器	差動式ｽﾎﾟｯﾄ型２種	
煙感知器	光電式２種	
感知器ガード		
ﾌﾟﾙｽｲｯﾁ付押釦	埋込み型	ＷＳ６６７７２同等品
警報ランプ	ブザー付ランプ	ＥＡ５５０１同等品

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		E-07
				DATE '15.08	増築トイレ　自火報、緊急呼出設備図	

機械設備工事特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事名称	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ等改修工事
2．工事場所	岐阜県加茂郡富加町夕田宇杉洞238
3．工　期	自：平成　年契約日　～　至：平成　年　月　日
4．敷地面積	7,748　㎡
5．敷地条件	建蔽率　60　％　　容積率　200　％

Ⅱ　建物概要

棟別						
建物用途	体育施設	便所				
構造・階数	地上2階	地上2階				
延面積（文科省）	1,827.88　㎡	62.82　㎡				
防火対象物 （別表第→）						

Ⅲ　工事種目　（ ● 印の付いたものを適用する）

	物別及び屋外 ＼ 工事種目	工事種別 体育施設	便所	屋外			備考
給排水衛生設備	● 衛生器具設備	●	○	○			
	● 給水設備	●	●	●			
	● 排水設備	●	●	●			
	○ 給湯設備	○	○	○			
	● 消火設備	●	●	●			
	○ ガス設備	○	○	○			
	○ 浄化槽設備	○	○	○			
	○						
空気調和設備	● 空調機器設備	●	●	●			
	○ ダクト設備	○	○	○			
	● 配管設備	●	●	●			
	○ 換気設備	○	○	○			
	○ 排煙設備	○	○	○			
	● 自動制御設備	●	●	○			
	○						

~~電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、当該する電気設備工事及び建築工事には、それぞれの工事仕様を適用し、以降の仕様は適用しない。なお、電気設備工事の工事仕様は、（　／　）図、建築工事の工事仕様は（　／　）図による。~~

第1条　工事実績データ作成及び登録

受注者は、工事請負代金５００万以上（消費税及び地方消費税含む。以下同じ。）の工事について、受注時に工事実績情報サービス（（財）日本建設情報総合センターが管理運営する工事実績情報システム。以下「コリンズ」という。）に基づき工事実績データを作成し、「登録のための確認のお願い」を監督員へ提出し確認を受けなければならない。

2　受注者は、前項により確認を受けたデータは、コリンズへ登録しなければならない。

3　受注者は、前項により登録したデータにかかる「登録内容確認書（工事実績）」を監督員へ提出しなければならない。

4　工事請負代金2，５００万円以上の工事については、変更時及び竣工時においても登録すること。

5　登録事由発生から１０日以内に登録すること。

第2条　建設機械

本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成３年１０月８日付け建設省経機発第２４９号、最終改定平成１３年３月３０日国総施第５１号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成７年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目的で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事実により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することで、排出ガス対策型機械と同様と見なす。ただし、これにより難い場合は、監督員と協議するものとする。

2　排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。

機械	備考
一般工事用建設機械	
・バックホウ	ディーゼルエンジン
・トラクタショベル（車輪式）	（エンジン出力7．５以上２６０以下）
・ブルドーザー	を搭載した建設機械に限る。
・発動発電機（可搬式）	
・空気圧縮機（可搬式）	
・油圧ユニット	
（以下に示す基礎工事機械のうちベースマシンとは別に、独立したディ	
ーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの：）	
油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式圧入引抜機、油	
圧式杭圧入引抜機、アースオーガー、オールケーシング掘削機	
リバースサーキュレーションドリル、アースドリ、地下連続	
壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機）	
・ローラ類	
（ロードローラー、タイヤローラ、振動ローラ）	
・ホイールクレーン	

第3条　実施状況の提出について

受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目について、工事完了時までに書面で提出することができる。

第4条　産業廃棄物の適正処理について

受注者は、産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、監督員の指示に従い産業廃棄物関連書類の提出及び確認並びに処理施設の現地確認並びに建設廃棄物処理状況の管理を行い、産業廃棄物が最終処分に至るまで適正に処理されていることを確認しなければならない。

第5条　不当介入における通報義務について

受注者は、この契約の履行に当たって、妨害又は不当要求を受けたときは、発注者へ報告するとともに、警察へ通報し、捜査上必要な協力をしなければならない。

2　受注者は、不当介入により履行期間内に業務を完了することができないときには、発注者に履行期間の延長変更を請求することができる。

3　受注者が警察への通報を怠ったことが認められる場合には、発注者は指名停止等必要な措置を行う。

（平成２３年1月１９日改訂）

Ⅳ　一般共通事項　（ ● 印の付いたものを適用する）

1．共通仕様

（1）設計図書の優先順位

１－現場説明書及び質疑応答書　２－本特記仕様書　３－設計図書　４－共通仕様書

● 設計図書中の特記事項は特記仕様書と同等の扱いとする。

（2）共通仕様書

● 国土交通省大臣官房官庁営繕部　公共建築工事標準仕様書並び標準図（機械設備工事編平成２２年版）

○ 空気調和衛生工学会　空気調和・衛生設備工事標準仕様書（ＳＨＡＳＥ－Ｓ０１０－２０００）

（3）用語の「監督係員」は民間（ＨＩ四会）連合協定「工事請負契約約款」の監理者と同義語とする。

2．関連する基準等

（1）建築設備設計・施工上の運用指針（国土交通省住宅局建築指導課監修）

（2）建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所監修）

（3）機械設備工事機材承認図様式集（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）

（4）官庁施設の総合耐震基準および同解説（建設省大臣官房官庁営繕部監修）

（5）公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）平成２２年度版

	項目	特記事項
1	機材等	（1）本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。 なお、機材については、「設備機材等指定一覧表」による他、これらと同等のものとする。 ただし、同等とする場合は監督係員の承諾をうけるものとする。 （2）機材の品質・性能証明 使用する機材が設備機材等一覧表による製造者等のものである場合は、標準仕様書第1編第1章4節1.4.2「機材の品質等」（c）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、監督員が指示するもの、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。
2	官公庁その他への届け出手続等	（1）工事の着手、施工、完成にあたり、関係官公庁などへの必要な届出手続等は受注者が代行し遅滞なくおこなう。
3	工事用電力・水・その他	（1）本工事に必要な工事用電力、水、および諸手続などの費用は、引き渡しまで全て受注者の負担とする。
4	工事用仮設物	（1）全て受注者の負担とする。場内につくることが（ ● できる　○ できない）
5	足場・桟橋類	（1）別契約の関係受注者が定着した部分（ ● 本工事にて負担　　無償にて使用）
6	発生材の処理等	（1）引き渡しを要するもの　○ あり（　　）● なし （2）引き渡しを要するもの以外は場外搬出適宜処理する。 （3）発生材において廃棄処分を必要とするものは廃棄マニフェストを提出のこと。 （4）再利用又は再資源化を図るもの ○ 有（　　）
7	工事報告および工事写真	（5）アスベスト含有製品は基本的に使用せず、既存解体等に伴い、発生材が生じた場合には係員の指示による。 （1）工事監理報告書を毎月１回２部提出する。 （2）工事写真記録は「建設大臣官房官営繕部監修の工事写真の撮り方（改訂版）の建築設備編」による。
8	他工事との取合い	（1）スリーブ箱入れその他工事との取合いは、工事区分表によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに必要な位置、大きさなどを明示し監督係員と打合わせる。
9	性能保証	（1）図示に明示されていない事項でも技術上または施工上当然必要と思われる事項は、監督係員の指示により金額の増減なく施工する。 （2）回転数制御機器などは高調波対策を講じた機器を使用する。
10	設計変更	（1）工事発注者の指示により、設計図に該当しない設計変更が生じた場合は、原則としてあらかじめ見積書を提出し、承認された上で変更工事に着手する。また、設計変更の見積単価および率は契約時の単価および率を原則とし、工事期間は協議による。
11	施工図等の取扱	（1）施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
12	製作図・施工図	（1）総合図、施工工程表、製作図工程表は監督係員の指示により提出する。
13	着工時提出書類等	受注者は、工事着工時に下記書類を提出する。 ●　着工届、現場代理人・監理（主任）技術者届（経歴を含む）、工程表　各１部 ●　工事用縮小図面製本（Ａ３二つ折り製本）　10部 ●　その他監督員及び契約事務担当の指示するもの
14	完成時提出書類等	富加町電子納品基準に基づいて提出を行う。　設計図ＣＡＤの貸与（● あり　○ なし） また、その他下記に示すものを印刷物として提出を行う。 1 ● 竣工図　● 原図　Ａ１二つ折り製本　1　部 ● １/３縮小第２原図　1　部 ● Ａ１二つ折り製本　1　部 ● 青焼き製本（縮小Ａ３版）　1　部 ● ＣＤデータ　1　部 2 ● 施工図　Ａ１二つ折り製本　1　部 3 ● 完成図　機器完成図含む、Ａ４版黒表紙金文字入り製本　3　部 4 ● 工事写真　1　部 5 ● 完成写真　1　部 6 ● 保全資料（取扱説明書、各種試験成績書、諸官庁検査合格証明等を含む）　Ａ４版製本　3　部 7 ● 完成届　1　部 8 ● その他監督員が指示するもの　1　部 工事写真、完成写真においては、建設大臣官房官営部官庁営繕部監修「工事写真の撮り方（改訂第２版）-建築設備編-」による土か、監理者の指示により撮影し、提出する。 上記資料の提出時に、監理者に内容の説明を行うと共に、現地にて保守担当者への取扱い説明を確実に実施すること。
15	納入予備品	（1）下記の予備品を納入する。 １．空調機予備フィルタ　○ 100%　○　% ２．ランプ類　○ ５０%（ＬＥＤは無し）　○　% ３．ヒューズ類　○ １０%　○　%
16	保守工具	・マンホール、掃除口等開閉器具、ドライバー（＋－）、ウォータープライヤー　他
17	諸官庁提出済書類	水道関係　：● 事前協議書　（検査終了後の最終確認印のあるものの写し） 下水関係　：● 事前協議書　（検査終了後の最終確認印のあるものの写し） 雨水抑制関係　：○ 事前協議書 公害関係　：○ 騒音　　はい煙○　　排水関連 省エネ法関係　：○ 指　　届出○　　○
18	シックビル対策	・接続等に接着剤を使用する場合はシックハウス対策として、接着剤の気化、固着の際に発生する揮発性有機化合物等の有害物質を考慮し、配管工事施工中および施工後は十分に換気した上で天井、床等を施工すること。
19	施工時間の制約	・施工時間の制約を受ける部分は以下による。 （普通教室・特別教室として使用する教室および近接廊下の施工は、学校の夏季休暇中とする。） （騒音・振動を伴う工事についても、休校日または、夏季休暇中とする。）
20	既存機能の維持	・改修工事を行うに当たり以下の機能は、切廻し等を行いながらその設備機能を維持するものとする。
21	特記事項	（1）一年間の運転予想報告書（光熱費等）を提出のこと。詳細は、監督係員の指示による。

Ⅴ　工事仕様　（ ● 印の付いたものを適用する）

第１章　一般事項

	項目	特記事項
1	機材等の検査及び試験	● 検査及び試験をおこなうべき機材は標準仕様書による。
2	電源周波数	○ ５０Hz　● ６０Hz
3	容量等の表示	（1）機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 （2）電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
4	総合調整	○ 風量調整 ○ 水量調整　● 水質検査（ 11 項目） ○ 騒音の測定（　　ｐ所）　○ 振動の測定（　　ｐ所） ○ 室内外空気の温湿度の測定　○ 室内化学物質濃度の測定 ○ 室内気流及び重視の測定 ○ 初期運転状態の記録 測定方法、対象室、箇所は係員の指示による。 配管には流れ方向及び用途毎の色分の帯又は用途の記入を行うこと。
5	案内板	（1）機器等の取扱い方法および重要な定期点検項目を書いたアクリル樹脂製の案内板を機械室に設ける。
6	耐震措置	（1）設備機器の固定は、次に示す事項を除き全て「建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所監修）２００５年度版」による。 1）設計用水平地震力 機器の重量（kgf）に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用水平震度

設置場所	耐震安全性の分類 ● 一般の施設（乙類） 重要機器・水槽	一般機器・水槽	○ 特定の施設（　類） 重要機器・水槽	一般機器・水槽
上層階・屋外及び塔屋	1.5 (2.0) <1.5>	1.0 (1.5) <1.0>		
中間階	1.0 (1.5) <1.0>	0.6 (1.0) <0.6>		
地下階・1階	0.6 (1.0) <1.0>	0.4 (0.6) <0.6>		

（注）1.（　）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。
2.＜　＞内の数値は水槽類に適用する。
3.上層階の定義は次による。
2～6階建の場合は上層階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、
13階以上の場合は上層4階
重要機器、重要水槽とは下記に示すものをいう。
重要機器（　○防災機器　○　）
重要水槽（　○　○　）
2）設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

7	はつり	（1）既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてレントゲン撮影後にダイヤモンドカッターによる。		
8	残土処理	埋戻し後の残土は、監督係員が指示する場内の場所に散きならしとする。 ● 埋戻し後の残土は、場外搬出の上で適切に処理する。 （指定処分場：加茂陸砂利共同組合残土処分場）		
9	埋戻し土・盛土	● 根切り土の中の良質土（ただし、管の周囲は山砂の類） ● 山砂の類		
10	配管	（1）地中埋設配管（排水管を除く） 1）地中埋設標　● 要（埋設（● 給水 ○ ガス ○ 消火 ）のエルボ、分岐） ○ 不要 2）埋設表示用テープ　● 要（埋設（● 給水 ○ ガス ○ 消火 ）の配管） ○ 不要 ・配管には流れ方向の明示を行うこと。 ・既存未使用配管がある場合には、明示を行うこと。		
11	管の埋設深度	（1）原則として管の上端より下記の数値以上とする。 一般敷地部分　● ３００mm　○　mm 敷地内道路部分　● ６００mm　○　mm		
12	保温	（1）標準仕様書第２編によるほか下記による。 ● 保温材料種別　○ ロックウール（　　） ● グラスウール（Ｆ☆☆☆とする。　　） ○ フォームポリエチレン（ ○ 給水　屋外　ピット内 ○ 排水 ） ○ 屋外露出部（給水管、消火管、冷温水管、膨張管、冷水管、温水管、ドレン管、弁類を含む）は防凍保護を行う。その仕様は共通仕様書第2編3.1.4~3.1.6とする。 ○ 寒冷地仕様 ○ 共同溝の保温（　○内露出機械室　屋外露出） ○ 防食テープは１／２重ね２回巻きとする。		

ダクトの保温の外装			
屋内露出	倉庫・車庫	○ アルミガラスクロス	○ カラー亜鉛鉄板
	機　械　室	○ アルミガラスクロス	○
	居室・廊下など	○ カラー亜鉛鉄板	○
屋外露出		○ ステンレス鋼板	○
多湿箇所（　　）		○ ステンレス鋼板	○
機器類の保温外装		○ ステンレス鋼板	○
配管の保温の外装			
屋内露出	倉庫・車庫	○ アルミガラスクロス	○ 綿布
	機　械　室	○ アルミガラスクロス	○
	居室・廊下など	○ ファインカバー	● 合成樹脂カバー
	屋内隠蔽	○ ファインカバー	● アルミガラスクロス
多湿箇所・屋外露出		● ステンレス鋼板	○ 保温化粧ケース（冷媒管）

（備考）保温化粧ケースは、　塩化ビニル樹脂製　○ステンレス製とする。

13	塗装	（1）下記の金属電線管は塗装を行なう。 屋外露出　（○　　）の屋内露出 （2）下記の亜鉛めっきを施したダクト及び配管は、塗装を行わない。
14	電線	（1）表示なき電線は、600Vビニル絶縁電線とする。ただし、自動制御設備に係る配線は共通仕様書による。
15	機器類の仕様	○ 国土交通省仕様　（シール下付　○ する　○ しない）　メーカー標準仕様 ○ その他　（　　）
16	指定色	以下の機器は、指定色仕上（製造会社による焼付塗装または同等の塗装）とする。 ○ 制気口類　ステンレス鋼板製盤およびルボックス

項目	特記事項
17．配管支持	（1）支持金物 ● 配管や機器等の支持金物および架台類は、溶融亜鉛メッキ仕上（２種３５以上）とする。 ただし、［　●ﾍﾙ　床●露出中　土間土中 ●ｽﾃﾝﾚｽ製とする。 ● 機器用のアンカーボルト・ナット（ダブルナット）の材質は、下記による。 ［ ●ステンレス製　　鉄●亜鉛メッキ仕上（２種３５以上）］ ● 屋外設置機器用のアンカーには、防錆用として樹脂製キャップを取付ける。 （2）支持 ● ステンレス製支持金物類を鋼管類に使用する場合は［　ゴム製　○ 合成樹脂製●） 絶縁シート、または、絶縁テープなどを介して取付ける。 （3）防振支持 ○ 指定箇所の天井内および床下の配管は、ダクトは、全て防振支持を施す。 （ただし、ポンプフア配管以外の排水管、通気管、消火管、ガス管、冷媒管、ドレン管 油管、膨張管、エアー抜き管、排煙ダクトは除く。） ［適用箇所・　　］
18．特記事項	（1）みえがかり部分における配管類の文字書きの書体は下記による。 ● 標準　○ 指定　○ 図示 （2）床下ピット、屋外等に使用する配管支持材は、ＳＵＳ３０４製を使用する。 （3）振動する機器類のアンカーボルトは、ダブルナット締めとする。

第２章　配管材料

		給水・揚水 屋外	給水・揚水 屋内一般	給水・揚水 地中埋設	汚水 屋外	汚水 屋内一般	汚水 地中埋設	雑排水 屋外	雑排水 屋内一般	雑排水 地中埋設	通気 屋内一般	通気 地中埋設	通気 ピット内	屋内消火 屋外	屋内消火 屋内一般	屋内消火 地中埋設	ガス 屋外	ガス 屋内一般	給湯 屋内一般	給湯		冷媒	ドレン	備考
配管用炭素鋼鋼管 JIS G 3452	記号 白																						
	記号 黒																						
一般配管用ステンレス管 JIS G 3448　SUS 304	記号																						
保温付被覆鋼管	記号																						
冷媒用銅管（保温付メーカー標準仕様）	記号																						適管t=10mm ガス管1mm
水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管 JIS K 6742	記号	●		●																			
硬質ポリ塩化ビニル管着色硬質塩化ビニル管 JIS K 6741	記号					●	●	●	●	●	●	●	●										
	記号																						
耐火二層管	記号 大臣認定品																						
ポリエチレン管 JIS K 6761.2	記号																						
耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6776	記号																						
水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWA K 116	記号 白																						
	記号 黒		●																				
	記号 青																						
排水用塩化ビニルライニング鋼管	記号																						
水道用塩化ビニルライニング鋼管 JWA K 116	記号 白																						
	記号 黒																						
消火用塩化ビニル外面被覆鋼管 粉子焼	記号																						
消火用ポリエチレン外面被覆鋼管 粉子焼	記号																						
排水用タールエポキシ塗装鋼管 粉子焼	記号																						
排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 粉子焼	記号																						
排水用鉛管	記号																						
遠心力鉄筋コンクリート管（外圧１種）	記号																						
ポリエチレン管（サヤ管ヘッダー工法）	記号																						
ポリブデン管（サヤ管ヘッダー工法）	記号																						
塩化ビニル被覆鋼管 JIS G 3452	記号																						
水道用亜鉛鍍金鋼管	記号																						
保温付被覆ステンレス管																							

特記事項

1）内面ライニング管は、防食コア内蔵継手とする。
2）配管規格は、共通仕様書参照のこと。
3）原則として、防火区画貫通部に鋼管又は耐火二層管使用する。
4）冷媒管（及び電線管を含む）の防火区画貫通部には、国土交通省の認定工法による処理を行う。

設備機材等指定一覧表	下記又は同等品以上		
○ パッケージ型エアコン	三菱電機	ダイキン	日立アプライアンス
	東芝ライテック	パナソニックエコシステムズ	
○ 全熱交換型換気扇	三菱電機	東芝キャリア	パナソニックエコシステムズ
○ 換気扇	三菱電機	東芝キャリア	パナソニックエコシステムズ
○ 吹出・吸込口類	空研工業	協立エアテック	

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	空、衛M-01
				-	機械設備　特記仕様書　1	
				DATE '15.08		

第３章　空気調和設備

一般事項

1. 設計温湿度条件

	外気 温度(DB)	外気 湿度(RH)	室内系統 温度(DB)	室内系統 湿度(RH)	清浄度(C)
夏期	36.0 ℃	52.0 %	26.0 ℃	50.0 %	
冬期	0.0 ℃	50.0 %	22.0 ℃	40.0 %	

※室内湿度は、成り行きとする。

系統 温度(DB)	系統 湿度(RH)	系統 清浄度(C)	系統 温度(DB)	系統 湿度(RH)	系統 清浄度(C)
夏期 ℃	%		℃	%	
冬期 ℃	%		℃	%	

系統 温度(DB)	系統 湿度(RH)	系統 清浄度(C)	系統 温度(DB)	系統 湿度(RH)	系統 清浄度(C)
夏期 ℃	%		℃	%	
冬期 ℃	%		℃	%	

系統 温度(DB)	系統 湿度(RH)	系統 清浄度(C)	系統 温度(DB)	系統 湿度(RH)	系統 清浄度(C)
夏期 ℃	%		℃	%	
冬期 ℃	%		℃	%	

◎ パッケージ方式の屋内湿度条件は、参考値（成行）とする。
○ 厨房系統は給排気ファン使用時厨房内全体冷房不可、冷風による局所冷房のみ。

2. 空調方式
○ 単一ダクト方式
○ ファンコイル＋ダクト併用方式（○ 二管式　○ 四管式　　）
パッケージ方式　（冷暖房　　回路　　kW/式　　kZ2　　）
（　ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ　○　　）
（　冷暖切替　○ 冷暖フリー　　冷専 ）

空調機器設備

1. 熱源機器
(1) 燃料　○ ガス　　電気　○ 灯油　○ 重油（　　）　○　●
(2) 主機　○ 直焚吸収式冷温水機
○ 冷凍機（ ○ ターボ冷凍機　○ チリングユニット　　○　　）
○ ボイラー（○ 貫流式　○ 無圧式　　○　　）
○ 空冷ヒートポンプ式（　ビル用マルチ　○ パッケージ　　）
(3) 補機　○ 冷却塔（ ○ 開放式　○ 密閉式）
(4) 煙導　○ 材　質（ ○ 鋼板製　○ ステンレス製）

2. 空調機器
(1) 機器　○ エアハンドリングユニット　　○ ファンコイルユニット
○ パッケージ型空調機（　ヒートポンプ　　冷房専用）

3. 特記事項
(1) 騒音測定
機器周辺及び隣地境界線にて騒音測定を行う。
(2) 空調機器の電動機出力
空調機器の圧縮機、ファン用電動機出力は、空調機基本仕様（空調能力、送風量等）を満足すれば設計仕様と異なっても可。

ダクト設備

1. ダクトの種類
(1) 区分　○ 低圧ダクト　　○ 高圧ダクト
(2) 工法　○ コーナーボルト工法　○ アングルフランジ工法

2. ダクトの材質
○ 亜鉛鉄板製（厚み1.6mm以上は鋼板製）　○ グラスウール製　○ ステンレス製
○ スパイラルダクト（ ○ 亜鉛鉄板製　○ アルミ製　○ステンレス製）　○
○ 硬質塩化ビニール管　○ 塩ビコーティングダクト

3. 計測機器
(1) 温度計は下記の部分に取付とする。
○ 空気調和機（パッケージ型含む）のサプライダクト・リタンダクト・外気取り入れダクト及びチャンバー
○

4. 風量測定口
(1) 温度計取付部は下記による。
○ 送風機吐出ダクトまたは吸込みダクト　○ 外気取入れダクト
○ 空調機出口チャンバーの分岐ダクト　○

5. チャンバー
(1) 内貼りを施すチャンバーの寸法は外法を示す。
(2) 空気調和機に取付けるサプライ・リタンチャンバー・風道系で消音内貼りしたチャンバーは点検口を設ける。点検口の大きさは係員の指示による。
(3) 外壁に面するガラスに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。

6. ダンパー
(1) 防煙ダンパー　　復帰方式（　　遠隔）　手動 ○
定格入力2ΩC4V、0.7A以下とする。
(2) ピストンダンパー　　復帰方式（　遠隔○　手動 ）○
(3) VAV（　機械式　　電気式 ）
(4) CAV（　機械式　　電気式 ）

7. 保温および消音内貼り
(1) 標準仕様書第2編3.1.4によるほか、下記による。
○ 還りダクトの保温要（保温の厚さ25㎜、範囲は図示による）
○ 外気ダクトの保温要（保温の厚さ25㎜、範囲は図示による）

8. 防振支持施工
振れ止め支持は標準仕様書による。
(1) 施工範囲
○ 機械室及び機器廻り　○ その他（　　系統）

9. 特記事項

節	項目	特記事項
配管設備	1. 弁類	(1) 呼び径50A以下は青銅製とし65A以上は鋳鉄製とする。 (2) 弁類の耐圧　JIS　（○ 5K　○ 0K　○　）
	2. 計測機器	(1) 温度計取付部は下記による。 ○ 熱源機器（冷温水機・冷凍機・ボイラーなど）の出入口配管 ○ 空気調和機の冷温水管の出入口配管 ○ 冷温水ヘッダー（往・還）の出入口 ○ 熱交換器の出入口配管 (2) 圧力計は温度計の当該箇所による。
	3. 瞬間流量計	(1) 瞬間流量計はピトー管方式のもので止水コック付とし、形式及び取付部は下記による。 また、着脱形の指示部は（　40A用　個　　50A用　個　　250A用　個） 附属とする。 ○ 熱源機器（冷温水機・冷凍機・ボイラーなど）の出口配管側（　固定形○　着脱形○） ○ 空気調和機の出口または入口側の冷温水管（　固定形○　着脱形○） ○ 冷温水ヘッダー（往・還）の出入口（　固定形　着脱形） ○ 熱交換器の出入口配管（　固定形　着脱形）
	4. 油面制御装置	(1) 制御盤には（　給油ポンプ制御　返油ポンプ制御　満油、減油警報　遠隔警報）○ の端子を設ける。
	5. 絶縁フランジ	(1) 機器、配管の異種金属接続分に設ける。
	6. 保温	(1) 標準仕様書第2編3.1.4によるほか、下記による。 ○ 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、共通仕様書第2編3.1.4の膨張管の項による。 ○ 建物内の空気抜き管の保温は、共通仕様書第2編3.1.4の膨張管の項による。 ○ 空気調和機及びファンコイルの排水管の保温は、共通仕様書第2編3.1.5の排水管の項による。
	7. 防振支持施工 振れ止め支持は標準仕様書による。	(1) 施工範囲 ○ 機械室及び機器廻り　○ その他（　　系統）
	8. 特記事項	
換気設備	1. ダクトの種類	(1) 区分　○ 低圧ダクト　　○ 高圧ダクト (2) 工法　○ コーナーボルト工法　○ アングルフランジ工法
	2. ダクトの材質	○ 亜鉛鉄板製（厚み1.6mm以上は鋼板製）　○ グラスウール製　○ ステンレス製 ●スパイラルダクト（● 亜鉛鉄板製　○ アルミ製　○ ステンレス製） ○ 硬質塩化ビニル製　○
	3. 厨房用フード材質	○ ステンレス製　○
	4. 風量測定口	(1) 図示の位置および下記の部分に取付ける。 ○ 遠心送風機吐出ダクトまたは吸込みダクト ○ 外気取入れダクト
	5. チャンバー	(1) 空気調和設備の当該項目による。
	6. ダンパー	(1) 空気調和設備の当該項目による。
	7. 保温	(1) 下記のダクトの保温を行う。 ○ 全熱交換器用のダクト（保温の厚さ25㎜、外気側給排気ダクト） ○ 給排気ダクト（保温の厚さ25㎜、給気ダクトの全て及び外壁より1.5m以上の排気ダクト） ○（ ○ 厨房　○ 諸室　○　）用の隠ぺい部ダクト （仕様は標準仕様書第2編3.1.4による。）
	8. フィルター	（ ○ フィレデン　○ 性能　HEPA　チャコール　○　）
	9. その他	
	10. 特記事項	
排煙設備	1. ダクトの種類	(1) 区分　○ 低圧ダクト　　○ 高圧ダクト (2) 工法　○ コーナーボルト工法　○ アングルフランジ工法
	2. ダクトの材質	○ 亜鉛鉄板製（厚み1.6mm以上は鋼板製）　○ ステンレス製
	3. 排煙口の形式	○ 天井取付け（　○ スリット形　○ イング形） ○ 壁取付け（　○ スリット形　○　）
	4. 手動開放装置	○ ワイヤー式 ○ 電気式（遠隔操作　○　　○ 要）
	5. 排煙風量測定	(1) 建築設備定期検査業務指導書（日本建築設備安全センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。
	6. 特記事項	
自動制御設備	1. 制御方式	○ 電気式　○ 電子式　○ デジタル式　○ 空気式
	2. 中央監視盤	● 本工事　○ 別途工事
	3. 特記事項	(1) メーカー差異による金額の増減は行わない。

第４章　衛生設備

節	項目	特記事項
衛生器具設備	1. 大便器	○ フラッシュ弁（ ○ バキュームブレーカ付　◎ 節水型） ● 洗浄タンク　（ ● 防露型　○ 密閉型　　○　）
	2. 小便器	● フラッシュ弁（ ○ 標準型　● センサー感知型　　○　） ● センサー電源方式（ ● 電気式　○ 電池式　）
	3. 身障用器具	● 有（図示による）　○ なし
	4. 凍結防止	● 要（図示による）　○ 不要
	5. 特記事項	(1) 衛生器具の色彩は、○ 現場指示　●標準とする。 (2) 水栓柱を使用する場合、水栓は吊りこまずとする。 (3) 手摺　● 本工事　　建築工事 (4) 化粧鏡　● 本工事　　建築工事
給水設備	1. 給水方式	(1) 直圧給水方式　● 公共水道直結式　○ 増圧直結方式 (2) 加圧給水方式　○ 圧力タンク方式　○ 加圧ポンプ給水装置方式 (3) 重力給水方式　○ 高架水槽重力式　○
	2. 量水器および例	(1) 量水器　○ 親メーター（　既設利用　○　） ○ 子メーター（ ○ 買取り　○　） (2) 量水器例　○ 水道事業者指定品（ ○ 貸与品　○ 買取り） ○ 標準図MC形
	3. 弁類	(1) 呼び径50A以下は青銅製とし、65A以上は鋳鉄製ライニング弁とする。 (2) 弁類の耐圧　○ 水道直結部分（水道事業者指定品）　○ JIS（ 5K ）10K ○）　○ ● その他部分　JIS（○ 5K　● 10K　　） (3) 埋設弁　● 埋設用弁（ロングステム）
	4. 水栓柱	(1) 材質　● 合成樹脂製　○ 人造とぎ出し製 ○ コンクリート製　○ SUS製
	5. 建物導入部配管	(1) ● 標準図（ ○ a　○ b　○ c）による。　◎ 埋設用フレキ
	6. 引込納付金等	○ 要（ ○本工事　○ 別途工事）　○ 不要
	7. 上水申請手続費	● 要（ ● 本工事　○ 別途工事）
	8. 特記事項	(1) 量水器例および弁例のコンクリート部は工場製品としてよい。
排水設備	1. 排水方式	(1) 汚水・雑排水　屋内（ ● 分流式　○ 合流式　○ 集合管式） 屋外（ ○ 分流式　● 合流式　○ 集合管式） (2) 雨水　屋外　● 敷地内U字溝及び集水桝（建築工事） 屋外　○ 集水桝以降雨水配管（建築工事） (3) 建物外放流先　汚水　● 公共下水管　○ 浄化槽（ ○ 側溝　○ 水路　○ ） 雑排水　● 公共下水管　○ 浄化槽（ ○ 側溝　○ 水路　○ ） 雨水　● 公共雨水管　○ (4) 特殊排水処理装置　○ 厨房除害設備　○ 中和処理設備　○
	2. 弁類	(1) 呼び径50A以下は青銅製とし、65A以上は鋳鉄製とする。 (2) 弁類の耐圧　JIS（ ○ 5K ● 10K　　）○
	3. 洗面器の排水管	(1) 洗面器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップする。
	4. 満水試験継手	(1) 適宜設ける。
	5. インバート桝・ため桝	(1) 材質　○ コンクリート桝　● 塩ビ桝 (2) 桝のコンクリート部は工場製品としてよい。
	6. 放流納付金等	○ 要（ ○本工事　○ 別途工事）　○ 不要
	7. 下水道申請手続費	○ 要（ ○本工事　○ 別途工事）
	8. 特記事項	● 特記のない場合の屋外排水は１／１００勾配を原則とする。 ● ステンレス流しの流し台及びトラップは建築工事とする。
給湯設備	1. 給湯方式	○ 中央式　○ 局所式（ ○ ガス　○ 電気）
	2. 絶縁フランジ	(1) 機器、配管の異種金属接続分に設ける。
	3. 弁類	(1) 呼び径50A以下は青銅製とし、65A以上は鋳鉄製ライニング弁とする。 (2) 弁類の耐圧　○ 水道直結部分（水道事業者指定品）　○ JIS（ 5K ○ 10K　　）　○ ○ その他部分　JIS（　5K　○ 10K　○　）　○
	4. 貯湯槽材質	
	5. 特記事項	ステンレス配管用メカニカル継手（ゼットロック）

節	項目	特記事項
消火設備	1. 消火設備の種類	○ 消火器（ ○ 本工事　○ 別途工事）　屋内消火栓設備（ ○ 1号 ○ 易操作型 ○ 2号） ○ スプリンクラー設備　○ 屋外消火栓設備 ○ 泡消火設備　○ 粉末消火設備（○ 固定式　○ 移動式） ○ 連結送水管設備（ ○ 湿式　○ 乾式）　○ 連結散水設備 ○ 採水口設備　○ ダクト消火設備 ○ ガス消火設備（ ○ 二酸化炭素　○ 窒素ガス　○　） ○
	2. 保温	(1) 屋外露出配管は標準仕様書第2編3.1.5e3・（ハ）・Viによる保温とする。 ただし、防凍保温は一般共通事項による。
	3. 建物導入部配管	(1)　標準図（ ○ a　○ b　○ c）による。
	4. 特例申請適用の有無	○ 有　　○ 無 （　　）
	5. 特記事項	(1) 屋外埋設配管の改修
ガス設備	1. ガスの種類	○ 都市ガス（ ガス種別　13A 発熱量　45 MJ／Nm³　　○低圧　○中圧 施工はガス会社の責任施工とする。 ○ プロパンガス
	2. ガス漏れ警報機	○ 有り（ ○本工事　○別途工事）　○ なし
	3. 漏洩検知装置	○ 要　○ 不要
	4. 引込負担金等	○ 要（ ○本工事　○別途工事）　○ 不要
	5. ガバナー設備の有無	○ 有（ ○専用ガバナー　○地区ガバナー） ○ 無
	6. 特記事項	
浄化槽設備	1. 処理方式	○ 合併処理　○ 図示
	2. 処理能力	○ 処理対象人員（　　人）　○ 処理水量（　　m／日）
	3. 放流水質	○ 処理水質　BOD　　mg／l　　pH SS　　mg／l
	4. 特記事項	浄化槽法第７条　申請費用　○ 本工事　○ 別途工事

工事区分表

項目	工事区分 建築	電気	管	空調	汚水処理	備考
設備スリーブ箱入			●			
同上用構造体補強	●					
〃　防水処理	●					天井下地共
天井・壁埋込器具切込補強	●					防水処理又は配管
設備機器基礎・防水処理	●					機器類に伴うもの
設備機器用アンカーボルト		●	●			
建物内排水溝	●					
たて樋接続用横引管			●			
動力制御盤及び配線		●				
自動制御盤及び配線						
自動制御盤への電源送り		●				
室内機への電源送り		●				
床排水金物			●			
流し台排水金物	●					
〃　設備接続			●			
水槽・その他マンホール			●			
厨房機器接続						
化粧棚及び鏡			●			図示
キュービクル・室外機基礎	●					
〃　・　〃　架台						
天井・壁改め口	●					
床・改め口	●					
汚水桝			●			汚水処理槽流入側 槽入口汚水桝を除
雑排水桝			●			
雨水桝	●		●			

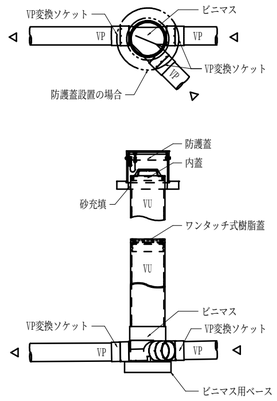
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	空、衛M-02
				-	機械設備　特記仕様書　2	
				DATE '15.08		

分類	特　　記　　事　　項
配管試験圧力	

表－６　　配管圧力試験

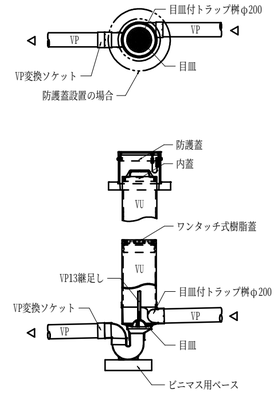
配 管 種 別	試　　験　　圧　　力	時 間
上水直結管	1.00Mpa	60 分
揚水管、給湯管 高架水槽以降の管	全揚程又は静水頭の２倍、その値が 0.75Mpa 以下の時は 0.75Mpa	60 分
冷媒管	機器メーカー指定値(最低2.8MPとする)	60 分
屋内消火栓 消火管	消火ポンプ締切り圧力の１．５倍	60 分
油配管	最大常用圧力の１．５倍	30 分
冷温水 冷却水配管	最大使用圧力の１．５倍、その値が 0.75Mpa 以下の時は 0.75Mpa	30 分
蒸気管	最大使用圧力の２倍、その値が 0.2Mpa 以下の時は 0.2Mpa	30 分
排水管	満水試験	30 分

ビニマス１（一般-汚水および雑排水）



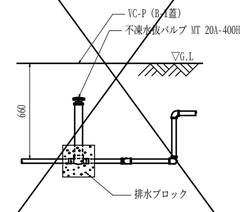
※アスファルト舗装面や車両等の荷重のかかる部分は、防護蓋で施工する。

ビニマス２（雑井排水-シャワー等　おもにゴミ取り目的）

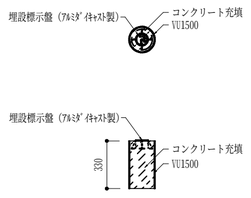


※アスファルト舗装面や車両等の荷重のかかる部分は、防護蓋で施工する。

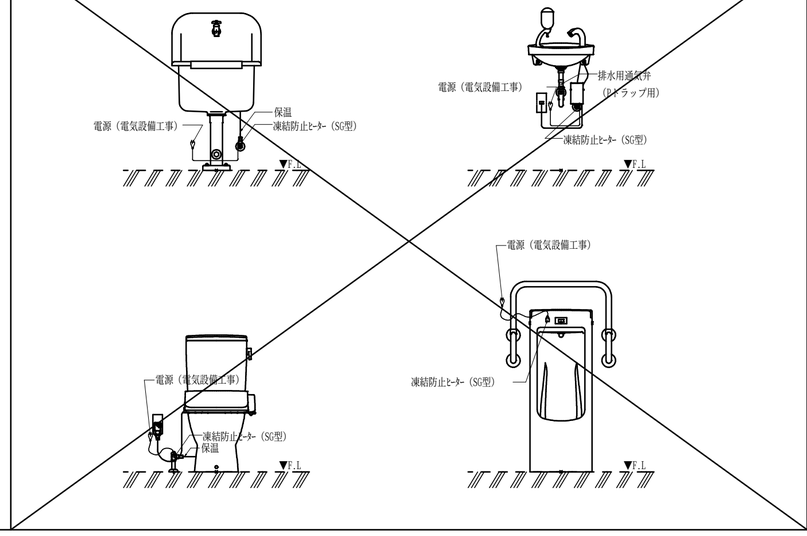
不凍バルブの施工要領



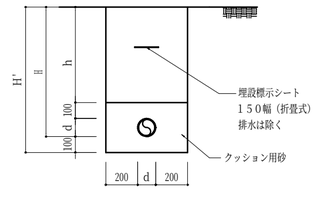
地中埋設標（配管分岐部および曲がり部に設置）



凍結の恐れがある場合の器具保護（凍結防止ヒーター）



宅内配管の標準掘削断面



H'=～1,500

h:給水、ガス
　車両が乗る恐れのある場所　600mm以上
　車両が乗る恐れのない場所　300mm以上

H:排水等に適用

H'=1,500～
掘削断面として75°以上の勾配をつけて掘削する。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	空、衛M-03
				-	機械設備　特記仕様書　３	
				DATE '15.08		

凡 例

記 号	名 称	備 考	記 号	名 称	備 考
—·—	給 水 管			水 栓	
————	排 水 管			セ ン サ ー	
－—·—	通 気 管			床 上 排 水 口	
----------	既 設 管			通気金具及び通気管	
	不 凍 水 栓 柱			汚 水 桝	小口径塩ビ桝
	仕 切 弁			雨 水 桝	小口径塩ビ桝

衛生機器一覧表

名 称	品 番	附 属 品	1階 新設 男子便所	1階 新設 女子便所	1階 新設 多目的便所	1階 改修 男子便所	1階 改修	2階 新設 男子便所	2階 新設 女子便所	合計
洋風便器	CS597BS	蓋固定ﾀﾝｸ SH596BAYR　便器洗浄 TCF5533AU　排水ﾌｯﾄ T90SW75　棚付二連紙巻器 YH701	1	2		1		1	2	7
洋風便器	CS597BS	蓋固定ﾀﾝｸ SH596BAYR　ﾘﾓｺﾝ便器洗浄 HE30J　ﾘﾓｺﾝ(ﾀｲﾙ壁取付部材) HM10J　便器洗浄 TCF5503V82W　排水ﾌｯﾄ T90SW75　棚付二連紙巻器 YH701			1					1
		背もたれ EWC383CR　固定金具 T110D3R								
洋風便器用手すり	T112CL10	T110D3R	1	2	1	1		1	2	8
可動式手すり	T112HK7	固定金具 T110D17S			1					1
ｵｽﾒｲﾄ対応ﾄｲﾚﾊﾟｯｸ	UAS73LDB	側板 UTR138S　ｼﾝｸﾞﾙﾌｯｸ YKH20R　電気温水器			1					1
小 便 器	UFS900	センサー一体形ストール　低リップタイプ　樹脂ﾌﾞﾗｸﾞ HH04060	3			3		3		9
小便器用手すり	T112CU2	固定金具 T110D3R	1			1		1		3
掃除用流し	SK22A	横水栓 T23AEQ20　ﾊﾞｯｸﾊﾝｶﾞｰ T9R　ﾘﾑｶﾊﾞｰ TK22　排水金具 T37SE　樹脂ﾌﾞﾗｸﾞ HH04060		1		1		1		3
カウンター	ML50C0800ANX11AW	ﾌﾞﾗｹｯﾄ M9P40A	2							2
カウンター	ML50C1600ENX11BW	ﾌﾞﾗｹｯﾄ M9P40A		1				1	1	3
嵌め込み洗面器	L530	自動水栓 TENA41A　排水金具(Pﾄﾗｯﾌﾟ)壁 T7PW1　水石けん入れ TS127BMN	2	2				2	2	8
洗 面 器	L250CM	自動水栓(電気開閉) TENA41A　排水金具(Pﾄﾗｯﾌﾟ)壁 T7PW1　水石けん入れ TS126AR　ﾊﾞｯｸﾊﾝｶﾞｰ TL250D　樹脂ﾌﾞﾗｸﾞ HH04060			1	2				3
化 粧 鏡	YM3545FE	350×450				2				2
化 粧 鏡	YM4575A	450×750	2		1					3
化 粧 鏡	MMA6	1600x900		1				1	1	3
横 水 栓	T28AUNH13		1	1						2

樹脂製桝一覧表（汚水）

桝記号	桝 種 類		桝口径	桝深さ(参考)	桝接続配管口径	桝蓋種類	備 考
◇1	汚水桝	90L	150φ	500H	100φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共
◇2	汚水桝	90Y	150φ	540H	100φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共
◇3	汚水桝	90Y	150φ	550H	100φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共
◇4	汚水桝	90Y	150φ	560H	100φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共
◇5	汚水桝	90L	150φ	610H	100φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共
◇6	ドラップ桝		200φ	640H	100φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共
◇7	汚水桝	90Y	200φ	1800H	150φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共

汚水桝の深さは設計地盤高さを基準にして表示とする。

屋外汚水排水の勾配は１／１００以上を確保するように施工のこと。

施工時にはよく現場を調査の上、所轄下水道課の施工基準により丁寧に施行すること。

樹脂製桝一覧表（雨水）

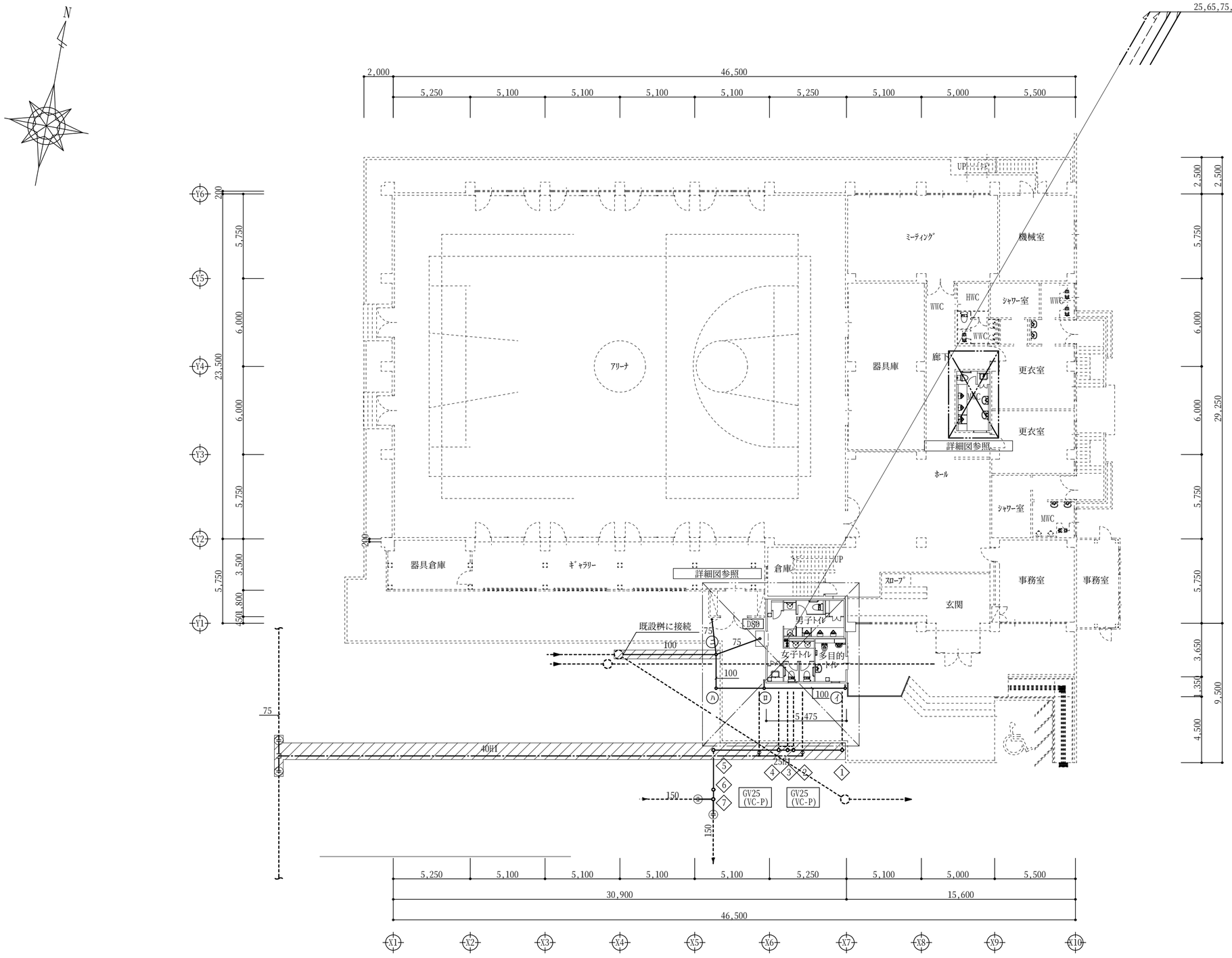
桝記号	桝 種 類		桝口径	桝深さ(参考)	桝接続配管口径	桝蓋種類	備 考
㋑	雨水桝	90L	150φ	300H	100φ	樹脂蓋	
㋺	雨水桝	90Y	150φ	300H	100φ	樹脂蓋	
㋩	雨水桝	90L	150φ	300H	100φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共
㋥	雨水桝	90Y	150φ	300H	100φ	鋳鉄製防護蓋	防護蓋はT-25、内蓋・鎖共

雨水桝の深さは設計地盤高さを基準にして表示とする。

雨水桝の深さは泥溜部分を（１５０㎜）を除いた数値とする上とする。

施工時にはよく現場を調査の上、丁寧に施行すること。

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				－	凡例・衛生器具表・桝一覧表	M-04
				DATE '15.08		

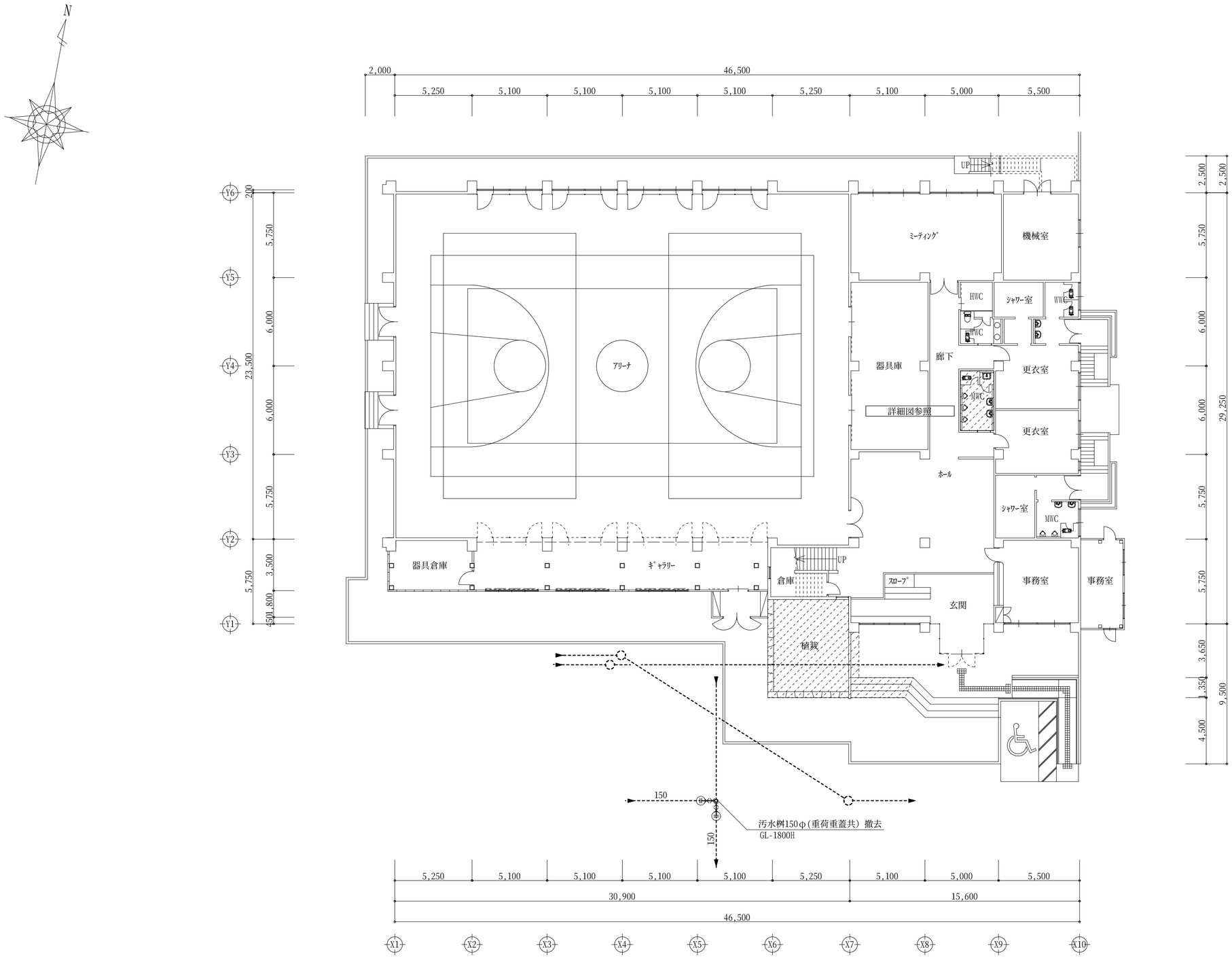


改修後　１階平面図　S=1/200

凡　例

記　号	仕　　様
———	新設配管
- - - - -	既設配管（現状のまま）
- - -(H)———	配管接続箇所
▨	アスファルト撤去補修を示す(カッター使用) 建築にてはつり及び復旧

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		M-05
				DATE '15.08	改修後　１階平面図	

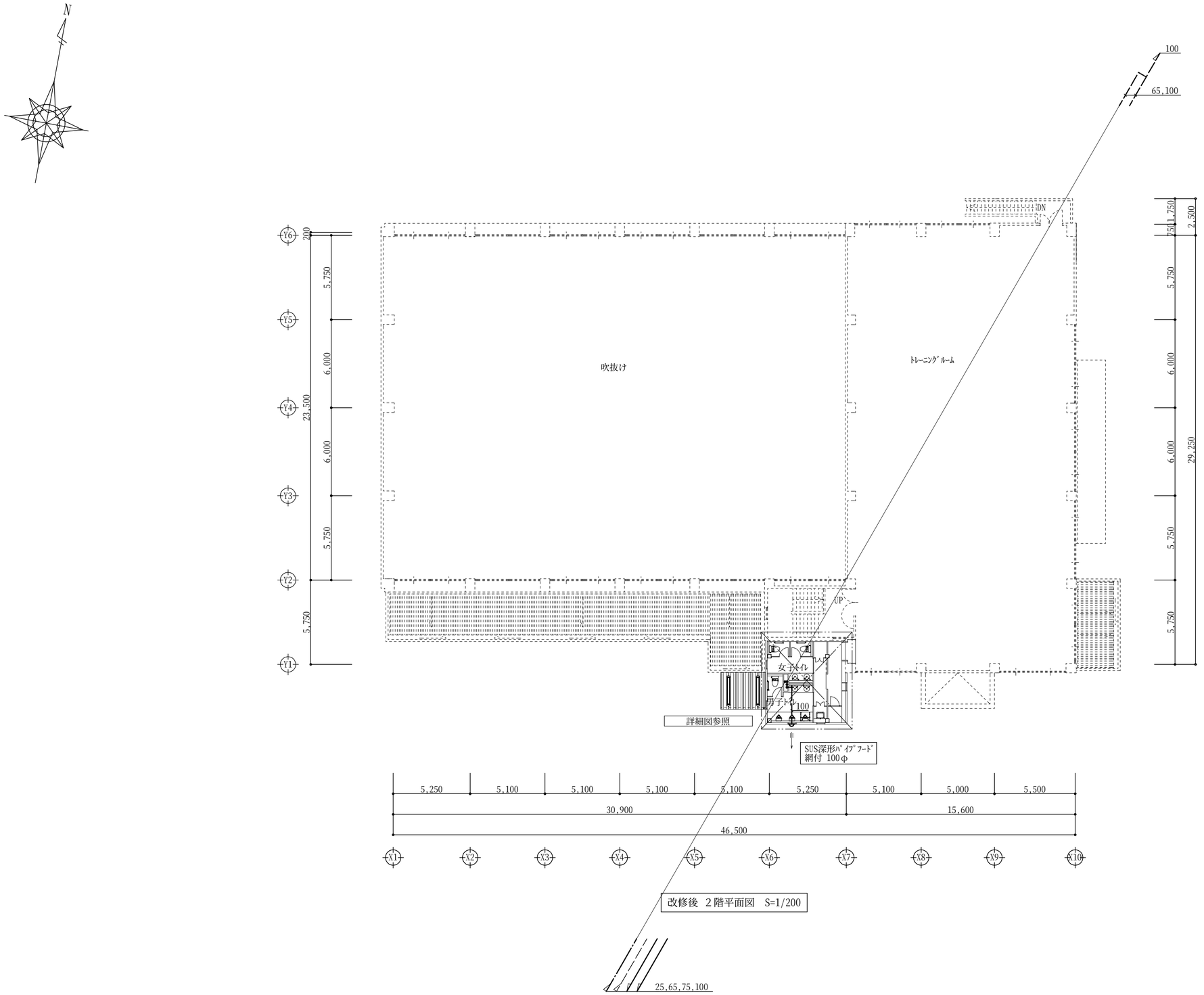


改修前　1階平面図　S=1/200

凡　例

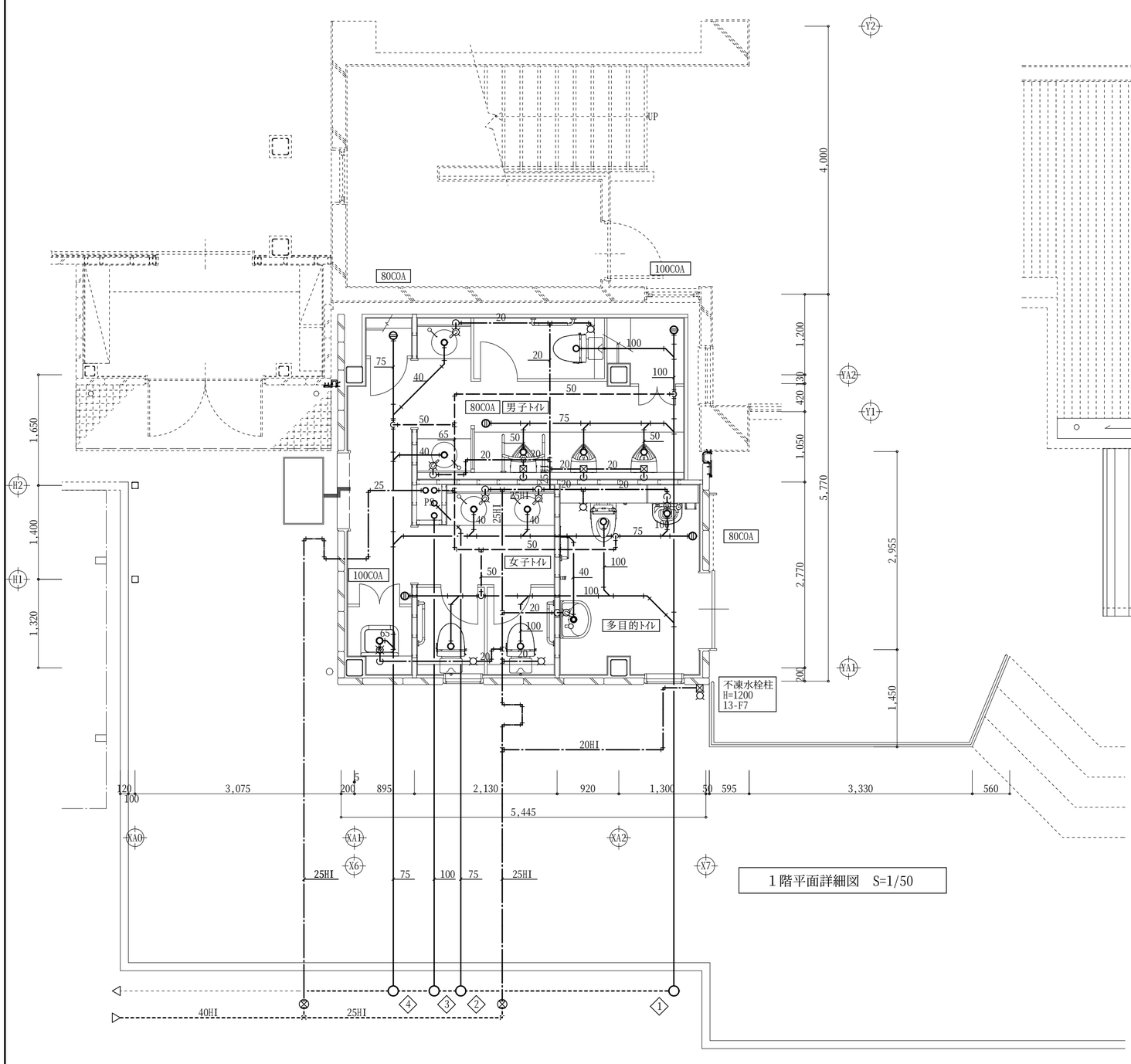
記　号	仕　様
×―×―	撤去配管
-------	既設配管（現状のまま）
--H--	配管切断箇所
▨	改修範囲を示す

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		M-06
				DATE '15.08	改修前　1階平面図	

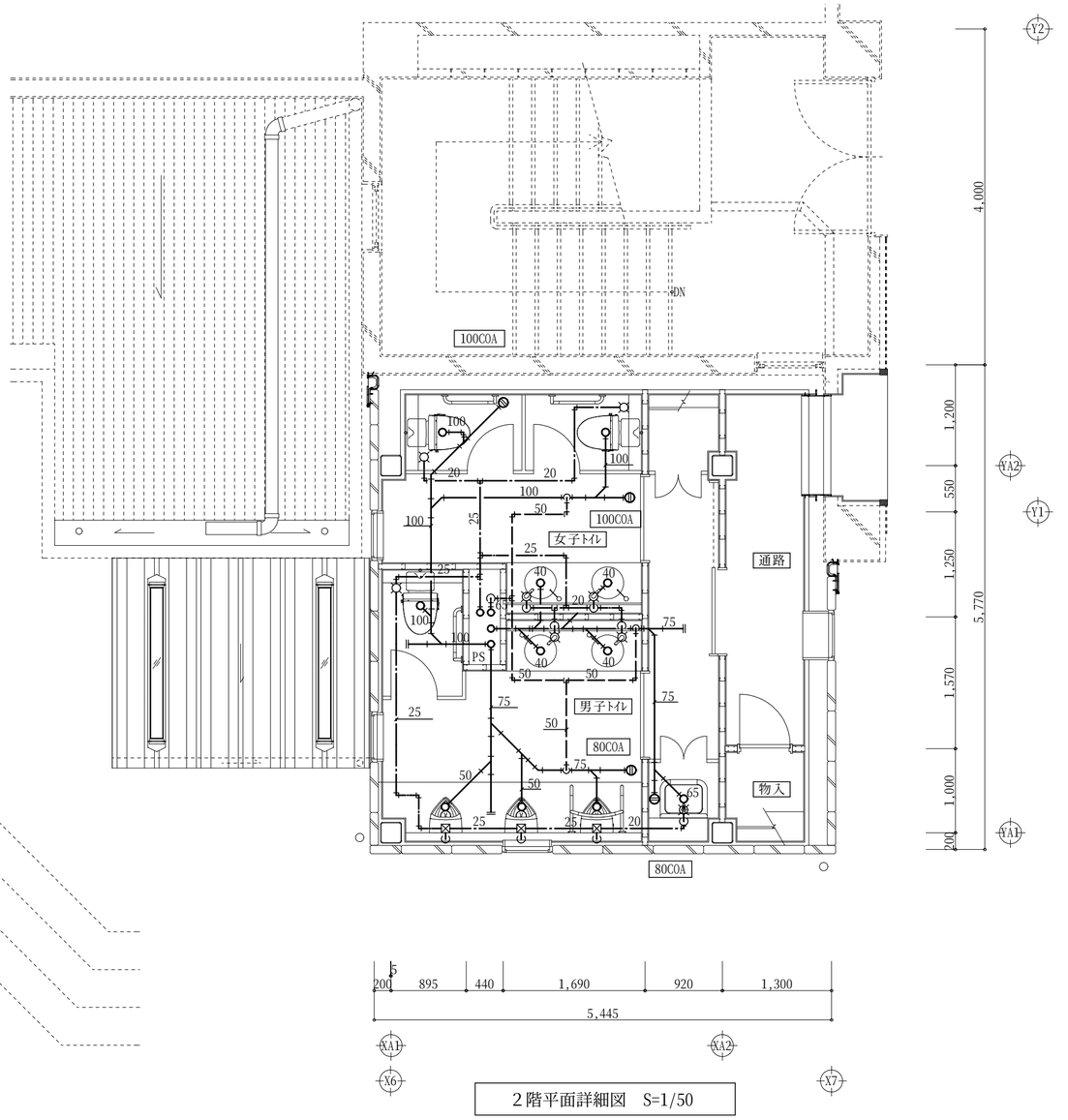


改修後 2階平面図 S=1/200

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/200		M-07
				DATE '15.08	改修後 2階平面図	



1階平面詳細図　S=1/50

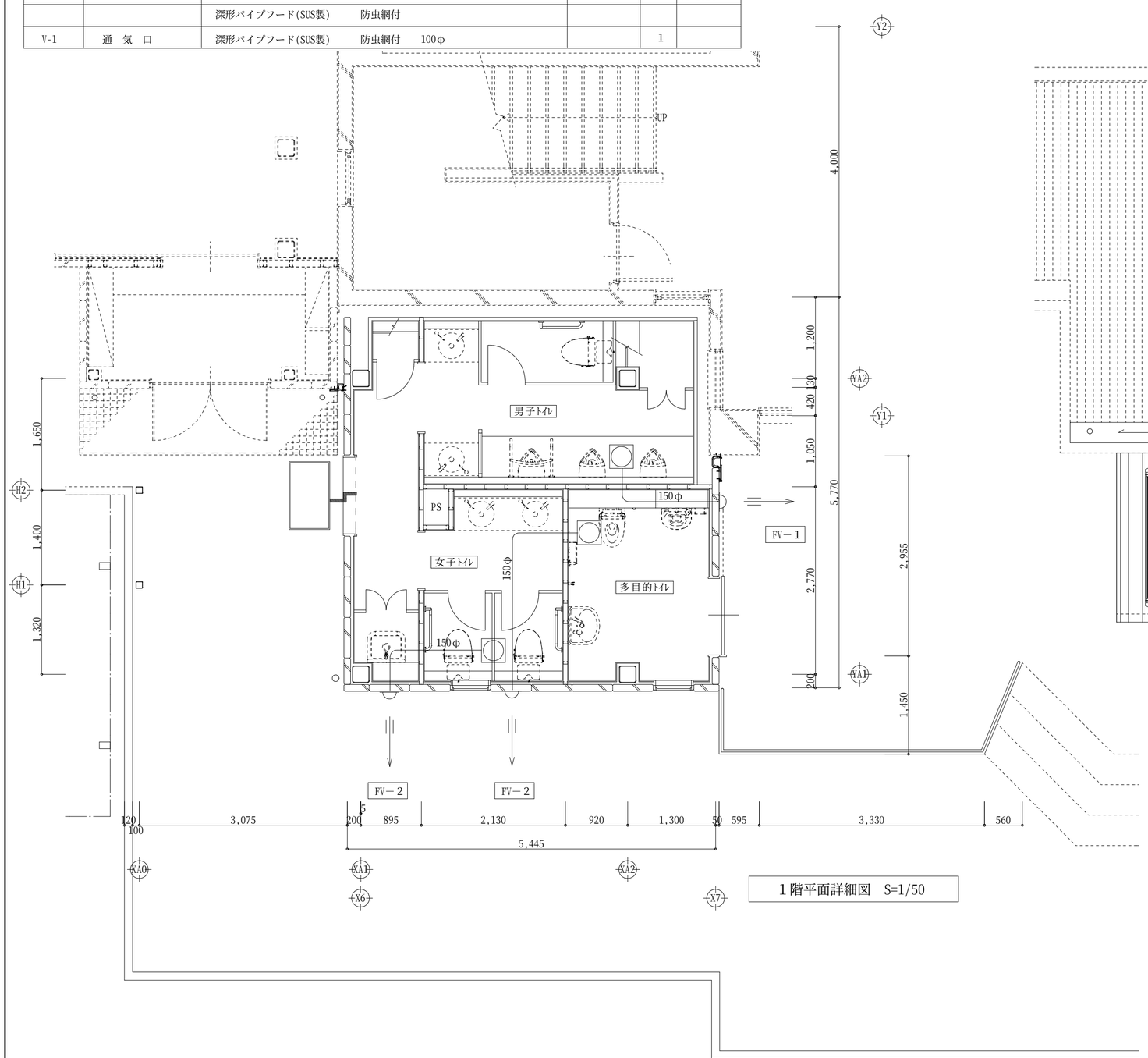


2階平面詳細図　S=1/50

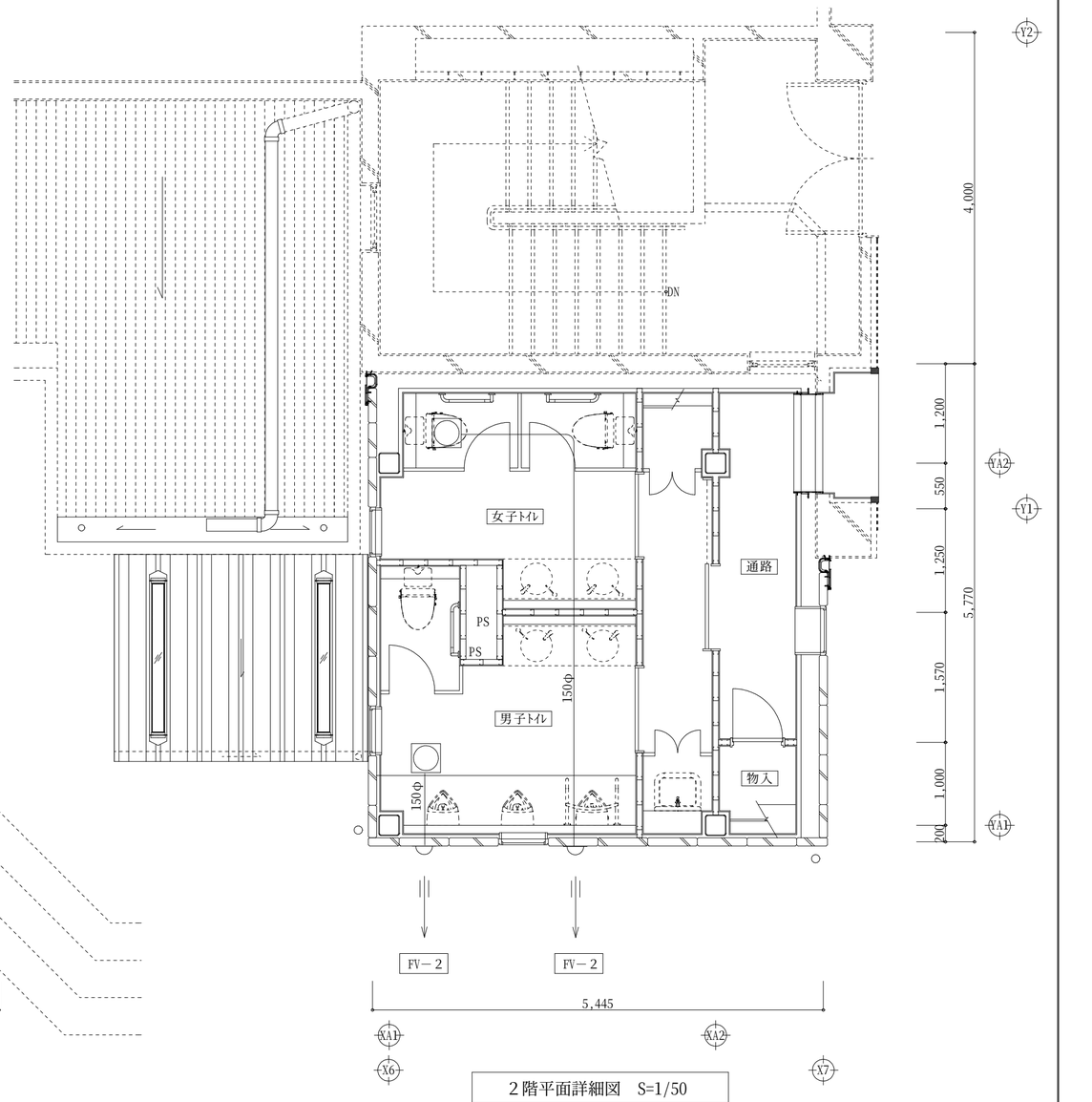
CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		M-08
				DATE '15.08	増築トイレ平面詳細図	

換気機器表

記　号	機　器　名	仕　　様	電源・	台数	備　考 (参考)
FV-1	天井埋込換気扇	低騒音形　150φ×310CMH×50Pa　　参考消費電力　49.0W	1φ100V	1	VD-20ZC 9
		深形パイプフード(SUS製)　　防虫網付			
FV-2	天井埋込換気扇	低騒音形　150φ×220CMH×50Pa　　参考消費電力　29.0W	1φ100V	4	VD-18ZC 9
		深形パイプフード(SUS製)　　防虫網付			
V-1	通　気　口	深形パイプフード(SUS製)　　防虫網付　　100φ		1	



1階平面詳細図　S=1/50

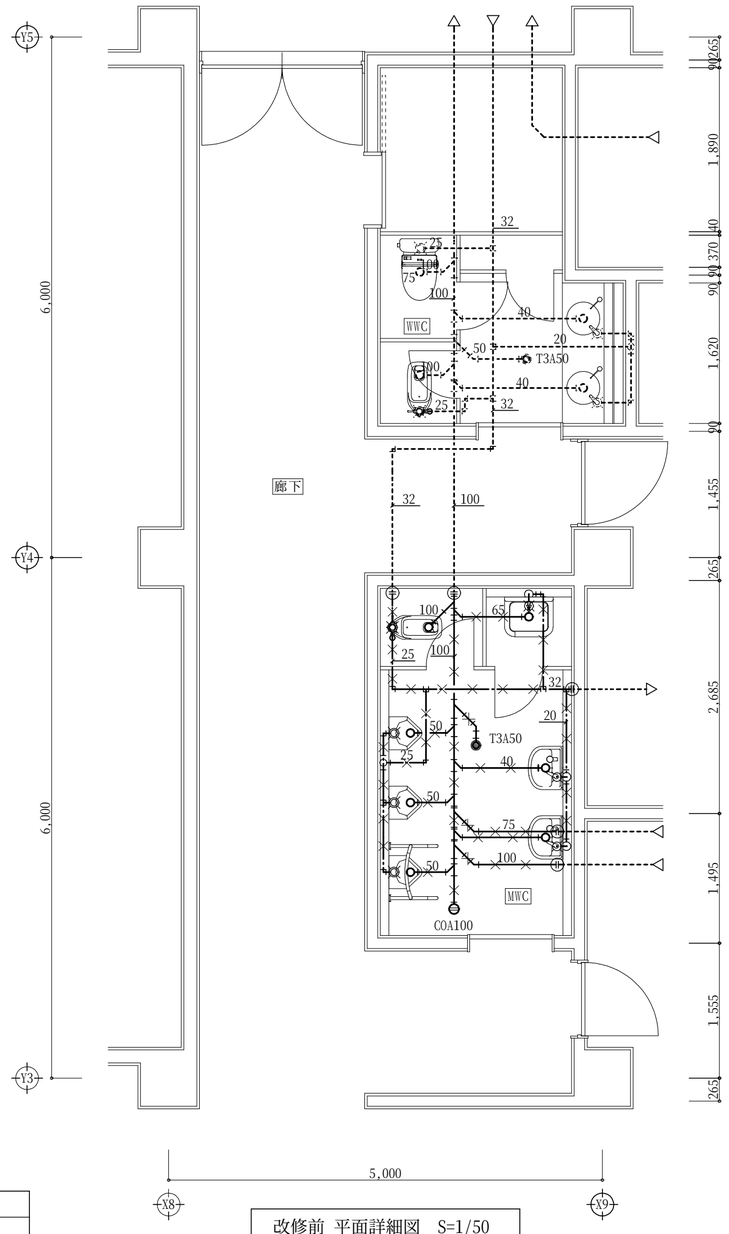


2階平面詳細図　S=1/50

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				－	増築トイレ換気設備図	M-09
				DATE '15.08		

既設撤去衛生器具表

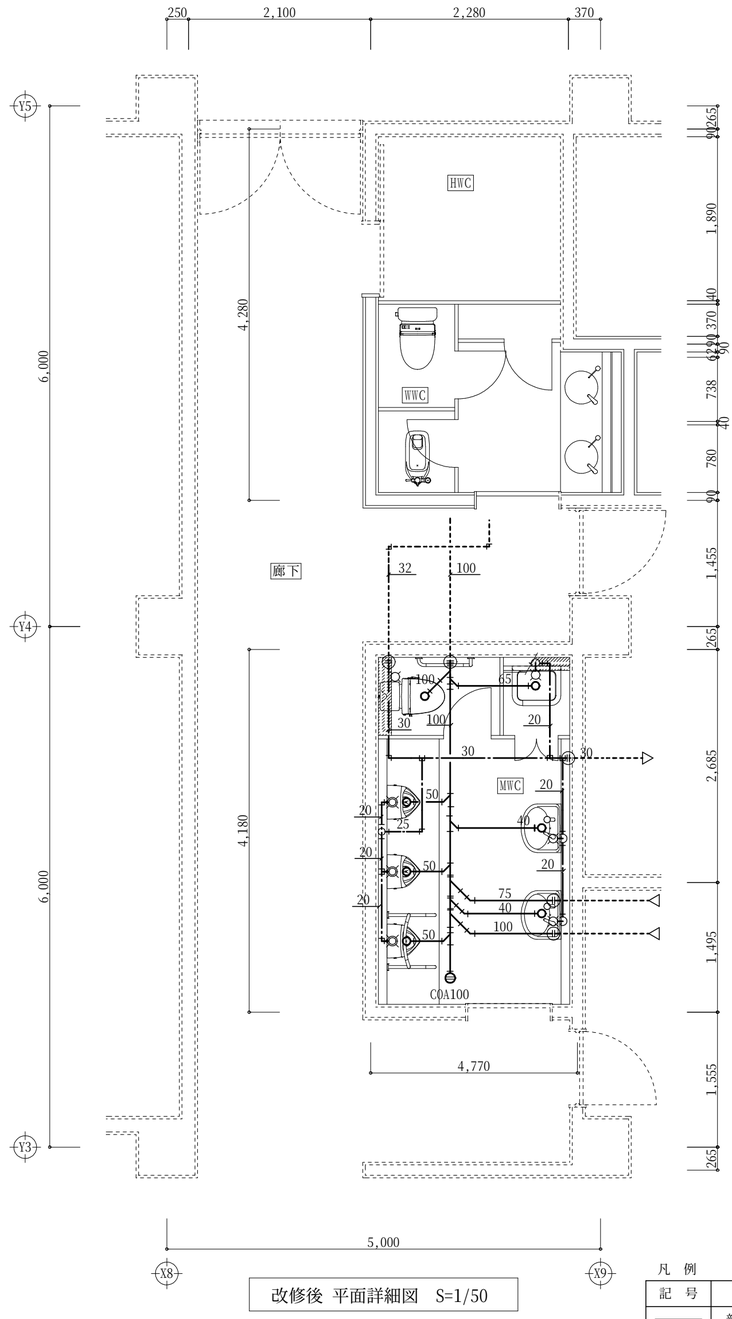
名　称	品　番	男子WC	女子WC	合計
洋風便器	FV式			
和風便器	FV式	1		1
小便器	FV式	3		3
カウンター	MLWA			
嵌め込み洗面器	L587U			
手洗器		2		2
掃除用流し		1		1
化粧鏡	MMA1			
化粧鏡		2		2
小便器用手すり		1		1
紙巻器		2		2



改修前　平面詳細図　S=1/50

凡　例

記　号	仕　様
―×―×―	撤去配管
-------	既設配管（現状のまま）
---⊕---	配管切断箇所



改修後　平面詳細図　S=1/50

凡　例

記　号	仕　様
―――	新設配管
-------	既設配管（現状のまま）
---⊕---	配管接続箇所

CHECK	DESIGN	DRAW	

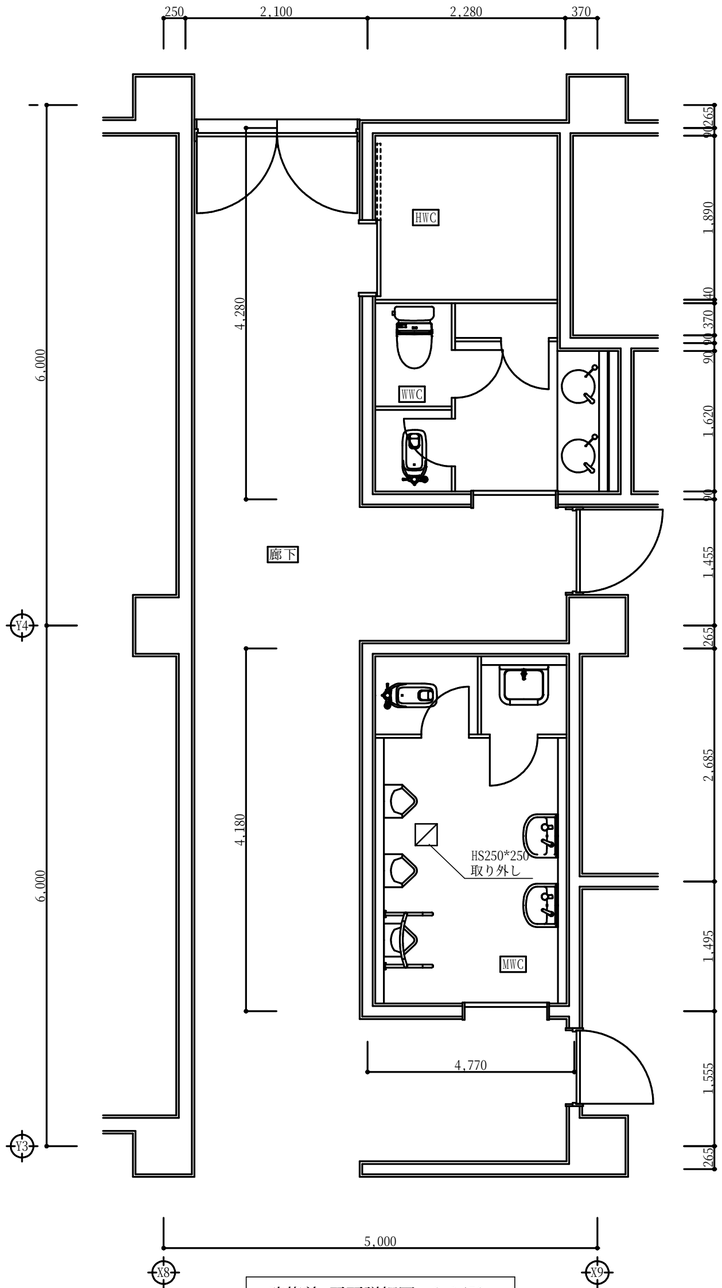
SCALE　S=1/50,100

DATE　'15.08

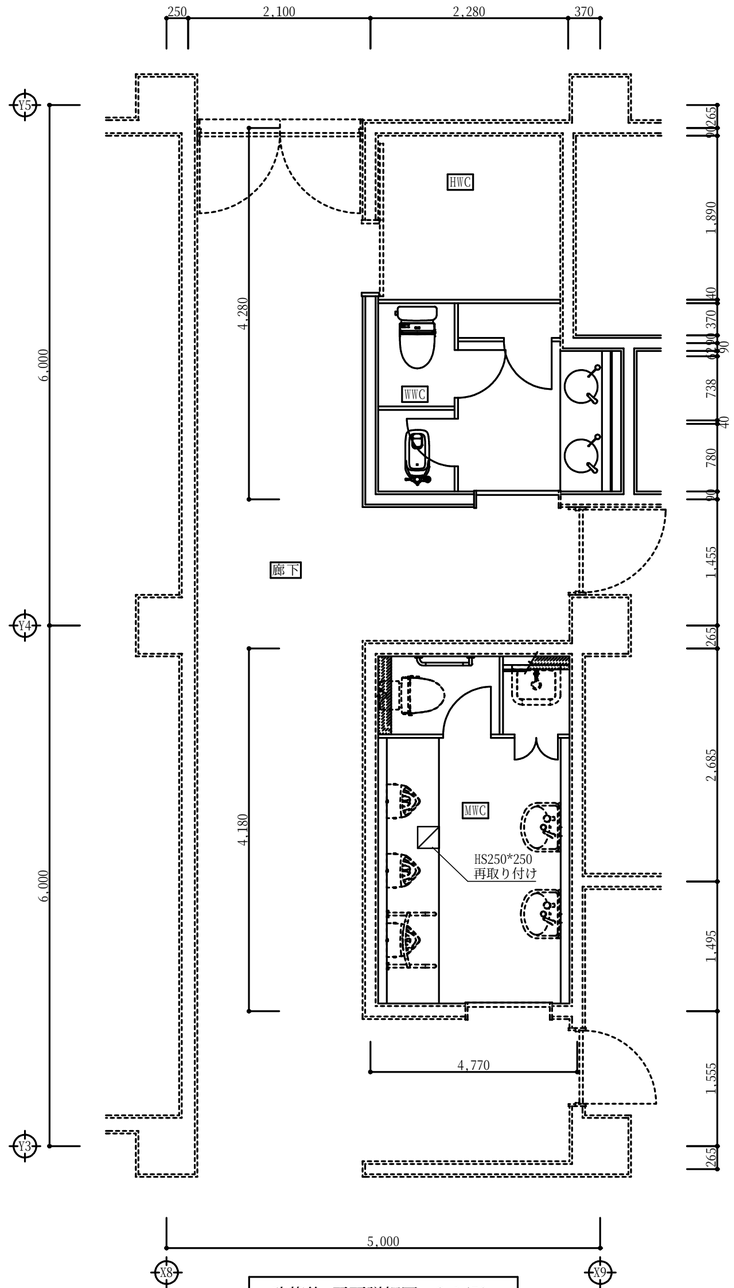
富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事

改修前・後　1階便所平面詳細図

SHEET NO.　M-10



改修前 平面詳細図 S=1/50



改修後 平面詳細図 S=1/50

CHECK	DESIGN	DRAW		SCALE	富加町Ｂ＆Ｇ海洋センタートイレ新設工事	SHEET NO.
				S=1/50		M-11
				DATE '15.08	改修前・後 1階便所換気設備図	